



E-Class

Coupé / Cabriolet

取扱説明書



Mercedes-Benz

マーク


この説明書には以下のマークがあります。


警告

警告項目は、お客様ご自身やお車に同乗の方々の健康や生命をおびやかすような危険への注意を喚起するものです。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供していません。

 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

 これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶ このマークは、お客様に従っていただきたい操作を示しています。

▶ 連続しているマークは、いくつかのステップがある操作を示しています。

(▷ ページ) このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。

▷▷ このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。

ディスプレイ この表記は、マルチファンクションディスプレイ / COMAND ディスプレイのメッセージを示していません。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project <http://www.freetype.org> の著作権により保護されています。 All rights reserved.

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100 km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度を遵守してください。

メルセデス・ベンツは車両を最先端にする改良を絶えず行なっています。

そのため、デザイン、装備などが予告なく変更されることがあり、この取扱説明書に含まれる記述やイラストと異なる場合があります。

以下のものは、車両の一部ですので、常に車両に搭載してください。

- 取扱説明書
- 整備手帳
- 装備付属の補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ日本株式会社



さくいん	4	各部の名称	25
概要	20	安全性	37
		オープン/クローズ	81
		シート、ステアリングとミラー ..	119
		ライトおよびフロントワイパー ..	139
		エアコンディショナー	157
		走行と駐車	175
		マルチファンクションディスプレイと表示	253
		収納と機能	313
		メンテナンスおよび手入れ	327
		万一のとき	349
		ホイールとタイヤ	371
		サービスデータ	391

あ

- アクティブドライビングアシスタンスパッケージ**.....245
アクティブパーキングアシスト
 機能/注意事項.....227
 重要な安全上の注意.....227
 駐車.....229
 駐車スペースからの退出.....231
 駐車スペースの検知.....228
 ディスプレイメッセージ.....290
アクティブブラインドスポットアシスト
 機能/注意.....245
 設定/解除(マルチファンクションディスプレイ).....266
 ディスプレイメッセージ.....290
アクティブライトシステム.....145
アクティブレーンキーピングアシスト
 機能/注意.....248
 ディスプレイメッセージ.....289
アシスト画面(マルチファンクションディスプレイ).....264
アシストメニュー(マルチファンクションディスプレイ).....263
アダプティブハイビームアシスト
 機能/注意.....146
 ディスプレイメッセージ.....284
アダプティブハイビームアシスト・プラス
 機能/注意事項.....148
 ディスプレイメッセージ.....284
アダプティブブレーキ.....75
アダプティブブレーキアシスト
 機能/注意.....71
アダプティブブレーキライト.....72
アテンションアシスト
 機能/注意.....241
 設定/解除.....266
 ディスプレイメッセージ.....288
安全
 子供を乗せるとき.....53
安全システム
 チャイルドセーフティシート.....53
 参照 走行安全装備
- アンチロック・ブレーキング・システム**
 参照 ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)
アンビエントライト
 カラーの設定(マルチファンクションディスプレイ).....269
 照度の設定(マルチファンクションディスプレイ).....269
イージーエントリー機能
 機能/注意事項.....132
 クラッシュセンサー連動.....133
 作動/解除.....271
イージーエントリー機能(車外から).....124
イグニッションロック
 参照 キーの位置
イモビライザー.....78
インジケーター
 参照 方向指示灯
インテリアライト
 参照 ルームライト
インテリジェントライトシステム
 オン/オフ.....268
 概要.....145
 ディスプレイメッセージ.....284
 ロービームヘッドライトの左側/右側通行の設定.....269
ウィンタータイヤ
 ウィンタータイヤ.....375
 速度制限(マルチファンクションディスプレイ).....271
ウインドウ
 清掃.....343
 デフロスター.....167
 参照 サイドウインドウ
ウインドウウォッシャー
 注意.....397
 補給.....335
ウインドウウォッシャー液
 参照 ウインドウウォッシャー
ウインドウバッグ
 機能.....45
ウインドデフレクター(清掃の説明).....341
ウォッシャー液
 ディスプレイメッセージ.....299
ウッドトリム(清掃の説明).....346

運転席	
概要.....	26
運転席ドア	
参照 ドア	
運転のヒント	
一般.....	199
オートマチックトランスミッ ション.....	188
下り坂の傾斜.....	201
新品のブレーキパッド/ライニ ング.....	202
スノーチェーン.....	375
冬季の走行.....	202
凍結した路面.....	203
凍結防止剤等が撒かれた路面 でのブレーキ性能の制限.....	201
慣らし運転について注意事項.....	176
濡れた路面の走行.....	202
ハイドロブレーキング現象.....	202
ブレーキ.....	201
エアキャップ	
ウインドデフレクターの取り 付け/取り外し.....	111
重要な安全上の注意.....	110
清掃の説明.....	341
展開 / 格納.....	110
エアコンディショナー	
ウインドウの曇りを取る.....	167
エアコンディショナーモード の設定.....	164
オン/オフ.....	162
温度の設定.....	165
温度の設定、2ゾーン.....	165
温度の設定、3ゾーン.....	165
クライメートコントロール(後 席独立調整).....	161
クライメートコントロール(後 席独立調整)の使用に関する注 意事項.....	162
クライメートコントロール(前 席左右独立調整).....	159
クライメートコントロール(前 席左右独立調整)の使用に関する 情報.....	159
コンビエンスオープニング/ クロー징(内気循環モード).....	169
システムの概要.....	158
重要な安全上の注意.....	158
ゾーン機能の設定/解除.....	166
送風口の調整.....	171
送風配分の選択.....	166
送風量の調整.....	166
内気循環モードの作動/解除.....	169
表示灯.....	164
フロントウインドウの霜を取る..	167
余熱ヒーターのオン/オフ.....	170
リア操作パネル.....	161
リアデフォグガーの作動/解除..	168
リアデフォグガーの不具合.....	169
ACモード.....	163
ACモードの不具合.....	164
AUTOモード.....	164
エアコンディショナーシステム	
参照 エアコンディショナー	
エアスカーフ	129
エアスカーフ送風口	
送風出力の設定.....	172
エアバッグ	
ウインドウバッグ.....	45
格納場所.....	42
サイドバッグ.....	43
作動.....	39
重要な安全上の注意点.....	40
ニーバッグ.....	43
フロントエアバッグ(運転席、 助手席).....	42
ヘッドバッグ.....	44
ペルビスバッグ.....	44
ECO表示	
マルチファンクションディス プレイ.....	258
エマージェンシーキー	
運転席ドアの解錠.....	91
機能/注意.....	85
車両の施錠.....	92
エレクトロニック・スタビリ ティ・プログラム	
参照 ESP®(エレクトロニッ ク・スタビリティ・プログラム)	
エンジン	
エンジン番号.....	393
オーバーヒート.....	334
キーレスゴースイッチ操作に よるエンジン始動.....	179
警告灯(エンジン診断).....	309
けん引始動(車両).....	366

作動不良.....	184	トラブル(不具合).....	194
始動時のトラブル.....	184	ニュートラルの選択.....	187
ジャンプスタート.....	4, 361	パーキングポジションPの選 択.....	186
停止.....	198	発進.....	180
ディスプレイメッセージ.....	285	マニュアルギアシフト.....	190
ECOスタートストップ機能.....	181	マニュアル走行モード(AMG スポーツパッケージ装備車両).....	192
エンジンオイル		リバースギアの選択.....	187
エンジンオイル量の点検.....	331	オートマチックトランスミッショ ンのエマージェンシーモード.....	194
オイルグレードについての注意.....	396	オートマチックヘッドライトモー ド.....	140
充填容量.....	396	オートライト	
定期交換.....	332	ディスプレイメッセージ.....	284
ディスプレイメッセージ.....	287	参照 ライト	
添加剤.....	396	オーバーヘッドコントロールユ ニット.....	35
粘度.....	396	オイル	
補給.....	331	参照 エンジンオイル	
油量および消費についての注意.....	331	応急用スペアタイヤ	
レベルゲージを使用してオイ ル量を点検する.....	331	サービスデータ.....	390
エンジン自動始動(ECO スタート ストップ機能).....	182	収納場所.....	389
エンジン自動停止(ECO スタート ストップ機能).....	181	重要な安全上の注意.....	388
エンジンジャンプスタート		留意点.....	388
参照 ジャンプスタート(エンジン)		オドメーター.....	257
エンジンの始動		温度	
キー操作.....	179	外気温度.....	255
エンジンの電子制御部品		設定(エアコン).....	165
故障(誤作動).....	184	冷却水.....	254
オーディオシステム			
参照 別冊取扱説明書			
オートマチックトランスミッション			
アクセルペダルのポジション.....	188		
運転のヒント.....	188		
エマージェンシーモード.....	194		
エンジンの始動.....	179		
オートマチック走行モード.....	190		
概要.....	185		
ギアシフト操作.....	188		
キックダウン.....	189		
シフトポジション.....	188		
シフトポジション表示 (DIRECT SELECT レバー).....	186		
ステアリングパドルシフト.....	190		
走行モード選択スイッチ.....	189		
走行モード表示.....	186		
ダイレクトセレクトレバー.....	186		
ディスプレイメッセージ.....	296		
ドライブポジションの選択.....	187		

か

外気温度計.....	255
解錠	
車内から(セントラルロックン グスイッチ).....	90
非常時の解錠.....	91
懐中電灯.....	350
ガソリン.....	394
カップホルダー	
重要な安全上の注意.....	320
センターコンソール.....	321
リア.....	321
可変スピードリミッター	
可変機能.....	207
可変機能の解除.....	209
機能/注意.....	206

現在の速度を記憶する.....	208	重要な安全上の注意.....	194
重要な安全上の注意.....	206	燃料計.....	28
選択.....	208	参照 燃料	
参照 スピードリミッター		距離レコーダー	
LIM 表示灯.....	207	参照 トリップメーター	
環境保護		緊急クロージング	
全体的な注意事項.....	20	ソフトトップ.....	104
冠水路の走行(オンロード).....	202	緊急時点灯機能.....	151
寒冷時の走行		空気圧	
重要な安全上の注意.....	374	参照 タイヤ空気圧	
スノーチェーン.....	375	クルーズコントロール	
滑りやすい路面.....	203	解除.....	206
キー		機能/注意.....	203
位置(エンジンスイッチ).....	177	クルーズコントロールレバー.....	204
エマージェンシーキー.....	85	現在の速度を記憶および維持	
エンジンの始動.....	179	する.....	205
概要.....	82	作動条件.....	204
コンビニエンスオープニング		重要な安全上の注意.....	203
機能.....	98	選択.....	204
コンビニエンスクロージング		走行装備.....	203
機能.....	99	速度の設定.....	205
重要な安全上の注意.....	82	ディスプレイメッセージ.....	294
設定変更.....	84	LIM 表示灯.....	204
セントラルロックによる施錠/ 解錠.....	83	車のキー	
ソフトトップの開閉.....	103	参照 キー	
ディスプレイメッセージ.....	299	グローブボックス.....	315
電池交換.....	86	クロストラフィックアシスト付き	
電池点検.....	86	BAS プラス(ブレーキアシスト・	
不具合(異常).....	88	プラス)	
紛失.....	88	機能/注意事項.....	68
キーの位置		重要な安全上の注意.....	68
キー.....	177	警告灯/表示灯	
キーレスゴースイッチ.....	177	エンジン診断.....	309
キーレスゴー		各部の名称.....	29
エンジン始動.....	179	シートベルト.....	301
解錠.....	83	車間距離警告.....	312
キーレスゴースイッチ.....	177	助手席エアバッグオフ.....	56
コンビニエンスクロージング		ディストロニック・プラス.....	312
機能.....	99	燃料残量.....	309
施錠.....	83	燃料タンク.....	309
ディスプレイメッセージ.....	300	ブレーキ.....	302
キックダウン		冷却水.....	309
運転のヒント.....	189	ABS.....	304
マニュアルギアシフト.....	192	ESP®.....	306
救急セット.....	351	ESP®オフ.....	307
給油		LIM(可変スピードリミッター).....	207
給油のしかた.....	195	LIM(クルーズコントロール).....	204

LIM(ディストロニック・プラス).....	212
SRS.....	308
携帯電話	
周波数.....	392
送信出力(最大).....	392
取り付け.....	392
メニュー(マルチファンクショ ンディスプレイ).....	262
警報システム	
参照 ATA(盗難防止警報システム)	
警報システム(ATA)を解除する.....	78
けん引	
けん引フックの取り付け.....	365
けん引フックの取り外し.....	365
重要な安全上の注意.....	364
フロントおよびリアが接地し た状態で.....	366
リアをつり上げて.....	366
けん引始動	
エンジンエマージェンシース タート.....	366
けん引フックの取り外し.....	365
重要な安全上の注意.....	364
けん引防止機能.....	78
コーナリングライト	
機能/注意.....	145
ディスプレイメッセージ.....	282
高圧式スプレーガンの使用.....	339
後席	
温度の設定.....	165
後席用シートベルトステータスイ ンジケータ.....	51
故障	
参照 パンクしたタイヤ	
故障メッセージ	
参照 ディスプレイメッセージ	
故障メッセージを表示させる	
参照 ディスプレイメッセージ	
子供	
乗員保護装置.....	53
チャイルドシートロック.....	55
乗せるとき.....	53
小物入れ	
アームレスト(下).....	316
運転席および助手席シート下部.....	316
カップホルダー.....	320
グローブボックス.....	315

重要な安全上の注意.....	315
センターコンソール.....	315
ラゲッジネット.....	316

コリジョンプリベンションアシスト

距離警告機能の作動/解除.....	265
操作/注意事項.....	70
ディスプレイメッセージ.....	279

コンビニエンスオープニング/ク

ロージング(内気循環モード).....	169
コンビニエンスオープニング機能.....	98
コンビニエンスクロージング機能.....	98
コンビネーションスイッチ.....	143

さ

サービスデータ

応急用スペアタイヤ.....	390
情報.....	392
タイヤ/ホイール.....	384
容量.....	393

サービスプロダクト

燃料.....	394
ブレーキ液.....	396

サイドウィンドウ

開閉.....	96
コンビニエンスオープニング 機能.....	98
コンビニエンスクロージング 機能.....	98
重要な安全上の注意.....	95
すべて開閉(カプリオレ).....	96
不具合(異常).....	101
リセット.....	99

サイドバッグ.....

サイドランプ

オン/オフの切り替え.....	142
-----------------	-----

サマータイヤ.....

サンバイザー.....

シート

運転席のシートポジション.....	120
エアスカーフの使用.....	129
概要.....	121
シートバックレストのディス プレイメッセージ.....	297
シートヒーターのトラブル.....	128
シートヒーターを使用する.....	126
シートベンチレーターの使用.....	128

シートベンチレーターのトラブル.....	129	車間距離警告機能	
重要な安全上の注意.....	121	機能/注意.....	70
調整(電動式).....	122	作動/解除.....	265
電動ランバーサポートを調整する.....	126	車間距離警告信号(警告灯).....	312
バックレストを前後に倒す.....	124	遮光フィルム.....	324
表面の手入れ.....	346	車載工具.....	351
ヘッドレストの調整.....	123	車台番号	
マルチコントロールシートバックの調整.....	126	参照 VIN	
メモリー機能(設定の記憶).....	136	ジャッキ	
シートベルト		収納場所.....	351
運転席および助手席シートベルト.....	50	使用方法.....	381
解除.....	50	車内ライト	
警告灯.....	301	消灯遅延機能(マルチファンクションディスプレイ).....	270
警告灯(機能).....	51	車両	
後席用シートベルトステータスインジケータ.....	51	運搬.....	366
シートベルト調整の作動/停止(マルチファンクションディスプレイ).....	272	解錠(キー).....	83
シートベルトテンショナー.....	51	各種の設定.....	267
重要な安全上の注意点.....	47	けん引.....	364
着用.....	48	ジャッキアップ.....	381
ディスプレイメッセージ.....	280	ジャッキダウン.....	384
手入れ.....	347	車両が動き出さないよう固定する.....	380
ベルトフォースリミッター.....	51	車両データ.....	398
シートベルトテンショナー		施錠(キー).....	83
機能.....	51	装備.....	21
作動.....	39	正しい使用.....	23
事故のとき	52	駐車.....	199
室内センサー	79	データ取得.....	23
指定サービス工場		ディスプレイメッセージ.....	296
参照 メルセデス・ベンツ指定サービス工場		電子制御部品.....	392
始動(エンジン)	179	発進.....	180
自動車		非常時の解錠.....	91
参照 車両		非常時の施錠.....	92
シフトポジション表示	186	車両データ	398
シフトポジション表示(DIRECT SELECT レバー)	186	車両を運搬する	366
車外ライト		ジャンプスタート(エンジン)	361
設定オプション.....	140	周波数	
参照 ライト		携帯電話.....	392
		無線機.....	392
		乗員安全性	
		子供を乗せるとき.....	53
		重要な安全上の注意点.....	38
		消灯遅延機能	
		車外ライト(マルチファンクションディスプレイ).....	270
		車内ライト.....	270

助手席エアバッグオフ	
トラブル(故障).....	65
表示灯.....	56
参照 助手席エアバッグオフ	
診断機の接続部.....	22
スタートストップ機能	
参照 ECO スタートストップ機能	
ステアコントロール.....	77
ステアリング	
安全のために.....	130
スイッチ(マルチファンクシ ンディスプレイ).....	255
スイッチの概要.....	30
ステアリングヒーター.....	131
清掃.....	346
調整(手動).....	130
調整(電動).....	130
パドルシフト.....	190
メモリー機能(シート位置の記 憶).....	136
ステアリング(ディスプレイメッ セージ).....	298
ステアリングアシスト(ディスト ロニック・プラス)	
作動/解除.....	265
ディスプレイメッセージ.....	293
ステアリングヒーター	
作動/解除.....	131
不具合(誤作動).....	132
スノーチェーン.....	375
スピードメーター	
セグメント表示.....	255
デジタル.....	258
表示単位の設定.....	267
メーターパネル内.....	28
参照 メーターパネル	
スピードリミッター	
スノータイヤ.....	210
ディスプレイメッセージ.....	293
スペアタイヤ	
収納場所.....	389
スポーツモードのダイナミックハ ンドリングパッケージ.....	223
スライディングルーフ	
参照 パノラミックスライディ ングルーフ	
スルーローディング.....	317
清掃	
ドアミラー方向指示灯.....	343
施錠	
参照 セントラルロックシステム	
施錠(ドア)	
車内から(セントラルロック グスイッチ).....	90
非常時の施錠.....	92
施錠確認シグナル音(マルチファ ンクションディスプレイ).....	271
設定	
初期化(マルチファンクシ ョンディスプレイ).....	273
マルチファンクションディス プレイ.....	267
設定変更(キー).....	84
セレクトターレバー	
清掃.....	346
センサー(日常の手入れ).....	344
洗車(手入れ).....	338
センターコンソール	
下部.....	33, 34
上部.....	31
セントラルロックシステム	
車速感応ドアロック(マルチ ファンクションディスプレイ).....	271
施錠/解錠(キー使用).....	83
セントラルロック	
参照 セントラルロックシステム	
ゾーン機能	
スイッチのオン / オフ.....	166
走行安全装備	
アダプティブブレーキ.....	75
アダプティブブレーキアシスト.....	71
アダプティブブレーキライト.....	72
エレクトロニック・ブレーキ パワーディストリビューション.....	75
概要.....	66
クロストラフィックアシスト 付き BAS プラス.....	68
コリジョンプリベンションア シスト.....	70
車間距離警告機能.....	70
重要な安全上の注意点.....	66
ステアコントロール.....	77
ABS(アンチロック・ブレーキ ング・システム).....	67
BAS(ブレーキアシスト).....	68

ESP®(エレクトロニック・ス
タビリティ・プログラム).....72
ETS(エレクトロニック・トラ
クション・システム).....73
PRE-SAFE® ブレーキ.....75

走行距離記録.....257

走行時の注意
冠水路の走行(オンロード).....202
濡れた路面.....201

走行装備
アクティブドライビングアシ
スタンスパッケージ.....245
アクティブパーキングアシスト.....227
アクティブブラインドスポッ
トアシスト.....245
アクティブレーンキーピング
アシスト.....248
アテンションアシスト.....241
可変スピードリミッター.....206
クルーズコントロール.....203
スポーツモードのダイナミック
クハンドリングパッケージ.....223
ディストロニック・プラス.....210
ディストロニック・プラス(ス
テアリングアシスト機能付).....219
ディスプレイメッセージ.....288
パークトロニック.....224
ホールド機能.....221
リアビューカメラ.....232
ロードサインアシスト.....243
360° カメラシステム.....236

走行モード
オートマチック.....190
表示(ダイレクトセレクトレ
バー).....186
マニュアル.....190
マニュアル(AMG スポーツ
パッケージ装備車両).....192

走行モード選択スイッチ.....189

操作安全性
重要な安全上の注意.....21

操作システム
参照 マルチファンクション
ディスプレイ

送風口
エアスカーフ送風口の送風出
力の設定.....172
エアスカーフの使用.....129

グローブボックス.....172
サイド送風口の調整.....172
重要な安全上の注意.....171
送風の設定.....171
中央送風口の調整.....171
リア.....172

送風配分の設定.....166
送風量の設定.....166

速度制限の設定
参照 可変スピードリミッター

速度の制御
参照 クルーズコントロール

ソフトトップ
エアキャップ.....110
エアキャップドラフトストッ
プの取り付け/取り外し.....111
開閉(キーで).....103
開閉(ソフトトップスイッチで).....102
再ロック.....108
重要な安全上の注意.....101
清掃.....341
ディスプレイメッセージ.....298
ドラフトストップ.....109
非常時に手で閉じる.....104
問題(不具合).....113

ソフトトップスイッチ.....102

た

タイヤ
応急用スペアタイヤ.....388
回転方向.....380
交換.....379
重要な安全上の注意.....372
新品の車輪の取り付け.....383
タイヤサイズ(データ).....384
タイヤの交換.....379
タイヤの取り付け.....380
タイヤの取り外し.....383
タイヤのトレッド.....374
耐用年数.....374
ディスプレイメッセージ.....295
点検.....373
保管.....380
参照 パンクしたタイヤ
MOExtended タイヤ.....374

タイヤ空気圧
指定.....376

達している(タイヤフィット).....	355	停止表示板	350
達しない(タイヤフィット).....	355	ディストロニック・プラス	
ディスプレイメッセージ.....	295	解除.....	217
タイヤ空気圧警告システム		機能/注意.....	210
再起動.....	378	警告灯.....	312
重要な安全上の注意.....	378	作動.....	212
全体的な注意事項.....	377	作動条件.....	212
タイヤの取り付け		指定最低距離の設定.....	215
ジャッキアップ.....	381	重要な安全上の注意.....	210
ジャッキダウン.....	384	選択する.....	212
車両が動き出さないよう固定		ディスプレイメッセージ.....	291
する.....	380	マルチファンクションディスプレイの表示.....	216
車輪の装着.....	383	ディスプレイメッセージ	
車輪の取り外し.....	383	安全装備.....	275
タイヤフィット	354	エンジン.....	285
ダイレクトセレクトレバー		キー.....	299
参照 オートマチックトランス		キーレスゴー.....	300
ミッション		車両.....	296
タコメーター	254	全体的な注意事項.....	274
ダッシュボード		走行装備.....	288
参照 メーターパネル		タイヤ.....	295
ダッシュボード照明		非表示(マルチファンクション	
参照 メーターパネル照明		ディスプレイ).....	274
タンク		メンテナンスインジケーター...336	
参照 燃料タンク		呼び出し(マルチファンクショ	
チャイルドシートロック	55	ンディスプレイ).....	274
チャイルドセーフティシート		ライト.....	281
自動検知.....	56	デイタイムドライビングライト	
純正.....	62	機能/注意.....	140
助手席に装着.....	55	ディスプレイメッセージ.....	283
適切な位置.....	60	点灯/消灯(マルチファンクショ	
テザーアンカー.....	59	ンディスプレイ).....	268
トラブル(故障).....	65	手入れ	
ISOFIX.....	58	ウインドウ.....	343
チャイルドブルーロック		ウインドデフレクター.....	341
重要な安全上の注意.....	65	ウッドトリム.....	346
リアサイドウインドウ.....	66	エアキャップ.....	341
駐車		カーペット.....	347
重要な安全上の注意.....	197	ギア/セクターレバー.....	346
助手席側ドアミラーの位置.....	135	高圧式スプレーガン.....	339
リアビューカメラ.....	232	シート表皮.....	346
参照 駐車		シートベルト.....	347
参照 パークトロニック		自動洗車機.....	338
著作権	24	車外ライト.....	343
データ		車内.....	345
参照 サービスデータ		ステアリング.....	346
テールランプ		センサー.....	344
ディスプレイメッセージ.....	283		

洗車.....	339	ディスプレイメッセージ.....	298
ソフトトップ.....	341	電話帳からの番号.....	263
注意.....	337	メニュー(マルチファンクショ	
ディスプレイ.....	345	ンディスプレイ).....	262
塗装面.....	340	リダイヤル.....	263
ドラフトストップ.....	342	ドア	
トリム部品.....	346	オートマチックロック(マ	
プラスチックトリム.....	345	ルチファンクションディス	
ホイール.....	342	レイ).....	271
マットペイント.....	340	車速感応ドアロック(スイッチ).....	91
マフラー.....	345	重要な安全上の注意.....	89
リアビューカメラ.....	344	セントラルロックによる施錠/ 解錠(キー使用).....	83
ルーフライニング.....	347	操作パネル.....	36
ワイパーブレード.....	343	ディスプレイメッセージ.....	297
360°カメラシステム.....	344	非常時の解錠.....	91
テザーアンカー.....	59	非常時の施錠.....	92
デジタルスピードメーター.....	258	開く(車内から).....	90
テレビ		ドアミラー	
操作(マルチファンクショ		格納/展開(自動).....	134
ンディスプレイ).....	261	格納/展開(電動).....	134
参照 別冊の取扱説明書		施錠時の格納(マルチファン	
添加剤(エンジンオイル).....	396	クションディスプレイ).....	272
電気ヒューズ		外側に曲げられたとき.....	135
参照 ヒューズ		調整.....	133
電球		防眩(自動).....	135
参照 電球の交換		メモリー機能(設定の記憶).....	136
電球の交換		リセット.....	134
重要な安全上の注意.....	151	リバースポジションの記憶.....	135
電球の種類概要.....	152	ドアロック	
ハイビームヘッドライト.....	152	車速感応.....	91
点検		盗難防止警報システム	
参照 メンテナンスインジケータ		けん引防止機能.....	78
電源ソケット		車内センサー.....	79
全体的な注意.....	323	盗難防止システム	
リア.....	324	イモビライザー.....	78
電子制御部品		ATA(盗難防止警報システム).....	78
注意.....	392	読書灯.....	150
電池(キー)		塗装面(日常の手入れ).....	340
交換.....	86	ドラフトストップ.....	109
重要な安全上の注意.....	85	ドラフトストップ(清掃の説明).....	342
点検.....	86	トランク	
電動ブラインド		開閉(車外からの手動).....	93
パノラミックスライディング		重要な安全上の注意.....	92
ルーフ.....	115	独立施錠.....	94
リアウインドウ.....	322	非常時の解錠.....	94
電話		開く(車外から自動).....	94
着信を受ける.....	262	開く(車内から自動).....	94
通話の拒否/終了.....	263		

トランクセパレーター	
ディスプレイメッセージ.....	298
トランクの積載量(最大).....	399
トランクフロアボード下の収納ス	
ベース.....	319
トランクリッド	
開閉.....	92
ディスプレイメッセージ.....	296
開いたときの寸法.....	398
トランスミッション	
参照 オートマチックトランス	
ミッション	
取扱説明書	
車両装備.....	21
トリップコンピューター (マルチ	
ファンクションディスプレイ).....	257
トリップメーター	
初期化(マルチファンクション	
ディスプレイ).....	259
呼び出し.....	257
トリム部品(清掃の説明).....	346

な

内気循環モードの作動および解除..	169
ナビゲーション	
メニュー(マルチファンクショ	
ンディスプレイ).....	259
慣らし運転.....	176
ニーバッグ.....	43
荷物固定用リング.....	318
荷物の積み方.....	314
燃費(マルチファンクションディ	
スプレイ).....	257
燃料	
給油.....	194
グレード(ガソリン).....	394
重要な安全上の注意.....	394
消費に関する情報.....	395
走行可能距離の表示.....	258
タンク容量/予備燃料.....	394
添加剤.....	395
燃料計.....	28
燃料消費の表示.....	258
平均燃費.....	257
問題があるとき.....	197
燃料および油脂	
ウォッシュャー液.....	397

エンジンオイル.....	396
重要な安全上の注意.....	393
冷却水(エンジン).....	397
燃料キャップ	
参照 燃料給油口フラップ	
燃料給油口フラップ	
施錠/解錠.....	195
燃料残量	
警告灯.....	309
走行可能距離の呼び出し(マル	
チファンクションディスプレ	
イ).....	258
ディスプレイメッセージ.....	288
燃料タンク	
不具合.....	197
容量.....	394
燃料容量	
燃料計.....	28

は

パーキング	
パーキングブレーキ.....	198
パーキングアシスト	
参照 パークトロニック	
パーキングブレーキ	
機能/注意.....	198
警告灯.....	302
ディスプレイメッセージ.....	277
パーキングヘルプ	
アクティブパーキングアシスト..	227
参照 ドアミラー	
参照 パークトロニック	
パーキングランプ	
ディスプレイメッセージ.....	283
点灯/消灯.....	143
パークトロニック	
インジケーター.....	225
解除/作動.....	226
機能/注意.....	224
重要な安全上の注意.....	224
センサーの感知範囲.....	224
走行装備.....	224
不具合(故障).....	227
ハイウェイモード.....	145
灰皿.....	322
ハイドロブレーニング現象.....	202

ハイビームヘッドライト	
アダプティブハイビームアシスト・プラスのオン/オフの切り替え.....	149
アダプティブハイビームアシストのオン/オフを切り替える..	147
アダプティブハイビームアシストプラス.....	148
ディスプレイメッセージ.....	283
電球の交換.....	152
点灯/消灯.....	143
バッグフック.....	319
バックランプ(ディスプレイメッセージ).....	283
発進	
オートマチックトランスミッション.....	180
バッテリー(車両)	
ジャンプスタート.....	361
充電.....	359
重要な安全上の注意事項.....	356
ディスプレイメッセージ.....	287
電圧.....	399
容量.....	399
パドルシフト.....	190
パニティミラー(サンバイザー内)..	321
パノラミックスライディンググループ	
開閉.....	115
重要な安全上の注意.....	114
電動ブラインドの開閉.....	116
不具合(故障).....	117
リセット.....	116
レインクローズ機能.....	115
パワーウィンドウ	
参照 サイドウィンドウ	
パンクしたタイヤ	
車両の準備.....	352
タイヤフィット.....	354
MOExtended タイヤ.....	353
ハンドブレーキ	
参照 パーキングブレーキ	
ビークルプレート.....	392
ヒーター	
参照 エアコンディショナー	
非常時の解錠	
運転席ドア.....	91
車両.....	91
非常時の車両の施錠.....	92
非常点滅灯.....	144
ビデオ	
DVD の操作.....	262
ヒューズ	
エンジンルーム内のヒューズボックス.....	368
交換の前に.....	367
重要な安全上の注意.....	367
ダッシュボードのヒューズボックス.....	367
トランク内のヒューズボックスの位置.....	368
配置表.....	367
ヒューズ配置表(車載工具).....	351
表示灯	
参照 警告灯/表示灯	
ヒルスタートアシスト.....	180
フォグランプ	
強化機能.....	146
フューエルリザーブ	
参照 燃料	
ブラインドスポットアシスト	
参照 アクティブブラインドスポットアシスト	
プラスチックトリム(清掃の説明)..	345
ブレーキ	
アダプティブブレーキアシスト..	71
運転のヒント.....	201
クロストラフィックアシスト	
付き BAS プラス.....	68
警告灯.....	302
重要な安全上の注意.....	201
ディスプレイメッセージ.....	275
パーキングブレーキ.....	198
ブレーキ液(注意).....	396
ホールド機能.....	221
ABS.....	67
BAS.....	68
ブレーキアシスト	
参照 BAS(ブレーキアシスト)	
ブレーキ液	
注意.....	396
ディスプレイメッセージ.....	278
ブレーキ液量.....	335
ブレーキランプ	
アダプティブ.....	72
ディスプレイメッセージ.....	282
フロアマット.....	324

フロントウインドウ	
参照 ウインドウ	
フロントワイパー	
不具合.....	155
分割可倒式シート.....	317
ヘッドバッグ	
機能の仕方.....	44
ディスプレイメッセージ.....	281
ヘッドライト	
くもり.....	150
参照 オートマチックヘッドラ	
イトモード	
ヘッドレスト	
手動で下げる(リア).....	124
調整.....	123
調整(電動式).....	123
調整(リア).....	123
参照 NECK PRO アクティブ	
ヘッドレスト	
ベルト	
参照 シートベルト	
ベルトフォースリミッター	
機能.....	51
作動.....	51
ホールド機能	
解除.....	222
機能/注意.....	221
作動.....	222
ディスプレイメッセージ.....	289
ホイール	
交換/ローテーション.....	379
締め付けトルク.....	384
重要な安全上の注意.....	372
清掃.....	342
清掃 (警告の注意).....	380
タイヤの交換.....	379
点検.....	373
ホイールサイズ/タイヤサイズ.....	384
保管.....	380
ホイールボルトの締め付けトルク.....	384
方向指示灯	
ディスプレイメッセージ.....	282
点灯/消灯.....	143
保護システム	
参照 SRS(乗員保護補助装置)	
補助保護システム	
参照 SRS(乗員保護補助装置)	

ボンネット	
アクティブボンネット(歩行者	
保護).....	328
重要な安全上の注意.....	328
ディスプレイメッセージ.....	297
閉じる.....	330
開く.....	330

ま

マットペイント(日常の手入れ).....	340
マフラー(手入れ).....	345
マルチコントロールシートバック	
調整(シートで).....	126
マルチファンクションステアリング	
概要.....	30
マルチファンクションディスプレイ	
の操作.....	255
マルチファンクションディスプレイ	
アシストメニュー.....	263
安全に関する重要事項.....	254
オーディオメニュー.....	260
機能/注意.....	256
基本画面.....	257
コンフォートサブメニュー.....	271
サブメーター.....	267
車両サブメニュー.....	271
設定初期化サブメニュー.....	273
設定メニュー.....	267
操作.....	255
ディストロニック・プラス.....	216
テレビの操作.....	261
点検メッセージの表示.....	337
トリップメニュー.....	257
ナビゲーションメニュー.....	259
ビデオ DVD の操作.....	262
メーターパネルサブメニュー.....	267
メッセージの記憶.....	274
メニューの概要.....	257
メンテナンスメニュー.....	266
ライトサブメニュー.....	268
TEL メニュー.....	262

ミラー

参照 ルームミラー	
参照 ドアミラー	
参照 バニティミラー (サンバ	
イザー内)	

無線機

周波数.....	392
送信出力(最大).....	392
取り付け.....	392

メーターパネル

各部の名称.....	28
警告灯/表示灯.....	29

メーターパネル照明.....268**メッセージ**

参照 ディスプレイメッセージ

メッセージの記憶(マルチファン**クションディスプレイ).....274****メモリーカード(オーディオ).....261****メモリー機能.....136****メルセデス・ベンツ指定サービス****工場.....23****メルセデス・ベンツ純正部品.....20****メンテナンス**

参照 メンテナンスインジケーター

メンテナンスインジケーター

注意.....	336
特別な点検が必要なとき.....	337
メンテナンスインジケーター のリセット.....	337
メンテナンスメッセージ.....	336
メンテナンスメッセージの非 表示.....	337
メンテナンスメッセージの表示.....	337

メンテナンスメニュー(マルチファ**クションディスプレイ).....266****や****余熱ヒーター(エアコンディショ****ナー).....170****予備(燃料タンク)**

参照 燃料

ら**ライセンスランプ(ディスプレイ****メッセージ).....283****ライター.....323****ライト**

アクティブライトシステム.....	145
アダプティブハイビームアシ ストプラス.....	148

アンビエントライトのカラー**の設定(マルチファンクション****ディスプレイ).....269****アンビエントライトの照度の****設定(マルチファンクション****ディスプレイ).....269****インテリジェントライトシス****テムのオン/オフ.....268****コーナリングライト.....145****車外ライト消灯遅延機能の作****動/解除(マルチファンクション****ディスプレイ).....270****車内ライト消灯遅延機能の作****動/解除.....270****車幅灯.....142****ディスプレイ/スイッチの照****度設定(マルチファンクション****ディスプレイ).....268****デタイムドライビングライ****トの点灯/消灯(マルチファンク****ションディスプレイ).....268****パーキングランプ.....143****ハイウェイモード.....145****ハイビームヘッドライト.....143****非常点滅灯.....144****フォグランプ(強化機能).....146****ヘッドライトのオートモード...140****ヘッドライトのパッシング.....144****方向指示灯.....143****ランプスイッチ.....140****リアフォグランプ.....142****ロービームヘッドライト.....141****ロケイターライティングのオ****ン/オフの切り替え(マルチファ****クションディスプレイ).....270**

参照 ルームライト

参照 電球の交換

ラゲッジカバー**開閉.....109****全体的な注意事項.....109**

参照 ラゲッジカバー

ラゲッジネット.....316**ラゲッジルーム.....314****ラジオ****放送局の選択.....260**

参照 別冊の取扱説明書

ランバーサポート**電動ランバーサポートの調整...126**

ランプ	
参照 警告灯/表示灯	
ランプセンサー(ディスプレイメッ セージ).....	284
リア	
送風口の調整.....	172
リアウインドウの電動ブラインド..	322
リアシート	
ディスプレイメッセージ.....	297
リアデフォッガー	
機能のオン/オフ.....	168
トラブル(故障).....	169
リアビューカメラ	
オン/オフ.....	233
機能/注意.....	232
清掃の説明.....	344
リアフォグランプ	
ディスプレイメッセージ.....	283
点灯/消灯.....	142
リバース機能	
サイドウインドウ.....	95
スライディングルーフ.....	114
電動ブラインド.....	115
トランクリッド.....	93
パノラミックスライディング ルーフ.....	114
ルーフ	
概要.....	101
参照 ソフトトップ	
ルーフの積載量(最大).....	399
ルーフライニングとカーペット (清掃の説明).....	347
ルームミラー	
防眩(自動).....	135
防眩(手動).....	133
ルームライト	
アンビエントライトのカラー の設定(マルチファンクション ディスプレイ).....	269
アンビエントライトの照度の 設定(マルチファンクション ディスプレイ).....	269
概要.....	150
緊急時点灯機能.....	151
自動点灯.....	150
手動点灯.....	151
ディスプレイ / スイッチの照 度設定(マルチファンクション ディスプレイ).....	268
読書灯.....	150
レーンキーピングアシスト	
設定/解除(マルチファンクショ ンディスプレイ).....	266
設定 / 解除.....	266
冷却水(エンジン)	
温度計.....	254
警告灯.....	309
重要な安全上の注意.....	397
定期交換.....	334
ディスプレイメッセージ.....	285
補給.....	333
量の点検.....	333
冷房	
参照 エアコンディショナー	
レインクローズ機能	
パノラミックスライディング ルーフ.....	115
ロードサインアシスト	
機能/注意事項.....	243
警告機能の作動/解除.....	264
重要な安全上の注意.....	243
ディスプレイメッセージ.....	288
メーターパネルの表示.....	244
ロービームヘッドライト	
ディスプレイメッセージ.....	282
点灯/消灯.....	141
左側/右側通行の設定.....	269
ロールバー	
機能の仕方.....	45
ディスプレイメッセージ.....	280
ロケイターライティング(マルチ ファンクションディスプレイ).....	270

わ

ワークショップ

参照 メルセデス・ベンツ指定
サービス工場

ワイパー

ワイパーの操作..... 153
ワイパーブレードの交換..... 154

ワイパーブレード

交換..... 154

重要な安全上の注意.....154
 清掃.....343
輪止め.....380

英字

360° カメラシステム
 機能/注意.....236
 清掃.....344

**ABS(アンチロック・ブレーキ
 グ・システム)**
 機能/注意.....67
 警告灯.....304
 重要な安全上の注意.....67
 ディスプレイメッセージ.....275

AC モードのオン/オフ.....163

ATA(盗難防止警報システム)
 機能.....78
 警報の解除.....78
 作動/解除.....78

BAS(ブレーキアシスト).....68

**CD プレーヤー/CD チェンジャー
 (マルチファンクションディス
 プレイ).....261**

COMAND システム
 参照 別冊の取扱説明書

COMAND ディスプレイ
 清掃.....345

DVD オーディオ
 操作(マルチファンクション
 ディスプレイ).....261

DVD ビデオ
 操作(マルチファンクション
 ディスプレイ).....262

**EBD(エレクトロニック・ブレ
 キパワーディストリビューション)**
 機能/注意.....75

**EBD(エレクトロニックブレーキ
 フォースディストリビューション)**
 ディスプレイメッセージ.....277

ECO インジケーター
 機能/注意.....200

ECO スタートストップ機能
 一般的な注意.....181
 エンジン自動始動.....182
 エンジン自動停止.....181
 概要.....181

作動/解除.....182
 重要な安全上の注意.....181

**ESP®(エレクトロニック・スタビ
 リティ・プログラム)**
 解除/作動(注意事項).....74
 機能/注意.....72
 警告灯.....306
 作動/解除.....264
 重要な安全上の注意.....73
 全体的な注意事項.....72
 ディスプレイメッセージ.....275
 ETS.....73

**ETS(エレクトロニック・トラク
 ション・サポート).....73**

**ISOFIX 対応チャイルドセーフ
 ティシート.....58**

LIM 表示灯
 可変スピードリミッター.....207
 クルーズコントロール.....204
 ディストロニック・プラス.....212

M+S タイヤ.....375

MOExtended タイヤ.....353

MP3
 操作.....261
 参照 別冊の取扱説明書

NECK PRO アクティブヘッドレスト
 作動.....46
 作動後のリセット.....46

PRE-SAFE®
 機能の仕方.....46

PRE-SAFE®システム
 ディスプレイメッセージ.....279

PRE-SAFE® ブレーキ
 機能/注意.....75
 警告灯.....312
 重要な安全上の注意.....75
 設定/解除.....265
 ディスプレイメッセージ.....279

SRS(乗員保護補助装置)
 警告灯.....308
 警告灯(機能).....39
 ディスプレイメッセージ.....280
 まえがき.....38

VIN.....392

環境保護

全体的な注意事項

🌀 環境に関する注意

Daimler は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご注意ください。

使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。

- 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の $\frac{2}{3}$ までにとどめてください。
- 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。
- 車両の燃費に注意してください。

メルセデス・ベンツ純正部品

🌀 環境

Daimler AG では、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

! 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリを取り付けしないでください。修理や板金作業を行なわないでください。乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリなどを使用する場合は、車両の操作に関する安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全装置が誤作動するおそれがあります。メルセデス・ベンツ

純正部品または同等の品質の部品のみを使用してください。タイヤやホイール、アクセサリーなどは必ず、車両に明確に承認された製品だけを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。メルセデス・ベンツでは、継続的に市場調査を行なっていますが、純正でない部品の使用を認めていません。公的に承認されている、またはテストセンターによって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任を負いかねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号 (VIN) (▶ 392 ページ) およびエンジン番号 (▶ 393 ページ) を確認する必要があります。

取扱説明書

車両の装備

車両の標準およびオプション装備については、別添をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

使用に関する安全性

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

規定の点検整備または必要な修理を行っていないと、故障やシステム故障を引き起こすおそれがあります。事故の危険性があります。

規定の点検整備、必要な修理は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびその他のネットワークでつながっている構成部品の機能を損なうことがあります。特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。結果として、車両の機能が適切に作動しないあるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。けがや事故の危険が高まります。

また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて行ってください。

❗ 以下のときは、車両が損傷することがあります：

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生したとき
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行したとき
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかったとき

このような状況では、ボディ、ボディ下部、シャーシ部品、ホイール、タイヤが目に見える損傷はなくとも損傷するおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、

事故の場合には、設計されている負担に耐えることができないおそれがあります。

ボディ下部のパネルが損傷しているとき、葉、草または小枝のような可燃性の素材が、ボディ下部とボディ下部パネル間に堆積することがあります。これらの素材が排気システムの熱い部品に長時間触れると、発火するおそれがあります。

そのような場合には、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検および修理を受けてください。走行中に、走行の安全性が損なわれていると感じた場合は、周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

診断用接続部

診断機の接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器のみを接続するように想定されています。

⚠ 警告

機器を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。車両の走行安全性が損なわれることがあります。事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルをロックすることがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。ペダルに常に十分な空間があることを確認するために、フロア

マットは操作の妨げにならないように、ペダルから所定の余裕をとってしっかりと装着してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

! エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断機の接続部に接続すると、例えば排出ガスモニター情報のリセットにつながります。これにより、次の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなることにつながります。

日常点検および点検整備

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの操作

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。(p. 185 ページ)。

オートマチックトランスミッションの特徴

クリーブ現象

エンジンがかかっている状態でトランスミッションがトランスミッションポジション **D** または **R** のときは、駆動輪に動力が伝達されています。その結果、アクセル

ペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、車両に必要とされる適切な作業を行なうための、必要とされる専門的な知識、工具および資格があります。これは特に安全に関する作業に当てはまりません。

整備手帳にある注意に従ってください。以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。

正しく使用するために

警告ステッカーをはがすと、お客様や他の方々々が危険を認識できないことがあります。警告ステッカーをはがさないでください。

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本説明書の安全に対する注意点
- 本説明書のサービスデータ
- 道路交通法
- 自動車に関する法律と安全基準

車両に記憶されているデータ

車両に装備されている数多くの電子部品はデータメモリーに記憶されています。これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- イベント
- 故障

この技術情報は、一般的に構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下を含みます：

- 液レベルなどのシステム構成部品の作動条件
- ホイール回転数 / 速度、減速、横方向の加速度、アクセルペダルの位置などの車両状態メッセージおよび個別の構成部品
- ランプ、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常
- エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件
- 外気温度などの外気条件

このデータは以下の技術的なことにのみ使用することができます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報がイベントおよび故障メモリーから読み出されます。

例えば以下のメンテナンスが含まれます：

- 修理メンテナンス
- メンテナンス処理
- 保証
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、この技術データからその他の情報と併せて（必要に応じて、該当機関に相談し）、個人を特定することができる場合があります。

以下に例を示します：

- 事故レポート
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によって、特定の車両データも車両から取得することができます。追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

著作権の情報

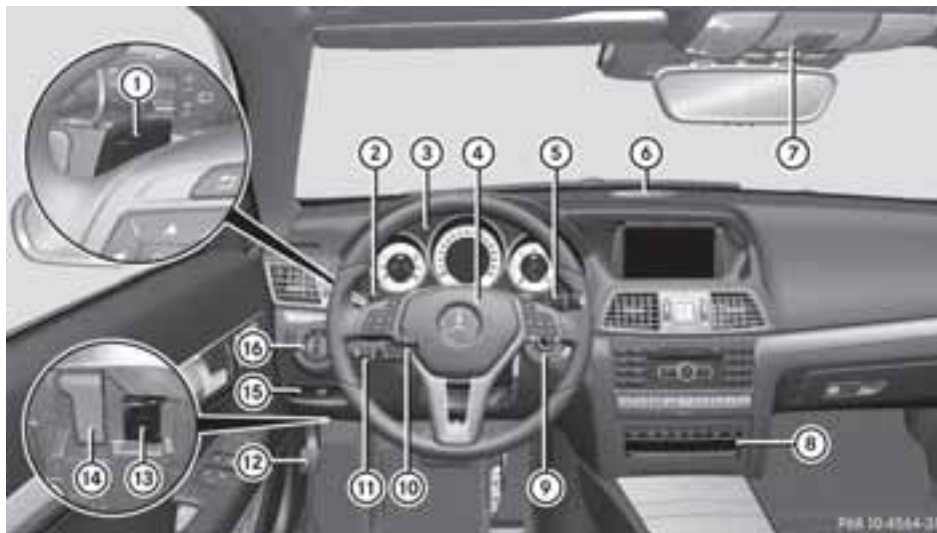
全体的な注意事項

車両やその電子部品に使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスに関する情報は、下記のウェブサイトで入手できます。

<http://www.mercedes-benz.com/opensource>

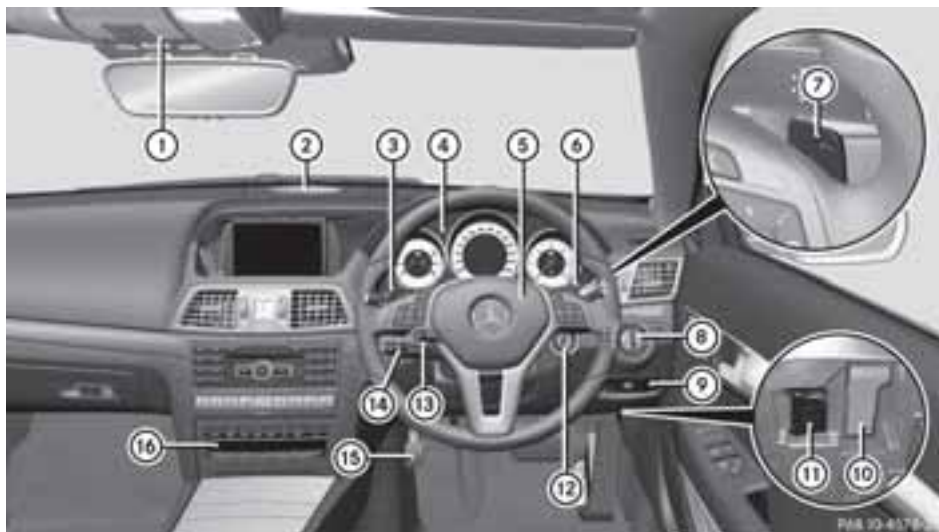
運転席	26
メーターパネル	28
マルチファンクションステアリング	30
センターコンソール	31
オーバーヘッドコントロールパネル	35
ドアコントロールパネル	36

運転席



機能	ページ
① ステアリングのギアシフトパドル	190
② クルーズコントロールレバー	204
③ メーターパネル	28
④ ホーン	
⑤ DIRECT SELECT レバー	186
⑥ パークトロンニック警告表示	224
⑦ オーバーヘッドコントロールパネル	35
⑧ エアコンディショナー	158

機能	ページ
⑨ エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	177
⑩ ステアリングを調整する ステアリングヒーター	130 131
⑪ コンビネーションスイッチ	143
⑫ パーキングブレーキ	198
⑬ 診断用接続部	22
⑭ ボンネットを開く	330
⑮ パーキングブレーキを解除する	198
⑯ ライトスイッチ	140

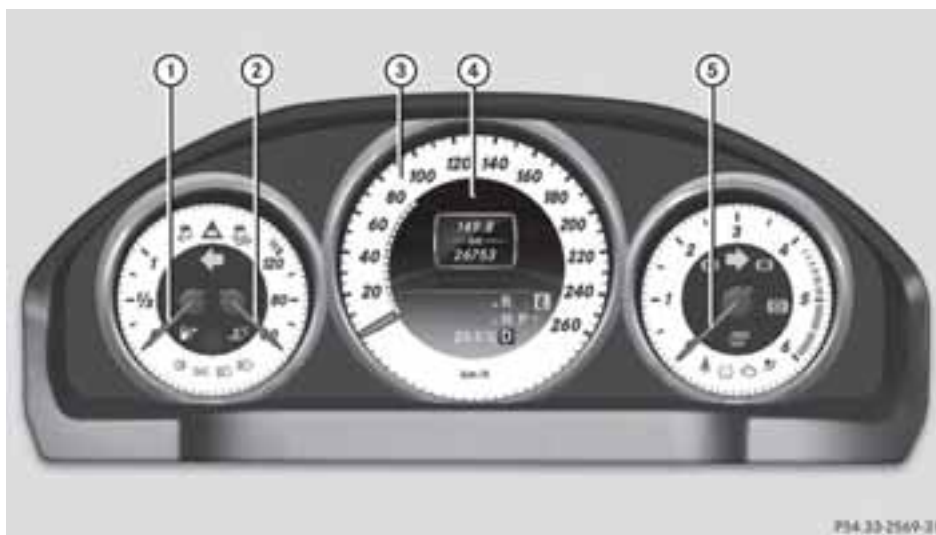


	機能	ページ
①	オーバーヘッドコントロールパネル	35
②	パークトロンニック警告表示	224
③	コンビネーションスイッチ	143
④	メーターパネル	28
⑤	ホーン	
⑥	DIRECT SELECT レバー	186
⑦	ステアリングのギアシフトパドル	190
⑧	ライトスイッチ	140
⑨	パーキングブレーキを解除する	198

	機能	ページ
⑩	ボンネットを開く	330
⑪	診断用接続部	22
⑫	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	177 177
⑬	電動調整式ステアリングの調整 ステアリングヒーター	130 131
⑭	クルーズコントロールレバー	204
⑮	パーキングブレーキ	198
⑯	エアコンディショナー	158

メーターパネル

ディスプレイ



P34.33-2549-31

	機能	ページ
①	燃料計	
②	冷却水温度	254
③	セグメント付きスピードメーター	255

	機能	ページ
④	マルチファンクションディスプレイ	256
⑤	タコメーター	254

i マルチファンクションディスプレイでメーターパネル照明を調整します。
(▷ 268 ページ)

警告および表示灯









P54.33-2570-31







機能	ページ
① ESP®	306
② 車間距離警告	312
③ ESP® 解除	306
④ ブレーキ (赤色)	302
⑤ 方向指示灯	143
⑥ 特定の仕様車のみ： ブレーキ (黄色)	302
⑦ ABS	304
⑧ SRS	308
⑨ エンジン診断	309
⑩ このランプには機能はありません。	

機能	ページ
⑪ シートベルト	301
⑫ 冷却水	309
⑬ ハイビームヘッドライト	143
⑭ ロービームヘッドライト	141
⑮ 車幅灯	142
⑯ リアフォグランプ	142
⑰ 燃料残量	309

マルチファンクションステアリング





	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	256
②	COMAND ディスプレイ：別冊の取扱説明書をご覧ください	
③	 音声認識の作動：別冊取扱説明書をご覧ください	
④	 通話の拒否、または終了 電話帳/発信履歴の終了  発信、または受話 リダイヤルメモリーへの切り替え   音量の調整  消音	262




	機能	ページ
⑤	  メニューの選択   サブメニューの選択またはリストのスクロール  選択の確定 ディスプレイメッセージの消去	255 255 274
⑥	 戻る 音声認識の停止：別冊取扱説明書をご覧ください	255

センターコンソール

センターコンソール、上部（クーペ）








	機能	ページ
①	オーディオシステム / COMAND システム：別冊の取扱説明書をご覧ください。	
②	 シートヒーター	126
③	 シートベンチレーター	128
④	 パークトロンニック	224
⑤	 ECO スタートストップ機能	181

	機能	ページ
⑥	 非常点滅灯	144
⑦	 助手席エアバッグオフ表示灯	56
⑧	盗難防止警報システム表示灯	78
⑨	シートベルトフィーダーを前方に移動する	48
⑩	 リアウインドウの電動ブラインド	322

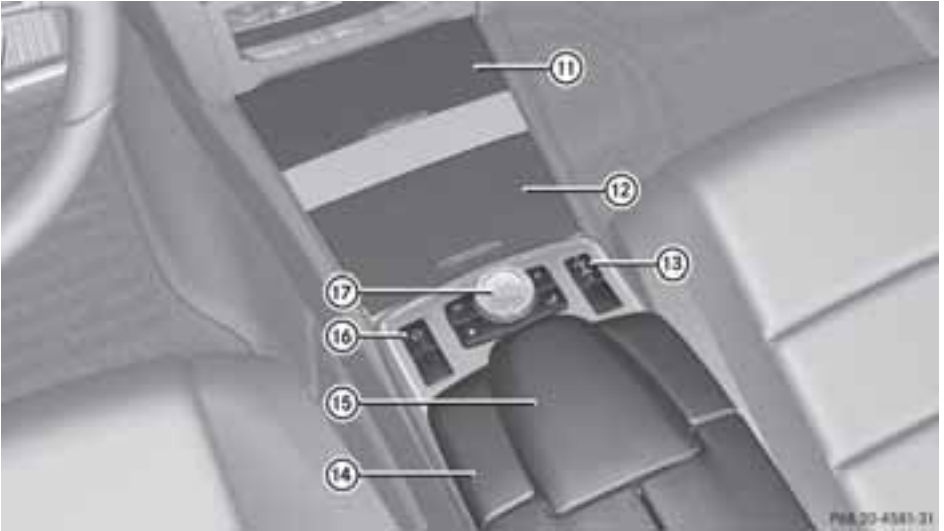
センターコンソール、上部（カブリオレ）





	機能	ページ
①	オーディオシステム / COMAND システム：別冊の取扱説明書をご覧ください。	
②	 シートヒーター	126
③	 シートベンチレーター	128
④	 エアスカーフ	129
⑤	 ECO スタートストップ機能	181

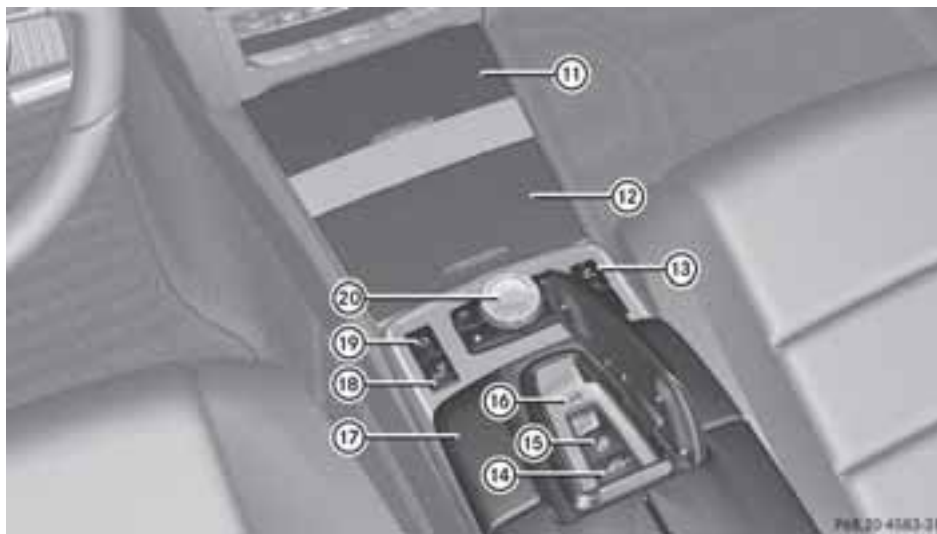
	機能	ページ
⑥	 非常点滅灯	144
⑦	 助手席エアバッグオフ表示灯	56
⑧	 盗難防止警報システム表示灯	78
⑨	 シートベルトフィーダーを前方に移動する	48
⑩	 エアスカーフ	129



センターコンソール、下部 (クーパー)



機能	ページ	機能	ページ
⑪ 小物入れ 灰皿 ライター	315 322 323	⑭ 小物入れ	315
⑫ 小物入れ カップホルダー	315 320	⑮ 小物入れ	315
⑬  スポーツモード付きダイナミックハンドリングパッケージ	223	⑯  走行モードの選択	189
		⑰ オーディオ/COMAND コントローラー：別冊取扱説明書をご覧ください。	

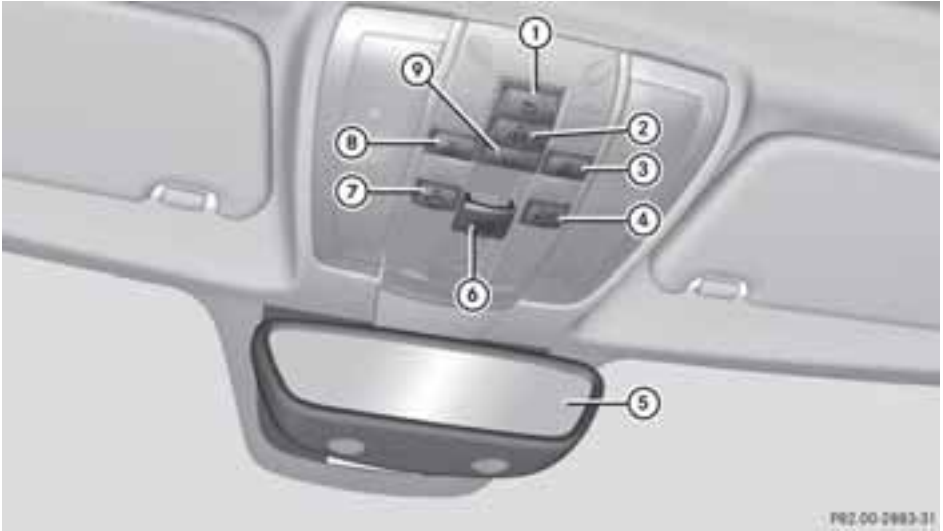
センターコンソール、下部 (カブリオレ)







	機能	ページ
⑪	小物入れ 灰皿 ライター	315 322 323
⑫	小物入れ カップホルダー	315 320
⑬	 パークトロニック  スポーツモード付 キダイナミックドライビ ングパッケージ	224 223
⑭	エアキャップ	111





	機能	ページ
⑮	サイドウインドウの開閉	95
⑯	ソフトトップの開閉	101
⑰	小物入れ	315
⑱	 リアシートへのヘッ ドレストの格納	123
⑲	 走行モードの選択	189
⑳	オーディオ/COMAND コントローラー：別冊取 扱説明書をご覧ください。	

オーバーヘッドコントロールパネル

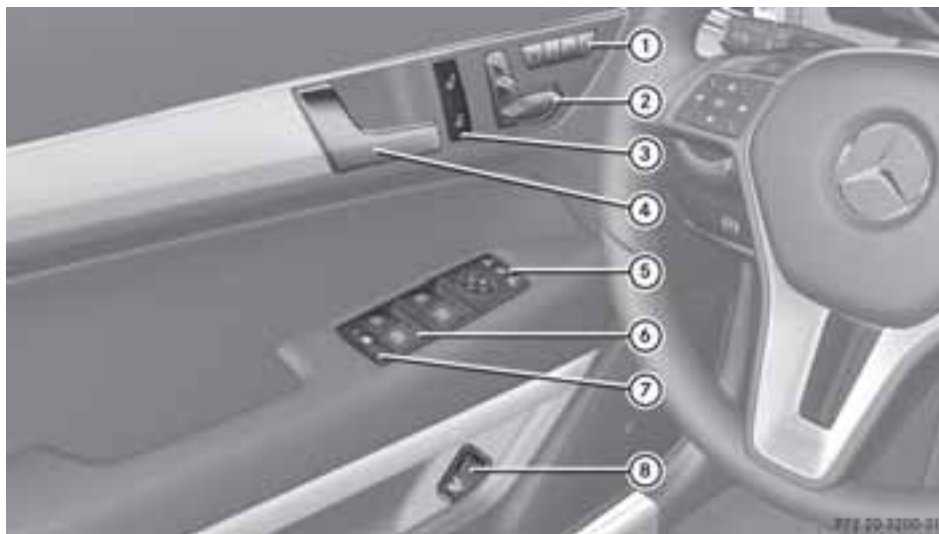


FRZ.00-2983-31

機能	ページ
①  リアルームライトの点灯/消灯の切り替え (クーペのみ)	151
②  ルームライト自動コントロールのオン/オフの切り替え	151
③  右側読書灯の点灯/消灯の切り替え	150
④  けん引防止機能の解除	78
⑤ ルームミラー	135

機能	ページ
⑥  電動ブラインド付きパノラミックスライディングルーフの開閉 (クーペのみ)	115
⑦  室内センサーの解除	79
⑧  左側読書灯の点灯/消灯の切り替え	150
⑨  フロントルームライトの点灯/消灯の切り替え	151

ドアコントロールパネル



	機能	ページ
①	シート、ドアミラー、ステアリング設定の記憶	136
②	パワーシートの調整	122
③	車両の施錠/解錠	90
④	ドアレバー	90
⑤	ドアミラーの電動調整および格納/展開	133
⑥	サイドウィンドウの開閉	96
⑦	後席サイドウィンドウのオーバーライド機能の設定/解除	66
⑧	トランクリッドを開く	94

役に立つ情報	38
乗員の安全性	38
子供を乗せるとき	53
走行安全システム	66
盗難防止システム	78

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▶ 23 ページ)

乗員の安全性

重要な安全上の注意事項

警告

保護システムを改造すると適切に機能しなくなります。システムが設計どおりに乗員を保護できなくなります。事故の際に保護機能を果たせず、また不意に作動することもあります。けがをします。けがをします。

保護システムの部品を改造しないでください。また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

エアバッグシステムは障害のある方にも適合しています。さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です (▶ 38 ページ)。これらは、あらかじめ想定した特定の事故の状況においてけがの危険性を低減し、乗員の安全性を高めます。ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に侵入した物に対する保護は一般的には行いません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下の点に注意してください。

- シートやヘッドレストが正しく調整してある (▶ 120 ページ)
- シートベルトが正しく着用してある (▶ 47 ページ)
- エアバッグが作動した場合に制限なしで膨らむことができる (▶ 40 ページ)
- ステアリングが正しい位置に調整してある (▶ 130 ページ)
- 保護システムが改造されていない


エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。ただし、エアバッグはシートベルトを補足する補助的な保護システムに過ぎず、代わりになるものではありません。車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用する必要があります。エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。例えば、正しく着用されたシートベルトによる保護機能をエアバッグの作動によって高めることができない場合はエアバッグは作動しません。

エアバッグの作動はシートベルトが正しく着用されている場合にのみ、保護を高めることができます。シートベルトはまず、エアバッグとの最適な位置に車両の乗員を保つ補助になります。さらに正面衝突などの際に、シートベルトは衝撃を受けた方向に同乗者が移動しないようにします。

SRS（乗員保護補助装置）

概要

SRS は、以下のシステムで構成されています。

- SRS 警告灯 
- エアバッグ

- クラッシュセンサー付きエアバッグコントロールユニット
- フロントシートベルト用および後席の外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- フロントシートベルト用および後席の外側シートベルト用ベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。


SRS 警告灯


警告

SRS が故障している場合は、大幅な車両の減速を伴う事故の際に、保護システムの構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。




ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検および修理を受けてください。

SRS の機能は、イグニッションをオンにしたときやエンジンがかかっているときに定期的に診断されています。そのため、不具合が発生すると早い時期に検出することができます。

メーターパネルの SRS 警告灯  は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。

エンジンがかかっている間に SRS 警告灯  が消灯したときは、SRS の構成部品の作動準備が整っています。

以下のときは、不具合が発生していません。

- イグニッションがオンのときに、SRS 警告灯  が点灯しない。
- エンジンを始動して数秒後に、SRS 警告灯  が消灯しない。
- エンジンがかかっているときに、SRS 警告灯  が再度点灯する。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動

衝突の初期段階で、エアバッグコントロールユニットは、以下のような車両の減速度または加速度に関する重要な物理的データを判断します。

- 衝撃の作用した時間
- 方向
- 衝撃の強さ

これらのデータを判断して、エアバッグコントロールユニットは衝突の初期段階でシートベルトテンショナーを事前に作動させます。

車両の縦方向の減速度または加速度がさらに大きくなると、フロントエアバッグも作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を 2 段階に制御するデュアルステージ式フロントエアバッグが装備されています。エアバッグコントロールユニットは、衝突の際に車両の減速度または加速度を評価します。第 1 段階では、フロントエアバッグは乗員の負傷を防ぐのに最適なガス圧で膨らみます。数ミリ秒以内に第 2 段階の作動基準値に達すると、フロントエアバッグは最大限に膨らみます。

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動基準値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。このプロセスは事前に実行されます。作動決

定プロセスは、衝突の初期段階で早い時期に行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形状態
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを展開させる基準とはなりません。

衝突時にボンネットやフェンダーなど車体が著しく変形していながら、エアバッグが作動しない場合があります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に、車体の変形状態が軽度であってもエアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなど高剛性の部品が衝撃を受けたため車両の減速度が十分な高いレベルに達した場合などです。

i シートベルトテンショナーは、シートベルトのプレートが正しくバックルに差し込まれている場合にのみ作動させることができます。

i 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動条件は、事故の大きさ（特に車両の減速度または加速度）および以下のような事故の形態に基づいて決まります。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 後面衝突（追突）
- カブリオレ：横転

エアバッグ


重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大なけがをしたり死亡したりする危険性を軽減するため、以下の注意事項をお守りください。

- 妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。
- 身長約 1.50 m 未満または年齢 12 歳未満の子供は常に、適切なチャイルドセーフティシートに固定してください。
- 乗員全員がシート位置を正しく調整し、エアバッグとの間隔をできるだけ確保してください。運転席シートの位置は、安全運転を妨げないように調整してください。運転者の胸と運転席エアバッグの距離をできるだけ確保してください。
- 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。特に、助手席にチャイルドセーフティシートを装着して子供を乗せるときは助手席シートを後方に移動することが大切です。
- 車両の乗員 - 特に子供 - は以下のウィンドウのエリアに頭部をもたれさせないでください。
 - クーペ：サイドバッグ/ウィンドウバッグが作動します。
 - カブリオレ：サイドバッグ/ヘッドバッグが作動します。
- 助手席シートエアバッグの機能が解除されている場合を除いて、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席に設置しないでください。チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着する場合

は、助手席エアバッグが解除されます。助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯し続けます。

車両の助手席にチャイルドセーフティシート検知システムが装備されていない場合や、後ろ向きのチャイルドセーフティシートにチャイルドセーフティシート自動検知用のトランスポンダーがない場合は、必ず後席に装着してください。子供はリアの適切なシートのチャイルドセーフティシートに固定しなければなりません。助手席に前向きのチャイルドセーフティシートを固定する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。

- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れないでください。
- 特に走行中は、運転席フロントエアバッグ / 助手席エアバッグの格納部にもたれかかたりしないでください。
- ダッシュボードの上に足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側を握ってください。それにより、エアバッグを十分に膨らませることができます。ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、運転者がけがをするおそれがあります。
- 内側からドア/リアサイドウォールにもたれないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックに、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。
- カップホルダーのようなアクセサリーをドア/リアサイドウォールに取り付けしないで下さい。

エアバッグを作動せざるを得ないエアバッグの高い速度のために、エアバッグを原因とするけがの危険性を排除することは不可能です。

⚠ 警告

エアバッグカバーを改造したり、ステッカーのような物を貼る場合は、エアバッグが正しく機能できなくなることがあります。けがをするおそれが高まります。エアバッグカバーを改造したり、またはそれらに物を貼らないでください。

⚠ 警告

シートカバーによって、シート内蔵のエアバッグの作動を遮る、または妨げることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。加えて、チャイルドセーフティシート自動検知システムの機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。


⚠ 警告

エアバッグが作動した後は、エアバッグの部品は熱くなっています。けがの危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で交換してください。

衝突の際にエアバッグが作動すると、乗員の身体の移動を抑えて拘束します。

エアバッグが作動するとき、作動音が聞こえ、空中に少量の白煙が発生することがあります。爆発音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。発生した粉は一般的には健康を害する性質はなく、車内に火災があることを示すものでもありません。この白煙を吸い込むと、ぜんそくや肺疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。潜在的な呼吸困難を防止するため、安全であればすぐに車両から離れてください。または、ウインドウを開いて新鮮な

空気を車内に取り込んでください。SRS警告灯  が点灯します。

エアバッグの格納場所には、エアバッグのマークが付いています。

① エアバッグが作動した後は、車両がまだ走行できる場合でも最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引してください。

エアバッグの取付位置

エアバッグ	格納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード部
運転席ニーバッグ	ステアリングコラム下部の運転席パネル
サイドバッグ	運転席および助手席シートの外側シートバックレスト、ならびに後席、上部
ペルビスバッグ	運転席および助手席シートの外側シートバックレスト、下部
ウインドウバッグ (クーペのみ)	Aピラー側方からCピラーのルーフフレーム
ヘッドバッグ (カブリオレのみ)	フロントサイドウインドウのエリア

フロントエアバッグ

❗ 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因にな

ります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要があるおそれがあります。



運転席エアバッグ ① はステアリング正面で膨らみ、助手席エアバッグ ② はグローブボックスの正面と上部で膨らみます。

フロントエアバッグは、運転者と助手席乗員の頭部や胸部を保護する効果を高めます。

それらは以下のときに作動します。

- 衝突の初期段階で、車両の縦方向に一定以上の高い加速度または減速度を検知したとき。
- エアバッグの作動が、シートベルトによるものに補助的な保護をもたらすとシステムが判断したとき。
- 車内の他のエアバッグとは独立して作動します。

フロントエアバッグが作動する時間は、シートベルトが着用されているかどうかによって異なります。

車両が横転または転覆した場合は、通常はフロントエアバッグは作動しません。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知装備車両： 助手席フロントエアバッグ ② は、助手席に乗車しているとシステムが検知した場合にのみ作動します。センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯は点灯しません (▶ 56 ページ)。

チャイルドセーフティシートが助手席に装着されている場合、以下のときはセンターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しません。

- チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダーを内蔵していないチャイルドセーフティシートが装着されているとき、または
- トランスポンダー内蔵チャイルドセーフティシートが正しく装着されていないとき

運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ ① はステアリングコラムの下で作動します。フロントエアバッグと一緒に作動します。運転席ニーバッグは前面衝突の際に特定の規定値を超えるとフロントエアバッグと一緒に作動するように設計されています。運転席ニーバッグは、正しい位置で着用されたシートベルトと組み合わせられて最適に作動します。

運転席ニーバッグは、運転者の以下のような傷害を軽減して乗員保護効果を高めます。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが

サイドバッグ

⚠ 警告

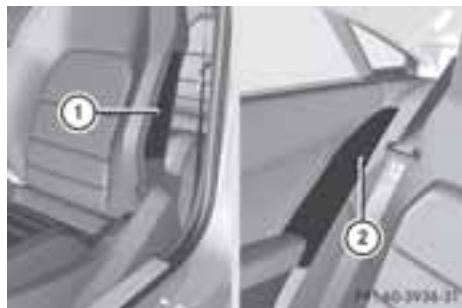
シートカバーによって、シート内蔵のエアバッグの作動を遮る、または妨げることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。加えて、チャイルドセーフティシート自動検知システムの機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。

⚠ 警告

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネル、ならびに損傷したドアに改造または作業が正しく行われていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。したがって、エアバッグは正しく機能しなくなる可能性があります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをす

るおそれが高まります。ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。



サイドバッグ (例：クーペ)

フロントサイドバッグ ① およびリアサイドバッグ ② は外側シートクッション脇で作動します。

作動したときは、衝撃が発生した側の車両乗員の胸部を補助的に保護します。ただし、以下は保護しません。

- ・頭部
- ・頸部
- ・腕

サイドバッグは以下のように作動します。

- ・衝撃が発生した側で
- ・側方の衝撃など、車両の横方向で高い加速度または減速度を伴う事故の初期で
- ・シートベルトの使用とは独立して
- ・フロントエアバッグとは独立して
- ・シートベルトテンショナーとは独立して

カブリオレ：車両が横転した場合は、サイドバッグは通常は作動しません。システムが横方向の車両の高い減速度または加速度を検知し、サイドバッグの作動によってシートベルトによりもたらされるものに補助的な保護を与えると判断した場合に、サイドバッグは作動します。

サイドバッグ



例：助手席側サイドバッグ

ヘッドバッグ ① はカブリオレで作動します。

ヘッドバッグ ① は、衝撃が発生した車両側の車両乗員の胸部や腕部ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ヘッドバッグ ① は、フロントのサイドウインドウ周辺で膨らみます。それらは以下のときに作動します。

- ・側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- ・衝撃が発生した側で
- ・車両が横転し、作動することによってシートベルトによるものに補助的な保護がもたらされるとシステムが判断した場合の運転席と助手席側で
- ・シートベルトの使用とは独立して
- ・助手席乗員の有無に関わらず
- ・フロントエアバッグとは独立して

ペルビスバッグ

⚠ 警告

シートカバーを使用するときは、安全上の理由からメルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。シートカバーには、サイドバッグ / ペルビスバッグ作動時に断裂する糸で縫製が施されている必要があります。さもないと、サイドバッグ / ペルビスバッグが正しく作動せず、事故が起きたときに適切な保護効果が発揮されなくなります。最適なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお求めください。



ペルビスバッグ ① は、衝突が発生した車両側の車両乗員の保護レベルを高めます。

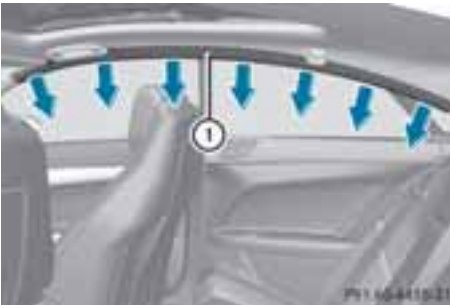
ペルビスバッグは、シートクッション側面の下部付近で膨らみます。それらは以下のときに作動します。

- 衝撃を受けた側
- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。
- シートベルトテンショナーの作動に連動しません。

カブリオレ：車両が横転した場合、ペルビスバッグは通常は作動しません。システムが横方向の車両の高い減速または加速を検知し、サイドバッグの作動によってシートベルトによりもたらされるものに補助的な保護を与えると判断した場合に、サイドバッグは作動します。

i ペルビスバッグは特定の国でのみ装備されます。

ウインドウバッグ



ウインドウバッグはクーペに装備されています。

ウインドウバッグ ① は、車両の衝撃が発生した側の（乗員の胸部や腕ではなく）頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグはルーフフレーム側面に内蔵され、フロントドア（Aピラー）


からリアサイドウォール（Cピラー）にわたる範囲で作動します。

ウインドウバッグは以下の条件で作動します。

- 側面衝突などの初期段階で、車両の横方向の加速度または減速度が高くなったとき
- 衝撃を受けた側
- シートベルトの着用に関係なく作動します。
- 助手席乗員の有無に関わらず作動します。
- フロントエアバッグの作動に連動しません。

ロールバー（カブリオレ）

⚠ 危険

ロールバーに異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに「 故障 工場 で点検」と表示されます。その場合は、事故などで衝撃を受けてもロールバーが起き上がりなくなるおそれがあります。その結果、運転者と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にロールバーの点検を受けてください。

⚠ 警告

ロールバー/リアヘッドレスト周辺の範囲がきれいに保たれていることを確認してください。さもないと、それらが作動したときに誰かがロールバーに挟まれるおそれがあります。

ロールバーはリアヘッドレストの下にあります。車両が横転する危険にあることをシステムが検知すると、それらは展開します。

ロールバーが展開するときは、リアヘッドレストも自動的に展開します。ロールバーが一度展開すると、リアヘッドレス

トを下げることができなくなります。ソフトトップを閉じることができなくなります。この場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場を訪問してください。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ヘッドレストカバーは、必ず車両に適合するメルセデス・ベンツ純正品を使用してください。

純正以外のヘッドレストカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストが正常に作動しなくなるおそれがあります。その結果、NECK PRO アクティブヘッドレストが本来の保護機能を発揮しなくなる場合があります。

純正品については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

NECK PRO アクティブヘッドレストは頭部および胸部にけがを負う危険を減らします。一定の強さの後方衝突の際に、運転席と助手席シートのNECK PRO アクティブヘッドレストが前方および上方に移動します。これにより、頭部のより良い支持をもたらします。

事故でNECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、運転席と助手席シートのNECK PRO アクティブヘッドレストをリセットしてください(▶ 46ページ)。さもないと、他の後方衝突のときに追加の保護を使用できません。NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、それらが前方に動き、調整できなくなる事実によって認識できません。

追突されたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にNECK PRO アク

ティブヘッドレストの点検を受けることをお勧めします。

NECK PRO アクティブヘッドレストの作動後のリセット



NECK PRO アクティブヘッドレスト (例：クーペ)

- ▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッション上部を前方の矢印の方向①に傾けます。
- ▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッションを矢印の方向②に停止するまで押し下げます。
- ▶ NECK PRO アクティブヘッドレストのクッションを矢印の方向③にしっかりと押し、確実にロックさせます。
- ▶ もう一方のNECK PRO アクティブヘッドレストでも同様の作業を行いません。

❶ NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業には強い力が必要になります。NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なうのが困難な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

PRE-SAFE® (予期乗員保護措置)

❷ シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

PRE-SAFE®は、特定の危険な状況で、乗員を保護するために予防的な措置を行いません。車両にPRE-SAFE®システムが装備されていても、事故のときのけがの可能性をなくすことはできません。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

PRE-SAFE®は以下のときに作動します。

- 緊急ブレーキの状況などでBASが作動したとき
- ディストロニック・プラス装備車両で、BASプラスが強力に介入したとき
- ディストロニック・プラス装備車両で、レーダーセンサーが特定の状況で差し迫った衝突の危険を検知したとき
- 物理的限界を超えて車両が著しくアンダーステアやオーバーステアになるなど、危機的な走行状況になったとき

PRE-SAFE®は検知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトを引き込み、シートベルトの張力を高めます。
- メモリー機能付き車両：助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。
- マルチコントロールシートバック装備車両：シートクッションおよびバックレストのサイドサポートの空気圧を高めます。
- 車が横滑りすると、フロントサイドウィンドウおよび、クーペではパノラミックスライディングルーフが少しの隙間のみを残して閉じます。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE®がシートベルトの張力を緩めます。マルチコントロールシートバックのサイドサポートの空気圧が再度低下します。PRE-SAFE®によ

り行なわれたすべての設定が元に戻りません。

シートベルトの張力が緩まないとき

- ▶ 停車中に、バックレスト角度やシートの前後位置を少し動かします。シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整、PRE-SAFE®に内蔵されたコンビニエンス機能についてのさらなる情報は、「シートベルトの調整」(▷ 50 ページ)にあります。

シートベルト警告灯

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの本来の保護機能が十分に発揮されません。事故のとき、状況によっては乗員が致命的なけがをするおそれがあります。妊娠中の女性も含めて、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直にしてシートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、中央部が目の高さになるように調整してください。

- シートベルトは身体に密着させ、ねじれないように着用してください。コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。肩ベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。腰ベルトは、腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。必要であれば、ベルトを少し押し下げた後、再び引き戻してたるみを取ってください。
- とがった物やこわれやすい物にベルトストラップをかけないでください。これは特に、メガネ、ペン、鍵などが衣

類の中、または表面にあるときがそうです。事故の際にシートベルトが損傷して裂け、運転者や他の乗員がけがをするおそれがあります。

- 各シートベルトは必ず 1 人の乗員が使用します。絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時やブレーキ時、衝突時に子供を保護することができなくなります。その結果、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長約 150 cm 未満の乗員は、シートベルトを正しく着用することができません。そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、体格に応じた専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長約 150 cm 未満または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。そのため、適切なシートの適切なチャイルドセーフティシートに常に固定してください。さらなる情報は、本取扱説明書安全装備の章にある“子供を乗せるとき”をご覧ください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着指示に従ってください。
- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ 警告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトの保護機能が十分に発揮できません。ブレーキ操作時または事故発生時、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。常にシートが垂直に近い位置であることを確認してください。

⚠ 警告

以下の場合、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります。

- シートベルトが 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- ベルトテンショナーまたはベルトアンカーが改造されている

事故が起こった際には目には見えない場合でも、たとえばガラスの破片によってシートベルトに損傷していることがあります。改造または損傷したシートベルトは、事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたベルトテンショナーは突然作動したり、または必要なときに作動しないおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、ベルトテンショナー、ベルトアンカーまたは慣性リールを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして清潔であることを確認してください。

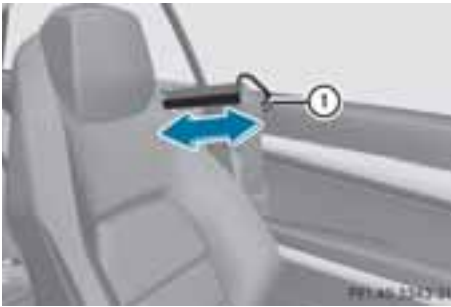
メルセデス・ベンツは、お客様のメルセデス・ベンツ車専用に承認されたシートベルトのみを使用することを推奨します。

シートベルトは、事故のとき、乗員の身体の移動を最も効果的に抑えるための手段です。これにより、乗員が車内の部品にぶつかることを防ぎます。

シートベルトの着用

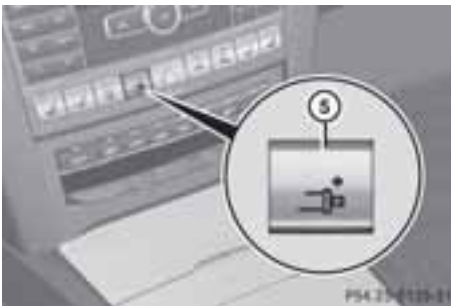
⚠ 警告

車両が動いているときは、シートベルトエクステンダーは格納されていなければなりません。そのときにのみ、シートベルトが適切に身体にフィットして、保護機能を発揮することができます。



シートベルトフィーダー（例：クーペ）

運転者および助手席乗員のシートベルトフィーダーにより、シートベルトの着用に補助します。対応するドアが閉じていて、エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわしたときに、シートベルトフィーダー **①** は展開します。



センターコンソールのシートベルトフィーダースイッチ **⑤** を使用してシートベルトフィーダー **①** を展開することもできます。

- ▶ シートベルトフィーダースイッチ **⑤** を押します。
シートベルトフィーダー **①** が展開します。

以下のときは、シートベルトフィーダー **①** が再度格納されます。

- シートベルトのプレートがシートベルトバックルに固定された
- 60 秒以内にシートベルトのプレートがシートベルトバックに固定されていない
- 対応するドアが開いている
- エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわした
- シートバックレストのロックを解除して前方に倒した
- 約 5 秒後に助手席に着座しないままである

この後でシートベルトフィーダースイッチ **⑤** を押した場合は、シートベルトフィーダー **①** は展開しません。



シートベルト（例：クーペ）

- ▶ シートを調整し、バックレストをほぼ垂直の位置に動かします (▷ 120 ページ)。
- ▶ シートベルトをシートベルトフィーダー ① からゆっくり引き出します。
- ▶ ねじれがないように、シートベルトの肩の部分を肩の中央に、腰の部分を骨盤にかけます。
- ▶ プレート ② をバックル ③ に差し込みます。
シートベルト調整：必要な場合は、運転席および助手席シートベルトが上半身に自動的に調整されます (▷ 50 ページ)。
- ▶ 必要であれば、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

チャイルドセーフティシートを車両にしっかりと取り付けるために、後席のシートベルトにはチャイルドシートロックが装備されています。さらなる情報は "チャイルドシートロック" (▷ 55 ページ) にあります。

解除スイッチ ④ でのシートベルトの解除に関する情報 (▷ 50 ページ)。

シートベルトの調整

シートベルト自動調節機能は、運転席および助手席シートベルトが乗員の上半身に密着するように、自動的にシートベルトを調整します。

以下のときは、シートベルトを少し引き込みます。

- シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ後、イグニッション位置を 2 にしたとき
- エンジンスイッチのキーが 2 の位置にあり、シートベルトエクステンダーが格納されてからベルトのプレートをバックルに固定するとき

シートベルト調整は、乗員とシートベルトの間たるみを検知すると、一定の締め付け力を適用します。調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。マルチファンクションディスプレイを使用してベルト調整のオンおよびオフを切り替えることができます (▷ 272 ページ)。

シートベルト調整は、PRE-SAFE® コンビニエンス機能に内蔵された一部です。PRE-SAFE® に関するさらなる情報は、"PRE-SAFE® (予期乗員保護システム)" (▷ 46 ページ) にあります。

シートベルトの解除


! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。





シートベルト (例：クーペ)


- ▶ バックル ③ の解除ボタン ④ を押し
ます。
- ▶ シートベルトのプレート ② をベルト
ガイド ① に戻します。

運転者および助手席乗員のシートベルト警告

メーターパネルのシートベルト警告灯  は、すべての乗員にシートベルトの着用を促します。警告灯は点灯し続けるか点滅します。また、場合によっては警告音も鳴ります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯  が消灯し、警告音が停止します。

特定の国のみ：運転者と助手席乗員がシートベルトを着用しているかどうかに関わらず、エンジン始動後にシートベルト警告灯  が約 6 秒間点灯します。運転者と助手席乗員がシートベルトを着用した場合は消灯します。



i シートベルト警告灯  について、詳しくは "メーターパネルの表示灯と警告灯、シートベルト" (p. 301 ページ) をご覧ください。

後席シートベルトステータスインジケータ



例：後席シートベルトステータスインジケータ

後席用シートベルトステータスインジケータはベルトが着用されている後席を表示します。例では、進行方向に向かって右リアシートの乗員が固定されて

います。ディスプレイのマーク  は着用しているシートベルトを示します。シートベルトが着用されていない、またはシートに乗車していない場合は、マーク  が表示されます。

後席用シートベルトステータスインジケータは、以下の場合約 30 秒間マルチファンクションディスプレイに表示されます。

- 発進して速度が約 10 km/h に到達した場合
- 走行中に後席の乗員がシートベルトを着用または外した場合
- 誰かが車両に乗る、または降りる、車両が再度発進した場合

後席用シートベルトステータスインジケータをただちに解除することもできます (p. 274 ページ)。

i 後席用シートベルト用ステータスインジケータは一部の国でのみ使用することができます。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター

警告

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

したがって、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場と交換してください。

! 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

i PRE-SAFE® 装備車両：電子モーターによって作動するベルトテンショナーは、必要なときに応じて作動させることができ、交換の必要はありません。


フロントシートベルトと後席外側のシートベルトには、シートベルトテンショナーとベルトフォースリミッターが装備されています。

シートベルトテンショナーは、衝突時にシートベルトを瞬時に巻き上げ、乗員の身体に密着させる働きをします。

シートベルトテンショナーは、適切でないシート位置や正しく着用していないシートベルトを補正しません。

シートベルトテンショナーは、乗員をバックレストに引き寄せることはしません。

シートベルトテンショナーは、以下の場合にのみ作動します。


- ・イグニッションがオンである
- ・保護システムが作動可能である。
"SRS 警告灯  " をご覧ください。
(▶ 39 ページ)

・フロントシートベルトの各ベルトのブレードがバックルに固定されている

後席の外側リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態に関わらず、独立して作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の形態や大きさに応じて、以下のような場合に作動します。

- ・正面衝突または追突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向の減速度または加速度が急激に大きくなった場合
- ・側面衝突の際に、衝撃を受けた反対側で車両の横方向の加速度または減速度が急激に大きくなった場合
- ・カブリオレ：車両が横転した状態で、補助的な保護をもたらすとシステム判断した

エアバッグが作動した場合は、爆発音が聞こえ、少量の粉が発生することもあります。爆発音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。発生した粉は一般的には健康を害する性質はなく、車内に火災があることを示すものでもありません。ぜんそくや肺疾患のある方は、この粉により一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。潜在的な呼吸困難を防止するため、安全であればすぐに車両から離れてください。または、ウィンドウを開いて新鮮な空気を車内に取り込んでください。SRS 警告灯  が点灯します。

ベルトフォースリミッター付きシートベルトでは、ベルトフォースリミッターが作動して衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと同期しています。その結果、かかる負荷はより広い範囲に分散されません。

事故の後で

道路事故の後

- ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を点滅させます。
- ▶ パーキングブレーキをかけます。
- ▶ 周囲の安全を確認して、乗員は車から降りてください。
- ▶ 危険な場所に誰も近づかないようにしてください。フェンスなどで区切った安全な場所に乗員を避難させてください。
- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車道路や高速道路では、後続の交通に警告するため、停止表示板を使用することが法律で義務付けられています。

車が動かなくなったとき

- ▶ シフトポジションを **N** にします。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 安全な場所まで車を押し移動してください。

必要な場合は、同乗者か付近の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

i エンジンスイッチをオンにし車輪が回転し始めると、車が自動的に施錠されます。そのため、車を押すときやダイナモメーターで性能をテストするときなどは、車外に閉め出されるおそれがあります。

i 踏切内で車が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要する場合は、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意事項

警告

急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供が致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長が 1.50 m 未満で年齢が 12 歳未満の子供は、適切な車両のシートの特別なチャイルドセーフティシートに常に固定してください。シートベルトは

子供向けに設計されていないため、このことが必要となります。

- 助手席シートに後ろ向きチャイルドセーフティシートで子供を固定して運搬しないでください。例外：車両にチャイルドセーフティシートセンサー（助手席）が装備されていて、チャイルドセーフティシート用トランスポンダー装備のチャイルドセーフティシートに子供が固定されている場合。
- 助手席シートに前向きのチャイルドセーフティシートを固定する場合は、助手席シートをできるだけ後方に移動しなければなりません。その際、車両のシートベルトアウトレットのショルダースーツベルトをチャイルドセーフティシートのショルダースーツベルトガイドの前部に向かって通すようにしてください。シートベルトが底部に沿って前部に向うようにシートベルト高さ調整を設定します。
- 絶対に子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時に発生する力により、子供を保護することができなくなります。子供が車内の部品に激しくぶつけられ、致命的なけがををするおそれがあります。

警告

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用を常に遵守してください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触している事を確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでくださ

い。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

⚠ 警告

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付けの前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

お子様が車両に乗車するときは、お子様の身長、年齢、体重に合った適切なチャイルドセーフティシートを使用して、お子様の身体を固定してください。チャイルドセーフティシートに子供を正しく固定するために、チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示を常に遵守してください。乗員保護装置はできるだけ

適切なリアシートに装着してください。走行時は子供が固定されていることを常に確認してください。

メルセデス・ベンツは、リストに挙げられているチャイルドセーフティシートの使用をお勧めします(▷ 62 ページ)。適切なチャイルドセーフティシートについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

i チャイルドセーフティシートを清掃するときは、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品のご使用をお勧めします。このことに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

チャイルドセーフティシートロック

⚠ 警告

車両が動いている間にシートベルトが解除された場合は、チャイルドセーフティシートは正しく固定されなくなります。チャイルドシートロックが解除され、シートベルトは慣性リールによって少し引き込まれます。そのため、シートベルトを再度固定することはできません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

交通状況に従って車両を停止してください。チャイルドシートロックを再度作動させ、チャイルドセーフティシートを正しく固定します。

リアシートベルトにはチャイルドシートロックが装備されています。有効にしたときは、1度チャイルドセーフティシートが固定されると、チャイルドシートロック機能によりシートベルトが緩まなくなります。

チャイルドセーフティシートを取り付ける

- ▶ 必ず製造者の装着指示に従ってください。
- ▶ リトラクターからシートベルトをゆくり引き出します。
- ▶ シートベルトのプレート belts トラックに差し込みます。

チャイルドシートロックを設定する

- ▶ シートベルトをいっぱいまで引き出し、再度リトラクターに引き込ませず。シートベルトが引き込まれている間は、ラチェット音が聞こえます。チャイルドシートロックが設定されます。
- ▶ チャイルドセーフティシートを押し下げ、たるみを取ります。

チャイルドセーフティシートを取り外す/チャイルドシートロック機能を解除する

- ▶ 必ず製造者の装着指示に従ってください。
- ▶ シートベルト解除スイッチを押し、ベルトプレートをベルト引き出し口に戻します。チャイルドシートロックが解除されません。

解除スイッチでのシートベルトの解除に関する情報は、「シートベルトの解除」をご覧ください(▷ 50 ページ)。

助手席でのチャイルドセーフティシート

⚠ 警告


助手席フロントエアバッグの機能が解除されていないときは、以下のように対処してください。

- 助手席エアバッグが展開すると、助手席のチャイルドセーフティシートに固定されている子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

エアバッグが展開したときに子供が助手席エアバッグのすぐそばにいる場合は、特に危険です。

- 後ろ向きチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。後ろ向きチャイルドセーフティシートは、必ず適切なリアシートに装着してください。
- 助手席シートに前向きのチャイルドセーフティシートを固定する場合は、助手席シートをできるだけ後方に移動しなければなりません。その際、車両のシートベルトアウトレットのショルダーシートベルトをチャイルドセーフティシートのショルダーシートベルトガイドの前部に向かって通すようにしてください。シートベルトが底部に沿って前部に向うようにシートベルト高さ調整を設定します。

次のような場合、助手席フロントエアバッグの機能は解除されません。

- チャイルドセーフティシート検知システム（助手席）非装備車。
- チャイルドセーフティシート検知システム（助手席）装備車で、チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポンダー付きのチャイルドセーフティシートが助手席に装着されていない場合。
- チャイルドセーフティシート検知システム（助手席）装備車で、助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯しない場合

このような危険に注意を促すため、ダッシュボードの側面と助手席側サンバイザーの両側に警告ステッカーが貼られています。

純正のチャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



例：助手席側サンバイザーの警告表示




後ろ向きチャイルドセーフティシートの警告マーク

アクティブフロントエアバッグによって保護されているシートには後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。これにより子供に致命的な、または重大なけがにつながるおそれがあります。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知

警告

チャイルドセーフティシートを装着していても助手席エアバッグオフ表示灯  が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。助手席エアバッグが作動するときの衝撃で、子供が重大なけがをしたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

以下のように進めてください。

- 後ろ向きチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。
- 後ろ向きチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着してください。

または

- 助手席には必ず前向きのチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをできるだけ後方に下げてください。その際、シートベルト引き出し口から出ている車両のシートベルトがチャイルドセーフティシートのショルダーベルトガイドに向かって前方に向いていることを確認してください。シートベルトが底部に沿って前部に向うようにシートベルト高さ調整を設定します。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

チャイルドセーフティシート検知システム（助手席）が正しく機能し、検知することができるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体をシートクッションに接触させる必要があります。不適切に装着されたチャイルドセーフティシートは、事故のときに意図された保護機能を発揮することができず、けがにつながる可能性があります。

⚠ 警告

例えば、助手席シートの上にある以下のような電子機器が、チャイルドセーフティシート自動検知システムの機能に影響を与えるおそれがあります。

- ノートパソコン
- 携帯電話
- スキーパスまたはアクセスパスのような信号の送受信を行なうカード

助手席フロントエアバッグが不意に作動したり、事故の間に意図されたように機能しないことがあります。これにより、

けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

上記に記載された機器または類似の機器を助手席シートに置かないでください。



車両の助手席にチャイルドセーフティシート検知システムがない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えなくなります。

助手席チャイルドセーフティシート自動検知非装備車両：エンジンスイッチのキーを2の位置にまわした場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯します。しかし、表示灯に機能はありません。助手席にチャイルドセーフティシートセンサーがあることは示していません。



チャイルドセーフティシート用助手席センサーシステムは、チャイルドセーフティシート検知システム用トランスポン

ダー付きの専用メルセデス・ベンツチャイルドセーフティシートが装着されているかを検知します。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯します。助手席エアバッグが無効になります。

❶ チャイルドセーフティシート検知システムにより助手席フロントエアバッグが無効になっている場合でも、助手席側の以下のものは有効になったままです。

- ・サイドバッグ
- ・ペルビスバッグ
- ・クーペ：ウインドウバッグ
- ・カブリオレ：ヘッドバッグ
- ・シートベルトテンショナー

リアシートの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ 警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22 kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22 kg 以上の場合、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着指示およびチャイルドシートの正しい使用に関する説明を遵守していることを確認してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートは、車両の適切なシートに正しく装着されていないと、保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは突然の進路変更のときに、子供を保護することができなくなります。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。そのため、チャイルドセーフティシートを固定するときは、必ず製品に付属の取付説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

安全のため、リアシートではメルセデス・ベンツ車両のためにテストおよび承認された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートのみを使用してください。

正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したら、左右の ISOFIX 固定リングに確実に固定されているか必ず確認してください。



クーペ

- ▶ **ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートをクーペに取り付ける：固定装置 ①** 上部の左右の差し込み口にかかっているライニングを脇に押しします。



カブリオレ

- ▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを左右の ISOFIX 固定装置 ①に取り付けます。ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するときは、チャイルドセーフティシートメーカーの指示に従ってください。

ISOFIX は、専用設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の 2 つの ISOFIX 固定装置は、リアシートの左および右に取り付けられています。

リストに挙げられている ISOFIX チャイルドセーフティシートを、同梱の挿入ガイドとともに使用することをメルセデス・ベンツは推奨します(▶ 62 ページ)。挿入ガイドを使用すると、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着がより簡単になります。

テザーアンカー

テザーアンカー

⚠ 警告

リアシートのバックレストがロックされていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに前に倒れるおそれがあります。結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護機能を発揮できません。ロックされていないリアシートのバックレストは、事故のときなどに、さらなるけがの原因になること

もあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

トップテザーアンカーを取り付けた後は、常にリアシートのバックレストをロックしてください。ロック確認インジケータに注意してください。垂直になるようにリアシートのバックレストを調整します。

テザーアンカーは、ISOFIX で固定された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと後席を補助的に接続します。これにより、けがの危険性をさらに低減する補助を行いません。チャイルドセーフティシートがテザーアンカーで装着される場合は、必ずこれを使用してください。

テザーアンカーは、リアヘッドレストの後方にあります。

リアシートバックレストがかみあっておらず、確実にロックされていないときは、メーターパネル内のマルチファンクションディスプレイに表示されます。警告音も鳴ります。



- クーペにはテザーアンカーがあります。
- ▶ カバー ② の後部を矢印の方向に押し下げます。
カバー ② の前部がわずかに上がりません。
 - ▶ テザーアンカー ③ のカバー ② を開きます。
 - ▶ ヘッドレスト ① を越えてテザーアンカーベルト ⑤ を左および右に通します。
 - ▶ テザーアンカーフック ④ をテザーアンカー ③ に引っかけます。
 - ▶ テザーアンカーベルト ⑤ にねじれがないことを確認します。
 - ▶ テザーアンカーで、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。その場合は、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。テザーアンカーベルト ⑤ が締まっていることを確認します。

チャイルドセーフティシートの適切な位置

欧州経済共同体基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートしか、車両に使用することは許されません。

- ▶ 助手席にチャイルドセーフティシートを装着する： 助手席シートを最も低く、最も後方の位置に動かします。

ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

下表の記号説明

- X このカテゴリ（適応体重）の子供には適切でないシート
- U この体重カテゴリでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリのチャイルドセーフティシートに適合

- UF このカテゴリ（適応体重）に適合する"ユニバーサル"の前向きチャイルドセーフティシートに適切
- L 推奨チャイルドセーフティシートに適合"純正チャイルドセーフティシート"の以下の表(▶ 62 ページ)をご覧ください。

助手席シート

カテゴリ (適応体重)	助手席エア バッグが解 除されない	助手席フロ ントエア バッグが解 除されてい る
カテゴリ 0：10 kg 以下	X	U、L
カテゴリ 0+： 13 kg 以 下	X	U、L
カテゴリ I：9～ 18 kg	UF、L	U、L
カテゴリ II：15～ 25 kg	UF、L	U、L
カテゴリ III：22～ 36 kg	UF、L	U、L

助手席チャイルドセーフティシート自動検知装備車両：助手席エアバッグが作動しない場合、チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きの"ユニバーサル"カテゴリのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

リアシート

カテゴリー (適応 体重)	左、右
カテゴリー 0： 10 kg 以下	U
カテゴリー 0+： 13 kg 以下	U
カテゴリー I： 9 ～ 18 kg	U
カテゴリー II： 15 ～ 25 kg	U
カテゴリー III： 22 ～ 36 kg	U



例：純正チャイルドセーフティシートの認証ラベル

"ユニバーサル" のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルと"ユニバーサル"の文字が目印です。

"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、"ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性"または"ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性"の表にしたがってU、UF または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルに"セミユニバーサル"の文字が記されています。これらは、

車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。詳しくは、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

下表の記号説明

- X この体重やサイズのカテゴリーで ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISOFIX のポジション
- IUF この体重カテゴリーでの使用が承認された"ユニバーサル"カテゴリーに属している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合
- IL 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表"推奨チャイルドセーフティシート" (p. 62 ページ) をご覧ください。

メーカーは、適切な ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。詳しくは、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

幼児用ベッドカテゴリー (適応体重)

サイズ等級	装備	左右リアシート
F	ISO/L1	X
G	ISO/L2	X

重量カテゴリ 0：10 kg 以下、約 6 ヶ月以下

サイズ等級	装備	左右リアシート
E	ISO/R1	IL

重量カテゴリ 0+：13 kg 以下、約 15 ヶ月以下

サイズ等級	装備	左右リアシート
E	ISO/R1	IL
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL

重量カテゴリ 1：9 ～ 18 kg、約 9 ヶ月 ～ 4 歳

サイズ等級	装備	左右リアシート
D	ISO/R2	IL
C	ISO/R3	IL
B	ISO/F2	IUF
B1	ISO/F2X	IUF
A	ISO/F3	IUF

推奨チャイルドセーフティシート

助手席チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを内蔵しないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合。

- ▶ 助手席シートを最も後方の位置に動かします。

体重カテゴリ 0：10kg 以下、約 6 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

体重カテゴリ 0+：13kg 以下、約 15 ヶ月以下

メーカー	Britax Römer
タイプ	ベビーセーフプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301146 04 301146
注文番号 (A 000 ...)	970 10 00
チャイルドセーフティシート検知システム	対応

体重カテゴリ 1：9 ～ 18kg、約 9 ヶ月～ 4 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	デュオプラス	デュオプラス

認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133	03 301133 04 301133
注文番号 (A 000 ...)	970 11 00	970 16 00
チャイルド セーフティ シート検知 システム	対応	非対応

体重カテゴリー II/III : 15 ~ 36kg、約
4 ~ 12 歳

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド	キッド
認証番号 (E1 ...)	03 301148 04 301148	03 301148 04 301148
注文番号 (A 000 ...)	970 12 00	970 17 00
チャイルド セーフティ シート検知シ ステム	対応	非対応

メーカー	Britax Römer	Britax Römer
タイプ	キッド フィックス	キッド フィックス
認証番号 (E1 ...)	04 301198	04 301198

注文番号 (A 000 ...)	970 18 00	970 19 00
チャイルド セーフティ シート検知 システム	対応	非対応

推奨 "ユニバーサル" ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート：
幼児用ベッドカテゴリー (適応体重)

サイズ等級	F, G
メーカー	-
タイプ	-
認証番号 (E1 ...)	-
注文番号	-
チャイルドセーフティシート検知システム	-

カテゴリー 0 : 10 kg 以下

サイズ等級	E
メーカー	-
タイプ	-
認証番号 (E1 ...)	-
注文番号	-
チャイルドセーフティシート検知システム	-

カテゴリー (適応体重) 0+ : 13 kg 以下

サイズ等級	E	D, C
メーカー	Britax Römer	-


タイプ	ベビーセーフ ISOFIX プラス	-
認証番号 (E1 ...)	04 301146	-
注文番号	B6 6 86 8224	-
チャイルドセーフ ティシート検知 システム	対応	-

カテゴリー I : 9 ~ 18 kg

サイズ等級	D、 C、 B、A
メーカー	-
タイプ	-
認証番号 (E1 ...)	-
注文番号	-
チャイルドセーフティシート検 知システム	-

サイズ等級	B1
メーカー	Britax Römer
タイプ	デュオプラス
認証番号 (E1 ...)	03 301133 04 301133
注文番号	A000 970 11 00
チャイルドセーフ ティシート検知シ テム	対応

チャイルドセーフティシート自動検知のトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯する。</p>	<p>助手席シートに、チャイルドセーフティシートセンサー用トランスポンダーを内蔵するメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートが装着されている。そのため、助手席エアバッグの機能が解除されている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない。チャイルドセーフティシートセンサーが故障している。</p> <p> イグニッションをオンにしたときに、SRS 警告灯が点灯する、および/または 助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯しないこともあります。</p> <p>けがの危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 助手席シートの座面に以下のような電子機器が置いてあるときは取り除いてください。 <ul style="list-style-type: none"> • ノートパソコン • 携帯電話 • IC カードや磁気カード <p>助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドブルーロック

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

子供を車両に乗せて走行している場合は、以下のおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、対向交通にぶつかる
- 例えば、車両装備を操作して挟まれる事故やけがの危険性があります。

子供を車両に乗せて走行する場合は、使用可能なチャイルドブローフロックを常に作動させてください。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

リアサイドウィンドウのチャイルドブローフロックを作動させることができます (▶ 66 ページ)。

リアサイドウィンドウのチャイルドブローフロック



▶ **設定/解除する**：スイッチ ② を押します。

表示灯 ① が点灯している場合は、リアサイドウィンドウの操作はできません。運転席ドアのスイッチを使用して

のみ、操作が可能です。表示灯 ① が消灯しているときは、後席のスイッチを使用しての操作が可能です。

走行安全システム

走行安全システムの概要

この章では、以下の走行安全システムに関する情報を記載しています。

- ABS (Anti-lock Braking System : アンチロック・ブレーキング・システム) (▶ 67 ページ)
- BAS (Brake Assist System : ブレーキアシスト) (▶ 68 ページ)
- クロストラフィックアシスト付き BAS プラス (Brake Assist System PLUS : ブレーキアシストプラス) (▶ 68 ページ)
- コリジョンプリベンションアシスト (アダプティブブレーキアシストおよび車間距離警告機能) (▶ 70 ページ)
- アダプティブブレーキライト (▶ 72 ページ)
- ESP® (Electronic Stability Program : エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) (▶ 72 ページ)
- EBD (Electronic Brake force Distribution : エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション) (▶ 75 ページ)
- アダプティブブレーキ (▶ 75 ページ)
- PRE-SAFE® ブレーキ (▶ 75 ページ)

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になった場合は、走行安全システ


ムは事故の危険性を低減できないだけでなく、物理的法則を超えることもできません。走行安全システムは、運転の補助のために設計された単なる支援にすぎません。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候、交通状況に応じて運転スタイルを合わせ、先行車両との間に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

i 記載している走行安全システムは、タイヤと路面との間に十分な接触があるときにのみ、可能な限り効果的に作動します。タイヤ、および推奨されるタイヤのトレッドの最小深さなどの注意事項に特に注意してください(▷ 372 ページ)。冬の走行状況では常にウィンタータイヤ(M+S タイヤ)を、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本章に記載されている走行安全システムが可能な限り効果的に作動します。

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)

全体的な注意事項

ABS は、ブレーキ時に車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。それにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

イグニッションをオンにしたときは、メーターパネルの黄色の ABS 警告灯  が点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

重要な安全上の注意事項

i "重要な安全上の注意"の項目を遵守してください (▷ 66 ページ)。

▲ 警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、他の走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場へ ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全システムを含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯 (▷ 304 ページ) とメーターパネル (▷ 275 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報を遵守してください。

路面の状況に関わらず、ABS は約 8 km/h 以上の速度から作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせただけでも ABS は作動します。

ブレーキ操作

- ▶ **ABS が作動したとき**：ブレーキを効かせる状況が終了するまで、ブレーキペダルをいっばいに踏み続けてください。
- ▶ **強い制動力が必要なとき**：ブレーキペダルをいっばいに踏んでください。

ブレーキを効かせているときに ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに振動を感じます。

ブレーキペダルの振動は、危険な道路状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

BAS（ブレーキアシスト）

全体的な注意事項

BASは、緊急ブレーキ状態で作動します。ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BASが自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

重要な安全上の注意事項

i "重要な安全上の注意"を遵守してください。(p. 66 ページ)

⚠ 警告

BASが故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABSが車輪のロックを防ぎます。

ブレーキ操作

▶ 緊急ブレーキの状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

ABSが車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。BASが解除されます。

クロス Traffick アシスト付 BAS プラス（ブレーキアシストプラス）

全体的な注意事項

i "重要な安全上の注意"を遵守してください。(p. 66 ページ)

BAS プラスはドライビングアシスタンスパッケージ装備車両でのみ使用できます。

走行時にBAS プラスが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムが作動可能でなければなりません。

センサーシステムおよびカメラシステムの支援で、BAS プラスは以下の障害物を検知できます。

- 車両の進路に長時間ある物
- 車両の進路を横切る物

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。

BAS プラスは、身体の輪郭および直立している人の姿勢のような特有な特徴を使用して歩行者を検知します。

レーダーセンサーシステムまたはカメラシステムが故障している場合は、BAS プラス機能は制限されるか、または使用できなくなります。その場合も、ブレーキシステムはブレーキ倍力装置およびBASとともに機能し続けます。

i "重要な安全上の注意事項"に記載されている制限を遵守してください。(p. 68 ページ)。

BAS プラスは、車両または歩行者との衝突の危険性を最小限にし、またはそのような衝突の影響を低減するために運転者を支援します。BAS プラスが衝突の危険を検知した場合は、ブレーキ操作時に支援を行いません。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

BAS プラスは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

そのような場合は、BAS プラスは以下のようになります：

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

⚠ 警告

BAS プラスは、以下では反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- カーブを走行するとき

そのため、BAS プラスはすべての危険な状況下で作動するとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー発信源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起きている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車が別の車線を走行している
- レーダーセンサーシステムの検知範囲内に急に車両が入り込んだ

カメラシステムによる検知は以下のときも困難になります。

- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
- 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑

- 暗い
- 以下の場合
 - 例えば、車両の進路に歩行者が急に入り込む
 - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなる
 - 歩行者が他の障害物により隠れている
 - 人の特有の輪郭が背景と区別できない

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

フロントウインドウが損傷した後は、カメラシステムの設定と作動をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

機能

衝突を避けるために、BAS プラスは以下の場合に必要な制動力を計算します。

- 障害物に接近し、さらに
- BAS プラスが衝突の危険を検知した

30 km/h 以下の速度で走行しているとき：ブレーキペダルを踏むと、BAS プラスは作動します。BAS プラスからのブレーキ操作の支援は、できる限り最後の瞬間に行なわれます。

30 km/h 以上の速度で走行しているとき：ブレーキを素早く踏むと、BAS プラスは交通状況に適した度合いにブレーキ圧を自動的に高めます。

BAS プラスは、7 km/h ~ 250 km/h 間の速度範囲内で、先行車両との状況が危険なときにブレーキ操作の支援を行ないます。

約 70 km/h までの速度のときに、BAS プラスは以下に反応します。

- 停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- 車両の進路にいる歩行者
- 進路を横切る障害物

i BAS プラスが特に強力な制動力を要求する場合は、予期乗員保護措置（PRE-SAFE®）が同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキの状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の状況では、BAS プラスが解除され、ブレーキは通常通り作動します。

- ブレーキペダルを離れた
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった
- アクセルペダルを踏んだ
- キックダウンを作動させた

コリジョンプリベンションアシスト

全体的な注意事項

コリジョンプリベンションアシストは、以下の項目に記載されている距離警告機能およびアダプティブブレーキアシストから構成されています。

車間距離警告機能

重要な安全上の注意事項

i "重要な安全上の注意"を遵守してください (▶ 66 ページ)。

⚠ 警告

車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ 警告

車間距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、車間距離警告機能は以下になることがあります。


- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車間距離警告機能のみに頼らないでください。



機能

▶ **作動/解除する**： マルチファンクションディスプレイで距離警告機能を作動または解除します (▶ 265 ページ)。

車間距離警告機能が作動していない場合は、アシストグラフィック表示に  マークが表示されます。

車間距離警告機能は、先行車両との衝突の危険性を最小限にし、衝突の影響を低減させるために運転者を支援することができます。車間距離警告機能が衝突の危険を検知すると、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。車間距離警告機能は、運転者の操作なしに衝突を避けることはできません。

車間距離警告機能は、以下の速度で警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上で、数秒間に渡り前方を走行している車両との保たれている距離が不十分な場合 メーターパネルの  車間距離警告灯が点灯します。
 - 約 7 km/h またはそれ以上で、先行車両に急激に接近した場合 断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの  車間距離警告灯が点灯します。
- ▶ 先行車両との車間距離を広げるために ただちにブレーキを効かせてください。
- または
- ▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

システムの特性により、危険な走行状況ではないが、特に複雑な走行状況もシステムの警告表示の原因になることがあります。

レーダーセンサーシステムの支援で、車間距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。


約 70 km/h 以上では、車間距離警告機能は停車または駐車した車両などの静止物にも反応できます。

障害物に接近し、車間距離警告機能が衝突の危険を検知すると、視覚的および聴覚的両方で運転者に警告を行ないます。以下のときは特に、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発信源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起きている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキアシスト

 "重要な安全上の注意"の項目を遵守してください。(▶ 66 ページ)

警告

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を常に明確に識別できるとは限りません。

そのような場合は、アダプティブブレーキアシストは以下になることがあります。

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

警告

アダプティブブレーキアシストは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- 静止している障害物
- カーブを走行するとき

その結果、アダプティブブレーキアシストはすべての危険な状況では作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

アダプティブブレーキアシストは、7 km/h 以上の速度での危険な状況の間

にブレーキを効かせる支援を行ない、レーダーセンサーシステムを使用して交通状況を判断します。

アダプティブブレーキアシストの支援で、距離警告信号は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

車両が障害物に接近して、アダプティブブレーキアシストが衝突の危険を検知すると、アダプティブブレーキアシストは先行車両との衝突を避けるために必要な制動力を算出します。ブレーキを力強く効かせると、アダプティブブレーキアシストは交通状況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

▶ 緊急ブレーキの状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再び通常通り作動します。

- ブレーキペダルを離れた
- 衝突の危険がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

PRE-SAFE® 装備車両： アダプティブブレーキアシストが特に高いブレーキ圧を必要としている場合は、予期乗員保護措置（PRE-SAFE®）が同時に作動します。

約 250 km/h の車両速度までは、モニター期間の間に 1 度は検知された動いている障害物にも、アダプティブブレーキアシストは反応することができます。アダプティブブレーキアシストは静止している障害物には反応しません。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが使用できない場合は、完全なブレーキ倍力効果

および BAS とともにブレーキシステムは使用可能なままになります。

特に以下の状況では、障害物の感知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発信源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起きている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキライト

70 km/h 以上の速度で停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせた場合は、ブレーキランプが点灯し続けます。非常点滅灯は、10 km/h 以上で走行すると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ（▶ 144 ページ）を使用して、非常点滅灯を消灯させることもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全体的な注意事項

❗ "重要な安全上の注意"の項目を遵守してください。（▶ 66 ページ）

ESP®は走行安定性、およびタイヤと路面との間の動力伝達である駆動力をモニターします。

車両が運転者の望む進行方向から外れているとESP®が判断した場合は、1本または複数の車輪にブレーキを効かせ、車両を安定させます。また、エンジン出力を調整して、望んでいる進行方向に物理的限界内で車両を保ちます。ESP®は、濡れた路面や滑りやすい路面で発進するときに支援を行いません。ESP®はブレーキ時の車両を安定させることもできません。

ETS (エレクトロニック・トラクション・サポート)

ETS トラクションコントロールはESP®の一部です。

トラクションコントロールは、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などの滑りやすい路面での発進や加速を可能にします。さらに、車輪または駆動力のある車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP®の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動させます。

重要な安全上の注意事項

i "重要な安全上の注意"の項目を遵守してください。(p 66 ページ)

警告

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではESP®の点検を受けてください。

4MATIC 非装備車両：リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、ESP®に関する注意事項を遵守することが重要です(p 366 ページ)。

エンジンがかかっているときにメーターパネルの表示灯 が点灯し続けるときは、ESP®が解除されています。

警告灯 および警告灯 が点灯し続ける場合は、故障によりESP®は作動していません。

警告灯 (p 306 ページ) とメーターパネル (p 275 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報に従ってください。

以下のときは、故障/警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- エンジンをかけた状態で、立体駐車場のターンテーブルで車両を回転させた
- 立体駐車場に入るときなど、長くて狭いせん状の通路を走行した

以下のような警告灯が点灯することもあります。

- ESP® 表示灯
- ESP® オフ表示灯
- ABS 警告灯

▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。

▶ エンジンを停止します。

▶ イグニッションをオフにします。


▶ エンジンを再始動してください。しばらくすると、メッセージが消え、警告灯が消灯します。消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調査してください。

i 推奨されたサイズタイヤの車輪のみを使用してください。そのときのみ、ESP®は正しく機能します。

ESP®の特性

全体的な注意事項

走行を開始する前に ESP 警告灯  が消灯した場合は、ESP® が自動的に作動します。

ESP®が作動すると、メーターパネルの ESP®表示灯  が点滅します。

ESP®が作動した場合

- ▶ どのような状況でも ESP®を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ECO スタートストップ機能

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンを停止します。再発進するときに、自動的にエンジンが始動します。ESP®は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前に ESP®が解除されていた場合、エンジンが再始動したときは ESP®は解除されたままになります。

ESP の設定および解除の切り替え

重要な安全上の注意事項

以下の ESP®の状態を選択することができます：

- ESP®が作動
- ESP® が解除

警告

ESP®を解除すると、ESP® は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。



以下に記載された状況でのみ ESP® を解除してください。

以下の状況では、ESP®を解除したほうが良いことがあります。


- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

i 上記の状況でなくなったら、ただちに ESP®を作動させてください。さもないと、車両が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP®が車両を安定させることができません。

ESP® の解除/作動

- ▶ **解除する：** (▷ 264 ページ)
メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が点灯します。
- ▶ **作動させる：** (▷ 264 ページ)
メーターパネルの ESP® オフ表示灯  が消灯します。

ESP®が解除されているときの特性

ESP®が解除されていて、1 本または複数の車輪が空転し始めた場合は、メーターパネルの ESP®表示灯  が点滅します。このような状況では、ESP®は車両を安定させません。

ESP®を解除すると、以下のようになります。

- ESP®は走行安全性を高めなくなりま
- す。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。
- やわらかい路面では、車輪が空転することにより、より良い駆動力を得るための地面を掘る動作につながります。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- ブレーキを効かせたときは、ESP®は自動的に支援を行ないません。

EBD (エレクトロニック・ブレーキ パワー・ディストリビューション)

全体的な注意事項

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールし、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

重要な安全上の注意事項

i 走行安全システムの"重要な安全上の注意"の項目を遵守してください (▷ 66 ページ)。

警告

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時などには後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯 (▷ 304 ページ) およびディスプレイメッセージ (▷ 277 ページ) に関する情報を遵守してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作を可能にします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能 (▷ 221 ページ) およびヒルスタートアシスト機能 (▷ 180 ページ) も備えています。

PRE-SAFE® ブレーキ

全体的な注意事項

i "重要な安全上の注意"を遵守してください。 (▷ 66 ページ)

PRE-SAFE®ブレーキはドライビングアシスタントパッケージ装備車両でのみ使用できます。

走行時に PRE-SAFE®ブレーキが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムがオンで作動可能でなければなりません。

レーダーセンサーシステムおよびカメラシステムの支援で、PRE-SAFE®ブレーキは車両の前方に長時間ある障害物を検知することができます。

加えて、車両の進路にいる歩行者を検知することができます。

PRE-SAFE®ブレーキは、身体の輪郭および直立している人の姿勢のような特徴により歩行者を検知します。

i "重要な安全上の注意事項" の項目に記載されている制限を遵守してください (▷ 75 ページ)。

PRE-SAFE®ブレーキは先行車両または歩行者との衝突の危険性を最小限にし、そのような衝突の影響を低減するために運転者を支援します。PRE-SAFE®ブレーキが衝突の危険を検知すると、自動でブレーキを効かせるとともに、視覚的および聴覚的な警告を行いません。

重要な安全上の注意事項

警告

衝突の危険を感知すると、PRE-SAFE®ブレーキはまず部分的にブレーキをかけて車両を制動します。運転者がブレーキを効かせない場合は衝突することがあります。続いてブレーキをいっぱい効かせた後であっても、特に非常に速い速度で接近しているときは、必ずしも衝突を避けられるとは限りません。事故の危険性があります。

常にブレーキをご自身で効かせ、安全確認をしながら、危険回避の操作を行ってください。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるとは限りません。

その場合、PRE-SAFE® ブレーキは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、必ず交通状況に十分注意を払いながら、ブレーキをかける準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

先行車両との車間距離を十分に維持して衝突を防ぐには、適切にブレーキ操作を行なう必要があります。

⚠ 警告

PRE-SAFE® ブレーキは、以下のものには反応しません。

- 子供などの小柄な人
- 動物
- 対向車
- 交差交通
- カーブを走行するとき

この結果、すべての危険な状況では、PRE-SAFE® ブレーキは警告や作動を行なわない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

降雪または激しい雨のときは、検知は困難になるおそれがあります。

レーダーセンサーシステムによる検知は、以下のときも困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 他のレーダー送信機による干渉がある

- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こりやすい
 - オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
 - 先行車両が他の車線を走行している
- カメラシステムによる検知は以下のときも困難になります。
- カメラが汚れている、またはカメラが覆われている
 - 空の低いところにある太陽からなどの、カメラシステムへの眩惑
 - 暗い
 - 以下の場合
 - 例えば、車両の進路に歩行者が急に入り込んだ
 - 特殊な衣服または他の物により、カメラシステムが歩行者を人として認識しなくなった
 - 歩行者が他の障害物により隠れている
 - 人の特有の輪郭が背景と区別できない

車両のフロント部分が損傷した場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

フロントウィンドウが損傷した後は、カメラシステムの設定と作動をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。


機能

- ▶ **設定/解除する：** マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキを設定または解除します (▷ 265 ページ)。
- PRE-SAFE® ブレーキが設定されていない場合は、マルチファンクション


ディスプレイに  マークが表示されます。

この機能は、以下の場合に警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上の速度で、数秒間にわたり、前方を走行している車両との保たれている距離が不十分である。

メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。

- 約 7 km/h またはそれ以上の速度で、先行車両または歩行者に急に接近している。

断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの  車間距離警告灯が点灯します。

- ▶ ただちにブレーキを効かせ、状況を回避してください。

または

- ▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

PRE-SAFE®ブレーキは以下の条件下では車両に自動的にブレーキを効かせることができます。

- 運転者および助手席乗員がシートベルトを着用している
および

- 車両速度が約 7 km/h および 200 km/h の間である

約 70 km/h までの速度では、PRE-SAFE®ブレーキは以下を検知することもできます。

- 停止している、または駐車している車両など、車両の進路にある静止している障害物
- 車両の進路にいる歩行者

i 衝突の危険性が高まった場合は、予期乗員保護措置 (PRE-SAFE®) が作動します。

先行車両との衝突の危険性がそのまま、ブレーキを効かせる、回避操作をとる、または著しく加速することを運転者が行なわなかった場合は、フルブレーキを適用する度合いまで、車両が自動緊急ブレーキを効かせることがあります。自動緊急ブレーキは、切迫した事故の直前までは作動しません。

PRE-SAFE®ブレーキは、以下でいつでも作動を解除することができます。

- アクセルペダルをさらに踏み込む
- キックダウンを作動させる
- ブレーキペダルを放す

PRE-SAFE®ブレーキによるブレーキ操作は、以下の状況では自動的に解除されます。

- 障害物を回避する操作を行なっている
- 衝突の危険性がなくなった
- 車両前方に検知されている障害物がなくなった

ステアコントロール

全体的な注意事項

ステアコントロールは、車両を安定させるために必要な向きの操舵力をステアリングに伝達することで運転者を支援します。

特に以下のときに、ステアリング操作の支援が行なわれます。

- 強くブレーキを効かせたときに、両方の右車輪または両方の左車輪が滑りやすい路面にある
- 車が横滑りを始めた

重要な安全上の注意事項

i "重要な安全上の注意"の項目を遵守してください。(▶ 66 ページ)

ESP® が故障している場合は、ステアコントロールからの操舵補助は受けられま

せん。ただし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止システム

イモビライザー

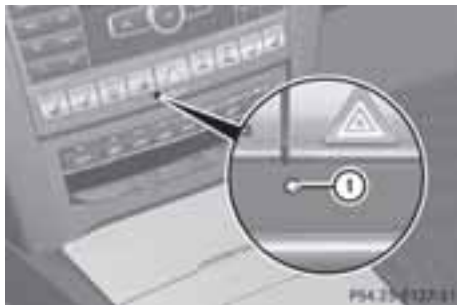
イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

- ▶ **キー操作で待機状態にする：** エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴー操作で待機状態にする：** イグニッションをオフにして、運転席ドアを開きます。
- ▶ **解除する：** エンジンをかけます。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰でもエンジンを始動することができます。



i イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA (盗難防止警報システム)



- ▶ **待機状態にする：** キーまたはキーレスゴー操作で車を施錠します。表示灯 **①** が点滅します。警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。
- ▶ **解除する：** キーまたはキーレスゴー操作で車を解錠します。

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- 車 (エマージェンシーキーによる解錠)
- トランクリッド
- ボンネット
- ▶ **キーを操作して警報を停止する：** キーの  または  ボタンを押します。警報が停止します。
- または
- ▶ **エンジンスイッチにキーを差し込みます。** 警報が停止します。
- ▶ **キーレスゴー操作で警報を停止させる：** 車外のドアハンドルを握ります。キーは車外にある必要があります。警報が停止します。

または

- ▶ **ダッシュボードのキーレスゴースイッチを押します。** キーは車内にある必要があります。警報が停止します。

開いたドアをすぐに閉じても、警報は解除されません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きが変化した場合は、聴覚的および視覚的な警報が発せられます。たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

待機状態にする

- ▶ 以下のことを確認してください。

- ・ドアが閉じている
 - ・トランクリッドが閉じている
- この場合のみ、けん引防止機能が待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴー操作で車両を施錠します。
約 30 秒後にけん引防止機能が待機状態になります。

解除する

- ▶ **解除する**： リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を解除します。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除する



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短時間点灯します。
- ▶ キーまたはキーレスゴー操作で車両を施錠します。
けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下のときまで解除されたままになります。

- ・車両を再度解除し、
- ・ドアを再度開閉し、
- ・車両を再度施錠する

誤った警告を防止するため、以下のような状況で車両を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- ・けん引される
- ・フェリーや車両運搬車などに積載する
- ・立体駐車場などの可動面に駐車する

室内センサー

機能

室内センサーが待機状態のときに車内で物体の動きを検知すると、視覚のおよび聴覚的な警報が発せられます。たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

待機状態にする

- ▶ 以下のことを確認してください。
- ・サイドウィンドウが閉じている
 - ・パノラミックスライディングルーフが閉じている（クーペ）
- これにより、警報の誤作動を防ぎます。
- ▶ **カブリオレ**： ルーフが閉じていることを確認してください。
- ▶ 以下のことを確認してください。
- ・ドアが閉じている
 - ・パノラミックスライディングルーフが閉じている（クーペ）
 - ・トランクリッドが閉じている
- この場合のみ、室内センサーは待機状態になります。
- ▶ キーまたはキーレスゴー操作で車両を施錠します。
室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

i **カブリオレ**： 国によっては、ソフトトップが開いていても室内センサーは待機状態になります。ソフトトップを閉じているときのみ、車両を駐車してください。さもないと、落ち葉や虫などが

誤った警告を作動させるおそれがあります。

解除する

- ▶ キーで、またはキーレスゴーで車両を解錠します。
室内センサーが自動的に解除されます。

解除する



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短時間点滅します。
- ▶ キーまたはキーレスゴーで車両を施錠します。
室内センサーが解除されます。

室内センサーは以下のときまで解除され
たままになります：

- 車両を再度解錠し、
- ドアを再度開いて閉じ、
- 車両を再度施錠する

誤作動を防止するため、以下のような状況で車両を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残ったままである
- サイドウィンドウが開いたままである
- パノラミックスライディングルーフが開いたままである（クーペ）

役に立つ情報	82
キー	82
ドア	89
トランク	92
サイドウインドウ	95
ソフトトップ（カブリオレ）	101
スライディングルーフ（クー ペ）	114

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 23 ページ)

キー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

キーに、重い物や大きなアクセサリ等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリ等を付けしないでください。操作の邪魔になるアクセサリ等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

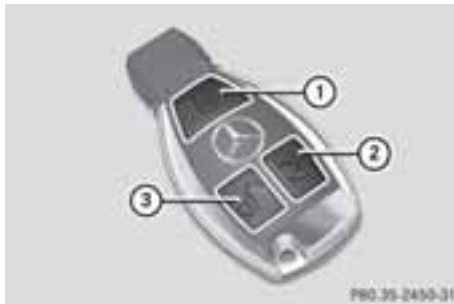
! 強い磁場を発生する物の近くにキーを保管しないでください。磁場の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

以下にはキーを近付けないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
 - 硬貨や金属片などの金属物
 - 金属ケースなどの金属物の内部
- キーが正常に機能しなくなるおそれがあります。

キーの機能



- ① 施錠ボタン
- ② トランクオープナーボタン
- ③ 解錠ボタン

▶ **すべてを解錠する**： スイッチを押します。

解錠して約 40 秒以内に車両を開かない場合：

- ・車両は再度施錠されます。
- ・盗難防止警報システムが再び待機状態になります。

▶ **すべてを施錠する**： ボタンを押します。

キーで以下のすべての施錠 / 解錠操作ができます。

- ・ドア
- ・トランクリッド
- ・燃料給油口

解錠操作を行なうと、方向指示灯が 1 回点滅します。施錠操作を行なうと、3 回点滅します。

また、施錠時に確認音が鳴るキーアンサーバック機能を設定することもできます。キーアンサーバック機能の設定と解除は、マルチファンクションディスプレイで行ないます。(▶ 271 ページ)

暗いとき、マルチファンクションディスプレイで作動している場合は、ロケイ

ターライティングも点灯します (▶ 270 ページ)。

キーレスゴー

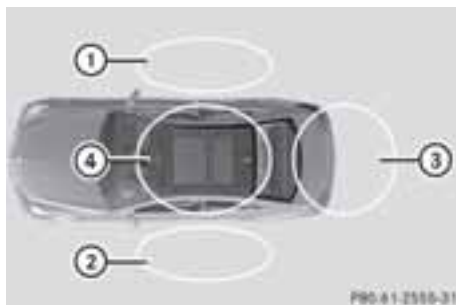
重要な安全上の注意事項

危険

ペースメーカーまたは除細動器などの医療用電子機器を使用されている方：

キーレスゴーを使用するときは、キーと車両の間で電波の交信が行なわれます。電磁波が医療機器の機能に影響を与えるおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

車両を操作する前に、医師や医療用電子機器メーカーにキーレスゴーの電波の影響を確認してください。




キーレスゴーアンテナの検知範囲 (例：クーベ)

- ① 右側外部アンテナの検知範囲
- ② 左側外部アンテナの検知範囲
- ③ リアアンテナの検知範囲
- ④ 車内アンテナの検知範囲

キーが車内にある場合は、車両乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

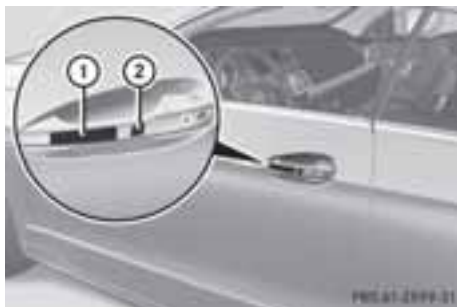
集中施錠および解錠

キーレスゴーを使用して、始動、車両の施錠または解錠ができます。このためには、必要なのはキーを携帯することのみ

です。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせることができます。たとえば、キーレスゴー操作で車両を解錠し、キーの  スイッチで施錠することができます。

キーレスゴーで施錠または解錠するときは、キーと対応するドアハンドルの間の距離が 1 m 以上になってはいけません。車両とキーとの間で定期的に行なわれる電波交信によるチェックにより、車内に有効なキーがあるかどうかを確認します。以下のときなどに行なわれます：



- 車外のドアハンドルに触れたとき
- エンジンの始動時
- 車両の走行中





- ▶ **車両を解錠する：** ドアハンドルの内側面に触れます。
- ▶ **車両を施錠する：** センサー面 ① に触れます。
- ▶ **コンビエンスクローリング機能：** センサー面の凹部 ② に一定時間触れます。
コンビエンスクローリング機能に関するさらなる情報 (▷ 98 ページ)
- ▶ **トランクリッドを解錠する：** トランクリッドのハンドルを引きます。
車両はトランクリッドのみを解錠します。

ロックシステムの設定変更




ロックシステムの設定を変更することができます。これにより、車両を解錠したときに運転席ドアと燃料給油口フラップのみが解錠されます。運転者のみで頻繁に走行する場合は、この設定が便利です。

- ▶ **設定を変更する：** バッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、約 6 秒間キーの  および  スイッチを同時に押します (▷ 86 ページ)。



i 車両の信号範囲内でロックシステムの設定を変更した場合は、 または  スイッチを押すと、以下になります。

- 車が施錠されます
- 車が解錠されます

このとき、キーは以下のように作動します。

- ▶ **運転席ドアを解錠する：**  スイッチを 1 回押します。
- ▶ **すべてを解錠する：**  スイッチを 2 回押します。
- ▶ **すべてを施錠する：**  スイッチを押します。

キーレスゴー機能は以下のように切り替わります。

- ▶ **運転席ドアを解錠する：** 運転席ドアのドアハンドルの内側面に触れます。
- ▶ **すべてを解錠する：** 助手席ドアのドアハンドルの内側面に触れます。
- ▶ **すべてを施錠する：** いずれかのドアのドアハンドル外側面に触れます。
- ▶ **工場出荷時の設定に戻す：** バッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、 および  スイッチを約 6 秒間同時に押して保持します (▷ 86 ページ)。



エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車両を施錠または解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアやトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。(p. 78 ページ)

以下のいずれかの方法で、盗難防止警報システムを停止します。

▶ **キーで警報を停止する：** キーの  または  スイッチを押します。

または

▶ **エンジンスイッチにキーを差し込みます。**

または

▶ **キーレスゴーで警報を停止する：** エンジンスイッチのキーレスゴースイッチを押します。キーは車内にある必要があります。

または

▶ **キーレスゴーで車両を施錠/解錠します。** キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーの取り外し



① ストッパー

② エマージェンシーキー

▶ **ストッパー ①** を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② をキーから矢印の方向に抜きます。

詳しい情報は、以下をご覧ください。

- 運転席ドアの解錠 (p. 91 ページ)
- トランクの解錠 (p. 94 ページ)
- 車両の施錠 (p. 92 ページ)

キーの電池

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

🌿 環境保護に関する注意



電池には環境汚染物質が含まれています。電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

バッテリーの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

電池の点検



P80.35-2442-31

▶ または ボタンを押します。キーの表示灯 ① が軽く点灯すれば、電池は正常です。

キーの表示灯 ① が点滅しない場合は、電池が消耗しています。

▶ 電池を交換します。(▶ 86 ページ)

i 信号の到達範囲内でキーの電池を点検したときは、 または ボタンを押すと、

- 車の施錠
- 車の解錠

i バッテリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

電池の交換

CR 2025 3 V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します(▶ 85 ページ)。



P80.35-2455-31

- ① 電池収納部カバー
- ② エマージェンシーキー

▶ 電池収納部カバー ① が開くまで、キーの開口部にエマージェンシーキー ② を押し込みます。このときは、電池収納部カバー ① を押さえて閉じないようにしてください。

▶ 電池収納部カバー ① を取り外します。



P80.35-2452-31

- ③ 電池

▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返したたきます。

▶ 電池のプラス面を上にして、新しい電池を差し込みます。このときは、毛羽立ちのない布を使用してください。

▶ 電池の表面に糸くず、脂分、汚れがないことを確認してください。

▶ 電池収納部カバー ① の前側にある凸部を本体に差し込み、押しつけて閉じます。

- ▶ エマージェンシーキー ② をキーに差し込みます (▷ 85 ページ)。
- ▶ 車両で、キーのすべてのスイッチが機能することを確認します。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーを使用して車両を施錠または解錠できなくなった	<p>キーの電池が消耗している。</p> <p>▶ キーの電池 (▷ 86 ページ) を点検し、必要であれば交換してください(▷ 86 ページ)。</p> <p>作動しないとき</p> <p>▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠 (▷ 91 ページ) または解錠 (▷ 92 ページ) してください。</p> <p>キーが故障している。</p> <p>▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠 (▷ 91 ページ) または解錠 (▷ 92 ページ) してください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのキーの点検を受けてください。</p>
キーレスゴーを使用して施錠/解錠できない。	<p>キーの電池が消耗している。</p> <p>▶ キーの電池 (▷ 86 ページ) を点検し、必要であれば交換してください(▷ 86 ページ)。</p> <p>作動しないとき</p> <p>▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠 (▷ 91 ページ) または解錠 (▷ 92 ページ) してください。</p> <p>強い電波源からの干渉を受けている。</p> <p>▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠 (▷ 91 ページ) または解錠 (▷ 92 ページ) してください。</p> <p>キーレスゴーが故障している。</p> <p>▶ キーのリモコン機能を使用して車両を施錠/解錠してください。</p> <p>▶ 車両およびキーをメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検してください。</p> <p>リモコン機能を使用しても車両を施錠/解錠できない場合</p> <p>▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠 (▷ 91 ページ) または解錠 (▷ 92 ページ) してください。</p> <p>▶ 車両およびキーをメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検してください。</p>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーを紛失した。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、キーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。
キーを使用してエンジンを始動することができない。	<p>バッテリーの電圧が低下している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ シートヒーター、ルームライトなどの必要としない電気装備を停止してから、再度エンジン始動操作を行なってください。 <p>作動しないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スターターバッテリーを点検し、必要であれば充電してください (▶ 359 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ジャンプスタートを行なってください (▶ 361 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
キーレスゴーによるエンジン始動ができない。キーが車内にある。	<p>車両が施錠されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両を解錠して、再度車両の始動を試みてください。 <p>強い電波源からの干渉を受けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エンジンスイッチのキーで、車両を始動してください。

ドア

重要な安全上の注意事項

警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

荷物はなるべくトランク内に収納してください。積載のガイドライン(▶ 314 ページ)をお守りください。

車内からドアを解錠して開く

❗ バッテリーがあがっているときや、サイドウィンドウが凍結しているときには、サイドウィンドウは開閉しません。その際、ドアを閉じることができなくなります。ドアを無理に閉じようとししないでください。ドアやサイドウィンドウが損傷するおそれがあります。

施錠されている場合でも、車内からドアを開くことができます。すでにキーまたはキーレスゴーで車両が施錠されている場合は、車内からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください(▶ 78 ページ)。



- ▶ ドアハンドル ② を矢印の方向に引きます。
ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がります。ドアが解錠され、開くことができます。

❗ ドアを開いたときは、同じ側のサイドウィンドウが少し開きます。ドアを閉じたときは、サイドウィンドウは再度上がりません。

車内からの車両の集中施錠および解錠

車内から車両を集中施錠または解錠できません。



- ▶ 解錠する： 解錠スイッチ ① を押しします。
- ▶ 施錠する： 施錠スイッチ ② を押しします。
すべてのドアが閉じている場合は、車両が施錠されます。

これによっては、燃料給油フラップは施錠または解錠されません。

キーまたはキーレスゴーで車両が施錠されている場合は、車内から車両を集中解錠することはできません。

施錠されている場合でも、車内からドアを開くことができます。

セントラルロックのロックスイッチを使用して車両が施錠がされている、または自動的に施錠されている場合は、車内からドアを開くと以下のようになります：

- あらかじめすべてが解錠されていた場合は、車両は完全に解錠されます。
- あらかじめ運転席ドアのみが解錠されていた場合は、車内から開いたドアのみが解錠されます。

車速感応ドアロック



- ▶ **解除する**：音が鳴るまで約 5 秒間、スイッチ ① を押して保持します。
- ▶ **作動させる**：音が鳴るまで約 5 秒間、スイッチ ② を押して保持します。

i スイッチを押しても確認音が鳴らない場合、その設定はすでに行なわれています。

エンジンスイッチをオンにしホイールが回転し始めると、車両は自動的に施錠されます。

そのため、以下では閉め出されるおそれがあります。

- 車を押すとき
- けん引されるとき
- ダイナモメーターで車両をテストするとき

車速感応ドアロックは、マルチファンクションディスプレイでも設定 / 解除できます。(▷ 271 ページ)

運転席ドアの解錠 (エマージェンシーキー)

キーで車を解錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用します。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 85 ページ)。
- ▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。



- 1** 解錠
- ▶ エマージェンシーキーを **1** の位置まで反時計回りにまわします。運転席ドアが解錠されます。
- i** 右ハンドル車の場合は、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。
- ▶ エマージェンシーキーを元の位置に戻して、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します (▷ 78 ページ)。

車両の施錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を施錠できなくなったときは、エマージェンシーキーを使用します。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドアとトランクリッドを閉じます。
- ▶ ロックスイッチ（▶ 90 ページ）を押します。
- ▶ 助手席ドアのロックノブが見えているかどうかを確認してください。必要な場合は、ロックノブを手で押し下げます（▶ 90 ページ）。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します（▶ 85 ページ）。
- ▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。



① 施錠

- ▶ エマージェンシーキーを ① の位置まで時計回りにまわします。
- ① 右ハンドル車は、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。
- ▶ エマージェンシーキーを元の位置に戻して、抜きます。
- ▶ ドアとトランクリッドが施錠されていることを確認します。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

トランク

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃焼エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジンをかけた状態（特に車両が走行中）でトランクリッドが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性があります。中毒を起こすおそれがあります。

トランクリッドを開く前に、必ずエンジンをオフにしてください。トランクリッドを開いたまま走行しないでください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

❗ トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

① トランクリッドを開いたときの寸法（▶ 398 ページ）

荷物はなるべくトランクに収納してください。積載のガイドライン（▶ 314 ページ）をお守りください。

トランク内にキーを残したままにしないでください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

トランクリッドは、以下の方法で操作できます。

- 車外から手で開閉する
- 車外から自動で開く
- 車内から自動で開く
- 独立施錠する
- エマージェンシーキーで解錠する

トランクリッドのリバース機能

トランクリッドには自動リバース機能が装備されています。閉じる動作中にかたい障害物がトランクリッドに挟まれた、または動作を妨げた場合に反応します。トランクリッドは再度自動的に開きます。自動リバース機能は単なる補助に過ぎず、閉じている間のトランクリッドへの注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告


以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 8 mm 以下となったとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。


挟み込まれたとき：

- キーの  スイッチを押してください、または
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押してください、または
- トランクリッドのクロー징またはロックスイッチを押してください、または
- トランクリッドのハンドルを引いてください

車外からの開閉


開く



- ▶ キーの  スイッチを押します。
- ▶ ハンドル ① を引きます。
- ▶ トランクリッドを上げます。

閉じる



- ▶ 凹部 ① を使用して、トランクリッドを引き下げます。
- ▶ 必要であれば、キーの  スイッチ (▶ 83 ページ) またはキーレスゴー (▶ 83 ページ) で車両を施錠します。

i キーレスゴーキーがトランク内にある場合は、トランクリッドは施錠されません。再度開きます。

車外から自動で開く


重要な安全上の注意事項

❗ トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

① トランクリッドを開いたときの寸法
(▷ 398 ページ)

開く

キーで、トランクリッドを解錠し、同時に開くことができます。

▶ トランクリッドが開くまで、キーの  スイッチを押して保持します。

車内からの自動開閉

全体的な注意事項

① トランクリッドを開いたときの寸法
(▷ 398 ページ)

開く



▶ 開く：トランクリッドが開くまで、トランクリッドのリモート操作スイッチを ① を引きます。

車両が停止して解錠されているときに、運転席からトランクリッドを開くことができます。

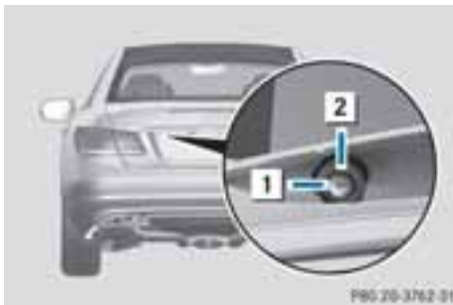
トランクの独立施錠

トランクの独立施錠機能は、特定の国でのみ使用できます。

トランクを独立施錠することができません。車両を集中解錠した場合でも、トランクは施錠されたままになり、開くことはできません。

▶ トランクを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 85 ページ)。



① 基本位置

② 施錠

▶ エマージェンシーキーをトランクリッドのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを位置 ① から位置 ② まで、時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーを抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

トランクの解錠（エマージェンシーキー）

❗ トランクは、上方に開きます。そのため、トランクを開くときは、上方に十分なスペースがあることを確認してください。

キーまたはキーレスゴー操作でトランクを解錠できないときは、エマージェンシーキーを使用します。

エマージェンシーキーでトランクリッドを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。(▶ 78 ページ)

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します(▶ 85 ページ)。
- ▶ エマージェンシーキーをトランクリッドのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。



- ① 基本位置
- ② 解錠する

- ▶ エマージェンシーキーを位置 ① から位置 ② まで、いっぱいまで反時計回りにまわします。そうするとき、トランクリッドのハンドルも引きます。トランクが解錠されます。
- ▶ エマージェンシーキーを位置 ① に戻して、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

i 車両を施錠したときは(▶ 92 ページ)、トランクも施錠されます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

サイドウインドウを開けているときに、サイドウインドウが動くにつれて、体の一部がサイドウインドウとドアフレームの間に引き込まれて挟まるおそれがあります。けがををするおそれがあります。

開けている最中は、誰もサイドウインドウに触れないようにしてください。誰かが挟まれてしまった場合は、スイッチを放すか、あるいはスイッチを引いてもう一度サイドウインドウを閉じます。

⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウインドウを開く際に挟まれるおそれがあります。けがををする危険がありません。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウインドウをもう一度開きます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、サイドウインドウを操作して挟まれるおそれがあります。けがををするおそれがあります。

リアサイドウインドウのチャイルドブルーロックを作動させます。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

サイドウインドウのリバース機能

サイドウインドウにはオートリバース機能が装備されています。閉じている動作中にかたい障害物がサイドウインドウに挟まれた、または動作を妨げた場合には、サイドウインドウは再度自動的に開きます。ただし、オートリバース機能は

単なる補助に過ぎず、サイドウィンドウを閉じるときの注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4 mm 以下となったとき
- リセット中
- リバース機能作動のすぐあとに再度手動でサイドウィンドウを閉じるとき

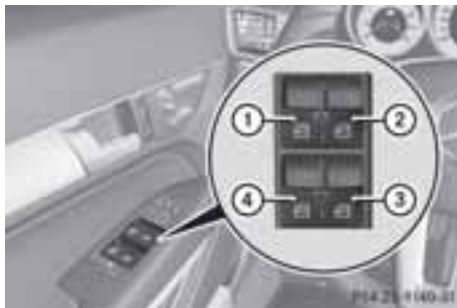
リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。挟み込まれたら、スイッチを押して、サイドウィンドウを再度開きます。

サイドウィンドウの開閉

すべてのサイドウィンドウのスイッチは運転席ドアにあります。助手席ドアならびに後席の左右側ドアにも対応するサイドウィンドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチ操作が優先されません。



- ① 左フロント
- ② 右フロント

- ③ 右リア
- ④ 左リア

▶ エンジンスイッチのキーを 1 または 2 の位置にまわします。

▶ 開く：スイッチを軽く押します。

▶ 閉じる：スイッチを軽く引きます。

❶ フロントサイドウィンドウの開閉時に自動作動機能を使用することができません。手応えを感じる位置を越えるまで、対応する方向へスイッチを押す、または引きます。再度押すか、または引くことにより自動作動を中止できます。

❶ エンジンを停止するか、エンジンスイッチからキーを抜いても、サイドウィンドウを開閉できます。エンジンを停止してから約 5 分間、または運転席/助手席ドアを開くまでサイドウィンドウを開閉できます。

❶ サイドウィンドウのチャイルドブルーロックが作動しているときは、サイドウィンドウは後席からは操作できません (▶ 66 ページ)。

すべてのサイドウィンドウの開閉 (カプリオレ)

センターコンソールのスイッチを使用して

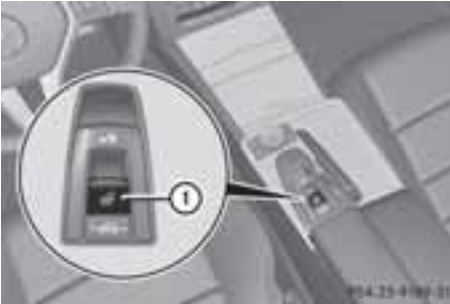
⚠ 警告

サイドウィンドウを閉じる場合、この手順のときに、身体の一部が閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。挟み込まれたら、すぐにスイッチを解除または押して、サイドウィンドウを再度開きます。

センターコンソールのスイッチを使用して、すべてのサイドウィンドウを同時に閉じることができます。

- ▶ センターコンソールのカバーを開きます。
カバーの下に、すべてのサイドウィンドウ用スイッチがあります。



- ▶ **すべてのサイドウィンドウを開く**： 手応えがあるところまでスイッチ ① を軽く押します。
- ▶ **すべてのサイドウィンドウを全開する**： 手応えがあるところを越えるまでスイッチ ① を押します。
- ▶ **すべてのサイドウィンドウを閉じる**： スイッチ ① を引きます。

キーを使用して

⚠ 警告


閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウィンドウを開く際に挟まれるおそれがあります。けがをする危険があります。


閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウィンドウをもう一度開きます。


キーを操作して、すべてのサイドウィンドウを同時に開閉できます。


- ▶ ソフトトップ (▶ 102 ページ) を閉じます。
- ▶ ラゲッジカバーを開きます。(▶ 109 ページ)

- ▶ キーはドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ **すべてのサイドウィンドウを開く**： サイドウィンドウが完全に開くまで、キーの  スイッチを押します。

- ▶ **オープニング機能を中断する**：  スイッチを放します。

- ▶ **すべてのサイドウィンドウを閉じる**： サイドウィンドウが完全に閉じるまで、キーの  スイッチを押します。

- ▶ **クロー징機能を中断する**：  スイッチを放します。

キーレスゴー操作によるコンビニエンスクロー징

⚠ 警告

コンビニエンスクロー징機能の作動中に、身体の一部がサイドウィンドウの閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

コンビニエンスクロー징機能进行操作しているときは、正しい閉動作をお守りください。閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟まれた人がいる場合は、以下のように対処してください：

- ▶ ドアハンドルのセンサー表面を放します。
- ▶ ただちにドアハンドルを引いて保持します。
サイドウィンドウが開きます。

キーレスゴー操作ですべてのサイドウィンドウを同時に閉じることができます。キーレスゴーキーは車外にある必要があります。すべてのドアが閉じている必要があります。



▶ サイドウィンドウが完全に閉じるまで、ドアハンドルのセンサー面の凹部 ① に触れます。

❶ センサー面の凹部 ① のみに触れていることを確認してください。

▶ すべてのサイドウィンドウが閉じたことを確認してください。

▶ **コンビエンスクローリング機能を中断する**： ドアハンドルのセンサー面の凹部 ① を放します。

コンビエンスオープニング（クーペ）




全体的な注意事項

乗車する前に車内の空気を換気することができます。このために、キーを使用して以下の機能が同時に行なわれます。

- 車両を解錠する
- サイドウィンドウを開く
- パノラミックスライディングルーフおよび電動ブラインドを開く
- 運転席シートのシートベンチレーターを作動させる

❶ コンビエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。キーは車両のすぐ近くになければなりません。

コンビエンスオープニング機能

- ▶ サイドウィンドウおよびパノラミックサンルーフが希望の位置になるまで、 スイッチを押して保持します。パノラミックスライディングルーフの電動ブラインドが閉じている場合は、電動ブラインドが最初に開きます。
- ▶ パノラミックスライディングルーフが希望の位置になるまで、再度  スイッチを押して保持します。
- ▶ **コンビエンスオープニングを中断する**：  スイッチを放します。

コンビエンスクローリング（クーペ）

重要な安全上の注意事項



⚠ 警告

コンビエンスクローリング機能が作動している場合、身体の一部がサイドウィンドウおよびスライディングルーフの閉じる部分に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

コンビエンスクローリング機能进行操作しているときは、最後まで閉じる動作に注意してください。閉じている間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

挟み込まれた場合は、以下のように対処してください：

キーで

- ▶  スイッチを放します。
- ▶ サイドウィンドウとスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフが再度開くまで、 スイッチを押して保持します。

キーレスゴーキーで

- ▶ ドアハンドルのセンサー面を放します。
- ▶ ただちにドアハンドルを引いて保持します。
サイドウィンドウとスライディンググループまたはパノラミックスライディンググループが開きます。


全体的な注意事項

車両を施錠したときに、以下のことを同時にすることができます。



- サイドウィンドウを閉じる
- パノラミックスライディンググループを閉じる

パノラミックスライディンググループ装備車両では、その後に電動ブラインドを閉じることができます。

キーを使用して

- ▶ **キーレスゴー非装備車両**：キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。
- ▶ **キーレスゴー装備車両**：キーは車両のすぐ近くになければなりません。
- ▶ サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、 スイッチを押して保持します。
- ▶ すべてのサイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが閉じていることを確認してください。

パノラミックスライディンググループ装備車両

- ▶ パノラミックスライディンググループの電動ブラインドが閉じるまで、 スイッチを再度押して保持します。
- ▶ **コンビエンスクロージングを中断する**： スイッチを放します。

キーレスゴーを使用して

キーレスゴーキーは車外にある必要があります。すべてのドアが閉じている必要があります。



- ▶ サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが完全に閉じるまで、ドアハンドルのセンサー面の凹部 ① に触れます。

i センサー面の凹部 ① のみに触れていることを確認してください。

- ▶ すべてのサイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが閉じていることを確認してください。

パノラミックスライディンググループ装備車両

- ▶ パノラミックスライディンググループの電動ブラインドが閉じるまで、ドアハンドルのセンサー面の凹部 ① に再度触れます。
- ▶ **コンビエンスクロージング機能を中断する**：ドアハンドルのセンサー面の凹部 ① を放します。

サイドウィンドウのリセット

サイドウィンドウが完全に閉じないときは、リセットしてください。

- ▶ すべてのドアを閉じます。
- ▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。
- ▶ サイドウインドウが完全に閉じるまで、ドア操作パネルの対応するスイッチを引きます(▶ 96 ページ)。
- ▶ さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。

サイドウインドウが再度少し下降したら、以下の操作を行なってください。

- ▶ サイドウインドウが完全に閉じるまで、ただちにドア操作パネルの対応するスイッチを引きます(▶ 96 ページ)。
- ▶ さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。
- ▶ スイッチを解除した後サイドウインドウが閉じたままになれば、サイドウインドウのリセットが正しく行なわれています。 そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

サイドウィンドウのトラブル

⚠ 警告

サイドウィンドウをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、サイドウィンドウはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバーズ機能は作動しません。この手順のとき、身体の一部を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉じている間は、身体の一部を閉じる部分に近づけないようにしてください。閉動作を止めるには、スイッチを放すか、サイドウィンドウを再度開くためにスイッチをもう一度押します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ガイドレールなどに葉などの障害物が挟まっているため、サイドウィンドウが閉じない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウィンドウを閉じます。
サイドウィンドウが閉じず、原因がわからない。	<p>閉じているときにサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ウィンドウが妨げられた後ただちに、サイドウィンドウが閉じるまで対応するスイッチを再度引きます。より強い力でサイドウィンドウが閉じます。 <p>閉じているときにサイドウィンドウが再度妨げられ、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ウィンドウが妨げられた後ただちに、サイドウィンドウが閉じるまで対応するスイッチを再度引きます。挟み込み防止機能が作動しない状態でサイドウィンドウが閉じます。

ソフトトップ (カブリオレ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ソフトトップを完全に開閉しないと、しばらくするとソフトトップの油圧装置の圧力が低下します。そのためソフトトップが突然下降して乗員が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。必ずソフトトップを完全に開閉してください。

❗ ソフトトップ収納室カバーの上に座ったり、重いものを収納しないでください。さもないと、車両のソフトトップおよびソフトトップ収納室カバーを損傷します。

❗ ソフトトップを開閉するときには、以下の点を確認してください。

- ソフトトップは上方に振られるため、上方に十分な空間がある。
- ラゲッジカバーが閉じている。

- トランク内では、ラゲッジカバーの下にのみ積載されている。
- ラゲッジカバーが荷物で押し上げられていない。
- トランクリッドが閉じている
- ソフトトップ収納室カバーの上に物がない。
- ソフトトップの生地が汚れていたり、濡れていない、または凍っていない。

さもないと、ソフトトップ、トランクおよび車両の他の部品を損傷するおそれがあります。

i ソフトトップ開閉時の全高 (▷ 398 ページ)。

i 閉じる前に、ソフトトップが乾いていて、汚れていないことを確認してください。さもないと、車内やトランクに水や汚れが入るおそれがあります。

以下のときにソフトトップを開閉することができます。

- 車両が停止しているとき、または
 - 40 km/h の速度を超えていないとき
- 向かい風が強い場合は、ソフトトップを完全に閉じることができません。この場合は、ソフトトップを完全に閉じるために、速度を下げるか、または停止してください。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツでは車両が停止しているときにのみソフトトップを開閉することをお勧めします。

ソフトトップが完全に開いていない、または閉じていない場合は、以下の場合はソフトトップの油圧が低下し、ソフトトップが下降します。

- イグニッションがオンの場合は約 7 分後
- イグニッションがオフの場合はただちに

ソフトトップスイッチでの開閉

重要な安全上の注意事項

警告

ソフトトップを開く、または閉じるときは、ルーフ装置、トランクリッドまたはサイドウィンドウのような動く部品に身体の一部が挟まれる危険性があります。けがの危険性があります。

ルーフを開く、または閉じるときは、可動部品の周辺に身体の一部がないことを確認してください。誰かが挟まれたら、スイッチを放してください。

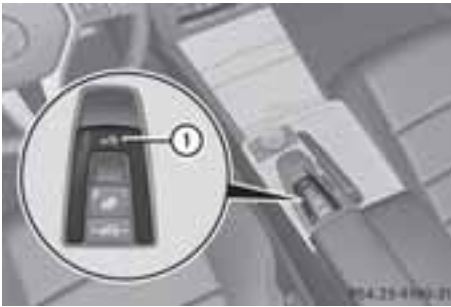
警告

車両の速度が 40 km/h を超えた場合は、開く、または閉じる動作中にソフトトップは停止します。これにより後方の視界が損なわれます。事故の危険性があります。

速度を 40 km/h 以下に下げるか、または交通状況に応じて車両を停止します。ソフトトップを完全に開く、または閉じるために、再度ソフトトップスイッチを操作してください。

開閉

- ▶ ラゲッジカバーが閉じていることを確認します (▷ 109 ページ)。
- ▶ トランクを閉じます。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ センターコンソールのカバーを開きます。



▶ **開く**：ソフトトップ全体がトランク内に収納され終わるまで、ソフトトップスイッチ ① を引きます。

マルチファンクションディスプレイに **ソフトトップ作動中** というメッセージが表示されます。

閉じているときに 40 km/h 以上の速度で走行した場合は、閉じる動作が停止します。マルチファンクションディスプレイに **ルーフが完全に開閉されていません** というメッセージが表示されます。ソフトトップを完全に開くためには、速度を再度 40 km/h 以下に下げ、ソフトトップスイッチを再度引きます。

❶ ソフトトップスイッチを引き続けた場合は、サイドウィンドウが閉じます。

▶ **閉じる**：ソフトトップが完全に閉じるまで、ソフトトップスイッチ ① を押して保持します。

マルチファンクションディスプレイに **ソフトトップ作動中** というメッセージが表示されます。

閉じているときに、40 km/h 以上の速度で走行した場合は、閉じる動作は停止します。マルチファンクションディスプレイに **ルーフが完全に開閉されていません** というメッセージが表示されます。ソフトトップを完全に閉じるためには、速度を再度 40 km/h 以下に下げ、ソフトトップスイッチを再度押します。

❶ ソフトトップスイッチを押し続けた場合は、サイドウィンドウが閉じます。

キーでの開閉

重要な安全上の注意事項


⚠ 警告

ソフトトップを開く、または閉じるときは、ルーフ装置、トランクリッドまたはサイドウィンドウのような動く部品に身体の一部が挟まれる危険性があります。けがの危険性があります。

ルーフを開く、または閉じるときは、可動部品の周辺に身体の一部がないことを確認してください。誰かが挟まれたら、スイッチを放してください。

開閉

キーはドアハンドルの近くになければなりません。

▶ **開く**：ソフトトップが完全に開くまで、キーの  スイッチを押して保持します。

マルチファンクションディスプレイに **ソフトトップ作動中** というメッセージが表示されます。シートベンチレーターが作動します。リアサイドウィンドウが開きます。

▶ **閉じる**：ソフトトップが完全に閉じるまで、キーの  スイッチを押して保持します。

マルチファンクションディスプレイに **ソフトトップ作動中** というメッセージが表示されます。ソフトトップおよびサイドウィンドウが閉じます。

手でソフトトップを閉じる

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ソフトトップを手動で閉じることは、複雑で体力も要求される技術的に困難な手順です。お客様自身または他の人が挟まれることがあります。けがの危険性があります。

可能なときは、ソフトトップはメルセデス・ベンツ指定サービス工場を手動で閉じてください。

ソフトトップを自動的に閉じることができない場合は、以下の点を点検してください。

- ▶ ラゲッジカバーが固定されているか (▶ 109 ページ)
- ▶ リアベンチシートのヘッドレストが展開しているか
- ▶ トランクリッドが閉じているか
- ▶ バッテリーの電圧が十分か
必要であればエンジンを始動してください。

自動操作が作動しない場合は、ソフトトップを手動で閉じることができます。この手順を実行するときは、2 人目の方の支援が必要です。

ソフトトップを閉じる

- ▶ パーキングブレーキを効かせます。
- ▶ サイドウィンドウを開きます。
- ▶ ヘッドレストを自動で (▶ 123 ページ) または手動で (▶ 124 ページ) 下げます。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ トランクを開きます。
- ▶ 車載工具 (▶ 351 ページ) から 2 つのストラップを取り出します。
- ▶ 取扱説明書入れからアーレンキーを取り出し、携帯します。



- ▶ 回転キャッチ ① を反時計回りにまわし、カバー ② を下に倒します。



- ▶ アーレンキー ③ を油圧ポンプの上のバルブスクリュー ④ に差し込みます。
- ▶ アーレンキー ③ で油圧ポンプのバルブスクリュー ④ を反時計回りに 1 回転まわします。



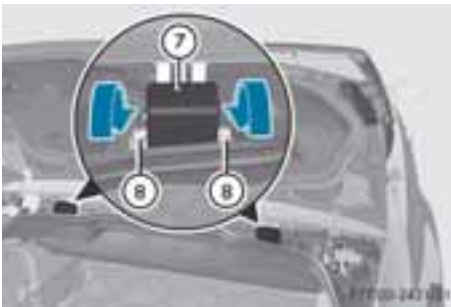
- ▶ トランクの両側で、トリム ⑤ をミシン目に沿って矢印の方向に裂きます。



- ▶ 両側でキャッチ ⑥ をできるだけ引き出し、約 1/4 回転反時計回りにまわします。
- ▶ キャッチ ⑥ を再度引くことができないことを確認します。その場合は、キャッチ ⑥ を再度引き出し、約 1/4 回転反時計回りにまわします。



- ▶ 左右側で、ソフトトップ収納室ヒンジの裏側を通るように、ストラップを矢印の方向に引きます。
- ▶ できあがったループにストラップを通します。



ソフトトップ収納室のヒンジは、ソフトトップ収納室カバーとトランクシールとの間の隙間の左側および右側にあります。

- ▶ 左右側で、手応えがあるところを越えるまで、ソフトトップ収納室ヒンジ ⑦ 両側のレバー ⑧ を前方に動かします。



- ▶ ソフトトップ収納室ヒンジとソフトトップ収納室の間でストラップを引きます。

i トランクが開いている限りは、ストラップを引かないでください。



▶ スラトップ ⑨ をソフトトップ収納室カバーの上に置きます。

i 必要であれば、アーレンキーおよびキーをトランクから取り出します。ソフトトップを手動で完全に閉じたときのみ、トランクに再度アクセスすることができます。

▶ トランクを閉じます。

! トランクリッドは次の手順で閉じなければなりません。さもないと、ソフトトップ収納室カバーがトランクリッドとぶつかるおそれがあります。



▶ それぞれの人がストラップを持ちます。
▶ 力を入れて引き、同時にソフトトップ収納室カバーを上方および外側にストラップで持ち上げます。

⚠ 警告

指示されたハンドル以外の場所をつかむと、お客様や他の人が挟まれたり、動きが取れなくなるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

宝飾品や時計はすべて外してください。指示されたハンドルのみを持ってください。カバー部分とヒンジの間には手を伸ばさないでください。

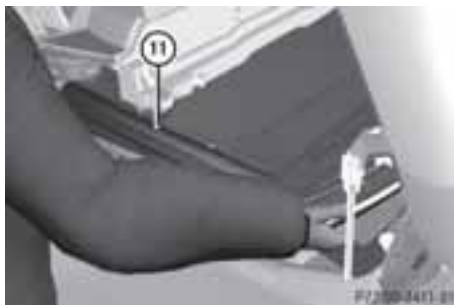


- ▶ 車両の右側に 1 人が立ち、左側にもう 1 人の人が立ちます。
- ▶ イラストのように、片手でソフトトップ収納室を掴みます。
- ▶ イラストのように、もう片方の手を使用して、トランクリッドの端で自分自身を支えます。
- ▶ ソフトトップ収納室カバー ⑩ をいっぱいまで持ち上げます。このときは、一定の力をかけながらソフトトップ収納室カバー ⑩ を後方に引きます。

⚠ 警告

指示されたハンドル以外の場所をつかむと、お客様や他の人が挟まれたり、動きが取れなくなるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

宝飾品や時計はすべて外してください。指示されたハンドルのみを持ってください。カバー部分とヒンジの間には手を伸ばさないでください。



- ▶ 右側および左側から、ソフトトップ収納室の中のソフトトップ ⑪ の先端の下に手を伸ばします。



- ▶ ソフトトップ収納室からソフトトップを持ち上げ、矢印の方向に前方にフロントウインドウのフレーム ⑫ に動かします。



⑬ 開く

⑭ ロックする

- ▶ オーバーヘッドコンソールパネル後方のルーフロックのカバーを引き出します。
- ▶ アーレンキーをルーフロックに差し込みます。
- ▶ アーレンキーをいっぱいまで時計回り ⑬ にまわします。

! 以下の手順の間は、アーレンキーが反時計回りにいっぱいまでまわっていることを確認します。さもないと、ソフト

トップが正しくロックされないことがあります。

- ▶ アーレンキーを反時計回り ⑭ にいっぱいまでまわします。
このとき、ソフトトップはフロントウインドウのフレームに仮留めされています。



- ▶ 生地 of テンショニングフレーム ⑮ を直立の位置に動かします。

! 以下の手順の間にソフトトップ収納室カバーが生地のテンショニングフレームとぶつからないことを確認してください。

- ▶ ソフトトップ収納室カバー ⑯ を下げます。



- ▶ 手のひらで、ソフトトップ収納室カバーのソフトトップサポート ⑰ に乗るまで、生地 of テンショニングフレームを押し下げます。
- ▶ 手のひらで、ガイドに固定されるまでソフトトップ収納室カバーを両側同時に前方/後方に押します。矢印で示された位置に手をあてます。同時に、手のひらで生地 of テンショニングフレームをゆっくりと下方に押しします。



- ▶ アーレンキーをルーフロックに差し込みます。
- ▶ アーレンキーを反時計回り ⑱ にいっぱいまでまわします。
- ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にソフトトップ作動機構を修理してください。

i トランクリッドを開くことができない場合は、ソフトトップ収納室カバーを再度押します。

! いかなる状況でもエマージェンシーキーでトランクリッドを開かないでください。さもないと、トランクリッドおよびソフトトップ収納室カバーを損傷することがあります。

ソフトトップの再施錠

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ソフトトップを完全に開閉しないと、しばらくするとソフトトップの油圧装置の圧力が低下します。そのためソフトトップが突然下降して乗員が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。必ずソフトトップを完全に開閉してください。

以下の場合にはソフトトップはロックされていません。

- マルチファンクションディスプレイに **ソフトトップ作動中** というメッセージが表示されている。
- 発進時または走行中に数秒間警告音が聞こえる。

ロック

確実にロックされていない場合は、ソフトトップを再度ロックすることができます。

- ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ ソフトトップスイッチ (▶ 102 ページ) を押します。

ラゲッジカバー

全体的な注意事項

! ソフトトップを後方に倒すときに、ソフトトップまたは荷物の損傷を防ぐために、以下を遵守してください。

- ラゲッジカバーが開いているときは、ラゲッジカバーを遮ったり、開いているソフトトップを損傷することがあるので、非常に長い側面のネットの中または背面に物を置かないで下さい。
- 荷物がラゲッジカバーを上方に押ししていないことを確認してください。

ラゲッジカバーが閉じているときのみ、ソフトトップを開くことができます。

ラゲッジカバーは、トランク内の荷物や積載物をカバーするために使用します。

開閉



- ▶ **閉じる**： トランクの両側に留まるまで、ハンドルでラゲッジカバー ① を矢印の方向に引きます。ラゲッジカバー ① は自動的に閉じます。
- ▶ **開く**： ハンドルでラゲッジカバー ① を矢印の方向と反対に押します。ラゲッジカバーは自動的に開きます。

ドラフトストップのブラケット

⚠ 警告

周囲が暗いときや視界の悪い状況でドラフトストップを使用すると、後方の視界が損なわれます。事故の危険性があります。

ドラフトストップは視界が良好のときのみ使用して下さい。

! メルセデス・ベンツは、メルセデス・ベンツ車両のためにテストおよび承認されたドラフトストップのみを使用することをお勧めします。これにより、車両の損傷を防ぐ助けになります。

! バックレストがドラフトストップとぶつかることがあるため、ドラフトストップを取り付けた場合はフロントシートのバックレストの位置に注意してください。



ドラフトストップは、ソフトトップを開いて走行しているときの風による影響を防止します。リアベンチシートの上に固定されています。この理由のため、ドラフトストップが取り付けられているときは、運転者および助手席乗員のみが車両に乗車できます。

- ▶ ドラフトストップを取り付けるときは、横方向のブラケット ① を使用してください。

製品の装着指示に従ってください。

エアキャップ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エアキャップを格納するときは、可動式の機構に人が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

フロントウインドウ上部のフレームをつかんでいないこと、およびエアキャップのウインドデフレクターに触れていないことを確認します。

⚠ 警告

エアキャップを格納するときは、可動式の機構に人が挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

フロントウインドウ上部のフレームをつかんでいないこと、およびエアキャップのウインドデフレクターに触れていないことを確認します。

エアキャップで、ソフトトップを開けて4名が快適に走行できます。エアキャップは、ソフトトップが開いている車両の前後席両方で、運転者および乗員への風を減少させます。

エアキャップには以下の構成部品があります。

- フロントウインドウ上の速度連動式ウインドデフレクター
 - リアベンチシートのヘッドレスト間の2つのエアキャップドラフトストップ
- エアキャップが作動しているときは、リアシートのヘッドレスト間の2つのエアキャップドラフトストップが上方に展開します。約 40 km/h 以上の速度では、フロントウインドウのウインドデフレクターも展開します。約 15 km/h 以下の速度で走行した場合は、ウインドデフレクターは自動的に格納します。

エアキャップは約 160 km/h 以下の速度で、作動または解除することができます。

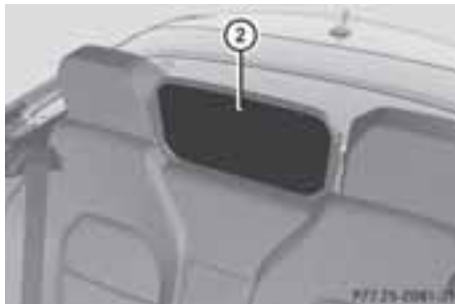
エアキャップの作動



- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします。
- ▶ センターコンソールのカバーを開きます。
- ▶ エアキャップスイッチ ① を押します。リアシートのヘッドレスト間のエアキャップドラフトストップが上方に展

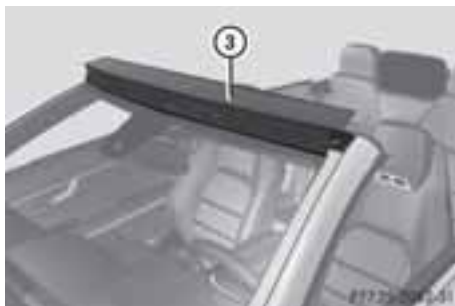
開します。エアキャップスイッチの表示灯が点灯します。

速度連動式エアキャップウインドデフレクターも展開した場合は、2番目の表示灯が点灯します。



リアベンチシートのヘッドレストおよびエアキャップドラフトストップ②は中間位置に動きます。

後席のシートベルトが着用されているときは、リアベンチシートのヘッドレストは最も高い位置に動きます。エアキャップドラフトストップ②は中間位置に動きます。



ウインドデフレクター③は車両速度に応じて展開します。

i ルーフを開いたまま車両を駐車し、キーを取り外した場合は、エアキャップドラフトストップは自動的に格納します。車両を駐車した後にエンジンを再始動した場合は、エアキャップシステムは自動的に作動します。

i 車両速度が約 160 km/h を超えた場合は、エアキャップを展開または格納できません。

エアキャップの解除

- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします。
- ▶ センターコンソールのカバーを開きます。
- ▶ エアキャップスイッチ ① を押します。

エアキャップスイッチの 2 つの表示灯が消灯します。ウインドデフレクター ③ が格納します。

リアベンチシートのヘッドレストおよびエアキャップのドラフトストップ ② は同時に最も低い位置に動きます。

i 後席でシートベルトを着用している乗員がいる場合は、リアベンチシートのヘッドレストおよびエアキャップドラフトストップは最も上の位置のままになります。

運転席からリアベンチシートのヘッドレストを格納する

後方視界を向上させるために、リアベンチシートのヘッドレストを独立して格納することができます (▶ 123 ページ)。ウインドデフレクターはそのときの位置のままになります。

エアキャップドラフトストップの取り付け/取り外し

準備

エアキャップのドラフトストップの取り付け、および取り外しのためには 4 mm のアーレンキーが必要です。

エアキャップドラフトストップを取り付ける、または取り外す前に以下を行なってください：

- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします。
- ▶ 折りたたみ式ルーフを完全に開きます (▷ 102 ページ)。
- ▶ 後席のヘッドレストを完全に展開します (▷ 123 ページ)。

取り外し



後席のヘッドレストの間のエアキャップドラフトストップのボルト

- ▶ 4 mm のアーレンキーを使用して、両側のボルトを反時計回りに約 90° まわし、緩めます。
- ▶ ヘッドレストのブラケットからボルトを引き出します。



- ▶ ガイドレールからエアキャップドラフトストップを矢印の方向に引きます。そうするときは、エアキャップドラフ

トストップを少し前方に引いていることを確認してください。

取り付け



- ▶ エアキャップドラフトストップを水平に保ち、左右のラックを真下にしながら、ヘッドレストの間の切り込みに矢印の方向に通します。
- ▶ ボルトがヘッドレストのブラケットと同じ高さになるまで、エアキャップドラフトストップを下に押し込みます。
- ▶ ボルトを両側のブラケットに差し込みます。
- ▶ 固定されるまで、4 mm のアーレンキーでボルトを締めます。ボルトのマークが垂直になるようにします。

ソフトトップのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ソフトトップが開閉しない。	イグニッションがオンになっていない。 ▶ エンジンスイッチのキーが 2 の位置にあることを確認します。
	トランクリッドが開いている。 ▶ トランクリッドを閉じます。(▶ 109 ページ)
	ラゲッジカバーが閉じていない。 ▶ ラゲッジカバーを閉じます。(▶ 109 ページ)
	ロールバーが作動している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	後席のヘッドレストが自動的に格納していない。 ▶ 後席のヘッドレストを手動で下げます。キーワード“ヘッドレスト”で、デジタル版取扱説明書をご覧ください。
	ソフトトップ装置またはコントロールシステムに不具合がある。 ▶ 必要であればソフトトップを手動で閉じます(▶ 104 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ソフトトップが連続して数回開閉された。安全上の理由のため、ソフトトップ駆動装置が自動的に解除されている。約 10 分後に再度ソフトトップを開閉することができます。 ▶ エンジンスイッチをいったんオフにし、再びオンにしてください。 ▶ 開閉操作を繰り返します。

スライディングルーフ (クーペ)

重要な安全上の注意事項

この項目では、"スライディングルーフ"という言葉はパノラミックスライディングルーフに該当します。

⚠ 警告

スライディングルーフを開閉するとき、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。けがをす

るおそれがあります。開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。

開閉手順が中断されます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、スライディングルーフを操作して挟まれるおそれがあります。けがを

するおそれがあります。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

! パノラミックスライディングルーフに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフが故障する原因になります。

スライディングルーフの開口部から物を出さないようにしてください。スライディングルーフのシール部が損傷するおそれがあります。

i スライディングルーフが開いているときは、通常の風切り音に加えて空気の振動が発生する可能性があります。これらは、車内の圧力変動が原因で発生します。これらを低減または除去するには、スライディングルーフの調整位置を変更

するか、サイドウィンドウを少し開いてください。

パノラミックスライディングルーフのリバース機能

この項目では、"スライディングルーフ"という言葉はパノラミックスライディングルーフに該当します。

スライディングルーフにはオートリバース機能が装備されています。スライディングルーフが閉じている間に障害物が挟まれた、または動作を妨げた場合に、スライディングルーフは自動的に再度開きます。ただし、自動リバース機能は単なる補助に過ぎず、スライディングルーフを閉じているときの注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4 mm 以下となったとき
- リセット中
- リバース機能作動のすぐあとに再度手動でスライディングルーフを閉じるとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。

パノラミックスライディングルーフの操作

開閉




オーバーヘッドコントロールパネル


① チルトアップ

② 開く

③ 閉じる/チルトダウン

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶  スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

① 手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押すと、対応する方向で自動開閉動作が開始されます。再度を押すと、自動動作を停止できます。

レインクローズ機能

エンジンスイッチのキーが **0** の位置にある場合、または抜かれている場合は、以下のときにパノラミックスライディングルーフが自動的に閉じます。

- 雨が降り始めたとき
- 外気温度が極端なとき
- 約 6 時間たったとき
- 電圧供給に不具合がある場合

車内を換気するため、パノラミックスライディングルーフはチルトアップしたままになります。

① レインクローズ機能で閉じられているときにパノラミックスライディングルーフが遮られた場合は、再度少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディングルーフは閉じません。

- パノラミックスライディングルーフをチルトアップさせているとき
- 物が挟まったとき
- 車両が橋の下などにあるときなど、レインセンサーによってモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちないとき

パノラミックスライディングルーフ用電動ブラインドの操作

重要な安全上の注意事項

警告

電動ブラインドの開閉時、身体の一部が電動ブラインドとフレームまたはスライディングルーフ間に挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。開閉動作の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

開閉動作が停止します。

電動ブラインドは日差しから車内を遮ります。パノラミックスライディングルーフを閉じているときにのみ、電動ブラインドを開閉することができます。

電動ブラインドのリバース機能

電動ブラインドには、オートリバース機能が装備されています。閉じているときに障害物が電動ブラインドを停止させ

た、または妨げた場合は、電動ブラインドは自動的に再度開きます。ただし、オートリバース機能は単なる補助で、電動ブラインドを閉じているときの注意に代わるものではありません。

⚠ 警告

特に、リバース機能は小さな指のように柔らかい、軽いおよび薄いものには反応しません。リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。閉じている間は、身体の一部を電動ブラインドの動いている範囲内に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。


閉動作が停止します。


開閉



オーバーヘッドコントロールパネル

- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
- ▶  スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

i 手応えがあるところを越えるまでスイッチ  を押す、または引くと、対


応する方向で自動開閉動作が開始されます。再度押すか、または引くことにより自動動作を中止することができます。


パノラミックスライディングルーフと電動ブラインドのリセット


! パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドが全閉できない、またはリセットできない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。


パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドがスムーズに作動しない場合は、パノラミックスライディングルーフや電動ブラインドをリセットしてください。

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、手応えのあるところまで  スイッチを矢印 **③** の方向に繰り返し引きます (▶ 116 ページ)。

▶  スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ 電動ブラインドが完全に閉じるまで、手応えのあるところまで  スイッチを矢印の方向 **③** に繰り返し引きます。

▶  スイッチを引いたまま数秒間保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフ (▶ 115 ページ) および電動ブラインド (▶ 116 ページ) が再度完全に開くことを確認します。

▶ そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

スライディンググループのトラブル

この項目では、"スライディンググループ"という言葉はパノラミックスライディンググループに該当します。

⚠ 警告



スライディンググループをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、スライディンググループはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバース機能は作動しません。この手順のとき、身体を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉動作の間は、身体を閉じる部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもよいのでスイッチを押します。

閉動作が停止します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>スライディンググループを閉じることができず、原因が分からない。</p>	<p>スライディンググループが閉じているときに挟み込みの抵抗を検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。</p> <p>▶ スライディンググループがブロックされたらただちに、スライディンググループが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの  スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 スライディンググループは、より強い力で閉じます。</p> <p>スライディンググループが再度抵抗を挟み込みの検知したため停止し、その位置から少し開いた場合は、以下の操作を行なってください。</p> <p>▶ スライディンググループがブロックされたらただちに、スライディンググループが閉じるまでオーバーヘッドコンソールの  スイッチを抵抗があるところまで引き下げて保持します。 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディンググループが閉じます。</p>

役に立つ情報	120
運転席の適切な位置	120
シート	121
ステアリング	130
ミラー	133
メモリー機能	136

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 23 ページ)

運転席の適切な位置

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。



▶ シート調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▷ 121 ページ)

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください。

電動シートの調整 (▷ 122 ページ)

シートを調整するときは、以下を確認してください：

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている。
- 通常の起きた位置で着座している。
- シートベルトを正しく装着できる。
- ほぼ垂直の位置になるようにバックレストを調整している。
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している。
- ペダルを正しく踏むことができる。
- ▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください。
そのときは、ヘッドレストの中央部によって、後頭部が目の高さで支えられていることを確認してください。

- ▶ ステアリング調整に関する安全上のガイドラインを守ってください。(▶ 130 ページ)
- ▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください。
手動調整式ステアリングの調整 (▶ 130 ページ)
電動調整式ステアリングの調整 (▶ 130 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下を確認してください。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある。
- 足を自由に動かせる。
- メーターパネル内のすべてのディスプレイが確認できる。
- ▶ シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください。(▶ 47 ページ)
- ▶ シートベルト ② を正しく着用していることを確認します。(▶ 48 ページ)

シートベルトは、以下のように着用してください。

- 身体に密着させる。
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている。
- 腰を通るベルトが腰骨の低い位置にかかっている。
- ▶ 走行を開始する前に、ルームミラーおよびドアミラーを道路と交通状況がよく見えるように調整してください。(▶ 133 ページ)。
- ▶ **メモリー機能装備車両**：メモリー機能を使用してシート、ステアリング、ドアミラーの設定を保存します。(▶ 136 ページ)

シート

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

保護者のいない状態で、お子様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチを誤って押ししまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないということを確認してください。

⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがををする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

⚠ 警告

バックレストをほぼ垂直の位置に動かししていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。シートはできる

だけ人を乗せるためだけに使用してください。

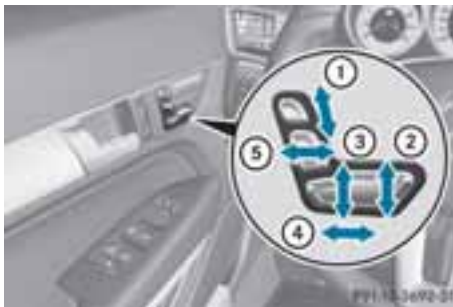
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシート後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

i フロントシートには NECK PRO アクティブヘッドレスト (p. 46 ページ) が装備されています。その理由のため、フロントシートのヘッドレストは取り外すことができません。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

パワーシートの調整



- ① ヘッドレストの高さ
- ② シートクッションの角度
- ③ シートの高さ
- ④ シートの前後位置
- ⑤ バックレストの角度

i メモリー機能付パワーシート装備車両：PRE-SAFE®が作動した場合、助手席シートが不適切な位置にある場合は、好ましい位置に移動します。

① シート位置はメモリー機能 (▷ 136 ページ) を使用して記憶させることができます。

① メモリー機能付パワーシートおよび分割可倒式シート装備車両：リアシートのバックレストを倒した場合は、必要な場合はそれぞれのフロントシートが前方に少し移動します。

① メモリー機能付パワーシート装備車両：シートの前後位置を調整したときは、ヘッドレストも自動的に上下します。

ヘッドレストの調整

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがををする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

全体的な注意事項

シートの重要な安全上のガイドラインを遵守してください (▷ 121 ページ)。

フロントとリアシートのヘッドレストを入れ替えないでください。さもないと、ヘッドレストの高さ、および角度を正しい位置に調整することができません。

電動式ヘッドレストの調整



▶ **ヘッドレストの高さを調整する**：ヘッドレスト調整用スイッチ①を矢印の方向に上または下にスライドします。

リアシートのヘッドレスト

フロントからリアシートのヘッドレストを下げるまたは上げる (カブリオレ)



▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします (▷ 177 ページ)。

▶ **下げる**：スイッチ①を押します。ヘッドレストが最も低い位置に動きます。

エアキャップが作動している場合は、エアキャップスイッチの右側の表示灯が消灯します。

▶ **上げる**：スイッチ①を再度押します。

エアキャップが作動していて後席のシートベルトが着用されていないときにのみ、ヘッドレストは中央位置まで動きます。

エアキャップが作動している場合は、エアキャップスイッチの右側の表示灯が点灯します。

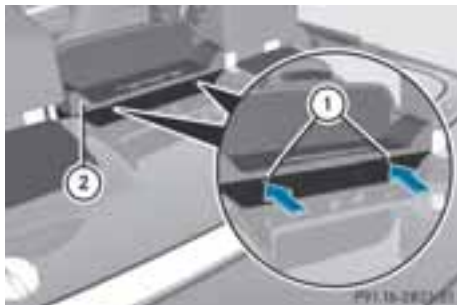
❶ エアキャップに関するさらなる情報をご覧ください (▶ 110 ページ)。

後席ヘッドレストを手動で下げる (カプリオレ)

後席のヘッドレストが高い位置にある場合は、ソフトトップを完全に閉じることができません。

以下のときは、後席のヘッドレストを手動で下げてください。

- ヘッドレストの電気システムが故障しているとき
- ソフトトップの開閉動作が中断し、ソフトトップ収納室カバーが開いた状態のとき



以下の場合にのみ、カバー ② のロックを解除することができます。

- 開く、または閉じる動作中にソフトトップが中断した
 - ソフトトップ収納室カバーが開いたままである
- ▶ カバー ② のロックが解除されるまで、ヘッドレストの間にある 2 つの開口部 ① にエマージェンシーキーを押し込みます。
- ▶ カバー ② を取り外します。



▶ ヘッドレストを下げる：ダイヤル ① をフロントシートの方向にまわします。

前席バックレストを倒す/起こす

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

バックレストがかみあっていない場合、ブレーキ時や事故の際などに前に倒れる可能性があります。シートバックレストが乗員をシートベルトに押しつける可能性があります。シートベルトは、十分な保護効果を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。けがをするおそれが高まります。

走行する前には、記載されているようにバックレストが完全に固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります。

- 運転席シート、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないということを確認してください。

シートのバックレストを前方に倒す

例：クーペ

イージーエントリー装備車両では、バックレストを前方に倒し、シートが調整範囲の中間より後ろの位置にある場合は、シートは前方に動きます。これにより、乗員が後席に乗降することがより簡単になります。

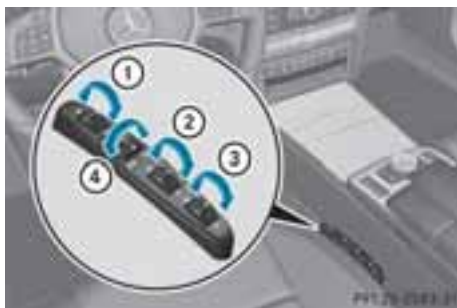
電動シート調整装備車両では、ヘッドレストも下がります。

- ▶ **メモリー機能非装備車両**：必要に応じてヘッドレストのロックを解除し、押し下げます。
- ▶ シート解除ハンドル ① を前方に引き、シートのバックレストがロックされるまで、バックレストを前方に倒します。
- ▶ シートをいっぱいまで前方に押しめます。
- ▶ **メモリー機能装備車両**：シート解除ハンドル ① を前方に引き、バックレストをいっぱいまで前方に倒します。最も前方の位置にシートが自動的に移動します。

シートのバックレストを起こす

- ▶ **メモリー機能非装備車両**：シートが以前に設定された位置になるまで、シートのバックレストを水平に後方に押しめます。
- ▶ ロックされる音が聞こえるまでシートのバックレストを起こします。スムーズに行なってください。
- ▶ シートバックレストを起こした後に、ヘッドレストの位置を確認して正しい位置に設定してください。
- ▶ **メモリー機能装備車両**：シートのバックレストを起こします。記憶された位置にシートが自動的に移動します。

マルチコントロールシートバックの調整

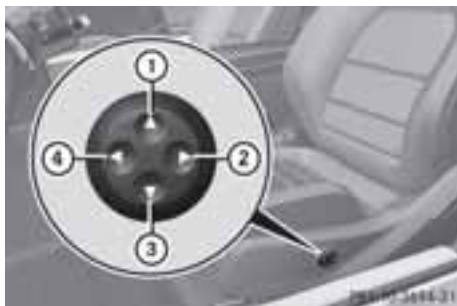


- ① シートクッションの大腿部のサポート調整
- ② バックレストの腰部下部のサポート調整
- ③ バックレストの腰部上部のサポート調整
- ④ バックレストのサイドサポートの調整

身体を最適にサポートできるように、運転席と助手席の形状を個別に調整できます。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします(▷ 177 ページ)。

電動ランバーサポートの調整



- ① バックレストのサポート位置を上げる
- ② バックレストのサポートを弱くする

③ バックレストのサポート位置を下げる

④ バックレストのサポートを強くする

背中を最適にサポートできるように、フロントシートのバックレスト形状を調整できます。

シートヒーターの作動/停止の切り替え

作動/停止

⚠ 警告

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。



運転席シートおよび助手席シート

スイッチの3つの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

約8分後に、レベル **3** からレベル **2** へ、システムが自動的に切り替えます。

約10分後に、レベル **2** から **1** へ、システムが自動的に切り替えます。

レベル **1** に設定した約20分後に、システムが自動的に停止します。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (▶ 177 ページ)。
 - ▶ **作動させる**：好みのヒーターレベルに設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押しします。
 - ▶ **停止する**：すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押しします。
- i** バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シートヒーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が作動しているため、バッテリー電圧が非常に低くなっている。 ▶ リアデフォグガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電できれば、シートヒーターは自動的に作動します。

シートベンチレーターの作動/停止の切り替え

作動/停止



運転席シートおよび助手席シート

スイッチの3つの青い表示灯は、選択したレベルを表します。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▶ 177 ページ)。
- ▶ **作動させる**：好みのレベルになるまで、スイッチ **①** を繰り返し押します。
- ▶ **停止する**：表示灯が消灯するまで、スイッチ **①** を繰り返し押します。

i バッテリー電圧が非常に低下した場合は、シートベンチレーターが停止することがあります。

i クーペ："コンビニエンスオープニング"機能を使用して、サイドウィンドウやパノラミックスライディングルーフを開くことができます。(▶ 98 ページ) 運転

席のシートベンチレーターが最も強いレベルで自動的に作動します。

カブリオレ：キーで、ソフトトップとリアサイドウィンドウを開くことができます。(▶ 103 ページ) 運転席のシートベンチレーターが最も強いレベルで自動的に作動します。

シートベンチレーターのトラブル

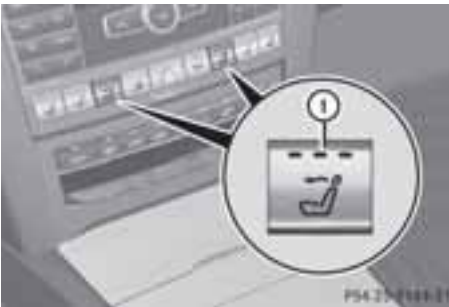
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シートベンチレーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が作動しているため、バッテリー電圧が非常に低下している。 ▶ リアデフォグガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されれば、シートベンチレーターは自動的に作動します。

エアスカーフ (カブリオレ)

⚠ 警告

エアスカーフがオンになっているとき、非常に高熱の空気がヘッドレストの送風口から流れ出る場合があります。そのため、送風口に身体を近づけたままにしていると、火傷をするおそれがあります。けがの危険性があります。

熱くなりすぎる前にヒーターの出力を下げてください。



運転席シートと助手席シート

エアスカーフ機能は、乗員の頭部や首周りに暖気を送風して暖めます。暖気は、ヘッドレスト送風口から吹き出します。スイッチの3つの赤い表示灯は、選択しているレベルを表します。

▶ エンジンスイッチのキーが**2**の位置にあることを確認します。

▶ **作動させる**：① スイッチを押します。スイッチの3個の赤い表示灯が点灯します。約7秒間の予熱後に、送風が開始します。

▶ 希望するヒーターレベルになるまで、スイッチ①を繰り返し押します。

▶ **停止する**：表示灯が消灯するまで、シートベンチレータースイッチ①を繰り返し押します。

ヘッドレストにあるフィンを動かして、お客様の体格に応じて暖気の吹き出す高さを調整することができます。

運転席バックレストの後ろにあるインテークグリルが物で覆われていないことを確認してください。

❶ ヒーター部を冷却するために、その後も約7秒間送風が作動します。

❶ バッテリー電圧が非常に低い場合は、エアスカーフは停止することがあります。

ステアリング

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
 - シートベルトを装着する
- 事故の危険性があります。

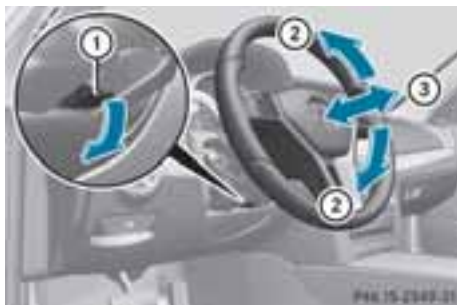
エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

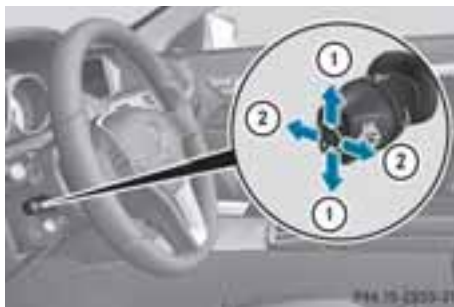
手動調整式ステアリングの調整



- ① ロック解除レバー
- ② ステアリングの上下位置の調整
- ③ ステアリングの前後位置の調整

- ▶ ロック解除レバー ① を下方へ完全に押し下げます。
ステアリングのロックが解除されます。
- ▶ ステアリングを希望の位置に調整します。
- ▶ ロック解除レバー ① を上方へ完全に押し上げます。
ステアリングがロックされます。
- ▶ ステアリングがロックされていることを確認してください。そのときは、ステアリングを上下方向に押してみるか、前後方向に動かしてみます。

電動調整式ステアリングの調整



- ① ステアリングの上下位置の調整
- ② ステアリングの前後位置の調整

❗ その他の関連事項：

- イージーエントリー機能 (▷ 132 ページ)
- 設定の記憶 (▷ 136 ページ)

ステアリングヒーター

作動/停止



- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 177 ページ)。
- ▶ **作動/停止の切り替え**： レバーを矢印 **①** または **②** の方向にまわします。表示灯 **③** が点灯または消灯します。

キーレスゴー非装備車両： エンジンスイッチからキーを抜くと、ステアリングヒーターは停止します。

キーレスゴー装備車両： イグニッションをオフにして運転席ドアを開くと、ステアリングヒーターは停止します。

i ステアリングヒーターは自動的に停止しません。

ステアリングヒーターのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ステアリングヒーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が作動しているため、バッテリー電圧が非常に低くなっている。 ▶ リアデフォグガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されれば、ステアリングヒーターは自動的に作動します。

イージーエントリー機能

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

イージーエントリー機能がステアリングを調整するとき、ご自身だけでなく、他の乗員、特にお子様が挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

イージーエントリー機能が調整を開始している間、ステアリングの動いている箇所にだれも近づかないように注意してください。

挟み込まれたとき：

- メモリー機能スイッチを押します。
- ステアリングが動いた方向とは逆の方向に、ステアリング調整スイッチを動かします。

調整プロセスが停止します。

⚠ 警告

保護者のいない状態で、お子様がイージーエントリー機能を作動させた場合、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

イージーエントリー機能を調整している間に、発進すると、車両のコントロール

を失うおそれがあります。事故の危険性があります。

発進する前に、調整プロセスが終了するまで必ずお待ちください。

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

イージーエントリー機能は、マルチファンクションディスプレイで設定/解除できます。(▶ 271 ページ)

イージーエントリー機能が作動しているときのステアリングの位置

以下を行なうと、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- **キーレスゴー**で：運転席ドアを開く、エンジンスイッチのキーレスゴーは **1** の位置になければなりません。
- **キー**で：運転席ドアを開く、エンジンスイッチのキーは **0** または **1** の位置になければなりません。(▶ 177 ページ)

i ステアリングが上がりきっていない場合にのみ、ステアリングは上方に移動します。

運転のためのステアリングの位置

以下を行なうと、ステアリングは以前設定した位置に戻ります。

- 運転席ドアを閉じる
- **キーレスゴーで：** キーレスゴー装備車両では、キーレスゴースイッチを1度押します。
または
- **キーで：** キーをエンジンスイッチに差し込みます。

エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときに運転席ドアを閉じた場合は、ステアリングは以前設定した位置に自動的に動きます。

イグニッションをオフにしたときに、またはメモリー機能で設定を記憶したときに、最後のステアリング位置は記憶されます (▶ 136 ページ)。

クラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能

事故などのときにクラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能が作動すると、運転席ドアを開いたときにステアリングが上方に動きます。これは、エンジンスイッチのキーの位置にかかわらず作動します。これにより、車両の外への脱出や乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動式イージーエグジット機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定しているときにのみ作動します。
(▶ 271 ページ)

ミラー

ルームミラー



- ▶ **防眩モードにする：** 防眩モード切り替えスイッチ ① を前方または後方に操作します。

ドアミラー

ドアミラーの調整

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

ドアミラーに写る像は実際よりも小さく見えます。実際には、ドアミラーで見るとより近くにあります。これは、車線を変更する際など、後続の道路使用者との距離感を見誤る可能性があるということです。事故の危険性があります。

そのため、肩越しに直接斜め後方を見て、実際の距離を確認してください。



- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▷ 177 ページ)。
- ▶ 左側ドアミラースイッチ **①** または右側ドアミラースイッチ **②** を押します。対応するスイッチの表示灯が赤色に点灯します。しばらくすると表示灯は消灯します。表示灯が点灯しているときに、調整スイッチ **③** を使用して、選択したミラーを調整できます。
- ▶ ドアミラーが正しい位置に調整されるまで、調整スイッチ **③** を上下方向または左右方向に押します。交通状況が良く視認できなければなりません。

凸面のドアミラーにより、広い視野が確保されます。

エンジンを始動した後は、リアデフォッガーを作動させ、外気温度が低い場合は、ドアミラーが自動的に温められます。最大 10 分温められます。

- ①** ドアミラーはリアデフォッガースイッチによって手動で温めることもできます。

ドアミラーを電動で格納/展開する



- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします(▷ 177 ページ)。
- ▶ スイッチ **①** を軽く押します。左右のドアミラーが格納/展開します。
- ①** 走行している間は、ドアミラーが完全に展開していることを確認してください。さもないと、振動するおそれがあります。
- ①** 47 km/h 以上で走行している場合は、ドアミラーを格納することはできません。

ドアミラーの設定

バッテリーの接続が外れたり、完全に放電した場合は、ドアミラーをリセットする必要があります。さもないと、マルチファンクションディスプレイの"施錠時のドアミラー格納"機能を選択しているときに、ドアミラーは格納されません。(▷ 272 ページ)

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします (▷ 177 ページ)。
- ▶ スイッチ **①** を軽く押します。

ドアミラーを自動で格納/展開する

マルチファンクションディスプレイで"施錠時のドアミラー格納"機能が設定されている場合は、以下のようになります(▷ 272 ページ)。

- 車外から車両を施錠するとすぐに、ドアミラーは自動的に格納されます。
- 車両を解錠し、運転席ドアまたは助手席ドアを開くと、ドアミラーは自動的に展開します。

i 手でドアミラーを格納した場合は、展開しません。

ドアミラーが外側に曲げられたとき

ドアミラーが所定の位置から押し出された場合（前方または後方）は、以下の操作を行なってください。

- ▶ **電動格納式ドアミラー非装備車両**：手で正しい位置にドアミラーを動かしてください。
- ▶ **電動格納式ドアミラー装備車両**：クリック音が聞こえ、ミラーが所定の位置に音とともに固定されるまで、ミラー格納スイッチ **①** を押して保持します（▶ 134 ページ）。
ミラー本体が再度固定され、通常通りドアミラーを調整できます。（▶ 133 ページ）

自動防眩ミラー

以下の条件が同時に満たされると、ルームミラーと運転席側のドアミラーは自動的に自動防眩モードになります。

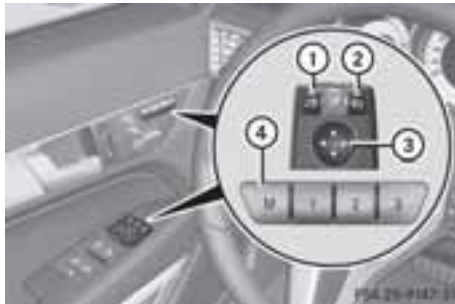
- イグニッションがオン
- 後続車のライトがルームミラーのセンサーに当たる

後退ギアに入っているときは、ドアミラーは自動防眩モードになりません。

リバースポジション機能付ドアミラー（助手席側）

駐車位置の設定と記憶

リバースギアを使用して



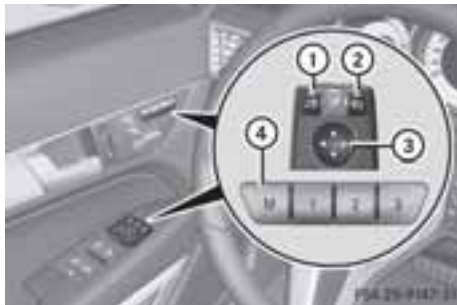
- ① 運転席側ドアミラースイッチ
- ② 助手席側ドアミラースイッチ
- ③ 調整スイッチ
- ④ メモリスイッチ M

リバースギアに入れたときにすぐ、その側の後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。その位置を記憶させることができます。

- ▶ 車両を駐車し、エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします（▶ 177 ページ）。
- ▶ 助手席側ドアミラースイッチ **②** を押します。
- ▶ リバースギアに入れます。
助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。
- ▶ ドアミラー調整スイッチ **③** を使用して、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席側ドアミラーを調整します。
駐車位置が記憶されます。

i トランスミッションを他の位置にシフトした場合は、助手席側ドアミラーは走行時の角度に戻ります。

メモリースイッチを使用して

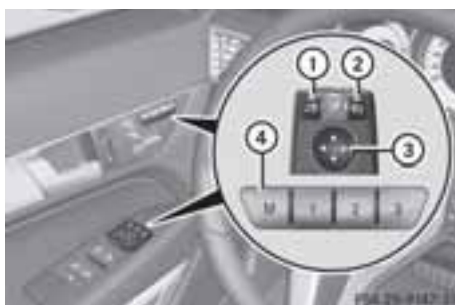


- ① 運転席側ドアミラースイッチ
- ② 助手席側ドアミラースイッチ
- ③ 調整スイッチ
- ④ メモリースイッチ M

リバースギアに入れたときにすぐ、その側の後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。この設定は、メモリースイッチ M ④を使用して記憶させることができます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします(▷ 177 ページ)。
- ▶ 助手席側ドアミラーを作動させ、調整スイッチ ③を使用してドアミラーを調整します。ドアミラーに後輪と縁石が見えている必要があります。
- ▶ メモリースイッチ M ④ を、そして 3 秒以内に調整スイッチ ③ の矢印の 1 つを押します。
助手席側ドアミラーが動かない場合は、駐車位置が記憶されています。
- ▶ ドアミラーがその位置から動いた場合は、手順を繰り返します。

記憶させた駐車位置の設定の呼び出し



- ① 運転席側ドアミラースイッチ
- ② 助手席側ドアミラースイッチ
- ③ 調整スイッチ
- ④ メモリースイッチ M

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします(▷ 177 ページ)。
- ▶ スイッチ ② を使用して、助手席側ドアミラーを調整します。
- ▶ リバースギアに入れます。
助手席側ドアミラーが記憶された駐車位置になります。

次のときに、助手席側ドアミラーは元の角度に戻ります。

- 速度が 15 km/h を超えるとすぐに
- 運転席側ドアミラースイッチ ① を押した場合

メモリー機能

メモリーの設定

⚠ 警告

走行中に運転席側のメモリー機能を使用すると、調整をした結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

車両が停車しているときにのみ運転席側のメモリー機能を使用してください。

⚠ 警告

保護者のいない状態で、子供がメモリー機能を作動させると、挟み込まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

メモリー機能で、例えば3人の方のために、3つまでの異なる設定を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シート、バックレストおよびヘッドレストの位置
- 運転席側：運転席および助手席側のドアミラーの角度



- ▶ シート (▶ 122 ページ) を調整します。
- ▶ 運転席側は、ステアリング (▶ 130 ページ) とドアミラー (▶ 133 ページ) を調整します。
- ▶ メモリースイッチ **M** を押し、それから3秒以内にポジションスイッチ **1**、**2**、**3** のいずれかを押します。
選択したポジションスイッチに設定が記憶されます。設定が完了すると確認音が鳴ります。

記憶させた位置を呼び出す

- ▶ シート、ステアリングおよびドアミラーが記憶させた位置になるまで、対応するポジションスイッチ **1**、**2**、**3** のを押して保持します。

i ポジションスイッチを放すと、設定動作は中断されます。

役に立つ情報	140
車外ライト	140
ルームライト	150
電球の交換	151
フロントワイパー	153

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▶ 23 ページ)

車外ライト

全体的な注意事項

安全のため、昼間でもライトを点灯して運転することをお勧めします。そのため、車両には特別なデイトタイムドライブライトが装備されています。国により、ヘッドライトの操作は法令や自己責任によって異なります。

車外ライトの設定

設定方法

車外ライトは以下を使用して設定できます。

- ライトスイッチ
- コンビネーションスイッチ (▶ 143 ページ)
- マルチファンクションディスプレイ (▶ 268 ページ)

ライトスイッチ

操作



- 1 **-P** 左側パーキングランプ
- 2 **P** 右側パーキングランプ
- 3 **☀** 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- 4 **AUTO** ライトセンサーの制御によるヘッドライトのオートモード
- 5 **☾** ロービーム/ハイビームヘッドライト
- 6 **☼** リアフォグランプ

車両から離れるときに警告音が鳴っている場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。


車外ライト (車幅灯/パーキングライト以外) は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーが **0** の位置のときに運転席ドアを開く

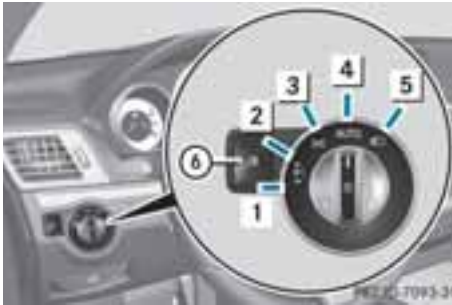
ヘッドライトのオートモード







⚠ 警告

ライトスイッチを **AUTO** に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。

このような状況のときは、ライトスイッチを  にまわします。

ライトのオートモード機能は単なる支援にすぎません。車両の照明に関する責任は、常に運転者にあります。





- ①  左側パーキングランプ
- ②  右側パーキングランプ
- ③  車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- ④  ライトセンサーの制御によるヘッドライトのオートモード
- ⑤  ロービーム/ハイビームヘッドライト
- ⑥  リアフォグランプ

通常は、ライトスイッチを **AUTO** に設定することをお勧めします。ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます（例外：霧、雪、霧雨などの天候状況による視界不良）。

- エンジンスイッチのキーが ① の位置のとき：周囲の明るさに応じて車幅灯が自動的に点灯または消灯します。
- エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイトタイムドライビングライト機能を作動させている場合は、周囲の明るさの明るさ度合いによって、デイトタイムドライビングライトまたは車幅灯およびロービームヘッドライトの点灯または消灯が切り替わります。


▶ **ヘッドライトのオートモードを作動させる**：ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

車幅灯およびロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの緑色の表示灯 （車幅灯）および （ロービームヘッドライト）が点灯します。







ロービームヘッドライト


⚠ 警告

ライトスイッチを **AUTO** に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因がある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。



このような状況のときは、ライトスイッチを  にまわします。



- ①  左側パーキングランプ
- ②  右側パーキングランプ
- ③  車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- ④  ライトセンサーの制御によるヘッドライトのオートモード
- ⑤  ロービーム/ハイビームヘッドライト
- ⑥  リアフォグランプ






イグニッションがオンで、ライトスイッチが  の位置にあるときは、ライトセンサーが周囲の明るさの状況が暗いこ

とを検知していなくても、車幅灯とロービームヘッドライトが点灯します。これは、霧や雨のときに便利です。


- ▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを  にまわします。メーターパネルの緑色の表示灯  が点灯します。





リアフォグランプ






- ①  左側パーキングランプ
- ②  右側パーキングランプ
- ③  車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- ④ **AUTO** ライトセンサーの制御によるヘッドライトのオートモード
- ⑤  ロービーム/ハイビームヘッドライト
- ⑥  リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃霧での後続車両に対するお客様の車両の被視認性を向上させます。リアフォグランプの使用に関する、国ごとに規定された法律を遵守してください。






- ▶ **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを  または **AUTO** にまわします。



- ▶  スイッチを押します。メーターパネルの黄色の  表示灯が点灯します。
- ▶ **リアフォグランプを消灯する：**  スイッチを押します。メーターパネルの黄色の  表示灯が消灯します。

車幅灯

■ バッテリーが過放電すると、次のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯  を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、 右側または  左側パーキングランプを点灯してください。








- ①  左側パーキングランプ
- ②  右側パーキングランプ
- ③  車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- ④ **AUTO** ライトセンサーの制御によるヘッドライトのオートモード
- ⑤  ロービーム/ハイビームヘッドライト
- ⑥  リアフォグランプ



- ▶ **点灯する**：ライトスイッチを  にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯  が点灯します。

パーキングランプ



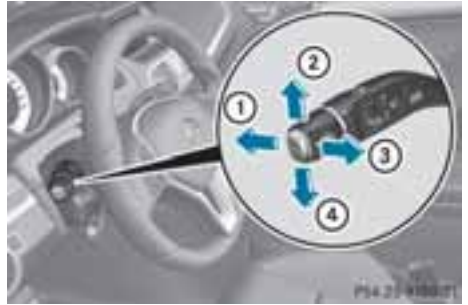
- ①  左側パーキングランプ
- ②  右側パーキングランプ
- ③  車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- ④ **AUTO** ライトセンサーの制御によるヘッドライトのオートモード
- ⑤  ロービーム/ハイビームヘッドライト
- ⑥  リアフォグランプ

パーキングランプを点灯すると、車両の対応する側の照明が点灯します。

- ▶ **パーキングランプを点灯する**：キーがエンジンスイッチにないか、または **O** の位置になっています。
- ▶ ライトスイッチを  (車両の左側) または  (車両の右側) にまわします。

コンビネーションスイッチ

方向指示灯

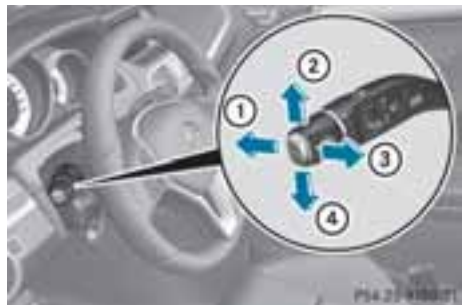


- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯 (右)
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯 (左)

▶ **短時間点滅させる**：手応えのあるところまで、コンビネーションスイッチを矢印 ② または ④ の方向に軽く押しします。
対応する方向指示灯が 3 回点滅します。

▶ **点滅させる**：コンビネーションスイッチを矢印 ② または ④ の方向に押しします。

ハイビームヘッドライト




- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯 (右)

③ パッシングライト


④ 方向指示灯 (左)

▶ **ハイビームヘッドライトを点灯する：**
エンジンスイッチのキーを **2** の位置に
まわすか、エンジンを始動します。


▶ ライトスイッチを  または **AUTO** に
まわします。

▶ 手応えのあるところを越えるまで、コ
ンビネーションスイッチを矢印 ① の
方向に押します。

AUTO の位置のときは、周囲が暗くエン
ジンがかかっているときのみ、ハイ
ビームヘッドライトが点灯します。

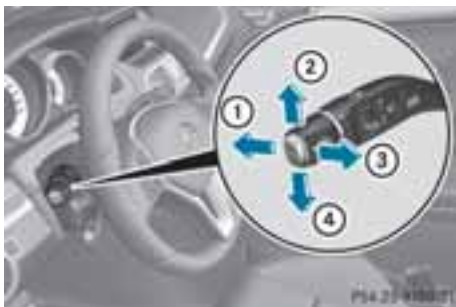
ハイビームヘッドライトが点灯すると、
メーターパネルの青色の表示灯 
が点灯します。

▶ **ハイビームヘッドライトを消灯する：**
コンビネーションスイッチを通常の時
位置に戻します。

メーターパネルの青色の表示灯 
が消灯します。

❶ アダプティブハイビームアシスト装
備車両：アダプティブハイビームアシ
ストが作動しているときは、ハイビーム
ヘッドライトの作動をコントロールしま
す。(▶ 146 ページ)

パッシングライト



① ハイビームヘッドライト

② 方向指示灯 (右)

③ パッシングライト

④ 方向指示灯 (左)

▶ **作動させる：** エンジンスイッチのキー
を **1** または **2** の位置にまわすか、エ
ンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ③
の方向に引きます。

非常点滅灯



▶ **非常点滅灯を作動させる：** スイッチ ①
を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。こ
のときにコンビネーションスイッチを
使用して方向指示灯を作動させたとき
は、車両の対応する側の方向指示灯の
みが点滅します。

▶ **非常点滅灯を解除する：** スイッチ ①を
再度押します。

非常点滅灯は、以下のときに自動的に点
滅します。

- エアバッグが作動した、または
- 車両が 70 km/h 以上の速度から急減
速して停止した

フルブレーキを効かせた後に車両が
10 km/h 以上の速度に再度達した場合
は、非常点滅灯は自動的に消灯します。

❶ 非常点滅灯は、イグニッションがオ
フの場合でも作動し続けます。

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる最新機能を提供します。システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグライト強化機能が含まれます。システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して"インテリジェントライトシステム"を作動させたり解除したりできます(▶ 268 ページ)。

アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪を操舵する動きに応じてヘッドライトの向きを変化させるシステムです。このようにして、走行中は対応する範囲が照射されたままになります。このシステムにより、歩行者、自転車、動物などを容易に認識することができます。

作動： ライトが点灯しているとき

コーナリングライト



コーナリングライトは、コーナリング時に進行方向の路面を広く照射し、夜間の交差点などで運転者の視界を向上させます。ロービームヘッドライトが点灯しているときのみ、作動させることができます。

作動：

- 40 km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させた、またはステアリングをまわした場合
- 40 km/h ~ 70 km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

解除： 40 km/h 以上の速度で走行しているか、またはステアリングを直進位置にまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯したままになりますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード



作動：110 km/h 以上の速度で走行していて、少なくとも1,000 m ならかの大きなステアリングの動きがない場合、または130 km/h 以上の速度で走行している場合。

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

解除：作動後に80 km/h 以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能



フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動：70 km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合

解除：作動後に100 km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合

アダプティブハイビームアシスト

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシストは、以下の道路利用者には反応しません。

- 歩行者などライトを持っていない
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗い
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトが遮られている

まれに、アダプティブハイビームアシストはライトをもっている道路使用者をまったく検知しなかったり、検知が遅れたりします。このような場合は、ハイビームヘッドライトが自動で切り替わらなかったり、他の道路使用者がいるときに不意に切り替わる場合があります。事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

アダプティブハイビームアシストは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、明るさ、視界および交通状況に応じて車両のライトを調整する責任があります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている

全体的な注意事項



この機能を設定すると、ヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り替えることができます。ライトを点灯している対向車両、または先行車両をシステムが検知し、ヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

このシステムは、他車との距離に応じてロービームの照射範囲を自動調整します。システムが他の車両を検知しなくなると、ハイビームヘッドライトを再度作動させます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側のオーバーヘッドコントロールパネル付近に装着されています。


アダプティブハイビームアシストの作動/解除の切り替え



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯 (右)
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯 (左)

▶ **作動させる**： ライトスイッチを **AUTO** にまわします。


▶ 手応えのあるところを越えるまで、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に押します。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯  が点灯します。



25 km/h 以上の速度で走行している場合：


ヘッドライトの照射範囲は、他車や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 30 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合：

自動的にハイビームヘッドライトが作動します。メーターパネルの表示灯  も点灯します。

25 km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が検知されている、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが解除されます。メーターパネルの表示灯  が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は点灯したままになります。

- ▶ **解除する：** コンビネーションスイッチを通常的位置に戻す、またはライトスイッチを他の位置に動かします。メーターパネルの  表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームアシスト・プラス

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシスト・プラスは以下の道路使用者を認識しません。

- 歩行者などライトを持っていない人
- 自転車などライトの暗い人
- フェンスなどでライトが遮られている人

ごくまれに、アダプティブハイビームアシスト・プラスはライトを持っている道路使用者を認識しない、または認識が非常に遅れることがあります。このような場合は、他の道路使用者がいるにもかかわらず、自動ハイビームヘッドライトが解除されなかったり、作動したりします。事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。

アダプティブハイビームアシスト・プラスは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシスト・プラスは単なる支援にすぎません。運転者には、明るさ、視界および交通状況に応じて車両のライトを調整する責任があります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている

全体的な注意事項



アダプティブハイビームアシスト・プラスにより、ロービーム、パーシャルハイビームおよびハイビームヘッドライトの間で自動的に切り替えることができます。

パーシャルハイビーム照明は、他の道路使用者を越すようなハイビームの配光になっています。このようにして、他の道路使用者はハイビームの範囲外になります。これにより眩しさを防ぎます。先行車両がある場合は、例えばハイビームヘッドライトはその右または左の範囲を照射し、先行車両はロービームヘッドライトによって照射されます。

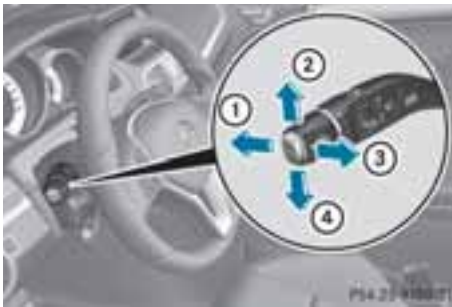
このシステムは、他車との距離に応じてロービームの照射範囲を自動調整します。システムが他の車両を検知しなくな

ると、ハイビームヘッドライトを再度作動させます。

ハイビームまたはパーシャルハイビームヘッドライトが交通標識からの非常に強い反射の原因となっている場合は、ライトは自動的に暗くなり、反射によって引き起こされる眩しさが避けられます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側のオーバーヘッドコントロールパネル付近に装着されています。

アダプティブハイビームアシスト・プラスの作動/解除の切り替え



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯 (右)
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯 (左)

▶ **作動させる**： ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

▶ **手応えがあるところを越えるまで**、コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に押しします。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯 **[D]** が点灯します。

25 km/h 以上の速度で走行している場合：

ヘッドライトの照射範囲は、他車や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 30 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合：

自動的にハイビームヘッドライトが作動します。メーターパネルの表示灯 **[D]** も点灯します。

45 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されている場合：

パーシャルハイビームヘッドライトが自動的に作動します。メーターパネルの表示灯 **[D]** も点灯します。

約 40 km/h 以下の速度で走行している場合：

パーシャルハイビームヘッドライトが自動的に解除されます。他の道路使用者が検知されていない場合は、ハイビームヘッドライトが作動します。

約 25 km/h 以下の速度で走行しているか、または道路が十分に照らされている場合：

自動的にハイビームヘッドライトが解除されます。メーターパネルの表示灯 **[D]** が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯 **[D]** は点灯したままになります。

▶ **解除する**： コンビネーションスイッチを通常的位置に戻す、またはライトスイッチを他の位置に動かします。メーターパネルの表示灯 **[D]** が消灯します。

ヘッドライト内側の曇り

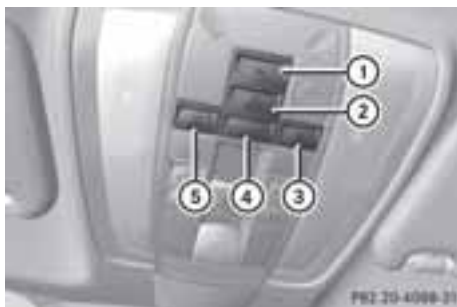
外気の湿度が高いときは、ヘッドライト内面が曇ることがあります。

- ▶ ライトを点灯して発進します。
走行の長さおよび天候状態（湿度と温度）により、曇り具合は低下します。
曇り具合が低下しないとき

- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場
でヘッドライトの点検を受けてください。

ルームライト

ルームライトの概要



オーバーヘッドコントロールパネル（例：クーペ）

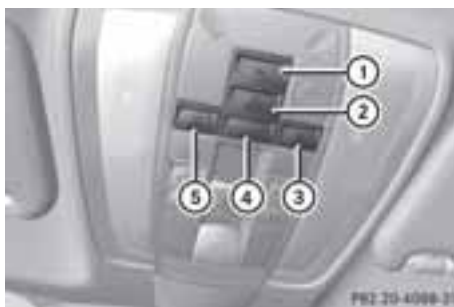
- ① リアルームライトの点灯/消灯の切り替え（クーペのみ）
- ② ルームライト自動コントロールのオン/オフの切り替え
- ③ 右側読書灯の点灯/消灯の切り替え
- ④ フロントルームライトの点灯/消灯の切り替え
- ⑤ 左側読書灯の点灯/消灯の切り替え

ルームライトの操作

全体的な注意事項

車両バッテリーの放電を防止するため、エンジンスイッチのキーが **2** の位置以外のときは、ルームライトの機能は一定時間後に自動的に解除されます。

ルームライトの自動点灯



前席のオーバーヘッドコントロールパネル

- ① リアルームライトの点灯/消灯の切り替え（クーペのみ）
- ② ルームライト自動コントロールのオン/オフの切り替え
- ③ 右側読書灯の点灯/消灯の切り替え
- ④ フロントルームライトの点灯/消灯の切り替え
- ⑤ 左側読書灯の点灯/消灯の切り替え

- ▶ **オン/オフを切り替える：** スイッチを押します。

自動点灯モードが設定されているときは、スイッチはオーバーヘッドコントロールパネルと同じ高さになります。

ルームライトは以下のときに自動的に点灯します。






- 車両を解錠する
- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く

エンジンスイッチからキーを抜いたときは、ルームライトが短時間点灯します。この遅延消灯は、マルチファンクションディスプレイを使用して設定できます(▶ 270 ページ)。


ルームライトの手動点灯




前席のオーバーヘッドコントロールパネル

- ①  リアルームライトの点灯/消灯の切り替え (クーペのみ)
- ②  ルームライト自動コントロールのオン/オフの切り替え
- ③  右側読書灯の点灯/消灯の切り替え
- ④  フロントルームライトの点灯/消灯の切り替え
- ⑤  左側読書灯の点灯/消灯の切り替え

▶ フロントルームライトを点灯/消灯する： スイッチを押します。

▶ リアルームライトを点灯/消灯する (クーペのみ)： スイッチを押します。

▶ 読書灯を点灯/消灯する： スイッチを押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときに、ルームライトが自動的に点灯します。

▶ 緊急時点灯機能をオフにする：非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーを使用して、車両を施錠してから解錠します。

電球の交換

重要な安全上の注意事項

警告

作動時、電球、ランプおよびコネクターは非常に熱くなります。電球を交換するとき、これらの構成部品に触れると火傷するおそれがあります。けがの危険性があります。

電球を交換するとき、これらの構成部品に触れると火傷するおそれがあります。

静的 LED ヘッドライト装備車両

落下した、またはガラス管に傷がある電球は使用しないでください。

以下のときに、電球が破裂するおそれがあります。

- 触れた
- 熱くなっている
- 落とした
- 傷を付けた

この用途のために設計された、放電管の電球のみを使用してください。同一種類の、および規定された電圧の予備電球のみを取り付けてください。

ガラス管上に付いた痕は、電球の寿命を短くします。ガラス管を素手で触らないでください。必要に応じて、冷えているときにガラス管をアルコールで清掃し、毛羽立ちのない布で拭き取ります。

作業している間は、電球を水分から保護してください。電球に液体が接触しないようにしてください。

リストに挙げられている電球のみを交換してください (p. 152 ページ)。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

電球交換の支援が必要なときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

電球やライトは、車両安全性の重要な要素です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

インテリジェントライトシステム装備車両

車両のフロントおよびリアライトクラスターには、LED ライトバルブが装備されています。お客様自身でランプの交換を行なわないでください。必要な専門知識とツールを備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

ライトは車両安全性の重要な要素です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球交換の概要 - 電球

以下の電球を交換できます。電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。



静的 LED ヘッドライト

① ハイビームヘッドライト : H7 55 W

フロントの電球交換

ハイビームヘッドライト (静的 LED ヘッドライト)



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ▶ソケット ② を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ▶ソケット ② から電球を抜き取ります。
- ▶新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- ▶ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

フロントワイパー

フロントワイパーの作動/停止の切り替え

! ウィンドウが乾いているときは、ワイパーを使用しないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。また、ウィンドウに付着したほこりなどでウィンドウの表面に傷が付くおそれがあります。

乾燥した気候条件でフロントワイパーをオンにする必要がある場合は、必ずウォッシャー液を噴射しながら操作してください。

! 車両を自動洗車機で洗車した後にワイパーを使用しても油膜が残るときは、ウィンドウに付着したワックスや洗浄液などが原因と考えられます。ウィンドウをウォッシャー液で洗浄してください。

! レインセンサーを使用した間欠ワイパーの場合、フロントウィンドウが乾いているときにウィンドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動をし、ワイパーが不意に作動するおそれがあります。ワイパーブレードを損傷したり、ウィンドウに傷が付くおそれがあります。

このため、雨が降っていないときは必ずワイパースイッチを停止の位置にしてください。



コンビネーションスイッチ

- ① ワイパー停止
- ② 低速間欠モード（レインセンサーは低感度に設定）
- ③ 高速間欠モード（レインセンサーは高感度に設定）
- ④ 低速作動モード
- ⑤ 高速作動モード
- ⑥ 1回のワイパー作動/ ウォッシャー液を使用してワイパーを作動させる

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを作動の位置にします。

または の位置では、雨滴量に応じてワイパーの作動が自動的に調整されます。 の位置では、レインセンサーは の位置よりも高感度となり、ワイパーはより短い間隔で作動します。ワイパーブレードが劣化すると、ウィンドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて、周囲の交通状況を把握できないおそれがあります。ワイパーブレードは春と秋の年に2回交換してください。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

❗ ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

❗ ワイパーアームを起こしているときは絶対にボンネットを開かないでください。

ワイパーブレードが取り付けられていない状態では絶対にワイパーアームをフロントウインドウの元の位置に戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持って作業をしてください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ウインドウに当たってウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

ワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にします。
- ▶ ワイパーアームをウインドウから起こします。



- ▶ 解除ノブ ① をしっかりと押し、ワイパーブレード ② をワイパーアームから矢印の方向に引き上げます。

ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ 新しいワイパーブレード①をワイパーアームの固定部に合わせ、矢印の方向へ所定の位置にスライドさせます。ワイパーブレードを音が聞こえるまでかみ合わせます。
- ▶ ワイパーブレードが確実に固定されたことを確認します。
- ▶ ワイパーアームをウインドウの元の位置に戻します。

フロントワイパーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ワイパーに引っかかりがある。	<p>葉や雪などの障害物により、ワイパーの作動が妨げられている。ワイパーモーターの作動が停止している。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none">▶ エンジンスイッチを操作してエンジンを停止し、運転席ドアを開いてください。▶ 障害物を取り除いてください。▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが全く機能しない。	<p>ワイパーが誤作動する。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ コンビネーションスイッチの別のモードを選択してください。▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

役に立つ情報	158
エアコンディショナーシステムの 概要	158
エアコンディショナーシステムの 操作	162
送風口の調整	171

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意事項

以下のページで推奨されている設定に注意してください。さもないとウィンドウが曇りやすくなります。

ウィンドウを曇りから防ぐには以下を行います：

- 短時間だけエアコンのオン / オフを切り替える
- 短時間だけ内気循環モードをオンにする
- AC モードをオンにする
- 必要に応じて、フロントウィンドウのデフロスター機能を短時間オンにする

エアコンディショナーは温度と車内の湿度を調整して、空気中の汚染物質をフィルターにかけます。

エアコンディショナーは、エンジンが作動中の場合のみ使用可能です。サイドウィンドウおよびルーフが閉じているときにのみ、最適な作動が得られます。

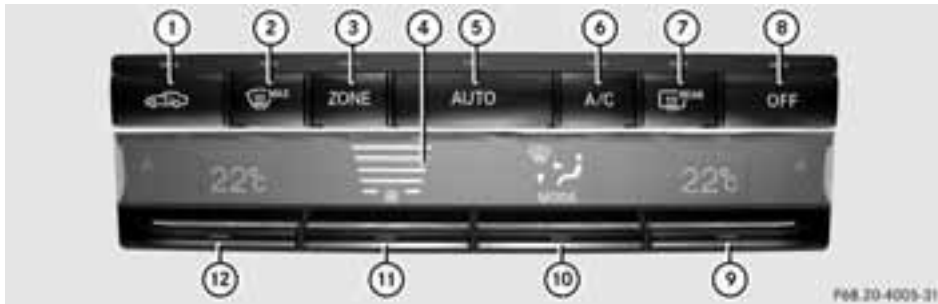
余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ作動または解除することができます。(▷ 170 ページ)

i 暖かい気候の間は、例えば、コンピニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します(▷ 98 ページ)。これにより、冷却処理が早くなり、より早く希望の車内温度に達します。

i 内蔵フィルターは、ほこりおよびすすの大部分の粒子をろ過し、花粉を完全にろ過することができます。ガスによる汚染物質および臭いも減少させます。詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔を必ず遵守してください。重度の大気汚染のような環境の状況によるので、間隔は整備手帳に記述されているよりも短くなることがあります。

i キーを抜いてから 1 時間は、余熱ヒーター機能が自動的に作動する可能性があります。その後、オートエアコンディショナーを乾燥させるために、車両は 30 秒間換気されます。

オートエアコンディショナー（2ゾーン）のコントロールパネル



FM8.20-4005-31

- ① 内気循環モードの設定 / 解除 (▷ 169 ページ)
- ② フロントウィンドウの曇りを取る (▷ 167 ページ)
- ③ ゾーン機能のオン / オフの切り替え (▷ 166 ページ)
- ④ ディスプレイ
- ⑤ エアコンディショナーを AUTO モードに設定 (▷ 164 ページ)
- ⑥ AC モードでの冷房を設定 / 解除 (▷ 163 ページ)
- ⑦ リアデフォグの作動と停止の切り替え (▷ 168 ページ)
- ⑧ エアコンディショナーのオン / オフを切り替え (▷ 162 ページ)
- ⑨ 温度設定 (右) (▷ 165 ページ)
- ⑩ 送風配分の設定 (▷ 166 ページ)
- ⑪ 送風量の設定 (▷ 166 ページ)
- ⑫ 温度設定 (左) (▷ 165 ページ)

オートエアコンディショナー
(2ゾーン) の使用に関する情報

オートエアコンディショナー

以下には、オートエアコンディショナー（2ゾーン）の最適な使用に関する注意事項と推奨が含まれています。

- **AUTO** および **A/C** スイッチ を使用して、エアコンディショナーを作動させます。**AUTO** および **A/C** スイッチの表示灯が点灯します。
- 温度を 22℃ に設定します。
- "フロントウィンドウデフロスター"機能は、フロントウィンドウが再度クリ

アになるまでの短時間のみ使用してください。

- 内気循環モードは、不快な外気の臭いがある場合やトンネル内のときなどの短時間のみ使用してください。さもないと、内気循環モードでは車内に外気が取り込まれないので、ウィンドウが曇るおそれがあります。
- ゾーン機能を使用して、助手席側の設定温度を個別に調整したり、運転席側の設定温度に連動させることができま

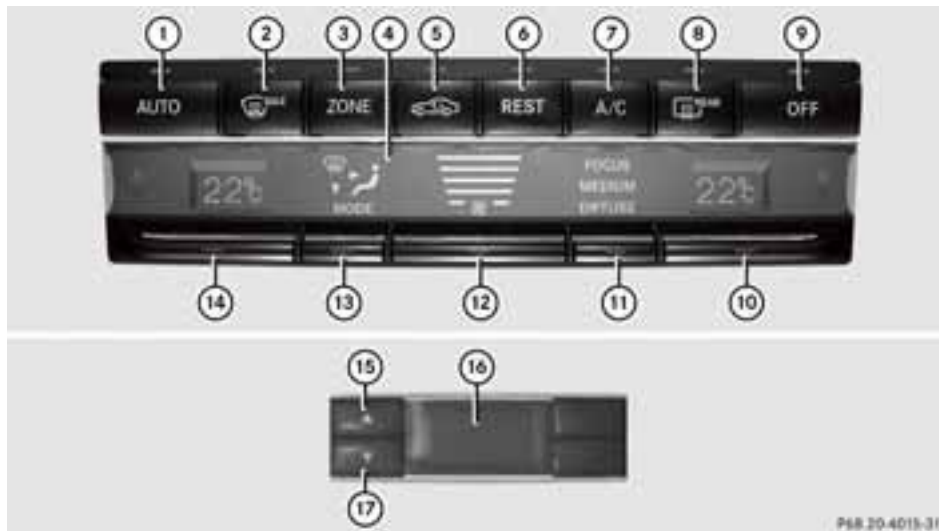
す。 **ZONE** スイッチの表示灯が消灯します。

- **COMAND システム装備車両**： エアコンディショナーの設定を変更した場合は、エアコンディショナーの状況表示が COMAND ディスプレイの表示下部に約 3 秒間表示されます。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。エアコンディショナーのさまざまな機能のそのときの設定が表示されます。

ECO スタートストップ機能

自動エンジン停止中は、エアコンディショナーは限られた出力でのみ作動します。エアコンディショナーの最大出力が必要な場合は、ECO スイッチを押すことにより、ECO スタートストップ機能を解除することができます (▶ 182 ページ)。

オートエアコンディショナー（3ゾーン）のコントロールパネル



フロントコントロールパネル

- ① エアコンディショナーを AUTO モードに設定する (▷ 164 ページ)
- ② フロントウインドウの曇りを取る (▷ 167 ページ)
- ③ ゾーン機能の作動/解除の切り替え (▷ 166 ページ)
- ④ ディスプレイ
- ⑤ 内気循環モードの作動/解除 (▷ 169 ページ)
- ⑥ 余熱ヒーター機能の作動/停止 (▷ 170 ページ)
- ⑦ AC モードの作動/解除 (▷ 163 ページ)
- ⑧ リアデフォグラーの作動と停止の切り替え (▷ 168 ページ)
- ⑨ エアコンディショナーの作動/停止の切り替え (▷ 162 ページ)
- ⑩ 温度の設定 (右) (▷ 165 ページ)
- ⑪ エアコンディショナーモードの設定 (▷ 164 ページ)
- ⑫ 送風量の設定 (▷ 166 ページ)
- ⑬ 送風配分の設定 (▷ 166 ページ)
- ⑭ 温度の設定 (左) (▷ 165 ページ)

リアコントロールパネル

- ⑮ 温度を上げる (▷ 165 ページ)

- ⑯ ディスプレイ
- ⑰ 温度を下げる (▷ 165 ページ)

オートエアコンディショナー (3 ゾーン) の使用に関する情報

オートエアコンディショナー

以下に、オートエアコンディショナー (3 ゾーン) を最大限利用するための指示や推奨事項が記載されています。

- **AUTO** および **A/C** スイッチ を使用して、エアコンディショナーを作動させます。**AUTO** および **A/C** スイッチの表示灯が点灯します。
- AUTO モードでは、**AIR FLOW** スイッチを使用してエアコンディショナーモードを設定する事もできます (FOCUS/MEDIUM/DIFFUSE)。通常は、MEDIUM モードに設定することをお勧めします。
- 温度を 22 °C に設定します。
- "フロントウインドウデフロスター"機能は、フロントウインドウが再度クリアになるまでの短時間のみ使用してください。
- 内気循環モードは、不快な外気の臭いがある場合やトンネル内のときなどの短時間のみ使用してください。さもないと、内気循環モードでは車内に外気が取り込まれないので、ウインドウが曇るおそれがあります。
- ゾーン機能を使用して、助手席側および後席の設定温度を個別に調整したり、運転席側の設定温度に連動させることができます。**ZONE** スイッチの表示灯が消灯します。
- イグニッションをオフにした後に車内を暖房または換気したいときは、余熱ヒーター機能を使用してください。余熱ヒーター機能は、イグニッションが

オフのときにのみ、作動または停止することができます。

- **COMAND システム装備車両**： エアコンディショナーの設定を変更した場合は、エアコンディショナーの状況表示が COMAND ディスプレイの表示下部に約 3 秒間表示されます。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。エアコンディショナーのさまざまな機能のそのときの設定が表示されます。

ECO スタートストップ機能

自動エンジン停止中は、エアコンディショナーは限られた出力でのみ作動します。エアコンディショナーの最大出力が必要な場合は、ECO スイッチを押すことにより、ECO スタートストップ機能を解除することができます (▷ 182 ページ)。

エアコンディショナーシステムの操作

エアコンディショナーの作動/停止の切り替え

全体的な注意事項

エアコンディショナーを停止すると、空気の供給および空気の循環も停止します。ウインドウが曇るおそれがあります。そのため、エアコンディショナーは短時間のみ停止してください。

- ① 通常は、**AUTO** スイッチを押して、エアコンディショナーを作動させます。(▷ 164 ページ)

作動/停止

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。(▶ 177 ページ)
 - ▶ **作動させる**：エアコンディショナーコントロールパネルの **AUTO** スイッチを押します。
AUTO スイッチの表示灯が点灯します。送風量と送風配分が、AUTO モードに設定されます。
- または
- ▶ **OFF** スイッチを押します。
OFF スイッチの表示灯が消灯します。以前の設定が再度作動します。
 - ▶ **停止する**：再度、**OFF** スイッチを押します。
 スイッチ **OFF** の表示灯が点灯します。

AC モードの設定/解除

全体的な注意事項

"AC モード"を解除した場合は、車内の空気は冷却されません。そして、車内の空気は除湿もされません。ウインドウはより早く曇ることがあります。そのため、AC モードは短時間のみ解除してください。

"AC モード"は、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。車内の空気は、選択された温度に応じて冷却・除湿されます。

AC モードが作動しているときは、車両の下から凝結水が落ちることがあります。これは正常なことで、故障していることを示すものではありません。

作動/解除

- ▶ **作動させる**：**A/C** スイッチを押します。
 スイッチ **A/C** の表示灯が点灯します。
 - ▶ **解除する**：再度、**A/C** スイッチを押します。
A/C スイッチの表示灯が消灯します。"AC モード"には、遅れて解除される機能があります。
- i** 補助ヒーター装備車両では、"AC モード"機能が作動しているときは、補助ヒータースイッチの表示灯の1つが点灯します。

"AC モード"のトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A/C</div> スイッチの表示灯が3回点滅するか、消灯する。ACモードを作動させることができない。	故障のため、ACモードが解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エアコンディショナーをAUTOモードに設定する

全体的な注意事項

AUTOモードでは、自動的に一定の設定温度に保たれます。送風温度、送風量、送風配分の選択が自動的に制御されます。

AUTOモード機能は、"ACモード"機能が作動しているときに最適に作動します。お好みでACモードを解除することもできます。

"ACモード"を解除した場合は、車内の空気は冷却されません。そして、車内の空気は除湿もされません。ウインドウはより早く曇ることがあります。そのため、ACモードは短時間のみ解除してください。

作動/切り替え

- ▶ エンジンスイッチのキーを2の位置にまわします (▷ 177 ページ)。
- ▶ 希望の温度に設定します。
- ▶ **作動させる**：AUTO スイッチを押します。
AUTO スイッチの表示灯が点灯します。自動的な送風配分と送風量が作動します。

i オートエアコンディショナー (3ゾーン)：AUTOモードが作動している

ときは、エアコンディショナーモードを選択できます。(▷ 164 ページ)

▶ マニュアル作動に切り替える

オートエアコンディショナー (2ゾーン)：送風配分調整スイッチ 10 (▷ 159 ページ) を押します。

オートエアコンディショナー (3ゾーン)：送風配分調整スイッチ 13 (▷ 161 ページ) を押します。

AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

または

▶ オートエアコンディショナー (2ゾーン)：送風量調整スイッチ 11 (▷ 159 ページ) を押します。

オートエアコンディショナー (3ゾーン)：送風量調整スイッチ 12 (▷ 161 ページ) を押します。

AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

エアコンディショナーモードの設定

"エアコンディショナーモードの設定"機能は、オートエアコンディショナー (3ゾーン) でのみ使用可能です。

オートマチックモードでは、以下のエアコンディショナーモードを選択できます。

FOCUS やや涼しく設定される強い送風

MEDIUM 中程度の送風、標準設定

DIFFUSE やや暖かく設定され、風の流れも弱くなる弱い送風

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 177 ページ)。
- ▶ **AUTO** スイッチを押します。
- ▶ エアコンディショナーモード選択スイッチ **Ⓜ** を上または下に押して、好みのレベルを選択します。(▶ 161 ページ)

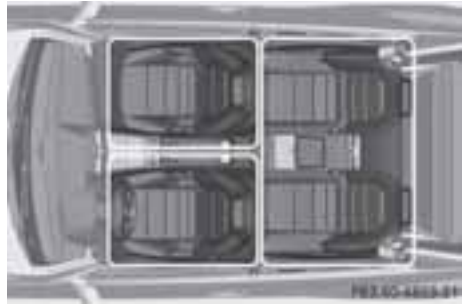
温度の設定

オートエアコンディショナー

設定温度を運転席側と助手席側で個別に調整できます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 177 ページ)。
- ▶ **上げる/下げる**： 温度調整スイッチ **Ⓢ** または **Ⓣ** を上または下に押します (▶ 159 ページ)。
少しの単位ずつ温度設定を変更してください。22 °C から開始してください。

オートエアコンディショナー









オートエアコンディショナーのゾーン

設定温度を運転席側、助手席側、後席で個別に調整できます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 177 ページ)。
- ▶ **前席の温度を上げる/下げる**： 温度調整スイッチ **Ⓢ** または **Ⓣ** を上または下に押します (▶ 161 ページ)。
少しの単位ずつ温度設定を変更してください。22 °C から開始してください。
- ▶ **フロントコントロールパネルを使用して後席の温度を上げる/下げる**： **ZONE** スイッチを押します。
ZONE スイッチの表示灯が消灯します。
- ▶ 温度調整スイッチ **Ⓢ** または **Ⓣ** を上または下に押します (▶ 161 ページ)。
少しの単位ずつ温度設定を変更してください。22 °C から開始してください。
- ▶ **リアコントロールパネルを使用して後席の温度を上げる/下げる**： リアコントロールパネルの **▼** または **▲** スイッチを押します。
少しの単位ずつ温度設定を変更してください。22 °C から開始してください。

送風配分の設定

送風配分を設定する

-  中央およびサイド送風口からの送風にする
-  足元送風口からの送風にする
-  中央およびサイド送風口、ならびに足元送風口からの送風にする（カブリオレのみ、クーペ：特定の国のみ）
-  曇り取り送風口からの送風にする
-  曇り取り、中央およびサイド送風口からの送風にする（カブリオレのみ）
-  足元および曇り取り送風口からの送風にする

i 送風配分の設定に関係なく、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。サイド送風口のダイヤルを下側にまわしたときのみ、サイド送風口を閉じることができます。

送風配分の設定

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 177 ページ)。
- ▶ クライメートコントロール（前席左右独立調整）：希望のマークがディスプレイに表示されるまで、送風配分調整スイッチ **⑩** を上または下に押します (▷ 159 ページ)。
- ▶ クライメートコントロール（後席独立調整）：希望のマークがディスプレイに表示されるまで、送風配分調整スイッチ **⑬** を上または下に押します (▷ 161 ページ)。

送風量の設定

クライメートコントロール（前席左右独立調整）

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 177 ページ)。
- ▶ **上げる/下げる**：送風スイッチ **⑪** を上または下に押します (▷ 159 ページ)。

クライメートコントロール（後席独立調整）

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 177 ページ)。
- ▶ **上げる/下げる**：送風スイッチ **⑫** を上または下に押します (▷ 161 ページ)。

バッテリーが十分に充電されていない場合は、送風出力が低下することがあります。バッテリーが再度十分に充電されると、最大での送風出力が使用可能になります。

ゾーン機能の設定/解除の切り替え

- ▶ **オンにする**： **ZONE** スイッチを押します。
ZONE スイッチ **ZONE** の表示灯が点灯します。
クライメートコントロール（前席左右独立調整）：設定温度を運転席側と助手席側で個別に調整できます。
クライメートコントロール（後席独立調整）：設定温度を運転席側、助手席側、後席で個別に調整できます。
- ▶ **オフにする**： **ZONE** スイッチを押します。
ZONE スイッチの表示灯が消灯します。
クライメートコントロール（前席左右独立調整）：運転席側と助手席側の設

定温度を連動させて設定することができます。

クライメートコントロール（後席独立調整）：運転席側、助手席側、後席の設定温度を連動させて設定することができます。


フロントウインドウの曇り取り

フロントウインドウに付着した霜や、フロントウインドウまたはサイドウインドウの内側の曇りを取る機能です。

再度フロントウインドウの曇りが取れたら、「フロントウインドウデフロスター」機能をオフにします。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 177 ページ)。


▶ **オンにする**：  スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が点灯します。エアコンディショナーが以下のように作動します。

- 高い送風量
- 高い温度
- フロントウインドウとフロントサイドウインドウへの送風
- 内気循環モードの解除


バッテリーが十分に充電されていない場合は、送風出力が低下することがあります。バッテリーが再度十分に充電されると、最大での送風出力が再度使用可能になります。

▶ **解除する**：  スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。以前の設定が再度作動します。内気循環モードは解除されたままになります。

または

▶ **AUTO** スイッチを押す。

 スイッチの表示灯が消灯します。送風量と送風配分が、AUTO モードに設定されます。

または

▶ クライメートコントロール（前席左右独立調整）：温度選択スイッチ **9** または **10** を上または下に押します (▷ 159 ページ)。

クライメートコントロール（後席独立調整）：温度選択スイッチ **10** または **14** を上または下に押します (▷ 161 ページ)。


または

▶ クライメートコントロール（前席左右独立調整）：送風量スイッチ **11** を上または下に押します (▷ 159 ページ)。

クライメートコントロール（後席独立調整）：送風量スイッチ **12** を上または下に押します (▷ 161 ページ)。

ウインドウの曇り取り

フロントウインドウの内側が曇るとき

▶ AC モード  を作動させます。



▶ AUTO モード  を作動させます。

▶ 温風がサイドウインドウに向くようにサイド送風口を調整します。



▶ ウインドウが曇り続ける場合は、「フロントウインドウのデフロスター」機能を作動させます 。

i この設定は、フロントウインドウが再度クリアになるまでのみ選択してください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ オートエアコンディショナー（2ゾーン）：ディスプレイに  または 

マークが表示されるまで、送風配分調整スイッチ ⑩ を上または下に押します (▶ 159 ページ)。

- ▶ オートエアコンディショナー (3ゾーン) : ディスプレイに  または  マークが表示されるまで、送風配分調整スイッチ ⑬ を上または下に押します (▶ 161 ページ)。
- ▶ サイドウィンドウに送風が向かないようにサイド送風口を調整します。



リアデフォグガー

全体的な注意事項

リアデフォグガーは大きな電力を消費します。そのため、ウインドウの曇りが取れたら、すぐに停止してください。または、数分後に自動的に停止します。

バッテリーの電圧が低すぎる場合は、リアデフォグガーが停止することがあります。

作動/停止

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 177 ページ)。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶  スイッチの表示灯が点灯または消灯します。

リアデフォッガーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
リアデフォッガーが短時間で停止したり、または作動させることができない。	バッテリーが十分に充電されていない。 ▶ 読書灯、ルームライト、シートヒーターなど、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されたときは、リアデフォッガーを再度作動させることができます。

内気循環モードの設定/解除

全体的な注意事項


不快なおいが外から車両に入ってくる場合は、車外からの空気の送風を解除することができます。そして、すでに車内にある空気が循環されます。


内気循環モードを作動させた場合は、特に温度が低いときにウインドウがより早く曇ることがあります。ウインドウの曇りを防ぐため、短時間のみ内気循環モードを使用してください。

内気循環モードの操作は、すべてのコントロールパネルで共通です。

作動/解除


▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします (▶ 177 ページ)。

▶ 作動させる：  スイッチを押します。

AUTO スイッチ  の表示灯が点灯します。


i オートエアコンディショナー (2ゾーン)：高い外気温度では内気循環モードが自動的に作動します。

オートエアコンディショナー (3ゾーン)：空気の汚れがひどい状態、または高い外気温度では内気循環モードが自動的に作動します。

内気循環モードが自動的に作動したときは、 スイッチの表示灯は点灯しま

せん。約 30 分後に外気が追加されます。

▶ 解除する：再度、 スイッチを押します。

 スイッチの表示灯が消灯します。

i 以下のときは、内気循環モードが自動的に解除されます。

- 外気温度が約 5℃ 以下のときは約 5 分後
- AC モードが解除されている場合は約 5 分後
- "AC モード" が作動している場合で、約 5℃ 以上の外気温度では約 30 分後

内気循環スイッチを使用時のコンビエンスオープニング/クロージング



警告


コンビエンススクローリング機能が作動している場合、身体の一部がサイドウインドウおよびスライディングルーフの閉じる部分に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。


コンビエンススクローリング機能を作動しているときは、最後まで閉じる動作に注意してください。閉じている間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

⚠ 警告





コンビニエンスオープニングを操作中は、身体の一部が巻き込まれたり、サイドウィンドウとウインドウフレームの間に挟みこまれる恐れがあります。けがの危険性があります。

開けている最中は、誰もサイドウィンドウに触れないようにしてください。誰かが挟まれた場合、ドアにあるサイドウィンドウ開閉用の  スイッチを押してください。開閉して、サイドウィンドウを止めます。サイドウィンドウを閉じる動作を継続するには、 スイッチを引きます。

- ▶ **コンビニエンスクロージング機能：** サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループ（クーペのみ）が閉じるまで、 スイッチを押して保持します。


 スイッチの表示灯が点灯します。内気循環モードが作動します。


コンビニエンスクロージング機能の作動中に、身体の一部が閉じている範囲に入ったときは、以下の手順を行ってください：

- ▶ サイドウィンドウを開閉するための  スイッチを押します。サイドウィンドウが停止します。
- ▶ サイドウィンドウを開くには、 スイッチを再度押します。
- ▶ **クーペ：** パノラミックスライディンググループを開閉するための  スイッチを押します。パノラミックスライディンググループが停止します。
- ▶ パノラミックスライディンググループを開くには、スイッチ  を引きます。

i オートリバース機能に関する注意事項は以下をご覧ください：

- サイドウィンドウ (▷ 95 ページ)
- パノラミックスライディンググループ（クーペのみ）(▷ 114 ページ)

▶ **コンビニエンスオープニング機能：** サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループ（クーペのみ）が開くまで、 スイッチを押して保持します。サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループ（クーペのみ）が元の位置まで動いて戻ります。

 スイッチの表示灯が消灯します。内気循環モードが解除されます。

i コンビニエンスクロージング機能で閉じた後に、サイドウィンドウまたはパノラミックスライディンググループ（クーペのみ）を手動で開いた場合、コンビニエンスオープニング機能を使用して開いたときはその位置のままになります。

余熱ヒーター機能の作動/停止**全体的な注意事項**

余熱ヒーター機能は、オートエアコンディショナーのみに装備されています。エンジンを停止した後約 30 分間、エンジンの余熱を利用して停止した車両を暖め続けることができます。暖房時間は、車内で設定された温度によります。クーペ：“余熱ヒーター”機能は、サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが閉じている状態でのみ最適に機能します。

カブリオレ：“余熱ヒーター”機能は、ソフトトップが閉じている状態でのみ最適に機能します。

作動/停止

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわすか、または抜きます (▶ 177 ページ)。

▶ **作動させる**： **REST** スイッチを押します。

REST スイッチの表示灯が点灯します。

i 余熱ヒーター機能が作動している場合は、ウインドの内側が曇ることがあります。

i 設定された送風量に関係なく、一定の少ない送風量に保たれます。

i 外気温度が高いときに余熱ヒーター機能を作動させると、換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

▶ **停止する**： **REST** スイッチを押します。

REST スイッチの表示灯が消灯します。

余熱ヒーター機能は、以下のときに自動的に停止します。

- 約 30 分後
- イグニッションをオンにしたとき
- バッテリーの電圧が低下した場合

送風口の調整

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

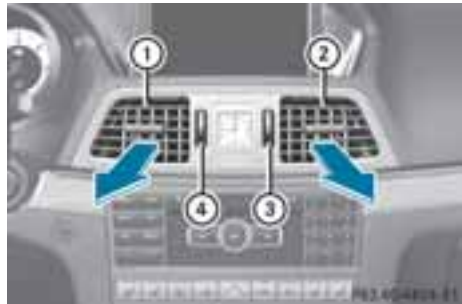
送風口から熱風や冷風が吹き出されることがあります。そのため、送風口に身体を近づけたままにしていると、火傷やしもやけなどを起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

すべての乗員が送風口と十分な距離を確保していることを確認してください。必要に応じて、送風の向きを車内の他のエリアに変えます。

送風口から外気を直接車内に取り入れるため、以下の注意事項を守ってください。

- フロントウインドウとボンネットの間にある吸気口に氷、雪または葉などの妨害物がないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口をふさがないように注意してください。

中央送風口の調整



- ① 中央送風口 (左側)
- ② 中央送風口 (右側)
- ③ 中央送風口ダイヤル (右側)
- ④ 中央送風口ダイヤル (左側)

▶ **開く/閉じる**：ダイヤル ③ および ④ を上または下にまわします。

サイド送風口の調整



- ① 曇り取り送風口
- ② サイド送風口
- ③ サイド送風口ダイヤル

▶ **開閉する**：ダイヤル ③ を上または下にまわします。

グローブボックス送風口の調整

❗ 暖房中は、グローブボックスの送風口を閉じてください。

外気温が高い時は、グローブボックス内の送風口を開いて、エアコンを AC モード(冷房・除湿)に設定してください。グローブボックス内の熱の影響を受けやすい収納物が損傷するおそれがあります。



- ① 送風口ダイヤル
- ② 送風口

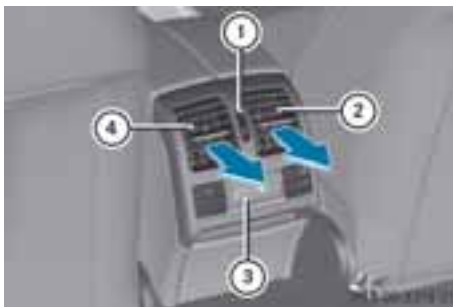
オートエアコンディショナーが作動しているときは、収納物を冷やすためなどに

グローブボックス内に送風することができます。送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

▶ **開く/閉じる**：ダイヤル ① を時計回り、または反時計回りにまわします。

リア送風口の調整

リア中央送風口を調整する



- ① リア中央送風口開閉ダイヤル
- ② リア中央送風口 (右)
- ③ リア操作パネル、オートエアコンディショナー (3ゾーン) 装備のみ
- ④ リア中央送風口 (左)

▶ **開閉する**：ダイヤル ① を上または下にまわします。

エアスクーフ送風口の送風出力の設定 (カブリオレ)

⚠ 警告

送風口から熱風や冷風が吹き出されることがあります。そのため、送風口に身体を近づけたままにしていると、火傷やしもやけなどを起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

すべての乗員が送風口と十分な距離を確保していることを確認してください。必要に応じて、送風の向きを車内の他のエリアに変えます。

⚠ 警告

エアスカーフがオンになっているとき、非常に高熱の空気がヘッドレストの送風口から流れ出る場合があります。そのため、送風口に身体を近づけたままにしていると、火傷をするおそれがあります。けがの危険性があります。
熱くなりすぎる前にヒーターの出力を下げてください。



エアスカーフ送風口①の送風出力は、エアスカーフスイッチを使用して調整できます。(▶ 129 ページ)

役に立つ情報	176
慣らし運転の注意事項	176
走行	176
オートマチックトランスミッション	185
給油	194
駐車	197
運転のヒント	199
走行システム	203

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 23 ページ)

- エンジンブレーキを効かせるためにマニュアルギアシフトでギアをシフトダウンしないでください。
- 踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏み込む（キックダウン）ことはできるだけ避けてください。

約 1,500 km 後は、最大荷重およびエンジン回転数まで車両を徐々に加速することができます。

i エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

慣らし運転の注意事項

重要な安全上の注意事項

交換された新しいブレーキパッド/ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適なブレーキ効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

最初の約 1,500 km まで

最初に十分な注意を払ってエンジンを取り扱った場合は、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約 1,500 km までは、速度と回転数を変えて走行してください。
- アクセルをいっぱい踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の $\frac{2}{3}$ を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。

走行

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルをロックすることがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。ペダルに常に十分な空間があることを確認するために、フロアマットは操作の妨げにならないように、ペダルから所定の余裕をとってしっかりと装着してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

⚠ 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下のようになることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 素早く暖機運転します。 エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。 駆動系部品が損傷するおそれがあります。

キーの位置

キー



- 0 キーを抜く
- 1 エンジン停止時にワイパーなどの電気装備が使用できる位置
- 2 イグニッション（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置
- 3 エンジンを始動する

i キーがその車両のものでなくても、イグニッションロックに差し込んで回すことはできません。しかし、イグニッションはオンになりません。エンジンの始動はできません。

キーレスゴー

全体的な注意事項

- キーは、以下のものと一緒に持ち運ばないでください。
 - 携帯電話や別のリモコンキーなどの電子機器
 - 硬貨や金属フィルムなどの金属類
- キーレスゴーキーを金属ケースなどのような金属製の物と一緒に保管しないでください。

キーレスゴーの機能に障害が生じるおそれがあります。

キーレスゴー装備車両には、キーレスゴー機能が内蔵されたキーと脱着可能な

キーレスゴースイッチが装備されています。

キーレスゴーで操作を行なうには、車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを差し込む必要があります。

キーレスゴースイッチを押すたびに、イグニッション位置が切り替わります。これは、ブレーキペダルを踏んでいない場合のみです。

ブレーキペダルを踏んだ状態でキーレスゴースイッチを押すと、ただちにエンジンが始動します。

キーレスゴーでのキーの位置



電源供給をオンにする

- ▶ **ポジション 0**：キーレスゴースイッチ ① がまだ押されていない場合は、エンジンスイッチからキーが抜かれていることに相当します。
- ▶ **ポジション 1**：キーレスゴースイッチ ① を押します。

電源供給がオンになります。これでワイパーなどの電気装備を作動させることができます。

イグニッションをオンにする

- ▶ **ポジション 2** (イグニッション)：キーレスゴースイッチ ① を 2 度押しします。

イグニッションがオンになります。

- ❗ 次の場合は、イグニッションがオフになります：

- 運転席ドアが開かれて、そして
- この位置のときにキーレスゴースイッチ ① を 1 度押しします。

キーレスゴースイッチの取り外し



- ▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

- ❗ キーレスゴースイッチ ① をエンジンスイッチ ② に差し込んだときは、システムの認識のために約 2 秒間を必要とします。その後、キーレスゴースイッチ ① を使用することができます。

キーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んでまわすことにより、通常の方法でエンジンを始動することができます。

- ❗ キーレスゴースイッチは、車から離れるときでもエンジンスイッチから取り外す必要はありません。

エンジンの始動

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- ドアを開けることによって、他の人々や道路利用者を危険にさらすおそれがあります。
- 車両から降りて、通過する車にぶつかっておそれがあります。
- 車両の装備品を操作してしまうおそれがあります。

さらに以下のような場合に、子供が車両を動かしてしまうおそれもあります。

- パーキングブレーキを解除する。
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジションPからシフトする。
- エンジンを始動する。

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物がないうことを確認してください。

❗ エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

全体的な注意事項

❶ 冷間始動後は最大 30 秒 触媒コンバーターが予熱されます。この間、エンジンの音が変わることがあります。

オートマチックトランスミッション

▶ シフトポジションを **P** にしてください。
マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に **P** が表示されます。

❶ トランスミッションがポジション **N** のときも、エンジンを始動することができます。

キーによるエンジンの始動

❶ キーレスゴー操作でなく、キーを使用してエンジンを始動するには、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置にまわして (▶ 177 ページ)、エンジンが始動したらすぐに放します。

キーレスゴースイッチ操作によるエンジンの始動

❶ エンジンスイッチにキーを差し込まずに、キーレスゴースイッチを使用して車両を手動で始動することができます。車内にキーがあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。エンジン始動のこのモードは、ECO スタートストップの

自動エンジンスタート機能と独立して作動します。

- ▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。
- ▶ キーレスゴースイッチを一度押します (▷ 177 ページ)。
エンジンが始動します。

発進

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

- ▶ ブレーキペダルを踏んでそのまま保持します。
- ▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。
- ▶ パーキングブレーキを解除します (▷ 198 ページ)。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 注意しながらアクセルペダルを踏みます。

i ブレーキペダルを踏んでいるときのみに、トランスミッションをポジション **P** から希望のポジションにシフトすることができます。その後にのみ、パーキングロックが解除されます。ブレーキペダルが踏まれていない場合も、DIRECT SELECT レバーを動かすことができますが、パーキングロックは効いたままになります。

i 発進すると、自動的に車両が施錠されず。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます (▷ 271 ページ)。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。そのため、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

⚠ 警告

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

- ▶ ブレーキペダルから足を放します。
車両はその後、約 1 秒間停止します。
- ▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- トランスミッションがポジションが **N** である

- ・パーキングブレーキが効いているとき
- ・ESP®が故障しているとき

ECO スタートストップ機能

概要

特定の条件下で車両が停止した場合は、ECO スタートストップ機能は自動的にエンジンを停止します。

再び発進するときに、自動的にエンジンが始動します。その結果、ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動します。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

全体的な注意事項



① ECO スタートストップ機能表示

マルチファンクションディスプレイに **ECO** マークが緑色で表示される場合は、車両が停止したときに ECO スタートストップ機能がエンジンを自動的に停止します。

キーまたはエンジンスイッチを使ってエンジンを始動させるたびに、ECO スタートストップ機能が作動します。

ECO スタートストップ機能が手動で解除された(▷ 182 ページ)、または故障が原因でシステムが解除された場合は、**ECO** マークは表示されません。

詳細は、自動エンジン停止(▷ 181 ページ) および 自動エンジンスタート(▷ 182 ページ)をご覧ください。

エンジン自動停止

全体的な注意事項

以下の場合、ECO スタートストップ機能が作動可能で、**ECO** マークがマルチファンクションディスプレイに緑色で表示されます。

- ・ECO スイッチの表示灯が緑色に点灯している
- ・外気温度が快適な範囲内である
- ・エンジンが正常な作動温度である
- ・車内の設定温度に到達している
- ・バッテリーが十分に充電されている
- ・エアコンディショナーシステムが作動しているときに、フロントウィンドウが曇っていないことをシステムが検知している
- ・ボンネットが閉じている
- ・運転席のドアが閉じていて、運転席シートベルトが着用されている

自動エンジン停止のすべての条件が満たされていない場合は、**ECO** マークが黄色で表示されます。

① エンジンが自動的に停止しているとき、車両のシステムはすべてアクティブのままです。

① エンジンは最大で連続して 4 回自動的に停止させることができます(最初の停止と、それに続く 3 回の停止)。エンジンが 4 回自動的に始動した後は、マルチファンクションディスプレイに **ECO** マークが黄色で表示されます。マルチ

ファンクションディスプレイに **ECO** マークが緑色で表示されると、エンジン自動停止は再度可能になります。

オートマチックトランスミッション装備車両

D または **N** で停止するまで車両にブレーキを効かせた場合は、ECO スタートストップ機能が自動的にエンジンを停止します。

i エンジンが自動停止した場合は、ホールド機能が作動することがあります。その場合は、自動停止状態の間はブレーキを効かせ続ける必要はありません。アクセルペダルを踏んだときはエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作用は解除されます。

自動エンジン始動

全体的な注意事項

エンジンは以下のとき自動的に始動します。

- ECO スイッチを押して、ECO スタートストップ機能をオフにした
- リバースギア **R** に入れたと
- 車両が動き出した
- ブレーキシステムが要求した
- 車内の温度が設定範囲から外れた
- エアコンディショナーシステムが作動しているときに、フロントウインドウの曇りをシステムが検知した
- バッテリーの充電状態が低すぎる
- 運転席の乗員がシートベルトを外したか、あるいは運転席ドアを開いた

オートマチックトランスミッション装備車両

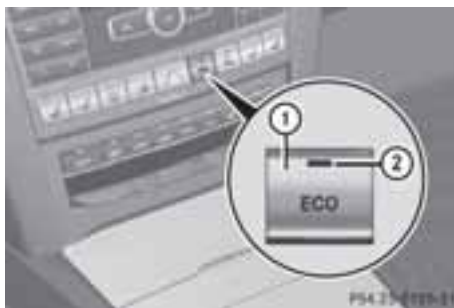
エンジンは以下のとき自動的に始動します。

- ホールド機能が作動していなく、トランスミッションが **D** または **N** のときに、ブレーキペダルを解除した
- アクセルペダルを踏んだ
- トランスミッションをポジション **P** から動かした

i トランスミッションを **P** にシフトしても、エンジンは始動しません。

i トランスミッションを **R** から **D** へシフトすると、ECO スタートストップ機能は再び使用可能になり、**ECO** マークがマルチファンクションディスプレイに緑色で表示されます。

ECO スタートストップ機能のオン/オフを切り替える



ECO スイッチ

- ▶ **オフにする** : スイッチ ① を押します。表示灯 ② と、マルチファンクションディスプレイの **ECO** マークが消えます。
- ▶ **オンにする** : ① スイッチを押します。表示灯 ② が点灯します。自動エンジン停止 (p. 181 ページ) のすべての条件が満たされている場合は、マルチ

ファンクションディスプレイに **ECO** マークが緑色で表示されます。

自動エンジン停止 (▷ 181 ページ)のすべての条件が満たされていない場合は、マルチファンクションディスプレイに **ECO** マークが黄色で表示されます。この場合は、ECO スタートストップ機能は作動しません。

- ① 表示灯 ②が消えている場合は、ECO スタートストップ機能は手動または故障により、解除されています。車両が停止したときに、エンジンが自動的に停止しません。

エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンが始動しない。	<p>ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動している。</p> <p>▶ ホールド機能(▷ 221 ページ)またはディストロニック・プラス(▷ 217 ページ)が作動している。</p> <p>▶ 再度、始動操作を行なってください。</p>
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンの電子制御部品に異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 <p>▶ エンジンを再始動する前に、メーターパネルの表示灯が消えるまで、イグニッション位置を 0 にするかキーレスゴースイッチを繰り返し押します。</p> <p>▶ 再度、エンジンの始動を試みてください(▷ 179 ページ)。バッテリーが放電するので、極端に長く、頻繁なエンジン始動の試みは避けてください。</p> <p>何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</p>
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	<p>燃料タンクが空になっている。</p> <p>▶ 燃料を給油してください。</p>
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	<p>バッテリーがあがっているか充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。</p> <p>▶ ジャンプスタートを行なってください。(▷ 361 ページ)</p> <p>ジャンプスタートを試みても、エンジンが始動しないとき</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</p>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スターターモーターが冷えるまで約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 <p>エンジンが始動しないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
<p>ガソリンエンジン車 エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きています。</p>	<p>エンジンの電子制御部品またはエンジン制御システムの機械部品に異常がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。触媒を損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での修理を行なってください。
<p>冷却水温度表示が約 120 °C 以上を示している。冷却水警告灯も点灯し、警告音が鳴ることがある。</p>	<p>リザーブタンクの冷却水量がかなり不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すみやかに安全な場所に停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水量を点検します(▶ 333 ページ)。必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 <p>冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 冷却水温度が約 120 °C 以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができません。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意事項

警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション D または R に入れると、車両は突然発進

することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション D または R に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

DIRECT SELECT レバー**トランスミッションポジションの概要**

- P** パーキングロック付きパーキングポジション
- R** リバースギア
- N** ニュートラル
- D** ドライブ

DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。

i DIRECT SELECT レバーは常に元の位置に戻ります。現在のトランスミッションポジション **P**、**R**、**N** または **D** がマルチファンクションディスプレイのトランスミッションポジション表示に表示されます (▷ 186 ページ)。

シフトポジションと走行モード表示

! マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示が作動していない場合は、希望のシフトポジションに入っているかどうかを点検するために慎重に発進してください。理想的には、シフトポジション **D** および走行モード **E** または **S** を選択してください。



- ① トランスミッションポジション表示
- ② 走行モード表示

現在のシフトポジションと走行モードがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

i シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT レバーで選択できるシフトポジションとその方向を示しています。

パーキングポジション P の選択

! エンジン回転数が高すぎる時や走行中は、**D** から **R**、**R** から **D** または直接 **P** にシフトしないでください。オートマチックトランスミッションが損傷する原因になります。



- ▶ **P** パーキングロック付きパーキングポジション
- ▶ **R** リバースギア
- ▶ **N** ニュートラル
- ▶ **D** ドライブ

▶ DIRECT SELECT レバーを矢印の方向 **P** に押しします。

i オートマチックトランスミッションは、以下の場合にパーキングポジション **P** に自動的にシフトします。

- 車両がトランスミッションポジション **D** または **R** で停車している間に、運転席ドアを開いた場合
- トランスミッションポジション **D** または **R** でごく低速で走行している間に、ドアを開いた場合

i ブレーキを踏んで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しすと、パーキングロックが解除されます。トランスミッションはニュートラル **N** に入っています。

パーキングポジション **P** から **R** または **D** に直接シフトするために：

- ブレーキペダルを踏み、そして
- DIRECT SELECT レバーを最初に抵抗がある位置を超えて上または下に押しします。

リバースギア R の選択

! 必ず停車してから、シフトポジションを **R** にしてください。

▶ DIRECT SELECT レバーを上についていまま操作します。

ニュートラル N の選択

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

▶ DIRECT SELECT レバーを上または下に軽く操作します。

ドライブポジション D の選択

▶ DIRECT SELECT レバーを下についていまま操作します。

トランスミッションポジション

- P** **パーキングポジション**
 停止中に車両が動き出すのを防止します。車両が停止していない場合は、トランスミッションをポジション **P**(▷ 197 ページ)にシフトしないでください。
- R** **リバースギア**
 車両が停止しているときのみ、トランスミッションを **R** にシフトしてください。
- N** **ニュートラル**
 走行中は、トランスミッションを **N** にシフトしないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。
 ブレーキを解除することにより、押したりけん引してもらうことで車両を自由に移動できます。
 ESP® が故障しているときや機能を解除している場合に、凍結路などで横滑りしていて危険なときのみ、トランスミッションを **N** にシフトしてください。
! ニュートラル **N** に入れたまま走行すると、駆動系部品が損傷する原因になります。
- D** **ドライブ**
 オートマチックトランスミッションは自動的に変速します。すべての前進ギアを使用できます。

ギア変速

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが **D** のときに自動的に変速を行いません。ギアシフトは以下によって決定されます。

- 選択されている走行モード (▷ 189 ページ)
- アクセルペダルの踏み込み量
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだとき：シフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだとき：シフトアップするタイミングが遅くなります。

ダブルクラッチ機能

E 350 のみ：シフトダウンしたときは、そのとき選択されている走行モードに関係なくダブルクラッチ機能が作動します。ダブルクラッチ機能は、負荷変動に関わらず優れたレスポンスを提供し、スポーティな走行性能を実現します。ダブルクラッチ機能の作動時に発生するノイズは、選択した走行モードにより異なります。

キックダウン

キックダウンは、急な加速が必要な場合に行ないます。

- ▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。
エンジン回転数に応じて、自動的に低速ギアに切り替わります。
- ▶ 希望の速度に達したら、アクセルペダルを戻します。
オートマチックトランスミッションがシフトアップして戻ります。

走行モード選択スイッチ

全体的な注意事項



走行モード選択スイッチ



ダイナミックハンドリングパッケージまたはAMG スポーツパッケージ装備車両の走行モード選択スイッチ

- ▶ 走行モード選択スイッチ ① を押しながら、マルチファンクションディスプレイ

レイに希望の走行モードを表示させます。

走行モード選択スイッチで、好みの走行特性に切り替えることができます。

i 連続走行モード **M** は、以下の車両で使用できます。

- ダイナミックハンドリングパッケージ装備車両
- AMG スポーツパッケージ装備車両
連続走行モード **M** (▷ 192 ページ) に関する詳細な情報。

この連続走行モード **M** と同様に、連続走行モード **M** (▷ 190 ページ) も作動させることができます。

E エコノミー	快適性と経済性を重視した走行モード
S スポーツ	スポーティな走行に適したモード
M マニュアル	マニュアルギアシフトル

i オートマチック走行モードについての詳しい情報は、(▷ 190 ページ) をご覧ください。

i オートマチックトランスミッションは、エンジン始動時には常にオートマチック走行モード **E** に設定されます。

ステアリングのギアシフトパドル



マニュアル走行モードでは、パドルシフト ① および ② を使用して手動でギアを変更することができます。

連続走行モード **M**(▷ 192 ページ)に関する詳細な情報。

走行モード **M**の一時的な作動に関する詳細は以下をご覧ください(▷ 190 ページ)。

i シフトポジションが **D** のときのみ、パドルシフトでギアシフトが可能となります。

オートマチック走行モード

オートマチック走行モード **E** および **S**

走行モード **E** を選択すると、以下の特性があります。

- 快適性に適応したエンジン設定
- オートマチックトランスミッションのシフトアップが早目に行なわれるため、燃費の向上に貢献します。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときのより穏やかな前進/後退ギアでの車両の発進
- 感度が向上します。路面状況に敏感に応答し、滑りやすい路面などでの走行安全性が向上します。
- オートマチックトランスミッションがより早めにシフトアップします。その

結果、車両は低いエンジン回転数で走行し、スピンの可能性が減ります。

走行モード **S** を選択すると、以下の特性になります。

- スポーティなエンジン設定。
- 車両の 1 速での発進。
- より遅めのオートマチックトランスミッションのシフトアップ。
- オートマチックトランスミッションのシフトポイントがより遅めになる結果、燃料消費が増加する可能性があります。

マニュアル走行モード **M**

全体的な注意事項

この走行モードでは、ステアリングパドルシフトを使用して、一時的に自分自身でギアを変えることができます。トランスミッションがポジション **D** でなければなりません。

オートマチック走行モード **E** および **S** で、マニュアル走行モード **M** を作動させることができます。

i 一時的走行モード **M** と同様に、連続走行モード **M**(▷ 189 ページ)も作動させることができます。

連続走行モード **M**(▷ 192 ページ)に関する詳細なインフォメーション。

設定する

- ▶ トランスミッションをポジション **D** にシフトします。
- ▶ 左または右のステアリングのギアシフトパドルを引きます(▷ 190 ページ)。マニュアル走行モード **M** が一時的に作動します。マルチファンクションディスプレイに選択されているギアおよび **M** が表示されます。

ギアのシフト

左または右のステアリングのギアシフトパドルを引くと、オートマチックトランスミッションは限られた時間だけマニュアル走行モード **M** に切り替わります。許容される場合は、どちらのギアシフトパドルを引くかによって、オートマチックトランスミッションがただちに次のギアにシフトダウン、またはアップします。

▶ **シフトアップする**： 右側のステアリングのギアシフトパドルを引きます (▶ 190 ページ)。

1 段高いギアにシフトします。

❶ 現在入っているギアでの最大エンジン回転数に到達し、加速し続けた場合は、エンジンの損傷を防ぐためにオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップします。

▶ **シフトダウンする**： 左側のステアリングのギアシフトパドルを引きます (▶ 190 ページ)。

1 段低いギアにシフトします。

❶ シフトダウンしたときにエンジンの許容回転数を超えそうな場合は、エンジンの損傷を防ぐため、シフトダウンが行なわれません。

❶ 惰性走行時の自動的なシフトダウンの発生

推奨ギアシフト



経済的な運転スタイルをとることができるように、推奨ギアシフトは運転者を支援します。推奨ギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、推奨ギアシフト ❶ に従って推奨ギア ❷ にシフトします。

解除する

マニュアル走行モード **M** を作動させている場合は、一定時間作動したままになります。横方向の加速度がある場合、空走している間、または急な山道を走行しているときなど、特定の条件下では最小時間は長くなります。

マニュアル走行モード **M** が解除された場合は、オートマチックトランスミッションは **E** または **S** のような最後に選択されたオートマチック走行モードにシフトします。

ご自身でマニュアル走行モード **M** を解除することもできます。

▶ 右側のステアリングギアシフトパドルを引いて、その位置で保持します (▶ 190 ページ)。

または

▶ **DIRECT SELECT** レバーを使用してトランスミッションポジションを切り替えます。

または

▶ 走行モード選択スイッチを使用して、走行モードを変更します (▶ 189 ページ)。

マニュアル走行モード **M** が解除されます。オートマチックトランスミッションは、**E** または **S** のような最後に選択されたオートマチック走行モードに切り替わります。

マニュアルギアシフト

全体的な注意事項

この走行モードでは、パドルシフトを使用して、いつでも自分でギアを変えることができます。トランスミッションがポジション **D** でなければなりません。

i この恒常的な走行モード **M** と同様に、一時的な走行モード **M** (▷ 190 ページ) も作動させることができます。

マニュアルギアシフトの作動

▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ (▷ 189 ページ) を繰り返し押します。

マニュアル走行モードは、ダイナミックハンドリングパッケージまたは AMG スポーツパッケージ装備車両でのみ使用できます。

マニュアルギアシフト **M** は、ギア変速の自発性、応答性および滑らかさの点で走行モード **S** と異なります。

マニュアルギアシフト **M** は、走行モード選択スイッチを使用して選択します。マニュアルギアシフト **M** では、トランスミッションがポジション **D** の場合に、ステアリングのギアシフトパドルを使用してギアを変更することができます。選択されたギアはマルチファンクションディスプレイに表示されます。

シフトアップ

▶ ステアリング右側のギアシフトパドルを引きます。
オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトアップします。

推奨ギアシフト



経済的な運転スタイルをとることができるよう、推奨ギアシフトは運転者を支援します。推奨ギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに対応する推奨ギアシフト ① が表示された場合は、ステアリング右側のギアシフトパドル (▷ 190 ページ) を引きます。
オートマチックトランスミッションが推奨ギア ② にシフトします。

シフトダウン

▶ 左側パドルを引きます。
オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトダウンします。

i 最大限の加速のためには、トランスミッションがそのときの速度に最適なギアを選択するまで、ステアリング左側のギアシフトパドルを引きます。

キックダウン

マニュアルギアシフト **M** では、最大限の加速のためにキックダウンを使用することもできます。

▶ 踏み応えがあるところを越えるまで、アクセルペダルを踏みます。
エンジン回転数に応じて、トランスミッションがより低いギアにシフトします。

マニュアル走行モードの解除

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **E** または **S** が表示されるまで、モード選択スイッチ (▶ 189 ページ) を繰り返し押しします。

トランスミッションのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、Eマージェンシーモードになっている。 2速ギア カリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ トランスミッションをシフトポジション D または R にします。 シフトポジションを D にすると、 2速ギア になります。シフトポジションを R にすると、リバースギアになります。 ▶ すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのトランスミッションの点検を受けてください。

給油

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ 警告

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。燃料給油口を開いたり、給油ノズルに触れる前に、必ず車体に触ってください。

蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入っておそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

❗ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

❗ 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

❗ 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

給油中は車内に戻らないでください。再び帯電することがあります。

燃料タンクに補充しすぎると、燃料ポンプノズルを取り外すときに燃料が飛散することがあります。

燃料と燃料の品質に関する詳細 (▷ 394 ページ)。

セルフサービスのガソリンスタンド

給油に関する注意事項を遵守してください。(▷ 194 ページ)

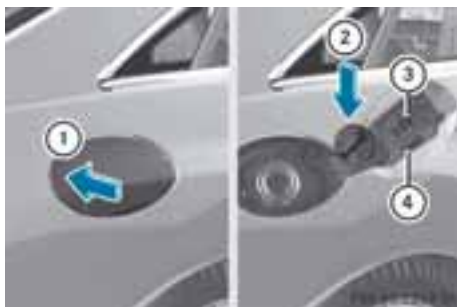
セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウィンドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。
給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。
- キャップの開閉は確実に行なってください。火気を近づけないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

燃料給油フラップの開閉


重要な安全上の注意に注意してください (▷ 194 ページ)。



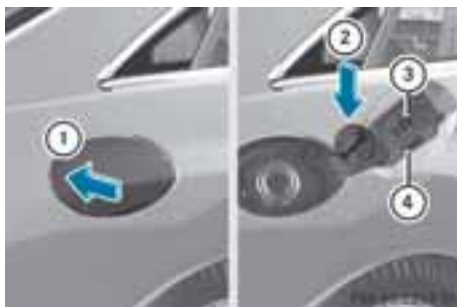
- ① 燃料給油フラップを開く
- ② 燃料給油キャップを差し込む
- ③ タイヤ空気圧ラベル
- ④ 使用燃料表示

キーまたはキーレスゴーを使用して車両を施錠/解錠したときは、燃料給油フラップも自動的に施錠/解錠されます。

燃料給油フラップは車両の右側後方にあります。

燃料給油キャップ  の位置はメーターパネルに表示されています。給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け方向を示しています。

燃料給油フラップを開く



- ① 燃料給油フラップを開く
- ② 燃料給油キャップを差し込む
- ③ タイヤ空気圧ラベル
- ④ 使用燃料表示

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ キーレスゴー：運転席ドアを開きます。イグニッション位置 **0**：“キーを抜き取った”状態に相当します。運転席ドアを再び閉じることができます。
- ▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。燃料給油フラップが少し開きます。
- ▶ 燃料給油フラップを完全に開きます。
- ▶ キャップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 外したキャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダー ② に差し込みます。
- ▶ 給油ノズルを奥まで差し込み、給油を開始します。
- ▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止してください。
- ① 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料があふれるおそれがあります。

燃料給油フラップを閉じる

- ▶ キャップを給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして確実に閉じます。
- ▶ 燃料給油フラップを閉じます。
- ① 車両を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。さもないと、セントラルロックシステムのロックピンにより、燃料給油フラップを閉じることができなくなります。

燃料および燃料タンクのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。 ⚠ 警告 火災または爆発の危険性があります。 ▶ ただちにエンジンスイッチのキーの位置を 0 にし、エンジンスイッチからキーを抜いてください。(▶ 177 ページ) ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ 車両を解錠してください(▶ 83 ページ)。 または ▶ エマージェンシーキーを使用して車両を解錠してください(▶ 85 ページ)。 燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告
 葉、草または小枝のような可燃性の素材は、排気システムの高温度部品または排気ガスの排気に長時間触れると発火することがあります。火災の危険性があります。
 可燃性の素材が車両の熱い部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

⚠ 警告
 走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか

使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。
 走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション **P** からのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。子供だけを車内に残して車両から離れないでください。

! 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないように、以下の方法で車を固定してください。

- パーキングブレーキを効かせてください。
- トランスミッションをポジション **P** にし、キーをエンジンスイッチから抜かなければなりません
- 上り坂または下り坂の勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません

エンジンの停止**重要な安全上の注意****⚠ 警告**

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

オートマチックトランスミッション装備車両

- ▶ パーキングブレーキをしっかりと踏みます。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。

キー操作

- ▶ キーをまわしてイグニッションをポジション **O** にした後、キーを抜き取ります。イモビライザーが作動します。

i トランスミッションがポジション **P** にある場合にのみ、キーを取り外すことができます。

キーレスゴーを使用して

- ▶ キーレスゴースイッチ (▶ 177 ページ) を押します。エンジンが停止し、メーターパネルのすべての表示灯が消灯します。

i 運転席ドアが閉じている場合、これはキーポジション **1** に相当します。運転席ドアが開いている場合、これはキーポジション **O** に相当します。

i 車両が動いている間にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押して保持すると、エンジンを停止することができます。この機能は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン停止機能とは独立して作動します。

パーキングブレーキ**⚠ 警告**

パーキングブレーキで車両にブレーキを効かせなければならない場合は、制動距離が著しく長くなり、車輪がロックすることがあります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

サービスブレーキが故障しているときのみ、パーキングブレーキを使用して車両にブレーキを効かせてください。パーキ

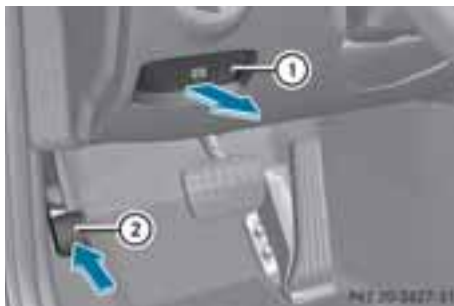
ングブレーキを強く効かせないでください。車輪がロックした場合は、車輪が再度回転し始めるまでパーキングブレーキを解除してください。

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車両に残すと、例えば以下のようにして動かし始めるおそれがあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションのパーキングポジション **P** からのシフト
- エンジンの始動

彼らは車両装備を操作するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。子供だけを車内に残して車両から離れないでください。



パーキングブレーキを使用して車両を制御している場合、ブレーキランプは点灯しません。

- ▶ **パーキングブレーキをかける：** パーキングブレーキペダル ② をいっぱいまで踏み込みます。エンジンがかかっているときは、メーターパネルの **Ⓚ** ブレーキ警告灯が点灯します。
- ▶ **パーキングブレーキを解除する：** ブレーキペダルを踏んでそのまま保持します。
- ▶ **リリースハンドル ① を引きます。** メーターパネルの **Ⓚ** 表示灯が消灯します。

長期間の車両の駐車

車を 4 週間以上使用しないと、バッテリーが完全にあがって、損傷するおそれがあります。

車を 6 週間以上使用しないと、車に不具合が発生するおそれがあります。

- ▶ 対応については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 充電器についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

運転のヒント

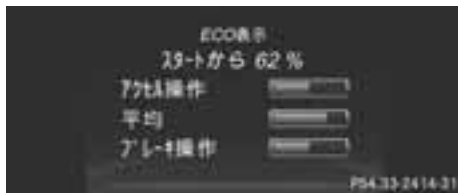
全体的な注意事項

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

ECO 表示



例：ECO 表示

ECO ディスプレイは、お客様の運転特性がどのくらい経済的であるか、評価を提供します。ECO ディスプレイは、選択された設定および現在の状況で最も経済的な運転スタイルを達成する補助をします。消費は運転スタイルによって著しく影響されることがあります。

ECO ディスプレイは以下の 3 本のバーで構成されています。

- アクセル操作
- 平均
- ブレーキ操作

パーセンテージ数は、3 本つのバーの値の平均値です。3 つのバーおよび平均値は 50 % の値を起点としています。高いパーセンテージ数はより経済的な運転スタイルを示しています。

ECO ディスプレイは、実際の燃料消費を示していません。ECO ディスプレイの特定のパーセンテージ数は、特定の消費量を示していません。

運転スタイルに加えて、消費は以下のような他の多くの要因に影響されます。

- 積載状況
- タイヤ空気圧
- 冷間始動
- ルートの選択
- 電気消費物の使用

これらの要因は ECO ディスプレイには含まれていません。

運転スタイルの評価には、以下の 3 つのカテゴリーが考慮されます。

- **アクセル操作**（すべての加速行為の評価）：
 - バーが一番上に来ているとき：特に高い速度での適度な加速
 - バーが一番下に来ているとき：スポーツ走行時の加速
- **平均**（運転操作の常時評価）：
 - バーが一番上に来ているとき：一定の速度、および不必要な加速および減速の回避
 - バーが一番下に来ているとき：速度に変動がある
- **ブレーキ操作**（すべての減速過程の評価）：
 - バーが一番上に来ているとき：距離を保ちながらの予期走行およびアクセルの早期開放。車両はブレーキを使用することなく惰性走行できます。
 - バーが一番下に来ているとき：ブレーキを繰り返し踏んでいる

i 経済的な運転スタイルは適度なエンジン回転数での走行と関係しています。**アクセル操作**および**平均**のカテゴリーでのより高い値は以下の条件で達成します：

- 推奨ギアシフトを遵守してください。
- 走行モード **E** で車両を走行してください。

i 高速道路のような一定速度での長距離走行では、**平均**のバーのみが変化します。

i ECO ディスプレイは走行の開始から完了までの特性曲線を要約しています。そのため、走行開始時点ではバーに活発な変化があります。長い運転時間の間では、これらの変化は小さくなります。変化の動きを見たい場合は手動でリセットしてください。

ECO 表示に関する詳細は、(p 258 ページ) をご覧ください。

ブレーキ操作

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

下り坂勾配

ペダルに常に軽く圧力をかけてブレーキの摩耗の原因にならないようにするためなど、車両が動いている間はブレーキペダルを常時踏まないでください。これによりブレーキパッドが過度におよび早く摩耗します。

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアにシフトします。

荷物を積んだ車両を運転するときは、このことに特に留意してください。

i これは、クルーズコントロール、可変スピードリミッターまたはディストロニック・プラスの機能を設定している場合も該当します。

エンジンブレーキを効かせることにより、少ないブレーキ操作で車速を一定に保つことができます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

高い、および低い負荷

⚠ 警告

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障

する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

! ブレーキペダルを常時踏むと、ブレーキパッドが極端に早く磨耗する結果になります。

ブレーキに高負荷がかかった場合は、車両をただちに停止せず、しばらく走行し続けてください。ブレーキに風を当て、より早く冷やすことができます。

長時間、ブレーキをほぼ使用せずに走行した場合は、時々ブレーキの効きをテストしてください。このテストを行なうには、高速の状態から強めにブレーキを踏み込みます。この操作によりブレーキの制動力が向上します。

濡れた路面

激しい雨の中で、ブレーキを踏まずに長時間走行した後、初めてブレーキを踏んだときにブレーキの反応時間が遅れることがあります。これは、洗車後または深い水の中の走行後にも起こることがあります。

滑りやすい路面では、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。前車との車間距離を十分に保って慎重に運転してください。

滑りやすい路面の走行後や洗車直後は、周囲の道路状況に注意しながら強めにブレーキを踏み込んでください。この操作によりブレーキディスクを加熱して、より早く乾燥させ、腐食を防止することができます。

塩分処理された路面でのブレーキ性能の制約

塩分処理した道路を走行している場合は、塩分の層がブレーキディスクやパッド

ドにできることがあります。これにより制動距離が著しく増加することがあります。

- できるだけ塩分の残留物を取り除くために時々ブレーキを効かせます。そうしているときは、他の道路利用者を危険にさらしていないことを確認してください。
- 走行の終了時と次の走行を開始するときはブレーキペダルを慎重に踏んでください。
- 先行車との、より十分な距離を保ってください。

新品のブレーキパッド/ライニング

交換された新しいブレーキパッド/ライニングおよびブレーキディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適なブレーキ性能を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

安全を確保するため、必ず純正のブレーキパッド/ライニング、または同等の品質基準を満たしたものををご使用ください。純正以外のブレーキパッド/ライニングまたは同等の品質基準を満たしていないものを使用すると、安全なブレーキ操作ができなくなり、走行安全性が損なわれるおそれがあります。

濡れた路面の走行

ハイドロブレーニング現象

路面に特定の深さまで水がたまると、以下の状況でもハイドロブレーニング現象を起こしやすくなります。

- 低速で走行しているとき
- タイヤの溝が十分にあるとき

わだちなどの水のたまりやすい場所を避けて走行し、注意深くブレーキ操作を行なってください。

冠水路の走行

■ 先行車や対向車も波を発生させていることに注意してください。車が通ることにより、許容最大水深を超える可能性があります。

これらの注意事項は、どのような状況でも守ってください。そうしないと、エンジン、電気装備およびトランスミッションを損傷するおそれがあります。

冠水路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- 渡れる最大許容水深は 25 cm です。
- 歩くペースより速く走行しないでください。

冬季の走行

重要な安全上の注意事項

警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

危険

マフラーが遮られ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素 (CO) のような有毒ガスが車内に入り込んでくる可能性があります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的なけがの危険性があります。

エンジンまたは補助ヒーターを作動させたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。

新鮮な空気の適切な供給を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウインドウを開きます。

冬が始まったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の寒冷時対策を実施してください。

"冬季の使用"の項目の注意事項を遵守してください。(▶ 374 ページ)

サマータイヤでの走行

"寒冷時の取り扱い"に記載されている注意事項を守ってください。(▶ 375 ページ)

滑りやすい路面

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

車両がスリップしやすいとき、または低速走行中に停止できないときは、以下の指示に従ってください。

- ▶ トランスミッションをポジション **N** に動かします。
- ▶ ステアリング操作を修正して、車両の操縦性を確保します。

滑りやすい路面では、特に慎重に走行してください。急な加速、ステアリング、ブレーキ操作は避けてください。

i スノーチェーンでの走行に関するさらなる情報は、(▶ 375 ページ)をご覧ください。

外気温度表示灯は凍結警告デバイスとして使用するための設計はされていません。そのため、この用途には適切ではあ

りません。外気温度が変化すると、少し遅れて表示されます。

表示された温度が氷点下に近いときは、路面が凍結している可能性があります。特に森林地域や橋の上など、路面が凍結しやすくなります。横滑りの原因となりますので、運転操作は特に慎重に行なってください。凍結路を走行するときは、常に天候状況に合わせて速度を落とし、注意して走行してください。

気温が氷点前後のときは、路面状況に特に注意してください。

走行システム

クルーズコントロール

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂勾配で、特に車両に荷物を積載している場合は、適時低いギアにシフトしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30 km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、クルーズコントロールは事故の危険性を軽減できないだけでなく、物理的限界を超えることもできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは単なる支援に過ぎません。運転者には車間距離を確保し、速度を調整

し、適時レーキを効かせ、車線を維持する責任があります。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況（例：混雑している交通状況、または曲がりくねっている道路）
- 滑りやすい路面ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている設定速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー



- ① 速度を設定する/上げる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の速度/最後に記憶された速度に設定する
- ④ 速度を設定する/下げる
- ⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表していません。

- LIM 表示灯が消灯：クルーズコントロールが選択されています。
- LIM 表示灯が点灯：可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに 5 秒間表示されます。

作動条件

クルーズコントロールを作動させるには、以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- パーキングブレーキが解除されている
- 30 km/h より速く走行している
- ESP[®] がオンになっているが介入していない
- トランスミッションがポジション D である
- クルーズコントロール機能が選択されている (▶ 204 ページ)

クルーズコントロールの選択



- ▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているか確認してください。

消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。

消灯していない場合は、クルーズコントロールレバーを矢印②の方向に押しします。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯①が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

現在の速度の記憶および維持



30 km/h より速い速度で走行している場合は、現在の速度を許容することができます。

- ▶ 希望の速度に加速します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを上①または下②に軽く操作します。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に記憶された速度を維持します。

i 急な上り坂では、クルーズコントロールは記憶された速度を維持できないことがあります。勾配が小さくなると再び記憶された速度を維持します。クルーズコントロールは急な下り坂では自動的にブレーキを効かせることにより記憶された速度を維持します。

現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。



- ▶ クルーズコントロールレバーを手前①に軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。初めてクルーズコントロールを作動させたときは現在の速度が記憶され、または以前に記憶された速度に車両速度を制御します。

速度の設定



- ▶ 高い速度は上 ① に、低い速度は下 ② にクルーズコントロールレバーを押します。
- ▶ 希望した速度に到達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。
- ▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。
新しい速度が記憶されます。
- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：**
手応えがあるところまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く押します。
最後に記憶された速度が 1 km/h 単位で上昇または下降します。
- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：**
手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く押します。
最後に記憶された速度が 10 km/h 単位で上昇または下降します。

i クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。例えば、追い越しのために一時的に加速したときは、追い越しが終了した後に、クルーズコントロールは最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

クルーズコントロールの解除



クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方に軽く押します。
または
▶ ブレーキを効かせます。
または
▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向に軽く動かします。
可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 が点灯します。

以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを踏んだ
- 30 km/h 以下で走行した
- ESP[®]が介入したり、ESP[®]を解除した
- 走行中にトランスミッションをポジション **N** にシフトした

クルーズコントロールが解除されると警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに**クルーズコントロールオフ**というメッセージが約 5 秒間表示されます。

i エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

スピードリミッター

重要な安全上の注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアにシフトしてください。積載した車両を運転するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽

減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。さらにブレーキが必要な場合は、継続的ではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

運転スタイルを合わせていない場合は、可変スピードリミッターは事故の危険性を低減させることも、物理的法則を乗り越えることもできません。可変スピードリミッターは道路、天候および交通状況を考慮することはできません。可変スピードリミッターは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との車間距離、車両速度、適切なブレーキ操作、車線内での維持に関する責任があります。運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

可変スピードリミッターまたはスノータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変スピードリミッター**は市街地などでの速度制限のためのものです。
- **スノータイヤスピードリミッター**は、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間の速度制限のためのものです。

i スピードメーターに表示された速度は記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項



- ① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶させる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の走行速度を記憶させる、および記憶されている速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶させる
- ⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表していません。

- **LIM 表示灯 が消灯**： クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯 が点灯**： 可変スピードリミッターが選択されています。

可変スピードリミッターの選択



運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

- ▶ LIM 表示灯 ① が点灯しているか確認してください。

点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印 ② の方向に押し

ます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶



- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く操作します。

現在の速度が記憶され、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

マルチファンクションディスプレイのセグメントは、記憶された速度から上の部分が点灯します。

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h 以上のいかなる速度に速度を制限することができます。

現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。



- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ① に軽く引きます。

速度の設定



▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する**：手応えがあるところを越えるまで、高い速度は上 ①に、または低い速度は下 ②に、クルーズコントロールレバーを軽く押します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところを越えるまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。高い速度は上 ①に、低い速度は下 ②にクルーズコントロールレバーを押します。

▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する**：高い速度は上 ①に、低い速度は下 ②にクルーズコントロールレバーを軽く操作します。

または

▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。高い速度は上 ①に、低い速度は下 ②にクルーズコントロールレバーを押します。

可変スピードリミッターの解除

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。



可変スピードリミッターを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ①に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③の方向に軽く動かします。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ②が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

① エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

キックダウン

踏み応えのあるところを越えるまでアクセルペダルを踏むと（キックダウン）、可変スピードリミッターは待機状態に切り替わります。マルチファクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。**可変スピードリミッター 制御待機中。**

この後は、記憶されている速度を超えることができます。可変スピードリミッターは、以下のときに再度作動します。

- キックダウンをせずに、記憶されている速度以下で走行している。
- 新たに速度を設定した、または
- 最後に記憶された速度を再度呼び出した。

マルチファンクションディスプレイのメッセージ **可変スピードリミッター制御待機中** が消えます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160 km/h(例えばウィンタータイヤで走行するとき) から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます(▶ 271 ページ)。

記憶された速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでも(キックダウン)、記憶された制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行いません。車両はレーダーセンサーシステムの支援で検知されます。ディストロニック・プラスは設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアにシフトしてください。荷物を積んだ車両を運転するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告を行いません。運転者

の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

走行中にディストロニック・プラスが運転者を支援するためには、レーダーセンサーシステムが作動していなければなりません。

ディストロニック・プラスは 0 km/h ~ 200 km/h の間の速度で作動します。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者や複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

その場合、ディストロニック・プラスは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 不意に加速する

事故の危険性があります。

特に、ディストロニック・プラスから警告が送られた場合は、慎重に運転しブレーキをかける用意をしてください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは最大可能減速の50%まで車両にブレーキを効かせます。減速が十分でない場合は、ディストロニック・プラスは視覚的および聴覚的警告で運転者に警告します。事故の危険性があります。

これらの状況では自分でブレーキを効かせ、回避行動を取るように試みてください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

運転スタイルを合わせていない場合は、ディストロニック・プラスは事故の危険性を低減することもできなければ、物理的限界を超えることもできません。ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスは単なる支援に過ぎません。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時ブレーキを効かせ、車線を維持する責任があります。

以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください：

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況（例：混雑している交

通状況、または曲がりくねっている道路）

- 滑りやすい路面ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なる車線を走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサー汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発信源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射の可能性がある

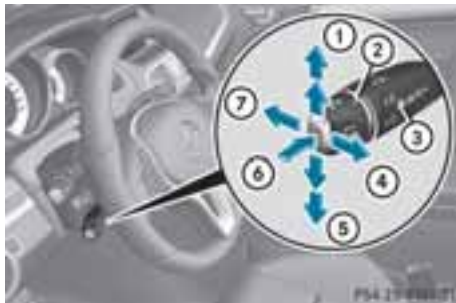
ディストロニック・プラスが先行車両を検知なくなると、予期せず、設定速度まで加速することがあります。

速度は以下になるおそれがあります：

- 変更される車線や滑りやすい道路で非常に高くなりすぎる
- 左を走行している車両を追い越すときの右車線で高くなりすぎる（右側走行の国）
- 右を走行している車両を追い越すときの左車線で高くなりすぎる（左側走行の国）

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー



- ① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶させる
- ② 最短車間距離を設定する
- ③ LIM 表示灯
- ④ 現在の走行速度を記憶させる、および記憶されている速度を呼び出す
- ⑤ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶させる
- ⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑦ ディストロニック・プラスを解除する

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表していません。

- **LIM 表示灯が消灯：** ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：** 可変スピードリミッターが選択されています。

ディストロニック・プラスの選択



- ▶ LIM 表示灯 ① が消灯しているか確認してください。
消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。消灯していない場合は、クルーズコントロールレバーを矢印 ② の方向に押します。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ① が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの作動

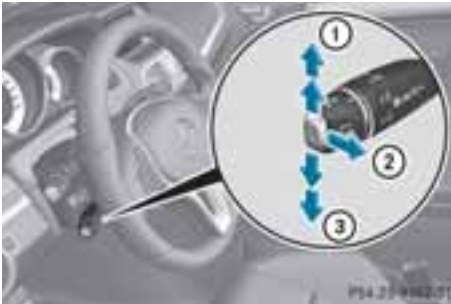
作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件を満たさなければなりません。

- エンジンがかかっている。ディストロニック・プラスが使用できるようになる前に少なくとも 2 分間走行している。
- パーキングブレーキを解除している。
- ESP® が設定されているが、介入していない。
- アクティブパーキングアシストが作動していない。
- トランスミッションがポジション **D** である。

- P から D にシフトするとき運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが装着されている。
- 助手席ドアが閉じている。
- 車両が滑っていない。
- クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスの機能が選択されている(▶ 212 ページ)。

待機状態にする



- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引く ② か、上 ① または下 ③ に押します。ディストロニック・プラスが作動します。
 - ▶ 希望の速度が設定されるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ③ に繰り返し押します。
 - ▶ アクセルペダルから足を放します。記憶させた希望の速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。
- i** アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイに **ディストロニック・プラス制御待機中** というメッセージが表示されます。このときは、より遅く走行している先行車両との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止しているときもディストロニック・プラスを作動させることができます。設定できる最低速度は 30 km/h です。

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引く ② か、上 ① または下 ③ に操作します。ディストロニック・プラスが作動します。

現在の速度/最後に記憶させた速度で作動させる

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。



- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に ① 軽く引きます。
- ▶ アクセルペダルから足を放します。ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。それ以外のときは、以前に記憶させた数値に車両の巡航速度を設定します。

ディストロニック・プラスでの運転

発進と走行



- ▶ ディストロニック・プラスで発進したい場合：ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます①。

または

- ▶ 軽く加速します。
車両が発進して、速度を先行車両の速度に合わせます。
検知された車両が前方にいない場合は、車両は設定した速度まで加速します。

i 未確認の障害物に面しているとき、または他の車両と異なるラインを走行するときにも、車両は発進できます。その後には車両は自動的にブレーキを効かせます。事故の危険性があります。いつでもブレーキを効かせる準備をしてください。

先行車両がない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両にブレーキを効かせます。このようにして選択された距離が維持されます。

より速く走行している先行車両をディストロニック・プラスが検知すると、走行速度が上がります。しかし、記憶させた速度までのみ車両は加速します。

走行モードの選択

走行モード **S** を選択したときは、ディストロニック・プラスはスポーティな運転スタイルをサポートします(▶ 189 ページ)。先行車両の後方で、または設定した速度まで非常にダイナミックに加速します。走行モード **E** を選択した場合は、車両はさらに緩やかに加速します。この設定は交通渋滞で推奨されます。

車線の変更

追い越し車線に移るときは、以下のときにディストロニック・プラスが運転者を支援します。

- 70 km/h より速く走行している
- ディストロニック・プラスが先行車両との距離を維持している
- 方向指示灯を作動させている
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していない

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更にかかる時間が長すぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎるときは、加速は中断されます。

i 車線を変更するときは、ディストロニック・プラスは左側ハンドル車両では左の車線を、右側ハンドル車両では右の車線をモニターします。

停止

⚠ 警告

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっても以下の場合は車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき

- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

ディストロニック・プラスを解除してください(▷ 217 ページ)。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両が停止するまでブレーキを効かせます。

一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

設定した最短車間距離によっては、車両は先行車両後方の十分な距離があるところで停止することがあります。最短車間距離はクルーズコントロールレバーのダイヤルを使用して設定します。

ディストロニック・プラスが作動しているときは、以下のようにになるとトランスミッションは自動的に **P** にシフトされます。

- 運転席のシートベルトが着用されていないときに運転席ドアを開いた。
- ECO スタートストップ機能により自動的に停止するのではなく、エンジンを停止した。
- システムに異常が発生した。
- 電力供給が十分でない。

速度の設定



▶ 高い速度は上 ① に、低い速度は下 ② にクルーズコントロールレバーを押します。

▶ 希望した速度に到達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。

▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両速度を調整します。

▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に少し押します。

最後に記憶された速度が 1 km/h 単位で上昇または下降します。

▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に少し押します。

最後に記憶された速度が 10 km/h 単位で上昇または下降します。

① 追い越しのために一時的に加速したときは、追い越しが終了した後に、ディストロニック・プラスは最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

最短車間距離の設定

時間間隔を 1 秒から 2 秒の間で変えることにより、ディストロニック・プラス

の最短車間距離を設定することができます。この機能により、車両速度に応じてディストロニック・プラスが維持する、先行車両との最短距離を設定することができます。マルチファンクションディスプレイでこの距離を表示することができます (▶ 216 ページ)。

① 先行車両と十分な距離を保ち、法律で要求されたような最低距離を遵守していることを確認してください。必要であれば、先行車両との距離を調整してください。



▶ **長くする**：ダイヤル ② を ③ の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは自車と先行車両との距離をより長く維持します。

▶ **短くする**：ダイヤル ② を ① の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは自車と先行車両との距離をより短く維持します。

スピードメーターのディストロニック・プラスの表示



例：DIRECT SELECT レバー付きオートマチックトランスミッション装備車両

ディストロニック・プラスが作動しているときは、設定された速度範囲の 1 個または 2 個のセグメント ② が点灯します。

ディストロニック・プラスが先行車両を検知した場合は、先行車両の速度 ① と設定された速度 ③ の間のセグメント ② が点灯します。

① 設計上の理由により、スピードメーターに表示された速度はディストロニック・プラスで設定された速度と若干異なることがあります。

マルチファンクションディスプレイのディストロニック・プラスの表示

全体的な注意事項

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー (▶ 263 ページ) で、アシストグラフィックを選択することができます。

ディストロニック・プラスが非作動のときの表示



- ① 検知された場合の先行車両
- ② 距離インジケータ：先行車両までの現在の距離
- ③ 先行車両までの設定された最短車間距離（調整可能）
- ④ 車両

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、距離ディスプレイ表示機能を選択します(▷ 264 ページ)。

ディストロニック・プラスが作動しているときの表示



- ① 検知された場合の先行車両
- ② 先行車両までの設定された最短車間距離（調整可能）
- ③ 車両
- ④ ディストロニック・プラス作動（文字はクルーズコントロールレバーが動かされたときのみ表示されます）

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、距離ディスプレイ表示機能を選択します(▷ 264 ページ)。

❶ ディストロニック・プラスを作動させたときは、記憶された速度が約 5 秒間表示されます。

ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 車両が停止していない場合にブレーキを効かせます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに **ディストロニックプラス オフ** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

❶ エンジン进行を停止するまでは、最後に記憶された速度が記憶されたままになります。

i アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。

以下の場合、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- パーキングブレーキを効かせた
- ESP[®]が介入したり、ESP[®]を解除した
- トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにある。
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを運転者の方向に引き、助手席ドアが開いている
- 車両がスリップした
- アクティブパーキングアシストを作動させた。

ディストロニック・プラスが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに **ディストロニック・プラス オフ** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ディストロニック・プラスでの運転のヒント

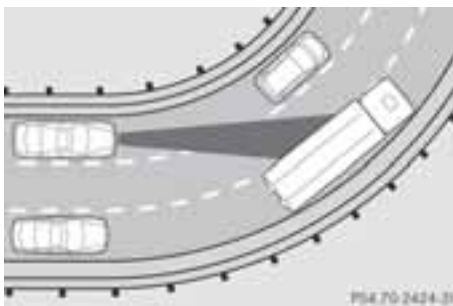
全体的な注意事項

以下の交通状況では特に注意して運転してください。

- カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき
- 車線の中央を走行していない車両
- 車線変更する他の車両があるとき
- 幅の狭い車両があるとき
- 障害物や停止車両
- 横切る車両があるとき

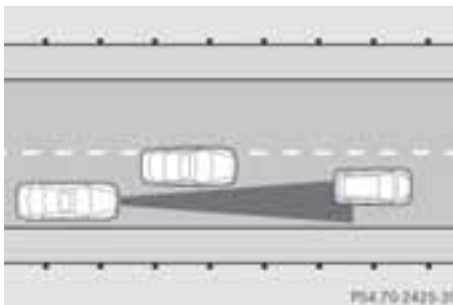
そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。ディストロニック・プラスは解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき



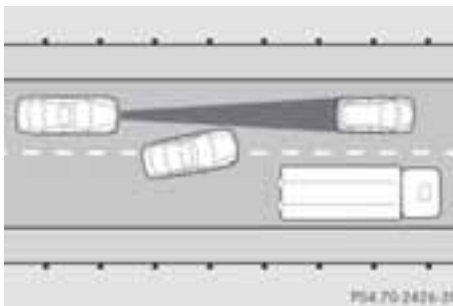
カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両



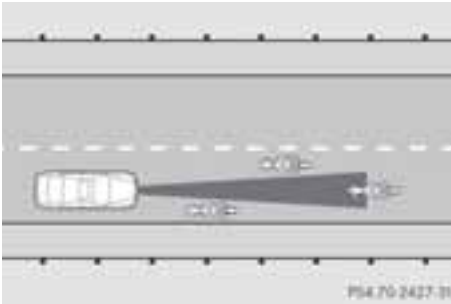
ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。先行車両までの距離が短すぎる。

車線変更する他の車両があるとき



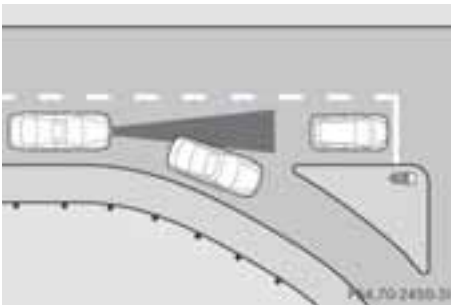
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。この車両までの距離が短すぎる。

幅の狭い車両があるとき



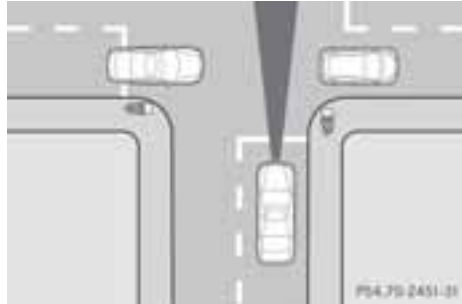
ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しないことがあります。先行車両までの距離が短すぎる。

障害物や停止車両



ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないことがあります。例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

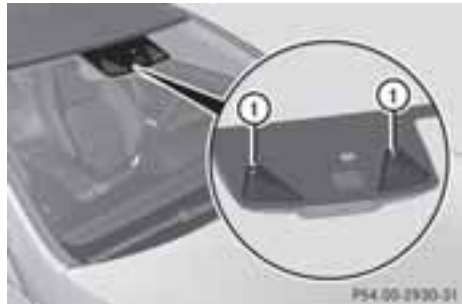
横切る車両があるとき



ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

ステアリングアシスト付ディストロニック・プラス

全体的な注意事項



ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、0 - 200 km/h の速度での緩やかなステアリングの介入により、車両を走行車線の中央に保ち続ける支援を行ないます。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラシステム ① によって、車両の前方エリアをモニターします。

60 km/h 以上の速度では、ディストロニック・プラスのステアリングアシスト

は、そこにある車線マークに目標を合わせます。

0 - 60 km/h の速度では、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、交通渋滞で車両に追従しているときなどに車線マークを考慮に入れながら先行車両に目標を合わせます。

ステアリングアシストの機能が作動可能になるためには、ディストロニック・プラスが作動していなければなりません。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは事故の危険性を低減させることも、物理的法則を乗り越えることもできません。ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、道路、天候または交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスのステアリングアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との車間距離、車両速度、適切なブレーキ操作、車線内での維持に関する責任があります。ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、道路および交通状況を検知しません。道路の端に向かって走行している車両に追従している場合は、縁石または他の道路境界に接触するおそれがあります。道路マークを逸脱する場合は、お客様の車両のすぐ横にいるサイクリストのような他の道路使用者に注意してください。

車線上にあるトラフィックコーンのような、または車線内にはみ出した障害物は検知されません。

故意に車線マークを越えて走行した後などの不適切なステアリングの介入は、反対方向に軽くステアリングを操作した場合にいつでも修正することができます。ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、車両を車線内に保ち続けることはできません。場合によっては、

ステアリングの介入は車両を車線内に戻すのに十分でない場合があります。このような場合は、ご自身で車両のステアリング操作を行ない、車線を外れないようにしてください。

以下のときはシステムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨により視界が悪い。
- 対向車両、太陽または他の車両からの反射などで眩しい（路面が濡れている場合など）。
- フロントウィンドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている。
- 工事などで 1 車線分の車線マークが全くないか、いくつかある、または不明瞭である。
- 車線ラインが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている。
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない。
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる。
- 道路が狭かったりカーブしている。
- 道路に著しく様々な状況の日陰がある。

ディストロニック・プラスの重要な安全上の注意事項にも注意してください (p. 210 ページ)。

ステアリング操作の介入は、限られたステアリング操舵力で行なわれます。ステアリングに手を置いたままご自身でステアリング操作をするように、システムは運転者に要求します。

ステアリング操作をご自身で行なわない場合、または長時間ステアリングから手を放している場合は、システムはまず視覚的な警告で警告します。マルチファンクションディスプレイにステアリングの

マークが表示されます。5 秒後にステアリング操作をまだ開始しておらず、ステアリングを握っていない場合は、車両を操作するように喚起させるために警告音も鳴ります。ディストロニック・プラスのステアリングアシストは待機状態に切り替わります。ディストロニック・プラスは作動したままになります。

以下の場合、システムが待機状態に切り替わり、ステアリングの介入を実行することによる支援を行なわなくなります。

- 頻繁に車線を変更している。
- 方向指示灯をさせた。
- 長時間ステアリングから手を放している、またはステアリング操作をしていない。

i 車線を変更し終えた後で、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは再度自動的に設定されます。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストは、以下の場合には支援を行ないません。

- 非常にきついカーブにいるとき。
- 車線マークまたは鮮明な車線マークが検知されない場合。
- 60 km/h 以下の速度で先行車両が検知されない場合。
- タイヤがランフラットモードで。

ステアリングアシストの作動

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、ディストロニック・プラスのステアリングアシストを選択します (▷ 265 ページ)。

マルチファンクションディスプレイに **DTR+: ステアリングアシスト オン** というメッセージが表示されます。ディストロニック・プラスのステアリングアシストが設定されます。

マルチファンクションディスプレイの情報



ディストロニック・プラスのステアリングアシストが作動しているが、ステアリング介入の準備ができていない場合は、ステアリングのマーク ① が灰色で表示されます。システムがステアリング介入によって支援を行なっている場合は、マーク ① が緑色で表示されます。

ステアリングアシストの解除

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、ディストロニック・プラスのステアリングアシストを解除します (▷ 265 ページ)。

マルチファンクションディスプレイに **DTR+: ステアリングアシスト オン** というメッセージが表示されます。ディストロニック・プラスのステアリングアシストが解除されます。

ディストロニック・プラスが解除されているときは、ディストロニック・プラスのステアリングアシストは自動的に解除されます。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を支援します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された

事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 車両が停止している
- エンジンがかかっている、またはECOスタートストップ機能によってエンジンが自動的に停止している
- 運転席ドアを閉じている、または運転者がシートベルトを着用している
- パーキングブレーキを解除している

- オートマチックトランスミッション装備車両では、セレクトレバーが **D**、**R**、**N** の位置にある
- ディストロニック・プラスが解除されている

ホールド機能を作動させる



- ▶ 作動条件が合っていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
- ▶ マルチファンクションディスプレイに **HOLD** ① が表示されるまで、ブレーキペダルを素早くさらに踏みます。ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

i 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- 加速した。オートマチックトランスミッション装備車両：トランスミッションがシフトポジション **D** または **R** のときのみ。
- オートマチックトランスミッション装備車両では、トランスミッションをポジション **P** にシフトした。
- マルチファンクションディスプレイの **HOLD** が消えるまで、ブレーキペダルを再度一定の強さで踏んだ。
- ディストロニック・プラスを作動させた。

ホールド機能を作動させているときは、以下の場合にトランスミッションは自動的にポジション **P** にシフトします。

- 運転席ドアを開いたときに、運転席のシートベルトが着用されていない。
- ECO スタートストップ機能により自動的に停止するのではなく、エンジンを停止した。
- システムに異常が発生した。
- 電力供給が十分でない。

スポーツモード付きダイナミックハンドリングパッケージ

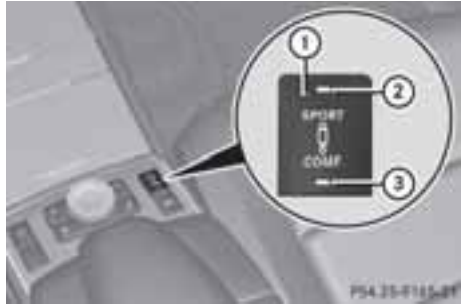
全体的な注意事項

スポーツモード付きダイナミックハンドリングパッケージの最も重要な部分は、調整可能なダンピングシステムです。これにより、各走行状態に応じてサスペンションを自動的に制御し適応させます。サスペンションの補正は以下に応じて行われます。

- 運転者の走行スタイル
- 路面状況
- 運転者の選択。以下の記載事項をご覧ください。

スポーツモード付きダイナミックハンドリングパッケージ装備車両：走行モード **E** および **S** に加えて、マニュアル走行モード **M** もあります(▶ 190 ページ)。

スポーツモード



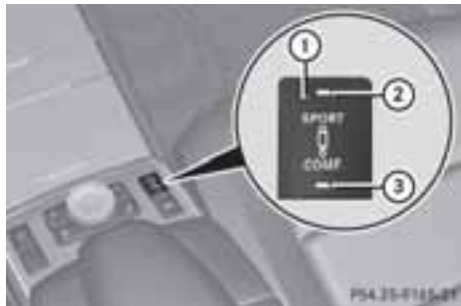
例：スポーツモード付きダイナミックハンドリングパッケージのスイッチの位置

スポーツモードでは、より固い設定のサスペンション制御により路面追従性が向上します。例えば曲がりくねった道などを走行するときにはこのモードを選択してください。

- ▶ エンジンを始動してください。
- ▶ **表示灯 ② が点灯していない場合**：① スイッチを押します。表示灯 ② が点灯します。スポーツサスペンション設定が選択されます。

i 選択内容は、エンジンを停止しても記憶されたままになります。

コンフォートモード



コンフォートモードでは、車両の走行特性がより快適になります。快適な乗り心地を重視するときは、このモードを選択してください。自動車道路のまっすぐな道路のような直線道路を速く走行すると

きもコンフォートモードを選択してください。

- ▶ **表示灯 ③ が点灯していない場合**：①スイッチを押します。
表示灯 ③ が点灯します。快適なサスペンション設定が選択されます。

パークトロニック

重要な安全上の注意事項

パークトロニックは超音波センサーによる駐車時に運転者を支援するシステムです。車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは駐車を支援するシステムです。運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車をこなう間は、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意をしてください。パークトロニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。

自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロニックは以下のようなときに自動的に作動します。

- エンジンスイッチを 2 の位置にしたとき
- トランスミッションをポジション **D**、**R** または **N** にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき

パークトロニックは 18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

パークトロニックはフロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。

センサーの範囲

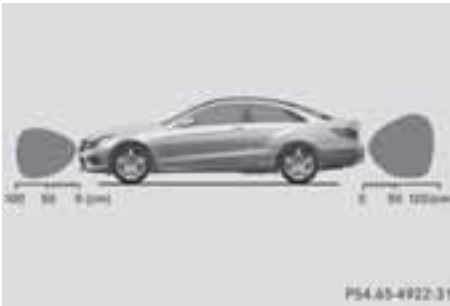
全体的な注意事項

以下のとき、パークトロニックは障害物を考慮しません：

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にある
- 車両から突き出た荷物や車両後部、積載用スロープなどが検知範囲の上にある



① 例：左側フロントバンパーのセンサー
センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。適切に機能しないことがあります。センサーに損傷を与えないように注意して、定期的に清掃してください。(▶ 344 ページ)



例：横から見た図



例：上から見た図

フロントセンサー

センター部	約 100 cm
コーナー部	約 60 cm

リアセンサー

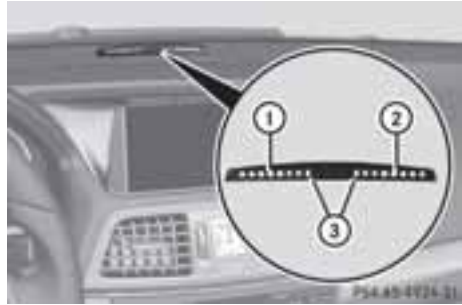
センター部	約 120 cm
コーナー部	約 80 cm

最短距離

センター部	約 20 cm
コーナー部	約 15 cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。距離が最短以下になると、距離が表示されなくなることがあります。

警告ディスプレイ



前方エリアの警告表示

- ① 車両左側のセグメント
- ② 車両右側のセグメント
- ③ 作動準備ができていることを示すセグメント

警告表示はセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告表示は中央送風口上部のダッシュボードにあります。クーペの警告表示は後席のルーフライニング部分、カブリオレはリアシートの間にあります。

車両の各側の警告表示は、5 個の黄色の、および 2 個の赤色のセグメントに分けられます。作動準備ができていることを示す黄色いセグメント ③ が点灯している場合は、パークトロンニックは作動が可能です。

エンジンがかかっているときに、選択したトランスミッションポジションと車両の進行方向によって、どの警告表示が作動するかが決定されます。

トランスミッションポジション	警告表示
D	前方のエリアが作動します。
R または N	前方と後方のエリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて 1 個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

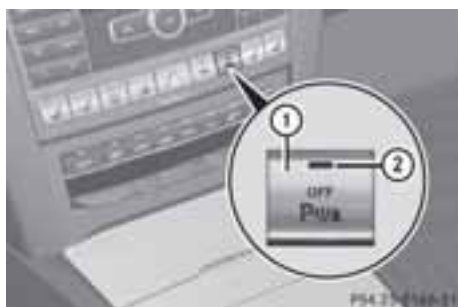
以下のように警告が行なわれます。

- 6 個目のセグメントを超えると、断続的な警告音が約 2 秒間聞こえます。
- 7 個目のセグメントを超えると、警告音が約 2 秒間聞こえます。これは、最短距離に達していることを示しています。

ティブパーキングアシストも解除されません。

i エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわしたときは、パークトロン尼克は自動的に作動します。

パークトロン尼克の解除/作動



クーペ

- ① パークトロン尼克の解除/作動
- ② 表示灯



カブリオレ

- ① パークトロン尼克の解除/作動
- ② 表示灯

表示灯 ② が点灯しているときは、パークトロン尼克は解除されています。アク

パークトロンニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>パークトロンニック警告表示の赤色のセグメントだけが点灯している。警告音が約2秒間聞こえる。</p> <p>パークトロンニックがその後解除され、パークトロンニックスイッチの表示灯が点灯する。</p>	<p>パークトロンニックが故障して、停止している。</p> <p>▶ 問題が続く場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場パークトロンニックを点検してください。</p>
<p>パークトロンニックの赤色インジケータだけが点灯している。パークトロンニックがその後解除される。</p>	<p>パークトロンニックセンサーが汚れているか、干渉がある。</p> <p>▶ パークトロンニックセンサーを掃除してください (▶ 344 ページ)。</p> <p>▶ エンジンスイッチを2の位置にしてください。</p> <p>電波や超音波の外部要因が問題の原因になっている。</p> <p>▶ 場所を変えてパークトロンニックが作動するか確認してください。</p>

アクティブパーキングアシスト

全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは超音波により駐車を支援するシステムです。車両の両側の道路を測定します。駐車マークは、適切な駐車スペースを示します。駐車している間は、自動作動によるステアリング介入およびブレーキの適用により運転者を支援します。パークトロンニックも使用できます (▶ 224 ページ)。

重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストは単なる支援に過ぎません。運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車を責任があります。操作範囲

に人や動物や物がないことを確認してください。

パークトロンニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも使用できません。

⚠ 警告

駐車するときや駐車スペースから出るとき、車両がはみ出し、対向車線に入ることがあります。他の道路使用者とぶつかる可能性があります。事故の危険性があります。

他の道路利用者に注意してください。必要な場合は停車して、アクティブパーキングアシストの作動を解除してください。

❗ 避けられないときは、ゆっくりと鋭角でない角度で縁石などの障害物を乗り越えてください。ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車に適さないスペースを表示することがあります：

- 駐車または停車が禁止されている
- 私道の手前または建物の出入り口
- 路面が駐車するのに適していない場所

駐車の見識：

- 狭い道路では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- ゴミが散らかっていたり、草が茂っている駐車スペースは、確認や測定が不正確になることがあります。
- トレーラーけん引バーが一部を占有している駐車スペースは、それが識別できなかったり、測定が不正確になることがあります。
- 雪や激しい雨により正しく計測されていない駐車スペースに誘導されることがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトロニック (▷ 225 ページ) の警告メッセージに注意してください。
- 運転者はいつでもステアリング操作に介入して修正できます。その場合はアクティブパーキングアシストが解除されます。
- 車両からはみ出ている荷物を運んでいるときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、決してアクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- タイヤ空気圧が常に適正であることを確認してください。これは車両の駐車特性に直接影響を与えます。

アクティブパーキングアシストは以下のような駐車スペースで使用してください。

- 進行方向と平行または直角である
- カーブしていないまっすぐな道にある
- 歩道などでなく、道路と同じ高さにある

駐車スペースの検知

駐車スペースが計測される時、アクティブパーキングアシストの検知範囲より上にある障害物は検知されません。例えば、車両から突き出た荷物や車両後部、積載用スロープなどは、駐車スペースを計測するときに考慮されません。

警告

検知範囲上に障害物がある場合：

- 作動中のパーキングアシストのステアリング操作が早すぎることがあります。
- 車両が障害物の前で停車しないことがあります。

衝突する原因となる可能性があります。事故の危険性があります。

検知範囲上に障害物があるときは、停止してアクティブパーキングアシストをオフにしてください。

検知範囲に関してのさらなる情報は (▷ 224 ページ) をご覧ください。

進行方向と直角にある駐車スペースでは、以下の場合にはアクティブパーキングアシストは支援を行いません：

- 2つの駐車スペースが隣り合っている
- 駐車スペースが低い縁石のような低い障害物のすぐ隣にある
- 前向きに駐車する

進行方向と平行にある、または直角にある駐車スペースでは、以下の場合にはアクティブパーキングアシストは支援を行いません：

- 駐車スペースが縁石の上にある
- 駐車スペースが、葉または芝生の歩道ブロックによって遮られているとシステムが認識した
- 移動するには、範囲が車両にとって小さすぎる
- 駐車スペースが木、柱またはトレーラーなどの障害物によって囲まれている



例：検知した駐車スペース

- ① 左側に検知された駐車スペース
- ② 駐車マーク
- ③ 右側に検知された駐車スペース

前進しているときは、アクティブパーキングアシストは自動的に作動します。約 35 km/h 以下の速度でシステムは作動します。作動しているときは、車両両側の駐車スペースを独自に見つけて、測定します。

アクティブパーキングアシストは以下の条件を満たすときにのみ、駐車スペースを検出します。

- 進行方向と平行または直角である
- 進行方向と平行で、1.5 m 以上の幅がある
- 進行方向と平行で、車両より 1.0 m 以上の長さがある
- 進行方向と直角で、車両より 1.0 m 以上の幅がある

① 駐車スペースが進行方向と直角である場合は、駐車スペースが車両を入れるのに十分な長さであることを確認してください。

30 km/h 以下で走行しているときは、メーターパネルにステータスインジケータとして駐車マーク②が表示されます。駐車スペースが検出されると、右向きまたは左向きの矢印も表示されます。標準では、アクティブパーキングアシストは助手席側の駐車スペースのみを表示します。運転席側の方向指示灯を作動させるとすぐに、運転席側の駐車スペースが表示されます。運転席側に駐車するときは、マルチファンクションステアリングの **[OK]** スイッチを押してアクティブパーキングアシストの使用を確認するまで、作動させたままにしなければなりません。システムは、駐車スペースが進行方向に平行、または直角かどうかを自動で測定します。

駐車スペースは、駐車スペースを過ぎてから約 15 m 離れるまで表示されます。

駐車


① オートマチックトランスミッション装備車両：


駐車操作を行なっている間にパークトニックが障害物を検知したときは、アクティブパーキングアシストは自動的にブレーキを効かせます。運転者には、適切にブレーキ操作を行なう責任がありません。

▶ メーターパネルに希望の駐車スペースを示すマークが表示されたら、停車します。


▶ トランスミッションをポジション R にシフトします。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシストオン Yes: OK No:**

 というメッセージが表示されます。

- ▶ **操作を中止する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、発進します。

または

- ▶ **アクティブパーキングアシストを使用して駐車する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト作動中** アクセルとブレーキを操作 周囲を確認」というメッセージが表示されます。

- ▶ マルチファンクションステアリングを放します。
- ▶ いつでもブレーキを効かせられるようにして、車両を後退させます。後退するとき、7 km/h 以下の速度で走行してください。この速度を超えると、アクティブパーキングアシストが解除されます。車両が駐車スペースにあるときは、アクティブパーキングアシストは車両が停止するまでブレーキを効かせます。狭い駐車スペースでは、操作が必要となる場合があります。

マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト作動中** D にシフト周囲を確認」というメッセージが表示されます。

- ▶ 車両が停止している間に、トランスミッションをポジション **D** にシフトします。アクティブパーキングアシストは、ただちに逆方向にステアリング操作を行ないません。

マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト作動中** アクセルとブレーキを操作」というメッセージが表示されます。

- ① ステアリング操作の完了を待ってから発進することにより、最適な結果が得られます。

- ▶ 前進して、いつでもブレーキを効かせられるようにします。アクティブパーキングアシストは、停止するまで車両にブレーキを効かせます。

マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト作動中** R にシフト 周囲を確認」というメッセージが表示されます。

さらにシフト操作が必要となる場合があります。

駐車手順が完了するとすぐに、マルチファンクションディスプレイに「**パーキングアシスト終了**」というメッセージが表示され、音が聞こえます。そして車両を駐車します。運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両は停止状態を保ちます。アクセルペダルを踏んだときは、ブレーキ効果が解除されます。

ステアリング操作での介入およびブレーキ操作を行なうと、アクティブパーキングアシストは支援を行なわなくなります。アクティブパーキングアシストが終了したときは、ご自身で再度ステアリング操作とブレーキ操作を行なってください。パークトロニックは引き続き使用できます。

- ▶ 必要であれば車両を移動してください。
- ▶ パークトロニックにより表示される警告メッセージに、常に注意してください(▶ 225 ページ)。

駐車の見識：

- 駐車後の駐車スペースでの車両の位置決めは、様々な要因に左右されます。これには、前後に停車している車両の位置や形、スペースの状態が含まれます。

す。そのため、アクティブパーキングアシストは駐車スペース内の最適な位置よりも奥または手前の位置に誘導することがあります。また縁石をまたいだり、縁石に乗り上げることもあります。必要であれば、アクティブパーキングアシストによる駐車操作を中断してください。

- すぐに前進ギアに入れることもできます。車両の向きが変わり、駐車スペースの奥まで移動しなくなります。ギアチェンジを行なうタイミングが早すぎると、駐車操作が中断されます。この位置からは、適切な位置に駐車することができなくなります。

駐車スペースからの退出

駐車スペースから出るときに、アクティブパーキングアシストが支援できるように以下を確認してください。


- 駐車スペースの境界がフロントとリアで十分に高くなければならない。例えば、縁石が小さすぎる。
- 車両を駐車スペースに入れるときにスタートポジションに対して車両の位置は 45° の角度を超えてはいけなないので、駐車スペースの境界は幅が広すぎない。
- 転回距離は 1.0 m 以上でなければならない。


i オートマチックトランスミッション装備車両

車両が駐車スペースから出ている間にパークトロニックが障害物を検知した場合は、アクティブパーキングアシストは自動的にブレーキを効かせます。運転者には、適切なブレーキ操作を行なう責任があります。


アクティブパーキングアシストは、走行方向と平行に車両を駐車した場合に限

り、駐車スペースを出るときも運転者を支援することができます。

- ▶ エンジンを始動してください。
- ▶ 出る方向の方向指示灯を作動させます。
- ▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。
マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシストオン Yes: OK No:**  というメッセージが表示されます。

- ▶ **操作を中止する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、発進します。

または

- ▶ **アクティブパーキングアシストを使用して駐車スペースから出る**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押します。

マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** というメッセージが表示されます。

- ▶ マルチファンクションステアリングを放します。
- ▶ いつでもブレーキを効かせられる準備をして、車両を後退させます。後退するときは、7 km/h 以下の速度で走行してください。この速度を超えると、アクティブパーキングアシストが解除されます。

- ▶ 停車しているときに、必要であればシフトポジションを **D** または **R** にシフトします。

アクティブパーキングアシストはただちに逆方向にステアリング操作を行ないます。マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** というメッセージが表示されます。

i ステアリング操作の完了を待ってから発進することにより、最適な結果が得られます。

作動後に後退する場合は、ステアリングを直進位置に動かします。

▶ パークトロニックの警告表示による指示に従い、必要に応じて数回、前進および後退します。

駐車スペースから完全に出たら、ステアリングを直進位置に動かします。音が聞こえ、マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 終了** というメッセージが表示されます。ご自身でステアリング操作を行ない、交通に合流する必要があります。パークトロニックは引き続き使用できます。車両が駐車スペースから完全に出る前に、ステアリング操作を引継ぐことができます。これは、すでに駐車スペースから出たと思われる場合などに役立ちます。

アクティブパーキングアシストの中止

アクティブパーキングアシストはいつでも中止することができます。

▶ マルチファンクションステアリングの動きを止めるか、またはご自身でステアリング操作を行ないます。


アクティブパーキングアシストはすぐに中止されます。マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 中止** というメッセージが表示されます。

または

▶ センターコンソールにあるパークトロニックスイッチを押します (▶ 226 ページ)。

パークトロニックが停止し、アクティブパーキングアシストがただちに中止されます。マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 中止** というメッセージが表示されます。

アクティブパーキングアシストは以下のときに自動的に解除されます。

- トランスミッションをシフトするのが早すぎた
- トランスミッションポジション **P** が選択された
- アクティブパーキングアシストを使用して駐車することができなくなった
- 7 km/h より速く走行した
- 車輪が空転して ESP® が介入したか、故障した そのような場合は、メーターパネルの警告灯  が点灯します。

警告音が鳴ります。駐車マークが消え、マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 中止** というメッセージが表示されます。

アクティブパーキングアシストが解除されたときは、ご自身で再度ステアリング操作とブレーキ操作を行なってください。

オートマチックトランスミッション装備

車両： システム故障が発生した場合は、停止するまで車両がブレーキを効かせます。走行するには、再度一度アクセルペダルを踏んでください。

パーキングアシストリアビューカメラ

全体的な注意事項



例：クーペ

パーキングアシストリアビューカメラ①はトランクリッドのハンドルにあります。

パーキングアシストリアビューカメラ②は、視覚的な駐車およびステアリング操作の支援です。COMAND ディスプレイに車両後方エリアをガイドライン入りで表示します。

車両後方エリアは、ルームミラーに写るように鏡像で表示されます。

i COMAND ディスプレイに表示されるメッセージの文字は、言語設定により異なります。以下は、COMAND ディスプレイのパーキングアシストリアビューカメラのメッセージの例です。

重要な安全上の注意事項

パーキングアシストリアビューカメラは単なる補助にすぎません。運転者の代わりに周辺状況を確認することはできません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なう間は、周囲に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

次のような環境下ではパーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり、制限された方法で機能します。

- トランクが開いている場合。
- 激しい雨、雪または霧で。
- 夜や非常に暗い場所で。
- カメラが非常に明るい光に照らされている場合。
- 周囲が蛍光灯の光、または LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）。
- 冬に暖かい車庫に入るなど、急激な温度変化があった場合。

• カメラのレンズが汚れていたり、遮られている場合。

• 車両の後部が損傷している場合。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置および設定を点検してください。

パーキングアシストリアビューカメラの視界および他の機能は、車両後部に追加されたアクセサリ（例：ナンバープレートホルダー、自転車ラック）により、制限されることがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの作動/解除

▶ **作動させる**： エンジンスイッチのキーが **2** の位置になっていることを確認します。

▶ COMAND システムで "リバース連動機能" 設定が作動していることを確認します。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。

▶ リバースギアに入れます。車両後方のエリアがガイドラインとともに COMAND ディスプレイに表示されます。

解除する： トランスミッションを **P** にシフトした場合、または短距離を前進した後に、パーキングアシストリアビューカメラは解除されます。

COMAND ディスプレイの表示

パーキングアシストリアビューカメラは、障害物の歪んだ画像を表示したり、それらを正しく、または全く表示しないことがあります。以下の場所では、リアビューカメラでは障害物は表示されません：

- リアバンパーのすぐ近く。
- リアバンパーの下。
- テールゲートハンドルのすぐ上の範囲。

❗ 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くにあるように見えることがあります。

- ・駐車車両のバンパー
- ・トレーラーのトーイングバー
- ・トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- ・大型車のリア部
- ・傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。



- ① 車両後部から約 4.0 m の距離の黄色ガイドライン
- ② ステアリングをまわしていないときの、ドアミラーを含む車幅を示す白色のガイドライン（固定）
- ③ そのときのステアリング操舵角での、ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン：（可変）
- ④ そのときのステアリング操舵角での、タイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可変）



- ⑤ 車両後部から約 1.0 m の距離の黄色のガイドライン
- ⑥ 車両中央軸（補助マーカー）
- ⑦ バンパー
- ⑧ 車両後部から約 0.30 m の距離の赤色のガイドライン

トランスミッションをシフトポジション R にしたときに、ガイドラインは表示されます。

規定の距離は、路面に接している障害物にのみ適用されます。



パークトロニック装備車両の補助表示

- ① フロントの警告表示
- ② パークトロニックの補助計測の作動待機インジケーター
- ③ リアの警告表示

パークトロニック装備車両：パークトロニックが作動可能なときは（p. 224 ページ）、COMAND ディスプレイに補助計測の作動待機インジケーター ② が表示されます。パークトロニック警告表示が

作動または点灯している場合は、それに
応じて警告表示 ① および ③ も
COMAND ディスプレイ内で作動または
点灯します。

"後退駐車"機能

ステアリングをまわさないで、駐車ス
ペースにまっすぐ後退する



- ① ステアリングをまわしていないとき
の、ドアミラーを含む車幅を示す白
色のガイドライン（固定）
- ② そのときのステアリング操舵角での、
ドアミラーを含む車幅を示す黄色の
ガイドライン（可変）
- ③ 車両後部から約 1.0 m の距離の黄色
のガイドライン
- ④ 車両後部から約 0.30 m の距離の赤
色のガイドライン

- ▶ パーキングアシストリアビューカメラ
が作動していることを確認してくださ
い。(▶ 233 ページ)
車線とガイドラインが表示されます。
- ▶ 白色のガイドライン ① の補助で、車
両が駐車スペースに合うかどうかを確
認します。
- ▶ 白色のガイドライン ① を進路の参考
として使用し、後端位置に到達するま
で慎重に後退します。
赤色のガイドライン ④ が駐車スペ
ースの後端にきます。車両は駐車スペ
ースとほぼ平行になります。

ステアリングをまわして直角に後退駐車
する



- ① 駐車スペースマーク
- ② そのときのステアリング操舵角での、
ドアミラーを含む車幅を示す黄色の
ガイドライン（可変）

- ▶ パーキングアシストリアビューカメラ
が作動していることを確認してくださ
い。(▶ 233 ページ)
車線とガイドラインが表示されます。
- ▶ 駐車スペースを通過して、車両を停止
します。
- ▶ 車両が停止している間に、黄色のガイ
ドライン ② が駐車スペースマーク ①
の中に収まるまで駐車スペースの方向
にステアリングをまわします。
- ▶ ステアリングをその位置で保持して注
意しながら後退します。



ステアリングをまわしながら後退する

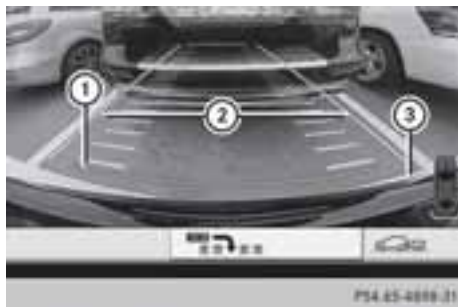
- ① そのときのステアリング操舵角での、
ドアミラーを含む車幅を示す黄色の
ガイドライン（可変）

- ▶ 駐車スペースのほぼ正面になったときに停車します。
白色のレーンが駐車スペースとできるだけ平行になるようにします。



停止位置まで運転する

- ① そのときのステアリング操舵角での、白色のガイドライン（可変）
 - ② 駐車スペースマーク
- ▶ 車両が停止している間に、ステアリングを直進位置にまわします。



- ① 車両後部から約 0.30 m の距離の赤色のガイドライン
 - ② ステアリングを直進にした状態での車両の進路を示す白色のレーン
 - ③ 駐車スペースの後端
- ▶ 後端に達するまで、注意しながら後退します。
赤色のガイドライン ① が駐車スペース ③ の後端にきます。車両は駐車スペースとほぼ平行になります。

360° カメラ

全体的な注意事項

360° カメラは 4 つのカメラで構成されるカメラシステムです。

システムは以下のカメラからの映像を判断します。

- パーキングアシストリアビューカメラ
- フロントカメラ
- ドアミラーの 2 つのカメラ

カメラは車両周辺の状況を映し出します。システムは、駐車時や見通しの悪い出口などで運転者を支援します。

360° カメラの映像は、COMAND ディスプレイに全画面表示モードまたは 6 種類の分割画面表示で表示することができます。分割画面表示には車両の上面表示も含まれます。この表示は、車載カメラにより提供されたデータから生成されます（バーチャルカメラ）。

6 つの分割画面表示は以下とおりです。

- 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラの映像（130° 表示角度）
- 上面表示とフロントカメラからの画像（最大ステアリング角度を表示しない 130° 表示角度）
- 上面表示と拡大リア表示
- 上面表示と拡大フロント表示
- 上面表示と後面ミラーカメラの映像（後輪表示）
- 上面表示と前面ミラーカメラの映像（前輪表示）

機能が作動していて、トランスミッションを **D** または **R** から **N** にシフトしたときは、可変ガイドラインは非表示になります。

トランスミッションポジションを **D** と **R** の間で切り替えると、直前に選択されていたフロントビューまたはリアビューが表示されます。

重要な安全上の注意事項

360° カメラは単なる支援に過ぎず、障害物の歪んだ映像を表示したり、それらを正しく、または、まったく表示しないことがあります。360° カメラは、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なう間は、進行方向に人や動物、障害物が存在しないことを確認してください。

運転者には安全を確保する責任があり、駐車や運転操作を行なうときは、常に周囲の状況に注意しなければなりません。車両の後方、前方および両側の状況を直接確認してください。お守りいただかないと、運転者や他の人に危険がおよぶおそれがあります。

360° カメラは、以下のときはまったく機能しなくなるか、機能が制限されます。

- ドアが開いている場合。
- ドアミラーが格納されている場合。
- トランクが開いている場合。
- 激しい雨、雪または霧で。
- 夜や非常に暗い場所で。
- カメラに強い光が直接当たった場合。
- 周囲が蛍光灯の光、または LED の光で照らされている場合（ディスプレイがちらつくことがあります）。
- 冬に暖かい車庫に入るなど、急激な温度の変化があった場合。
- カメラのレンズが汚れていたり、覆われている場合。
- カメラ装着部の車両の構成部品が損傷した場合。このようなときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのカメラの位置や設定を点検してください。

このような場合は、360° カメラを使用しないでください。駐車をしていると

きに、他の人にけがをさせたり、物や車両を損傷するおそれがあります。


ガイドラインは常に、道路の高さで表示されます。

作動条件




360° カメラの映像は、以下のときに表示できます。


- 車両に 360° カメラが装備されている。
- エンジンスイッチのキーが **2** の位置にある。
- COMAND システムが作動している。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。
- **360° カメラ** の機能が作動している。

SYS スイッチを使用して 360° カメラを作動させる

- ▶  スイッチを 2 秒以上押します。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。トランスミッションポジションが **D** または **R** のいずれかであるかによって、以下の画面が表示されます。
 - フロントカメラ映像の全画面表示
 - リアビューカメラ映像の全画面表示

COMAND システムを使用して 360° カメラを作動させる

- ▶  スイッチを押します。別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。
- または
- ▶ COMAND コントローラーをまわして 、**システム** を選択し、押して  確定します。

▶ **360° カメラ**を選択し、を押して確定します。

トランスミッションポジションが **D** または **R** のいずれかであるかによって、以下の画面が表示されます。

- 上面表示とフロントカメラ映像を含む分割画面表示、または
- 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラの画像のある分割画面表示

COMAND コントローラーに関するさらなる情報は、別冊の COMAND システムの取扱説明書をご覧ください。

リバースギアを使用して 360° カメラを作動させる


リバースギアに入れることで、自動的に 360° カメラの映像が表示されます。


- ▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。
- ▶ COMAND システムで**リバース連動**設定が作動していることを確認します。別冊の COMAND システム取扱説明書をご覧ください。



▶ **360° カメラの映像を表示する**： リバースギアに入れます。

COMAND システムに分割画面モードで車両後方エリアが表示されます。車両の上面表示およびパーキングアシストリアビューカメラからの画像が表示されます。

分割画面または全画面表示モードを選択する

▶ **分割画面のビューを切り替える**： COMAND コントローラーをスライドして 、車両アイコン付きラインに切り替えます。

▶ COMAND コントローラーをまわして 、車両アイコンのいずれかを選択します。

▶ **全画面モードに切り替える**： COMAND コントローラーをまわして  **全画面表示**を選択し、押して  確定します。

i 全画面オプションは以下の表示でのみ使用可能です。

- パーキングアシストリアビューカメラからの上面表示
- フロントカメラからの上面表示

COMAND ディスプレイの表示

重要な安全上の注意事項

カメラシステムは障害物の歪んだ映像を表示したり、それらを正しく表示しなかったり、または全く表示しないことがあります。以下の場所では、システムは障害物を表示しません。

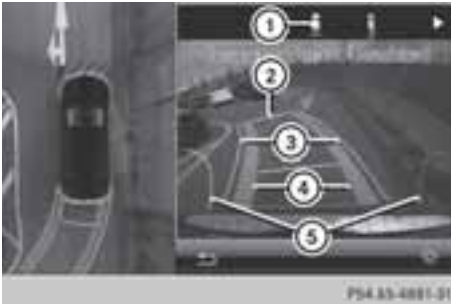
- フロントおよびリアバンパーの下
- フロントおよびリアバンパーのすぐ近く
- テールゲートハンドル/トランクリッドハンドル上すぐのエリア
- ドアミラーの近接部
- バーチャル上面表示での様々なカメラ間の推移エリア

! 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くに見えることがあります。

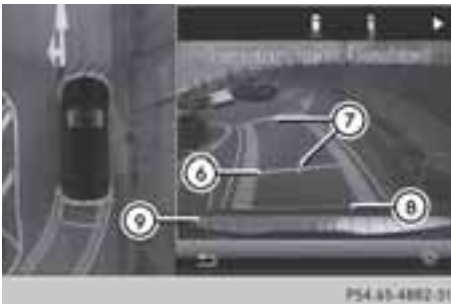
- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトローリングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に近付くときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。

上面表示（リアビューカメラからの映像）



- ① 上面表示とパーキングアシストリアビューカメラ映像の分割画面の設定アイコン
- ② 車両後部から約 4.0 m の距離の黄色のガイドライン
- ③ そのときのステアリング操舵角でのドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可変）
- ④ そのときのステアリング操舵角でのタイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可変）
- ⑤ 最大のステアリング操舵角での黄色のガイドライン

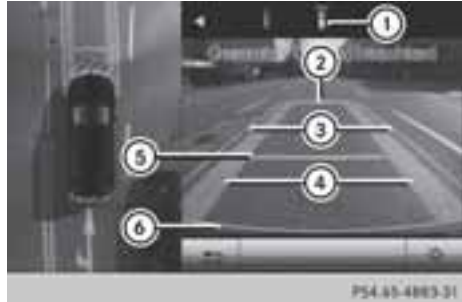


- ⑥ 車両後部から約 1.0 m の距離の黄色のガイドライン
- ⑦ 車両中央軸（補助マーカー）
- ⑧ 車両後部から約 0.30 m の距離の赤色のガイドライン
- ⑨ バンパー

ガイドラインは、トランスミッションがポジション R にあるときに表示されます。

距離は路面に接している障害物を基準に示しています。

上面表示（フロントカメラからの映像）



- ① 上面表示とフロントカメラ映像の分割画面の設定アイコン
- ② 車両後部から約 4.0 m の距離の黄色のガイドライン
- ③ そのときのステアリング操舵角でのドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（可変）
- ④ そのときのステアリング操舵角でのタイヤの進路を示す黄色のレーンマーク（可変）
- ⑤ 車両後部から約 1.0 m の距離の黄色のガイドライン
- ⑥ 車両後部から約 0.30 m の距離の赤色のガイドライン

上面表示と拡大リア表示



- ① 上面表示とリアビューカメラ拡大映像の分割画面の設定アイコン
- ② 車両後部から約 0.30 m の距離の赤色のガイドライン

この表示は、車両後方からの距離を確認するときに運転者を支援します。

i この設定は、拡大フロント表示として選択することもできます。

上面表示（ミラーカメラからの映像）



- ① 上面表示と前面ミラーカメラの設定アイコン
- ② ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（車両右側）
- ③ ドアミラーを含む車幅を示す黄色のガイドライン（車両左側）

i 後方表示に設定したミラーカメラを選択することもできます。

広角機能



例：パークトロンニック表示のある全画面表示

- ① リアビューカメラ映像の全画面表示設定アイコン
- ② パークトロンニック警告表示

車両にパークトロンニックが装備されていて、機能が作動している場合は（▶ 226 ページ）、それに応じて COMAND ディスプレイの警告表示 ② も作動するか、または点灯します。

パークトロンニックは以下のように表示されます：

- 分割画面モードの上面表示では、車両マーク周囲の赤色または黄色の四角い枠で、または、
- 全画面モードでは、車両マーク周囲の赤色または黄色の四角い枠で下部右側に。

i 全画面表示モードは、フロント表示でも選択可能です。

出口から走り出たり、交差点の視界が制限されているときなどに、この表示を選択します。



障害物検知



- ① リアビューカメラ映像の全画面表示設定アイコン
- ② 検知された障害物をマークするためのバー

全画面モードでは、360° カメラは動いている、および停止している障害物の両方を検知できます。例えば、歩行者または他の車両が検知された場合は、これらの障害物はバー ② でマークされます。車両が動いているときにのみ、システムは静止している障害物を検知し、マークすることができます。対照的に、動いている障害物は常に検知され、マークされます。

360° カメラの表示を停止する

機能を作動させていて、車両が 30 km/h の速度を超えるとすぐに、機能は停止します。COMAND ディスプレイに前回の画面が表示されます。ディスプレイの  マークを選択し、COMAND コントローラーを押して  選択することでもディスプレイを切り替えることもできます。

トランスミッションポジション **P** を選択した場合も、360° カメラの表示は終了します。

アテンションアシスト

全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を補助します。60 km/h ~ 200 km/h の範囲で作動します。アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知した場合は、休憩を促します。

重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは単なる支援に過ぎません。疲労や集中力低下を検出するのが遅すぎたり、全くしないことがあります。十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。

- 走行時間が約 30 分 以下の場合
- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪い場合
- 横風が強い場合
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっている場合
- 主に 60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合
- ディストロニック・プラスのアクティブステアリングアシストを作動させて走行している場合
- 時刻が正しく設定されていない場合
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況のとき

走行を継続するときは、アテンションアシストは以下の場合にリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止した
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いた

アテンションレベルの表示



マルチファンクションディスプレイのアシストメニューに現在のステータス情報を表示させることができます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストのアシストグラフィック表示を選択します (▶ 264 ページ)。

以下の情報が表示されます。


- 最後の休憩からの走行時間
- アテンションアシストによって判断されるアテンションレベル、高いから低いまで 5 段階のバー表示で表示されます。
- アテンションアシストがアテンションレベルを算出できず、警告を発せられない場合は、**泓弘 停止** というメッセージが表示されます。例えば 60 km/h 以下、または 200 km/h 以上の速度で走行している場合、バー表示の表示が変更されます。

アテンションアシストの作動

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを作動させます (▶ 266 ページ)。
システムは、選択された以下の設定によって運転者のアテンションレベルを判断します。

標準を選択：アテンションレベルを判断するシステムの感度が標準に設定されません。

センシティブを選択：感度がより高く設定されます。それに従ってアテンションアシストにより検知されたアテンションレベルが合わされ、運転者に早く知らされます。

エンジンがかかっているときにアテンションアシストが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシストグラフィック表示に  マークおよび OFF が表示されます。

アテンションアシストが解除されたときは、エンジンが停止した後に自動的に再作動します。選択される感度は、最後に作動させた選択に対応します (標準/センシティブ)。

マルチファンクションディスプレイの警告

疲労または集中力欠如の増加が検知された場合は、マルチファンクションディスプレイに警告 **アテンションアシスト 休憩しましょう！** が表示されます。

マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージに加えて、警告音が聞こえます。

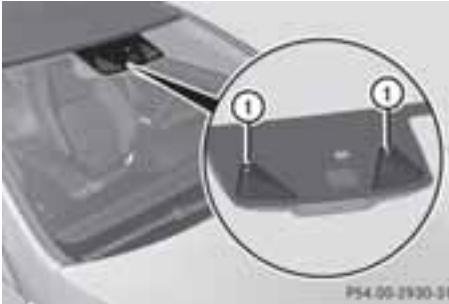
- ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。
- ▶ ステアリングの **OK** スイッチを押して、メッセージを確定します。

長時間の運転では、適切な休憩をするために、適切な時間に定期的に休憩を取るようになしてください。休憩を取らず、ア

テンションアシストがなお集中力欠如の増加を検知した場合は、15分後以降に再度警告されます。これは、アテンションアシストが疲労または集中力低下の増加の兆候を検知した場合にのみ実行されます。

道路標識アシスト

全体的な注意事項



道路標識アシストは運転者に対して、許容最高速度および追い越し規制をメーターパネルに表示します。道路区間の間違った方向への走行には警告を発します。道路標識アシストは、フロントウィンドウの上部背面に装着されているカメラシステム①で交通標識を検知します。ナビゲーションシステムに保存されているデータおよび一般交通法規も、そのときの速度制限を判断するために使用されます。

お客様の車両に関係のある交通標識を通過した場合は、速度制限および追い越し規制の表示が更新されます。

以下の場合、視認できる交通標識がなくとも表示は更新されます。

- 車両が道路を変更した（例：自動車道路の出口または進入路）
- デジタル地図に保存されている村または町の境界を通過した
- カメラに検知された最後の交通標識が繰り返されなかった

制限（速度制限または追い越し規制）の終了を示す標識を通過した場合は、標識が5秒間表示されます。そして適用される交通法規がメーターパネルに表示されます。

カメラは追加の標識（例：ウェットコンディション）によって示された制限を伴う交通標識も検知します。

以下の場合、交通標識は制限付きでのみ表示されます。

- 法規が制限とともに遵守されなければならない、または
- 制限が適用できるかどうかを道路標識アシストが判断できない。

いかなる使用可能な情報源からも道路標識アシストが許容最高速度を判断できない場合は、速度制限もメーターパネルに表示されません。



道路標識アシストは、すべての国で使用できるわけではありません。このような場合は、アシストグラフィック表示にマーク①が表示されます（▶ 264 ページ）。

重要な安全上の注意事項

道路標識アシストは単なる支援に過ぎず、常に速度制限および追い越し規制を正しく表示できるわけではありません。交通標識は常に道路標識アシストの表示に優先します。

以下の場合、システムは機能的に損なわれるだけでなく、一時的に使用できないことがあります。

- 雪、雨、霧または霧雨などで視界が悪い
- 空の低いところにある太陽などで眩しい
- フロントウインドウのカメラ範囲に汚れ、氷または曇りがある
- 交通標識が検知しにくい（汚れ、氷、雪）
- 夜間で交通標識への照明が不十分である
- 標識が不明瞭である（例：建設現場の、または隣接車線の交通標識）
- ナビゲーションシステムのデジタル道路地図の情報が不適切、または古い

メッセージ機能の作動/解除の切り替え

マルチファンクションディスプレイで道路標識アシストのメッセージ機能を作動させることができます。交通標識を通過したときは、マルチファンクションディスプレイに交通法規（速度制限および追い越し規制）が表示されます。前回のメニューが自動的に表示されます。

メッセージ機能が解除された場合でも、間違った進行方向の警告は作動したままになります。

- ▶ マルチファンクションディスプレイで道路標識アシストのメッセージ機能を作動させます（▶ 264 ページ）。

メーターパネルの表示

アシストグラフィックの表示

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアシストグラフィック表示機能呼び出します（▶ 264 ページ）。
- ▶ 道路標識アシスト表示を選択します。メーターパネルに検知された交通標識が表示されます。

追い越し規制を伴う速度制限



最高許容速度 100 km/h (100 mph) ① および追い越し規制②が適用されます。

不明な規制を伴う速度制限



- ① 許容最高速度
- ② 追加標識での規制に関連する車両の許容最高速度
- ③ 不明な規制を伴う追加標識

最高許容速度 100 km/h (100 mph) および速度制限 80 km/h

(80 mph) が不明な規制とともに適用されます。

ウェットコンディションでの速度制限



- ① 許容最高速度
- ② ウェットコンディションの追加標識

許容最高速度 80 km/h (80 mph) はウェットコンディションで適用され、道路標識アシストは制限を遵守すべきと判断しています。

追い越し規制の終了



最高許容速度 100 km/h (100 mph) ①が適用されます。追い越し規制は適用されなくなります ②。線の引かれた追い越し禁止の交通標識が5秒間表示されます。

速度制限の終了



速度制限は適用されなくなります ①。

① 速度制限の単位 (km/h または mph) は、走行している国により異なります。交通標識またはメーターパネルのいずれかに表示されないことも一般的ですが、許容最高速度を遵守するときは考慮しなければなりません。

アクティブドライビングアシスタンスパッケージ

全体的な注意事項

アクティブドライビングアシスタンスパッケージはディストロニック・プラス (p 210 ページ) と、アクティブブラインドスポットアシスト (p 245 ページ)、アクティブレーンキーピングアシスト (p 248 ページ) で構成されています。

アクティブブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

アクティブブラインドスポットは、左右の後ろ向きの2つのレーダーセンサーで、運転者には見えない車両のいずれか一方のエリアをモニターします。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。車線変更するために該当する方向指示灯を作動させた場合

は、視覚的および聴覚的な衝突警告も発せられます。側方衝突の危険性が検知された場合は、修正ブレーキが衝突の回避を支援することがあります。進路修正ブレーキの適用前に、アクティブブラインドスポットアシストは進行方向および側方の空いているスペースを測定します。そのためには、アクティブブラインドスポットアシストは前向きレーダーセンサーを使用します。

アクティブブラインドスポットアシストは、約 30 km/h の速度から支援を行います。

重要な安全上の注意事項

アクティブブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎず、注意を払った走行の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストは以下のような車両には反応しません。

- 追い越してくる際に、側面に近づき過ぎて死角に入った車両
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

この場合、アクティブブラインドスポットアシストは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側に安全な車間距離を維持してください。

レーダーセンサー

アクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーは、前後のバンパーおよびラジエターグリルのカバー裏側に内蔵されています。バンパーとラジエターグリルのカバーに汚れ、氷、または泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのレーダー

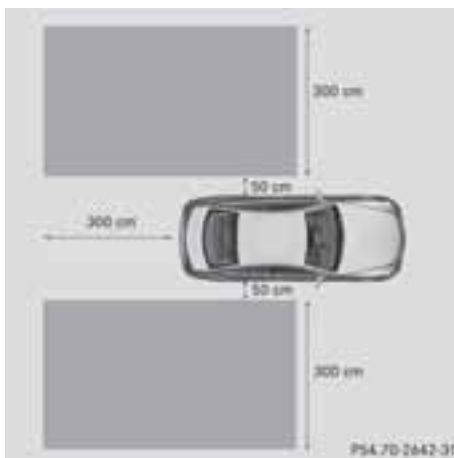
センサーの機能を点検してください。さもないと、アクティブブラインドスポットアシストは正しく機能しなくなることがあります。

モニター範囲

⚠ 警告

アクティブブラインドスポットアシストはすべての交通状況と道路使用者を検知するわけではありません。事故の危険性があります。

他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。



例：クーペ

アクティブブラインドスポットアシストは、図に示すように 3.0 m までの車両後方および車両のすぐ脇の範囲をモニターします。

以下の場合には、車両の検知が困難になることがあります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている。
- 雨、雪または霧雨などのため視界が悪い。

モニター範囲の車両は遅く表示されるか、またはまったく表示されません。

アクティブブラインドスポットアシストはオートバイや自転車のような幅の狭い

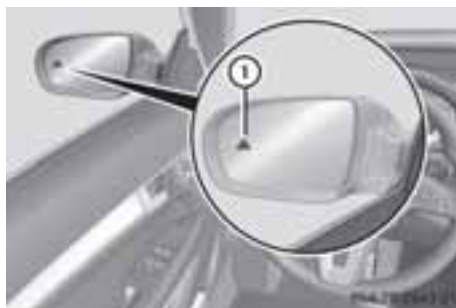
車両を検知しなかったり、非常に遅れてからのみ検知することがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、お客様の車両の隣車線の次の車線の車両を検知することがあります。これは、車両がその車線の端にある場合などに該当します。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレール、または類似の連続している車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トレーラーなどの長い車両と長時間並走しているときに、警告が中断されることがあります。

表示灯と警告灯



① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。モニター範囲にある車両は検知されません。

アクティブブラインドスポットアシストが設定されている場合は、30 km/h までの速度では、ドアミラーの表示灯 ① が黄色に点灯します。30 km/h 以上の速度では、表示灯は消灯し、アクティブブラインドスポットアシストは作動可能になります。

30 km/h 以上の速度で、ブラインドスポットアシストのモニター範囲内で車両

が検知された場合は、該当する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。警告は、後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲内に入ったときに常に発せられます。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

リバースギアに入れた場合は、黄色の表示灯は消灯します。そして、アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

視覚的および聴覚的な衝突警告

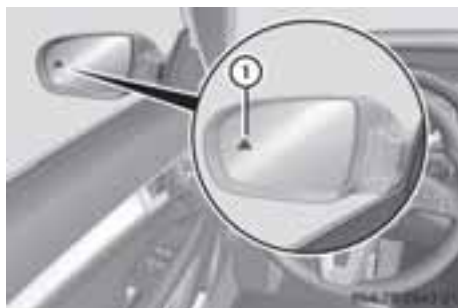
運転者が車線変更のために方向指示灯を作動させ、側方のモニター範囲で車両が検知された場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告が発せられます。その後、警告音が 2 回聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯がそのままの場合は、赤色の警告灯 ① の点滅により検知された車両が表示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

車線修正ブレーキの適用

⚠ 警告

車線修正ブレーキの適用は、常に衝突を防ぐわけではありません。事故の危険性があります。

特に、アクティブブラインドスポットアシストが警告するまたは車線修正ブレーキの適用をする場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行ってください。常に両側との安全な車間距離を維持してください



モニター範囲でアクティブブラインドスポットアシストが側方衝突の危険性を検知した場合は、進路修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

車線修正ブレーキが介入すると、ドアミラーの赤色の警告灯 ① が点滅して、警告音が 2 回鳴ります。さらにマルチファンクションディスプレイにマーク ② が表示されます。

まれに、システムが適切でないブレーキの適用を行なうことがあります。ステアリングを反対方向に軽く操作するか、または加速した場合は、いつでも進路修正ブレーキの適用が中断されます。

進路修正ブレーキの適用は 30 km/h ~ 200 km/h の速度範囲で作動します。

以下の場合には、走行状況に合った、または全く合わない進路修正ブレーキの適用が行なわれません：

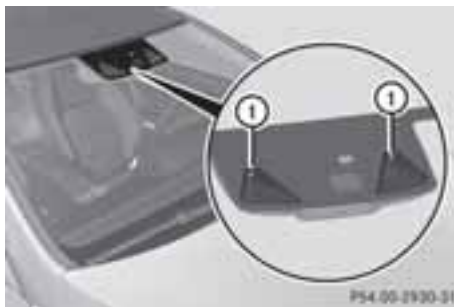
- 車両の両側に車両やガードレールなどの障害物がある。
- 側方すぐのところにも車両が接近している。
- 高いコーナリング速度のスポーティな運転スタイルをとっている。
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっている。
- ESP[®] または PRE-SAFE[®] ブレーキのような走行安全システムが介入している。
- ESP[®] が解除されている。
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されている。

アクティブブラインドスポットアシストの作動

- ▶ マルチファンクションディスプレイでアクティブブラインドスポットアシスト (▷ 266 ページ) が設定されていることを確認します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします。
ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色で点灯した後、黄色に変わります。

アクティブレーンキーピングアシスト

全体的な注意事項



アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウィンドウ上部にあるカメラシステム①で車両の前方エリアをモニターします。レーダーセンサーシステムの支援により、車両の前方、後方および側方の他の様々なエリアもモニターされます。アクティブレーンキーピングアシストは道路の車線マークを検知し、意図せずに車線から外れる前に警告を発します。警告に反応しない場合は、車線修正ブレーキを適用することにより、車両を元の車線に戻すことができます。

この機能は、60 km/h ~ 200 km/h の間の範囲で作動します。

走行時のアクティブレーンキーピングアシストの支援のためには、レーダーセンサーシステムが作動可能でなければなりません。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、アクティブレーンキーピングアシストは事故の危険性を低減させることも、物理的法則を乗り越えることもできません。アクティブレーンキーピングアシストは道路および天候の状況を考慮することはできません。交通状況を認識しないことがあります。アクティブレーンキーピングアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との車間距離、車両速度、適切なブレーキ操作、車線内での維持に関する責任があります。

アクティブレーンキーピングアシストは車両を車線内に保ち続けることはできません。

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは必ずしも明確に車線ラインを検知することはできません。

このような場合、アクティブレーンキーピングアシストは以下を行うことがあります

- 不要な警告を行ない、車両に車線修正ブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる

事故の危険性があります。

特にアクティブレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況に注意を払い車線内に保つようご注意ください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

以下の場合、システムの作動が損なわれ、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨により視界が悪い。
- 対向車両、太陽または他の車両からの反射などで眩しい（路面が濡れている場合など）。
- フロントウィンドウが汚れている、曇っている、損傷している、またはカメラ周辺がステッカーなどで覆われている。
- フロントまたはリアバンパー、またはラジエターグリルのレーダーセンサーが雪などに覆われているなどで汚れている場合。
- 工事などで1車線分の車線マークが全くないか、いくつかある、または不明瞭である。
- 車線ラインが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている。
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない。
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる。
- 道路が狭かったりカーブしている。
- 道路に著しく様々な状況の日陰がある。

隣接する車線で車両が検知されず、破線の車線マークが検知された場合は、車線修正ブレーキの適用はされません。

ステアリングの警告振動

前輪が車線マークを超えた場合は、警告が発せられます。警告はステアリングを1.5秒以内で振動させることにより行なわれます。

車線修正ブレーキの適用

⚠ 警告

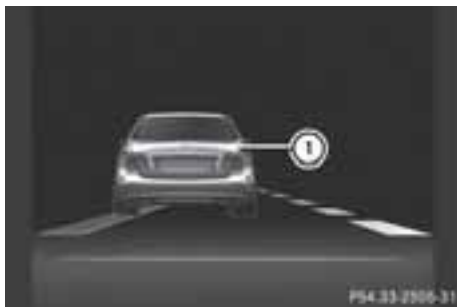
車線修正ブレーキを適用しても車両が元の車線に戻るとは限りません。事故の危険性があります。

特に、アクティブレーンキーピングアシストが警告する、または車線修正ブレーキが適用される場合、必ずステアリング操作、ブレーキ操作、加速操作を行なってください。

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは、限られた範囲でしか交通状況および他の道路使用者を検知しません。まれに、実線の車線マークの上を故意に走行した後などにシステムによって適切でないブレーキが適用されることがあります。事故の危険性があります。

ステアリングを反対方向に軽く操作すると、適切でないブレーキの適用を中断できます。他の交通や障害物との距離が十分であることを常に確認してください。



特定の状況で車線から外れた場合には、片側にブレーキが軽くかかります。これは、車両を元の車線に戻すように支援するために意図されています。

車線修正ブレーキの適用が行なわれた場合は、マルチファクションディスプレイに表示 ① が表示されます。

実線または破線と認識された車線マークを越えて走行した後に、車線修正ブレーキの適用は行なわれます。これ以前は、ステアリングの断続的な振動により、警告が発せられます。さらに、両側に車線マークのある車線を認識していなくてはなりません。

破線の車線マークが検知された場合は、隣接する車線で車両が検知されている場合にのみ車線修正ブレーキの適用が行なわれます。以下の車両はブレーキの適用に影響を与えることがあります。対向車両、追い越そうとしている車両、およびお客様の車両と平行に走行している車両。

① 次の車線修正ブレーキの適用は、車両が元の車線に戻った後にのみ行なわれます。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行われません。

- 明確に、および活発にステアリング操作、ブレーキ操作または加速を行なっている。
- きついカーブの内側をまたいだ。
- 高いコーナリング速度、または急加速のスポーティな運転スタイルをとっている。
- 方向指示灯を作動させた。
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した。
- ESP® が解除された。

- トランスミッションがポジション **D** でない。
- 走行している車線で障害物が検知された。
- タイヤ空気圧の減少やタイヤの不具合が検知されて表示された。

アクティブレーンアシストは、与えられた交通状況の判断を誤る可能性があります。不適切なブレーキの適用は、以下のときにいつでも中断されます。

- ステアリングを反対方向に軽く操作する。
- 方向指示灯を作動させる。
- 明確にブレーキ操作または加速操作を行なう。

車線修正ブレーキの適用は、以下のときに自動的に中断されます。

- ESP[®]、PRE-SAFE[®] ブレーキまたはアクティブブラインドスポットアシストのような走行安全システムが介入した。
- 車線マークが検知されなくなった。

アクティブレーンキーピングアシストの作動

▶ そのためには、マルチファンクションディスプレイを使用して、アクティブレーンキーピングアシストを設定し、**標準** または **アダプティブ** を選択します (p. 266 ページ)。

60 km/h 以上の速度で走行していて、車線マークが検知された場合は、アシストグラフィック表示のライン (p. 264 ページ) が緑色で表示されます。このときは、アクティブレーンキーピングアシストが作動可能な状態になっています。

標準 を選択した場合は、以下のときは振動による警告は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させた。このときは、警告が一定時間に抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP[®]などの走行安全システムが介入した。

アダプティブ を選択したときは、以下のときは振動による警告が行なわれません。

- 方向指示灯を作動させた。このときは、警告が一定時間に抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP[®]などの走行安全システムが介入した。
- キックダウンなどの急加速を行なった。
- 急ブレーキを効かせた。
- 障害物を避けるために急に進路変更をしたり、急に車線を変更するなど、活発なステアリング操作を行なった。
- きついカーブの内側をまたいだ。

車線マークを越えた場合は、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線に近づいた。
- 高速道路などの道路の車線の幅が非常に広い。
- システムが実線の車線マークを検知した。

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 道路の車線の幅が狭い。
- カーブの内側をまたいだ。

役に立つ情報	254
重要な安全上の注意事項	254
ディスプレイおよび操作	254
メニューおよびサブメニュー	257
ディスプレイメッセージ	274
メーターパネルの警告および表示 灯	301

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時のみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

⚠ 警告

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場
で点検を受けてください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告

のみを表示します。そのため、常に安全に走行してください。車両を安全に操作しないと、事故の原因になるおそれがあります。

概要は、メーターパネルのイラストをご覧ください(▷ 28 ページ)。

ディスプレイおよび操作

冷却水温度計

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

冷却水温度計はメーターパネルの左側にあります (▷ 28 ページ)。

通常の作動条件下、および指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 °C に上がることがあります。

高い外気温および上り坂を走行しているときは、冷却水温度が目盛りの上限に上がることがあります。

タコメーター

! エンジンを損傷する原因となりますので、レッドゾーンに入らないよう運転してください。

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えたオーバーレブリンジを示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が停止されます。

外気温度表示

気温が氷点前後のときは、路面状況に特に注意してください。

外気温度計はマルチファンクションディスプレイ内にあります。(▶ 256 ページ)

外気温度が変化すると、少し遅れて表示されます。

セグメント付きスピードメーター

スピードメーターの内側に表示されるセグメントは、走行可能な速度レンジを示します。

- クルーズコントロールを設定しているとき (▶ 203 ページ)

記憶された設定速度から最高速度までのセグメントが点灯します。

- 可変スピードリミッターを設定しているとき (▶ 206 ページ)

ゼロから設定された制限速度までのセグメントが点灯します。

- ディストロニック・プラスを設定しているとき (▶ 210 ページ)

設定速度レンジ内の 1 つまたは 2 つのセグメントが点灯します。

- ディストロニック・プラスは先行車を検知することができます。

先行車の速度と記憶されている設定速度の間のセグメントが点灯します。

マルチファンクションディスプレイの操作

概要










- ① マルチファンクションディスプレイ
- ② 音声認識の作動：別冊取扱説明書をご覧ください
- ③ 右側操作パネル
- ④ 左側操作パネル
- ⑤ リターンスイッチ



▶ **マルチファンクションディスプレイを作動させる：** エンジンスイッチのキーを 1 の位置にまわします。




マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの表示と設定を操作することができます。

左側操作パネル



	• メニューやメニューバーの呼び出し
	• メニューやメニューバーの呼び出し
	軽く押す：
	<ul style="list-style-type: none"> • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • オーディオ メニュー：記憶させた放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳への切り替え、名前や電話番号の選択
	長押しする：
	<ul style="list-style-type: none"> • オーディオ メニュー：高速スクロールを使用しての、前/次の放送局または音楽トラック、またはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳を開いている場合は、高速スクロールの開始
	<ul style="list-style-type: none"> • 選択/ディスプレイメッセージの確定 • TEL（電話）メニュー：電話帳への切り替え、および選択した番号の発信開始 • オーディオ メニュー：希望の放送局での放送局サーチの停止

右側操作パネル

	<ul style="list-style-type: none"> • 通話の拒否、または終了 • 電話帳/発信履歴の終了
	<ul style="list-style-type: none"> • 発信、または受話 • 発信履歴への切り替え

	• 音量の調整
	
	• 消音



リターンスイッチ

	軽く押す：
	<ul style="list-style-type: none"> • 戻る • 音声認識の停止：別冊取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去/最後に使用した トリップ メニュー機能の呼び出し • 電話帳/発信履歴の終了
	長押しする：
	<ul style="list-style-type: none"> • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

マルチファンクションディスプレイ



- ① 表示フィールド
- ② メニューバー
- ③ 走行モード (▷ 186 ページ)
- ④ シフトポジション (▷ 186 ページ)
- ⑤ 常時表示エリア：外気温度または速度 (▷ 267 ページ)

▶ **メニューバー②**を表示する：ステアリングの  または  スイッチを押します。

数秒後にメニューバー ② が消えます。
表示フィールド ① にはディスプレイメッセージとともに、選択したメニューまたはサブメニューが表示されます。

マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されることがあります。

- ▶ 推奨ギアシフト (▷ 190 ページ)
- ◀ [P] ▶ アクティブパーキングアシスト (▷ 227 ページ)
- [⊗] クルーズコントロール (▷ 203 ページ)
- [LIM] スピードリミッター (▷ 206 ページ)
- [☰] アダプティブハイビームアシスト (▷ 147 ページ)
- [☰] アダプティブハイビームアシスト・プラス (▷ 148 ページ)
- [ECO] ECO スタートストップ機能 (▷ 181 ページ)
- [HOLD] ホールド機能 (▷ 221 ページ)

メニューおよびサブメニュー

メニューの概要

ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押してメニューバーを呼び出し、メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 255 ページ)

車両に取り付けられている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- **トリップ** メニュー (▷ 257 ページ)
- **ナビ** メニュー (ナビゲーション案内) (▷ 259 ページ)
- **オーディオ** メニュー (▷ 260 ページ)

- **TEL** メニュー (電話) (▷ 262 ページ)
- **アシスト** メニュー (支援機能) (▷ 263 ページ)
- **メンテナンス** メニュー (▷ 266 ページ)
- **設定** メニュー (設定) (▷ 267 ページ)

オーディオ、**ナビ** および **TEL** メニューは、オーディオシステム装備車と COMAND システム装備車では若干異なります。この取扱説明書で示す例は、COMAND システム装備車に該当します。

トリップメニュー

基本ディスプレイ



- ▶ **トリップ** メニューがトリップメーター ① やオドメーター ② とともに表示されるまで、ステアリングの ◀ スイッチを押して保持します。

トリップコンピューター"スタート後"または"リセット後"



例："スタート後"のトリップコンピューター

- ① 距離
- ② 時計

- ③ 平均速度
- ④ 平均燃費

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、トリップ°メニューを選択します。
- ▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、スタートから または リセット後 を選択します。

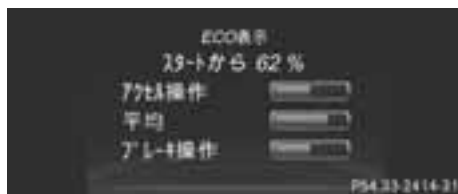
スタート後 サブメニューの数値は、走行開始から算出されるものであり、リセット後サブメニューの数値は、サブメニューが最後にリセットされたときから算出されるものです (▶ 259 ページ)。

スタート後 のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッションをオフにして約 4 時間以上経過した
- 999 時間を超えた
- 9,999 km を超えた

リセット後のトリップコンピューターは、数値が 9,999 時間または 99,999 km を超えると、自動的にリセットされます。

ECO 表示



例：ECO 表示

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、トリップ°メニューを選択します。
- ▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、ECO 表示 を選択します。


イグニッションが 4 時間以上オフのままの場合は、ECO 表示は自動的にリセットされます。

ECO 表示に関するさらなる情報は、(▶ 200 ページ) をご覧ください。

走行可能距離と現在の燃料消費の表示







- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、トリップ°メニューを選択します。
- ▶ ▲ または ▼ スイッチを押して、燃料消費と概算の走行可能距離を選択します。

可能となる概算の航続距離は、燃料の量やそのときの運転スタイルによって変わります。燃料タンク内に残っている燃料の量が少ないときは、給油中の車両のマーク  が、走行可能距離の代わりにディスプレイに表示されます。

デジタルスピードメーター










- ① 推奨ギアシフト (▶ 190 ページ)
- ② デジタルスピードメーター

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、デジタルスピードメーターを選択します。

数値のリセット



例：トリップコンピューター"スタート後"のリセット

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
- ▶  スイッチを押して**はい**を選択し、 スイッチを押して確定します。

以下の機能の数値をリセットできます。



- トリップメーター
- トリップコンピューター"スタート後"
- トリップコンピューター"リセット後"
- ECO インジケーター

i ECO ディスプレイの数値をリセットした場合は、トリップコンピューターの"スタート後"の数値もリセットされます。トリップコンピューターの"スタート後"の数値をリセットした場合は、ECO ディスプレイの数値もリセットされます。

ナビゲーションメニュー

ナビゲーション案内の表示

ナビ メニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。ナビゲーションに関するさらなる情報については、別冊の取扱説明書をご覧ください。

- ▶ COMAND システムを作動させます。別冊取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**ナビ** メニューを選択します。

ルート案内が作動していないとき



① 進行方向

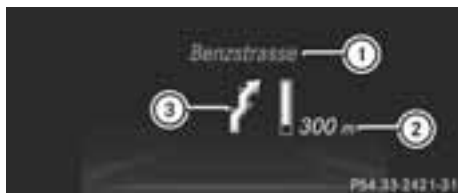
ルート案内作動

進路変更の案内がないとき



- ① 目的地までの距離
- ② 次の進路変更までの距離
- ③ "案内ルートを進む"のマーク

車線変更を伴わない進路変更の案内があるとき



- ① 進路変更の目標
- ② 進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示
- ③ 進路変更マーク

進路変更が案内されたときは、進路変更のマーク ③ および距離表示 ② が表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、表示の上に向かって短くなります。

車線変更を伴う進路変更の案内があるとき



- ① 進路変更の目標
- ② 進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示
- ③ 進路変更の間の新しい車線
- ④ 進路変更の間も続いている車線
- ⑤ 推奨車線
- ⑥ 進路変更マーク

複数車線の道路では、次の進路変更のための新しい推奨車線 ③ をシステムが表示することがあります。進路変更の間、追加の車線が表示されることがあります。

推奨車線は、デジタル地図に該当データがあるときのみ表示されます。

ナビゲーションシステムの他の状況インジケータ

- : 目的地または立ち寄り地点に到着しました。
- **新ルート** または **ルート計算中** : 新ルートを計算中です。
- **案内ルート外** : 車両の位置が地図の範囲外（地図外の位置）にあります。
- **ルートなし** : 選択されている目的地へのルートを計算できませんでした。

オーディオメニュー

ラジオ放送局の選択



- ① 周波数バンドと放送局リスト番号
- ② メモリーポジションのある放送局周波数

i 放送局 ② が放送局周波数または放送局名とともに表示されます。メモリーポジションは、保存されている場合には、必ず放送局 ② と一緒に表示されません。

▶ オーディオシステムまたは COMAND システムを作動させて、ラジオを選択します。別冊取扱説明書をご覧ください。

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**オーディオ** メニューを選択します。

▶ **保存されている放送局を選択する** : または スイッチを軽く押します。

- ▶ 放送局リストから放送局を選択する：
 または スイッチを少しの間
 押しして保持します。

放送局リストが受信されない場合：

- ▶ 放送局サーチを使って放送局を選択する：
 または スイッチを少しの間
 押しして保持します。

i 周波数バンドの切り替えと放送局の保存に関する情報は、別冊取扱説明書をご覧ください。

オーディオプレーヤーまたはオーディオメディアの操作



例：CD/DVD チェンジャー画面

- ① 現在のトラック

車両に装着されている装備に応じて、さまざまなオーディオ機器やメディアからの音楽データを再生できます。

- ▶ COMAND システムを作動させて、音楽 CD、DVD オーディオまたは MP3 モードを選択します。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押し、オーディオメニューを選択します。
- ▶ 次/前のトラックを選択する：
 または スイッチを軽く押します。
- ▶ トラックリストからトラックを選択する（高速スクロール）：希望のトラックが表示されるまで、 または ① スイッチを押しして保持します。

または スイッチを押しして保持すると、高速スクロールの速度が上がります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

オーディオ機器またはメディアにトラック情報が保存されている場合は、マルチファンクションディスプレイにトラック名と番号が表示されます。オーディオ AUX モード（外部オーディオモード：外部のオーディオソース接続）では、現在のトラックは表示されません。

TV の操作



- ① メモリーポジションのあるチャンネル周波数

i メモリーポジションは、保存されている場合には、必ずチャンネル ① と一緒に表示されます。

- ▶ COMAND システムを作動させて、テレビを選択します。別冊取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押し、オーディオメニューを選択します。
- ▶ 記憶されているチャンネルを選択する：
 または スイッチを軽く押します。
- ▶ チャンネルリストからチャンネルを選択する：
 または スイッチを軽く押しして保持します。

i TV チャンネルの記憶（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

DVD ビデオの操作



例：CD/DVD チェンジャー表示

① 現在のシーン

- ▶ COMAND システムを作動させて、DVD ビデオを選択します。別冊取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**オーディオ** メニューを選択します。
- ▶ **次/前のシーンを選択する**：▲ または ▼ スイッチを軽く押します。
- ▶ **シーンリストからシーンを選択する (高速スクロール)**：希望のシーン ① が表示されるまで、▲ または ▼ スイッチを押して保持します。

TEL メニュー

概要

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

電話を使用するときは、必ずそのとき運転している国の法規則に従ってください。

- ▶ 携帯電話をオンにします。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ COMAND システムをオンにします。別冊取扱説明書をご覧ください。
- ▶ COMAND システムの Bluetooth® 接続を確立してください (別冊の取扱説明書をご覧ください)。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **電話 待ち受け**またはネットワークプロバイダーの名称：携帯電話がネットワークを探索し、受信する準備が整っています。
- **圏外**：ネットワークに接続できない状態にあるか、携帯電話がネットワークを探索中の状態です。

着信を受ける



例：着信

- ▶ ステアリングの ☎ スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TEL メニューのときに電話が着信すると、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。








TEL メニューを表示していないときも着信した電話を受けることができます。

通話の拒否または終了





- ▶ ステアリングの  スイッチを押します。

TEL メニューでないときも、通話を終了または拒否できます。







電話帳からの番号のダイヤル

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、TEL メニューを選択します。
- ▶   または  スイッチを押して、電話帳に切り替えます。
- ▶  または  スイッチを押して、希望の名称を選択します。



または

- ▶ **高速スクロールを開始する：**  または  スイッチを約 1 秒以上押し続けます。
スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、スクロールは停止します。
- ▶ **名称に 1 つだけ電話番号が保存されているとき：**  または  スイッチを押して、発信を開始します。

または








- ▶ **その名称に 2 つ以上の番号があるとき：**  または  スイッチを押して、電話番号を表示させます。
- ▶  または  スイッチを押して、発信先の番号を選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、発信を開始します。

または



- ▶ **電話帳を終了する：**  または  スイッチを押します。

リダイヤル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称と番号がリダイヤルメモリーに保存されています。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、TEL メニューを選択します。
- ▶  スイッチを押して、リダイヤルメモリーに切り替えます。
- ▶  または  スイッチを押して、希望の名称または番号を選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **リダイヤルメモリーを終了する：**  または  スイッチを押します。

アシストメニュー

概要










アシストメニューでは、以下の選択を行なうことができます。



- アシストグラフィックの表示 (▷ 264 ページ)
- 道路標識アシストのメッセージ機能の作動/解除 (▷ 264 ページ)
- ESP®の設定/解除(▷ 264 ページ)
- PRE-SAFE®ブレーキの作動/解除 (▷ 265 ページ)
- アテンションアシストの作動/解除 (▷ 266 ページ)



- 車間距離警告機能の作動/解除 (▷ 265 ページ)
- ディストロニック・プラスのステアリングアシストの作動/解除 (▷ 265 ページ)
- アクティブブラインドスポットアシストの作動/解除 (▷ 266 ページ)
- アクティブレーンキーピングアシストの作動/解除 (▷ 266 ページ)

アシストグラフィックの表示







- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  を押して **アシスト一覧** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイのアシストグラフィックに、ディストロニック・プラスの距離ディスプレイが表示されます (▷ 216 ページ)。
- ▶  または  を押してアテンションアシストの評価を表示します (▷ 241 ページ)。

アシストグラフィックには、他の走行システムまたは走行安全システムの状態および情報を表示させることができます。アシストグラフィックは以下を表示します。

- アテンションアシスト (▷ 241 ページ) が解除されているときの  マーク
- レーンキーピングアシスト (▷ 248 ページ) が設定されているときの明るいラインでの車線マーク
- 道路標識アシスト (▷ 243 ページ) が作動可能な場合の  マークアシストグラフィックは、検知された道路標識を表示し、制限速度を示すこともできます。

- 車間距離警告機能 (▷ 70 ページ) が解除されているときの  マーク
- PRE-SAFE®ブレーキ (▷ 75 ページ) が解除されているときの  マーク

道路標識アシストのメッセージ機能の設定/解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  を使用して、**道路標識アシスト** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定 / 解除する** :  スイッチを押します。

メッセージが作動している場合は、マルチファンクションディスプレイに 5 秒間認識された標識が表示されます (▷ 243 ページ)。

ESP® の設定/作動

- ① ESP の記載にある "重要な安全上の注意事項" の項目を遵守してください (▷ 73 ページ)。







警告


ESP®を解除すると、ESP®は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。
以下に記載された状況でのみ ESP®を解除してください。



以下の状況では、ESP®を解除したほうが良いことがあります。

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪で
- 砂地または砂利道で

ESP®に関するさらなる情報は、(▷ 72 ページ) をご覧ください。

- ▶ エンジンを始動してください。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ESP** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定/解除する**： スイッチを再度押します。

エンジンがかかっているときにメーターパネルの警告灯  が点灯している場合は、ESP® が解除されています。







警告灯  および警告灯  が点灯し続ける場合は、故障により ESP® は作動しません。


警告灯に関する情報に注意してください。(▶ 306 ページ)

ディスプレイメッセージに関する情報に注意してください。(▶ 275 ページ)

PRE-SAFE®ブレーキの設定/解除







PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラス装備車両でのみ使用できます。


- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**プレ-ブレーキ**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定/解除する**： スイッチを再度押します。

PRE-SAFE® ブレーキが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシストグラフィックに  マークが表示されます。

PRE-SAFE® ブレーキについてのさらなる情報は (▶ 75 ページ)をご覧ください。







車間距離警告機能の設定/解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  を押して、**車間距離警告**を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定 / 解除する**： スイッチを再度押します。

距離警告機能が解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシストグラフィックに  マークが表示されます。

車間距離警告機能について、詳しくは (▶ 70 ページ)をご覧ください。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストの設定/解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  を使用して、**DTR +: ステアリング** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定 / 解除する**： スイッチを再度押します。
ディストロニック・プラスのステアリングアシストが作動しているときは、マルチファンクションディスプレイに **DTR+: ステアリングアシストオン** というメッセージが表示されます。

ディストロニック・プラスのステアリングアシストに関するさらなる情報(▶ 219 ページ)。

アテンションアシストの設定/解除

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**アテンションアシスト**を選択します。
- ▶ スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ を押して確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**初**、**標準** または **高感度** を設定します。
- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。
アテンションアシストが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に OFF マークが表示されます。

アテンションアシストについてのさらなる情報は (p. 241 ページ) をご覧ください。

アクティブブラインドスポットアシストの設定/解除

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**ブラインドスポットアシスト**を選択します。
- ▶ スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定/解除する**： スイッチを再度押します。

ブラインドスポットアシストについてのさらなる情報は (p. 245 ページ) をご覧ください。

レーンキーピングアシストの設定/解除

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**レーンアシスト**を選択します。
- ▶ スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ を押して確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**オフ**、**標準** または **アダプティブ** に設定します。
- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。
アクティブレーンキーピングアシストが作動しているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に明るいラインで車線マークが表示されます。

アクティブレーンキーピングアシストに関するさらなる情報は、(p. 248 ページ) をご覧ください。

メンテナンスメニュー



メンテナンスメニューでは、以下を選択することができます。

- メッセージメモリーにあるディスプレイメッセージの呼び出し (▷ 274 ページ)
- タイヤ空気圧警告システムの再起動 (▷ 378 ページ)
- 点検整備時期の呼び出し (▷ 337 ページ)

設定メニュー

概要



設定メニューでは、以下を選択することができます。

- メーター設定の変更 (▷ 267 ページ)
- ライト設定の変更 (▷ 268 ページ)
- 車両設定の変更 (▷ 271 ページ)
- コンフォート設定の変更 (▷ 271 ページ)
- 工場出荷時の設定に戻す (▷ 273 ページ)

メーターパネル

距離単位の選択

表示単位 速度/距離: の機能により、マルチファンクションディスプレイの特定のディスプレイのキロメートルまたはマイル表示を選択できます。

マルチファンクションディスプレイに表示される距離の単位を、マイル表示またはキロメートル表示に設定できます。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**メーター** サブメニューを選択します。
- ▶ を押して確定します。
- ▶ または スイッチを押して、**表示単位 速度/距離:** 機能を選択します。選択された設定が表示されます：**km** または **miles**
- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。




選択された距離の表示単位は、以下の項目に適用されます。

- **トリップ** メニューのデジタルスピードメーター
- オドメーターとトリップメーター
- トリップコンピューター
- 現在の燃費と走行可能距離
- **ナビ** メニューのナビゲーション案内
- クルーズコントロール
- 可変スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- メンテナンスインジケーター画面

常時表示機能の選択

走行速度または外気温度のいずれかを、常時マルチファンクションディスプレイに表示させるかを設定できます。
















- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**メーター** サブメニューを選択します。
- ▶ を押して確定します。

- ▶  または  スイッチを押して、サブメーター 機能を選択します。選択されている設定 **外気温度表示** または **速度 [mph]** が表示されます。
- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。
- ❶ 速度は mph で表示されます。

ライト

メーターパネル照明とスイッチの照度の設定

車内のメーターパネル、ディスプレイおよびスイッチ類の照明は、**明るさ ディスプレイ/スイッチ**: 機能で調整することができます。










- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して  確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**明るさ ディスプレイ/スイッチ**: 機能を選択します。選択されている設定が表示されます。
- ▶ 押して  確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、照度を **レベル 1** から **レベル 5** (明るさ) までのレベルに調整します。
- ▶  または  スイッチを押して、設定を保存します。ランプスイッチが 、 または  に設定されているとき、照度は周囲の明るさに応じて変わります。

❶ マルチファンクションディスプレイの照度は、メーターパネルのライトセンサーによって自動的にコントロールされます。

日中はメーターパネルのディスプレイは点灯しません。








デイトタイムドライビングライトの設定/解除の切り替え


デイトタイムライト: 機能は、エンジンが停止しているときのみ設定できます。


- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して  確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**デイトタイムライト** 機能を選択します。**デイトタイムライト** 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイのライトの円錐形と  マークがオレンジ色で表示されます。
- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。

❶ **デイトタイムライト** 機能が設定されている場合は、昼間でもロービームヘッドライトが点灯します。この理由のため、この機能を解除し、ライトスイッチでライトを手動で操作してください。

インテリジェントライトシステムの設定/解除の切り替え

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して  確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**インテリジェントライトシステム** 機能を選択します。**インテリジェントライトシステム** 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディ

スプレイのライトの円錐形と  マークがオレンジ色で表示されます。

- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。









インテリジェントライトシステムを設定した場合は、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブライトシステム
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

ロービームヘッドライトを右/左側走行用に設定している場合は、インテリジェントライトシステム：システム作動できません 左側通行設定では無効 または インテリジェントライトシステム：システム作動できません 右側通行設定では無効 というディスプレイメッセージが、インテリジェントライトシステム 機能の代わりにマルチファンクションディスプレイの **ライト** サブメニューに表示されます (▶ 269 ページ)。

インテリジェントライトシステムのさらなる情報 (▶ 145 ページ)。

ロービームヘッドライトの左側/右側通行の設定













- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶  を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ヘッドランプロービーム設定** 機能を選択します。選択された設定 **右側通行用** または **左側通行用** が表示されます。
- ▶  スイッチを押して、設定を保存します。設定を変更すると、次に停車したときに変更が実行されます。

この機能は、インテリジェントライトシステム装備車にのみ用意されています。この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。








ロービームヘッドライトを右側通行/左側通行用に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

ロービームヘッドライトを右側通行/左側通行に適した設定に切り替えるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

アンビエントライトの照度の設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶  を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アンビエントライト 明るさ** 機能を選択します。選択されている設定が表示されます。
- ▶  を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、照度を **オフ** から **レベル 5** (明るさ) までのレベルに調整します。
- ▶  または  スイッチを押して、設定を保存します。

アンビエントライトの色の設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶  を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アンビエントライト カラー** 機能を選択します。

- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ソーラー**、**ニュートラル** または **ポーター** の色を設定します。
- ▶ **OK** または **↩** スイッチを押して、設定を保存します。

ロケイターライティング/車外ランプ残照機能の設定/解除

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ロケイターライティング** 機能を選択します。**ロケイターライティング** 機能が作動している場合は、マルチファンクションディスプレイのライトの円錐形と車両周辺エリアがオレンジ色で表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車外ライト残照機能を一時的に解除する

- ▶ 車両から離れる前に、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
車外ライト残照機能が一時的に解除されます。

次にエンジンを始動すると、車外ライト残照機能が再び設定されます。

ロケイターライティング 機能を設定し、ライトスイッチを **AUTO** の位置にした場合は、周囲が暗いときに以下の機能が作動します。

- **ロケイターライティング**：キーで車両を解錠すると、車外ランプが約 40 秒間点灯し続けます。エンジンを始動するとロケイターライティングが

解除され、ヘッドライト自動点灯モードに設定されます。(▶ 140 ページ)

- **車外ライト残照機能**：エンジンを停止した後、約 60 秒間点灯し続けます。すべてのドアとトランクを閉じると、約 5 秒後に車外ランプが消灯します。

i ロケイターライティングおよび車外ライト残照機能を設定してあるときは、車両の装備に応じて以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- ロービームヘッドライト
- デイタイムドライビングライト
- ドアミラーのロケイターライティング

ルームライト残照機能の設定/解除

ルームランプ 消灯遅延 機能が設定されているときは、エンジンスイッチからキーを抜いた後、ルームライトが約 20 秒間点灯したままになります。

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ルームランプ 消灯遅延** 機能を選択します。**ルームランプ 消灯遅延** 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイの車内がオレンジ色で表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車両

スノータイヤスピードリミッターの設定

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**車両** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶ ▼ または ▲ を押して、**速度制限 (冬タイヤ)** 機能を選択します。現在の設定が表示されます。
- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、10 km/h 単位 (230 km/h ~ 160 km/h) でスノータイヤスピードリミッターを調整します。**オフ** 設定で、スノータイヤスピードリミッターは解除されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、入力を確定します。

スノータイヤスピードリミッターに関する詳細 (▷ 210 ページ)

車速感応ドアロック機能の設定/解除の切り替え

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**車両** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**車速感応ドアロック** 機能を選択します。**車速感応ドアロック** 機能が設定されているときは、マルチファンクション


ディスプレイの車両ドアがオレンジ色で表示されます。

- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車速感応ドアロック 機能が設定されている場合は、走行速度が約 15 km/h 以上になると自動的に集中施錠されます。**車速感応ドアロック** についてのさらなる情報は (▷ 91 ページ) をご覧ください。

アンサーバック機能の設定/解除

キーアンサーバック 機能を設定している場合は、車両を施錠したときに確認音が鳴ります。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**車両** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**キーアンサーバック** 機能を選択します。**キーアンサーバック** 機能を設定しているときは、マルチファンクションディスプレイの  マークがオレンジ色に点灯します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

コンフォート

イージーエントリー機能の設定/解除

警告

イージーエントリー機能がステアリングを調整するとき、ご自身だけでなく、他の乗員、特にお子様が挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。



イージーエントリー機能が調整を開始している間、ステアリングの動いている箇



所にだれも近づかないように注意してください。

挟み込まれたとき：



- メモリー機能スイッチを押します。
- ステアリングが動いた方向とは逆の方向に、ステアリング調整スイッチを動かします。

調整プロセスが停止します。

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**コンフォート** サブメニューを選択します。

▶ **OK** を押して確定します。



▶  または  スイッチを押して、**イージーエントリー**：機能を選択します。



イージーエントリー 機能を設定しているときは、マルチファンクションディスプレイのステアリングのアイコンがオレンジ色で表示されます。

▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。



イージーエントリー機能に関するさらなる情報 (▷ 132 ページ)

ベルト調整の設定/解除の切り替え

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**コンフォート** サブメニューを選択します。

▶ **OK** を押して確定します。

▶  または  スイッチを押して、**ベルト調整** 機能を選択します。
ベルト調整 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレ

イの車両のシートベルトがオレンジ色で表示されます。

▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。



ベルト調整についてのさらなる情報は (▷ 50 ページ)をご覧ください。

施錠時のミラー格納の設定/解除の切り替え

この機能は、メモリー機能装備車両でのみ使用することができます (▷ 136 ページ)。

ロック時のミラー格納 機能を設定しているときは、車両を施錠したときにドアミラーが自動的に格納されます。車両を解錠してドアを開いたときは、格納されたドアミラーが再度展開します。

▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。

▶  または  スイッチを押して、**コンフォート** サブメニューを選択します。

▶ 押して **OK** 確定します。

▶  または  スイッチを押して、**ロック時のミラー格納** 機能を選択します。

ロック時のミラー格納 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイの車両のドアミラーがオレンジ色で表示されます。

▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。



① ドアミラー格納/展開スイッチ

ロック時のミラー格納 機能を設定し、ドアのスイッチ ① を使用してドアミラーを格納した場合は、自動的に展開しません (▶ 134 ページ)。

スイッチ ① を使用してのみ、ドアミラーを展開することができます。

△**ドライビングライト** を初期化したいときは、イグニッション位置を **1** にしなければなりません。

工場出荷時の設定に初期化する

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**設定初期化** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
全ての設定を初期化しますか? というメッセージが表示されます。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**いいえ** または **はい** を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、選択を確定します。
はい を選択したときは、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

安全のため、全ての設定が初期化されるわけではありません。スピードリミッターの**制限速度 (ウィンタータイヤ)** 機能は、**車両** サブメニューでのみ設定できます。**ライト** サブメニューの **デイタイ**

ディスプレイメッセージ

概要

全体的な注意事項

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージには、警告音、または連続音が伴います。

エンジンスイッチをオフにすると、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

駐車するときは、以下に関する注意事項をお守りください。

- ホールド機能 (▷ 221 ページ)
- 駐車 (▷ 197 ページ)

ディスプレイメッセージを非表示にする

- ▶ ステアリングの **OK** または **ESC** スイッチを押して、ディスプレイメッセージを非表示にします。
ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。一部の重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはできません。これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは特定のディスプレイメッセージを **メッセージメモリー** に保存します。ディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

- ▶ ステアリングの **LEFT** または **RIGHT** スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメニューから **メナ** を選択します。
メッセージがある場合は、ディスプレイに **メッセージ 2** のように故障の件数が表示されます。
- ▶ **UP** または **DOWN** スイッチを押して、**メッセージ 2** を選択します。
- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶ **UP** または **DOWN** スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

安全システム

ディスプレイメッセージ


考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



現在 使用できません
取扱説明書を参照

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)、ESP[®] (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)、BAS (ブレーキアシスト)、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に使用できない。

アダプティブブレーキライト、BAS プラス、コリジョンプリベンションアシストおよび PRE-SAFE[®] ブレーキも故障している。

メーターパネルの警告灯 、、 も点灯している。

アテンションアシストは解除されている。

電圧が低下していることがある。

⚠ 警告

上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。従って、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。

ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けるおそれがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。

ESP[®] が作動しない場合は、ESP[®] が車両を安定させることができない。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

▶ 注意して運転してください。

ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動します。

ディスプレイメッセージが消えないとき

▶ 注意して運転してください。




▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。










作動できません 取扱
説明書を参照






故障のため、ABS、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが使用できない。

アダプティブブレーキライト、BAS プラス、コリジョンプリベンションアシストおよび PRE-SAFE[®] ブレーキも故障している。






さらに、メーターパネルの 、、 警告灯も点灯している。







ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>アテンションアシストは解除されている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。従って、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。</p> <p>ステアリング操作やブレーキ操作が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。</p> <p>ESP[®] が作動しない場合は、ESP[®] が車両を安定させることができない。</p> <p>横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
<p> 作動できません 取扱説明書を参照</p>	<p>故障のため、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが使用できない。</p> <p>アダプティブブレーキライト、BAS プラス、コリジョンプリベンションアシストおよび PRE-SAFE[®] ブレーキも故障している。</p> <p>さらに、メーターパネルの警告灯  と  も点灯している。</p> <p>たとえば、自己診断が完了していないことがある。</p> <p>アテンションアシストは解除されている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。</p> <p>緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。</p> <p>ESP[®] が作動しない場合は、ESP[®] が車両を安定させることができない。</p> <p>横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div data-bbox="120 212 199 252" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">EBD</div> <div data-bbox="210 212 288 252" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(ABS)</div> <div data-bbox="120 260 199 308" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">  </div> <p data-bbox="115 316 352 375">作動できません 取扱説明書を参照</p>	<p data-bbox="369 212 1024 335">故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）ABS、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが使用できない。</p> <p data-bbox="369 343 1024 438">アダプティブブレーキライト、BAS プラス、コリジョンプリベンションアシストおよび PRE-SAFE[®] ブレーキも故障している。</p> <p data-bbox="369 446 1024 518">さらに、メーターパネルの  と 、 も点灯し、警告音が鳴った。</p> <p data-bbox="380 534 476 566">⚠ 警告</p> <p data-bbox="369 574 1024 670">上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。従って、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがある。</p> <p data-bbox="369 678 1024 774">ステアリング操作やブレーキ操作が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。</p> <p data-bbox="369 782 1024 845">ESP[®] が作動しない場合は、ESP が車両を安定させることができない。</p> <p data-bbox="369 853 890 885">横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul data-bbox="369 893 1024 989" style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
<div data-bbox="120 1021 199 1061" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(P)</div> <p data-bbox="115 1077 352 1133">パーキングブレーキ解除してください</p>	<p data-bbox="369 1021 1024 1085">パーキングブレーキを解除しないで走行している。警告音も鳴った。</p> <ul data-bbox="369 1093 789 1125" style="list-style-type: none"> ▶ パーキングブレーキを解除します。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>すぐにブレーキを踏んでください</p>	<p>ホールド機能が作動しているときに、故障が発生した。または ホールド機能を作動させて、以下を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 運転席ドアを開いて、シートベルトを外した • エンジンを停止した <p>一定の間隔で警告音も鳴る。車両を施錠しようとする、警告音がより大きくなる。 エンジンを始動することができない。</p> <p>▶ 交通状況に注意しながら、ただちにブレーキペダルをしっかり踏んで、ディスプレイメッセージが消えるまで踏み続けます。</p> <p>▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197ページ) エンジンを再始動することができます。</p>
 <p>ブレーキ液レベル点検してください</p>	<p>リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの赤色の警告灯  も点灯し、警告音が鳴った。</p> <p> 警告</p> <p>ブレーキ性能が損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。
 <p>ブレーキパッド磨耗点検してください</p>	<p>ブレーキパッド/ライニングの摩耗が限界に達している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>プレセーフ 作動できません 取扱 説明書を参照</p>	<p>PRE-SAFE®の重要な機能に異常がある。エアバッグなどの他の乗員保護装置はすべて機能している。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
<p>プレセーフ 機能が現在 制限され ています 取扱説明書 を参照</p>	<p>コリジョンプリベンションアシストの PRE-SAFE® ブレーキまたはアダプティブブレーキアシストが一時的に作動できない。</p> <p>考えられる原因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • ラジエターグリルとバンパーのセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動できない • システムが作動温度範囲外にある • バッテリー電圧が低すぎる <p>上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。</p> <p>PRE-SAFE® ブレーキが再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ ラジエターグリルとバンパーのセンサーを清掃します (▶ 344 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
<p>プレセーフ 機能が現在 制限され ています 取扱説明書 を参照</p>	<p>故障のため、コリジョンプリベンションアシストの PRE-SAFE® ブレーキまたはアダプティブブレーキアシストが使用できない。BAS プラスまたは車間距離警告も故障していることがある。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>







ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 故障 工場での点検	<p>△ けがのおそれがあります</p> <p>カブリオレ：ロールバーが故障している。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
	<p>マルチファンクションディスプレイにマークが表示されている場合は、リアシートベルトのプレートがバックルに正しく差し込まれている。</p> <p>リアシートベルトのステータスインジケーターに関するさらなる情報は (▷ 51 ページ) をご覧ください。</p>
	<p>マルチファンクションディスプレイにマークが表示されている場合は、リアシートベルトのプレートがバックルに正しく差し込まれている。</p> <p>△ 警告</p> <p>シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの本来の保護機能が十分に発揮されません。</p> <p>けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ 必要な場合は、後部座席の乗員にシートベルトを着用するよう指示してください (▷ 48 ページ)。</p> <p>リアシートベルトのステータスインジケーターに関するさらなる情報は (▷ 51 ページ) をご覧ください。</p>
 SRS システム 故障 工場での点検	<p>SRS (乗員保護補助装置) が故障している。メーターパネルの警告灯  も点灯している。</p> <p>△ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。</p> <p>けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p> <p>乗員保護補助装置に関するさらなる情報は、(▷ 38 ページ) を参照してください。</p>








ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検</p>	<p>フロント左側またはフロント右側の SRS に異常がある。メーターパネルの警告灯  も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>リア左 SRS 故障 工場での点検またはリア右 SRS 故障 工場での点検</p>	<p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>リア左側またはリア右側の SRS に異常がある。メーターパネルの警告灯  も点灯している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左ウインドウバッグ故障 工場での点検または右ウインドウバッグ故障 工場での点検</p>	<p>右側のウインドウバッグ（クーペ）またはヘッドバッグ（カブリオレ）に故障がある。メーターパネルの警告灯  も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>左側または右側のウインドウバッグ（クーペ）またはヘッドバッグ（カブリオレ）が不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>





ライト



① LED に関するディスプレイメッセージ

すべての LED が故障した場合のみ、ディスプレイメッセージは表示されます。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 Left cornering light (左コーナリングライト) または Right cornering light (右コーナリングライト)	左または右側のコーナリングライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 Left dipped beam (左ロービーム) または Right dipped beam (右ロービーム)	左側または右側のロービームヘッドライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左リア ウィンカーまたは右リア ウィンカー	リア左側またはリア右側の方向指示灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左フロント ウィンカーまたは右フロント ウィンカー	フロント左側またはフロント右側の方向指示灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左ドアミラー ウィンカーまたは右ドアミラー ウィンカー	左側または右側のドアミラーの方向指示灯が故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 ハイマウントブレーキランプ	ハイマウントストップライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>左テールランプ/ブレーキランプまたは右テールランプ/ブレーキランプ</p>	<p>左側または右側のテールライト/ブレーキライトが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左ハイビームまたは右ハイビーム</p>	<p>左または右側のハイビームヘッドライトが故障している。</p> <p>▶ お客様自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 152 ページ)。</p> <p>または</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左ライセンスランプまたは右ライセンスランプ</p>	<p>左側または右側のライセンスライトが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>リアフォグライト</p>	<p>リアフォグライトが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左フロントパーキングランプまたは右フロントパーキングランプ</p>	<p>フロント左側またはフロント右側のパーキングライトが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左バックランプまたは右バックランプ</p>	<p>左側または右側のバックライトが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>左デイトタイムドライビングランプまたは右デイトタイムドライビングランプ</p>	<p>左側または右側のデイトタイムドライビングライトが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>インテリジェントライトシステム 作動できません</p>	<p>インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムを除き、ライトは作動したままになります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>故障 取扱説明書を参照</p>	<p>車外ライトが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>オートライト 作動できません</p>	<p>ライトセンサーが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>ライトを消してください</p>	<p>車両から離れるときに、ライトが点灯したままである。警告音も鳴っている。</p> <p>▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。</p>
<p>アダプティブハイビームアシスト 現在使用できません 取扱説明書を参照またはアダプティブハイビームアシストプラス 現在使用できません 取扱説明書を参照</p>	<p>アダプティブハイビームアシストまたはアダプティブハイビームアシストプラスが解除され、一時的に作動しない。</p> <p>考えられる原因</p> <ul style="list-style-type: none"> • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている • 大雨や雪、霧により、視界が妨げられている <p>▶ フロントウインドウを清掃してください。</p> <p>カメラが再度完全に作動可能であることをシステムが検知した場合は、アダプティブハイビームアシスト 再び使用可能です または アダプティブハイビームアシストプラス 使用可能になりました というメッセージが表示されます。</p> <p>アダプティブハイビームアシストまたはアダプティブハイビームアシストプラスが再度作動可能になります。</p>
<p>アダプティブハイビームアシスト 作動できませんまたはアダプティブハイビームアシストプラス 使用できません</p>	<p>アダプティブハイビームアシストまたはアダプティブハイビームアシストプラスが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>

エンジン	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 冷却水を点検してください 取扱説明書を参照	<p>冷却水レベルが低すぎる。</p> <p>! エンジン冷却システムの冷却水がかなり不足している状態で長距離走行しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 冷却水補給時の注意事項に従って、冷却水を補給してください。(▶ 333 ページ)▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	<p>ファンモーターが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 冷却水温度が 120 °C 以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。▶ そのときは、山道の走行や発進/停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



冷却水が減少 停車してエンジンを停止

冷却水の温度が高すぎる。
警告音も鳴った。

▲ 警告



エンジンがオーバーヒートした状態では絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートした状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがある。



ボンネットを開いたときに発生する、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気が致命的な火傷の原因になるおそれがある。

けがの危険性があります。



- ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ)
- ▶ エンジンが冷えるまで待ってください。
- ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。
- ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 120 °C 以下になるまではエンジンを再始動しないでください。エンジンが損傷することがあります。
- ▶ エンジン冷却水温度計で冷却水温度を点検してください。
- ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 °C に上がることがあります。



ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。</p> <p>考えられる原因</p> <ul style="list-style-type: none"> • オルタネーターの故障 • Vベルトが切れている • 電気装備の故障 <p>▶ 道路や交通状況に注意しながら車両をただちに停車して、エンジンを停止してください。</p> <p>▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ)</p> <p>▶ ボンネットを開きます。</p> <p>▶ Vベルトが損傷していないか点検してください。</p> <p>Vベルトが切れているとき</p> <p>! 走行しないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</p> <p>Vベルトが損傷していないとき</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。</p>
 <p>給油の際 エンジンオイル量を点検してください</p>	<p>エンジンオイルレベルが下限まで減っている。 警告音も鳴った。</p> <p>▶ 次回の給油時にはオイルレベルを点検してください。(▶ 331 ページ)</p> <p>▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。(▶ 331 ページ)</p> <p>▶ エンジンオイルの減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。</p> <p>エンジンオイルに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。また、ウェブサイト http://bevo.mercedes-benz.com (米国のみ) でもご覧いただけます。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンク内に非常に少ししか燃料がない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行システム

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 アテンションアシスト 休憩しませんか？	一定の基準に基づいてアテンションアシストが運転者の疲労や注意力低下を検知し、注意を促している。警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時には、早い時期に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。
 アテンションアシスト 作動できません	アテンションアシストが作動しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
道路標識アシスト 現在使用できません 取扱説明書参照	道路標識アシストが解除され、一時的に作動しない。考えられる原因 <ul style="list-style-type: none"> • フロントウインドウのカメラ部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが正常に機能していることをシステムが検知すると、メッセージが消えます。 道路標識アシストが再度作動可能になります。
道路標識アシスト 作動できません	道路標識アシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>HOLD</p> <p>オフ</p>	<p>ホールド機能が解除されている。車が横滑りしている。警告音も鳴った。</p> <p>▶ 再度ホールド機能を作動させてください。(▶ 221 ページ)</p> <p>ホールド機能が解除されている。ブレーキペダルを強く踏んだときに、作動条件が満たされていない。警告音も鳴った。</p> <p>▶ ホールド機能の作動条件を確認してください。(▶ 221 ページ)</p>
<p>アクティブ レーン キープアシスト 現在 使用不可 取扱説明書 参照</p>	<p>アクティブレーンキープアシストが解除され、一時的に作動しない。考えられる原因</p> <ul style="list-style-type: none"> • フロントウィンドウのカメラ部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 車線がない道路を長時間走行している • 車線が汚れや雪などに覆われ、薄くなったり黒ずんだりしている <p>上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>アクティブレーンキープアシストは再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ フロントウィンドウを清掃してください。
<p>アクティブ レーン キープアシスト 作動 できません</p>	<p>アクティブレーンキープアシストが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>アクティブ ブラインドスポット 現在使用できません 取扱説明書参照</p>	<p>アクティブブラインドスポットアシストが一時的に作動しない。考えられる原因</p> <ul style="list-style-type: none"> • センサーが汚れている • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • レーダーセンサーシステムが作動温度範囲外にある • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない <p>ドアミラーの黄色の  表示灯も点灯する。</p> <p>上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>アクティブブラインドスポットアシストは再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ センサーを清掃してください。(▶ 344 ページ) ▶ エンジンを再始動してください。
<p>アクティブ ブラインドスポット 作動できません</p>	<p>アクティブブラインドスポットアシストが故障している。</p> <p>ドアミラーの黄色の  表示灯も点灯する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
<p>パーキングアシスト 中止</p>	<p>運転席ドアが開き、運転席側シートベルトが着用されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ シートベルトを着用し運転席ドアを閉じた状態で、再度駐車操作を行なってください。 <p>ステアリングの介入動作が行なわれているときに不意にマルチファンクションステアリングに触れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ステアリング介入動作中は、マルチファンクションステアリングに触れないように注意してください。


ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>車両が横滑りし始め、ESP[®] が作動した。</p> <p>▶ この後で、アクティブパーキングアシストを再度使用してください。(▶ 227 ページ)</p>
パーキングアシスト作動できません	<p>ステアリング操作や駐車操作を何度も行なった。約 10 分経過すると、アクティブパーキングアシストの機能が再び作動します。(▶ 227 ページ)</p> <p>▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。</p> <p>▶ エンジンを停止し、再始動してください。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えないとき</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p> <p>パークトロニックが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
パーキングアシスト終了	<p>車両を駐車した。警告音も鳴った。メッセージが自動的に消えます。</p>
ディストロニック・プラス オフ	<p>ディストロニック・プラスが解除されている (▶ 210 ページ)。</p> <p>運転者によって解除されていない場合は、警告音も鳴りません。</p>
ディストロニック・プラス 再び使用できます	<p>一時的に使用できなくなった後、ディストロニック・プラスが再び使用できる状態になった。ディストロニック・プラスを再び作動させることができる。(▶ 210 ページ)</p>





ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>ディストロニック・プラス 現在使用できません 取扱説明書を参照</p>	<p>ディストロニック・プラスが一時的に作動しない。 ディストロニック・プラスのステアリングアシストも一時的に作動しない。</p> <p>考えられる原因</p> <ul style="list-style-type: none"> • 激しい雨や雪により機能が損なわれている • ラジエターグリルとバンパーのセンサーが汚れている • 周囲のテレビ・ラジオ放送局などの設備から発生している電磁波などの影響により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない • システムが作動温度範囲外にある • バッテリー電圧が低すぎる <p>警告音も鳴った。 上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。 ディストロニックが再び作動する。 ディスプレイメッセージが消えないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ ラジエターグリルとバンパーのセンサーを清掃します (▶ 344 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
<p>ディストロニック・プラス 作動できません</p>	<p>ディストロニック・プラスが故障している。 BAS プラス (ブレーキアシストプラス) と PRE-SAFE® ブレーキも故障している。 以下も故障していることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BAS プラス (ブレーキアシストプラス) • PRE-SAFE® ブレーキ • ディストロニック・プラスのステアリングアシスト <p>警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。





ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ディストロニック・プラス 制御待機中	<p>アクセルペダルを踏んだ。ディストロニック・プラスは車両の速度を制御しなくなっている。</p> <p>▶ アクセルペダルから足を放してください。</p>
ディストロニック・プラス --- km/h	<p>ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。</p> <p>▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください。(▶ 210 ページ)</p>
ディストロニック・プラスと可変スピードリミッター 作動できません	<p>ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。</p> <p>そのため、ディストロニック・プラスのステアリングアシストが作動しない。</p> <p>警告音も鳴った。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
DTR+: ステアリングアシスト 現在使用できません 取扱説明書参照	<p>ディストロニック・プラスステアリングアシストが一時的に作動しない。考えられる原因</p> <ul style="list-style-type: none"> • フロントウインドウのカメラ部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 車線がない道路を長時間走行している • 車線が汚れや雪などに覆われ、薄くなったり黒ずんだりしている <p>上記の原因が解消すると、ディスプレイメッセージが消える。</p> <p>ディストロニック・プラスステアリングアシストは再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ フロントウインドウを清掃してください。




ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
DTR+: ステアリングアシスト 作動できません	<p>ディストロニック・プラスステアリングアシストが故障している。</p> <p>ただし、ディストロニック・プラス機能はまだ使用できません。</p> <p>警告音も鳴った。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
クルーズコントロールと可変スピードリミッター 作動できません	<p>クルーズコントロールと可変スピードリミッターが故障している。</p> <p>警告音も鳴った。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
制限速度 --- km/h	<p>踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んでも（キックダウン）、可変スピードリミッターが作動しない。</p>
クルーズコントロール --- km/h	<p>クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。</p> <p>たとえば、30 km/h 以下の速度を記憶させようとした。</p> <p>▶ 設定可能な状況であれば、30 km/h 以上で走行し、クルーズコントロールを設定してください。</p> <p>▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください。 (▶ 203 ページ)</p>

タイヤ	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 空気圧点検後 タイヤ 空気圧	<p>タイヤ空気圧警告システムが空気圧の急激な低下を検知した。 警告音も鳴った。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>低すぎるタイヤ空気圧では、以下の危険性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 負荷および車両速度が高まった場合は特に、タイヤがバーストすることがある。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、タイヤの駆動力が著しく損なわれることがある。 • ステアリング操作やブレーキ操作などの走行特性が著しく損なわれることがある。 <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ タイヤを点検し、必要であれば、タイヤがパンクしたときの指示に従ってください。(▶ 352 ページ) ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば適正な空気圧に調整してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。(▶ 378 ページ)
タイヤ空気圧 警告シ ステム 警告システム 再始動	<p>タイヤ空気圧警告システムによりディスプレイメッセージが表示された後に、再始動されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正に調整してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。(▶ 378 ページ)
タイヤ空気圧 警告シ ステム 作動できません	<p>タイヤ空気圧警告システムに異常がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。



車両	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ブレーキを踏んで Pレンジからシフト	ブレーキペダルを踏まずに、トランスミッションのセレクトレバーを D 、 R 、 N に動かそうとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
シフトポジションがPではないため 車が動く恐れがあります	トランスミッションがポジション R 、 N 、または D のときに運転席ドアを開いた。 警告音も鳴っている。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ)
シフトチェンジせず 工場で点検	故障のため、トランスミッションのポジションを変更することができない。 警告音も鳴っている。 トランスミッションポジション D が選択されている場合 ▶ トランスミッションをポジション D からシフトしないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 トランスミッションポジション R 、 N 、または P の選択されている場合： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
停車中のみ Pレンジにシフトできます	車両が動いている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。
	トランクが開いている。 ▶ トランクリッドを閉じます。





ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>ボンネットが開いている。警告音も鳴った。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>車両が動いているときは、開いたボンネットで視界が遮られることがある。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ ボンネットを閉じます。 <p>アクティブボンネット（歩行者保護システム）が作動した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ボンネットをリセットしてください。(▶ 328 ページ) ▶ ボンネットを閉じます。
<p>アクティブフード故障 取扱説明書を参照</p>	<p>故障のため、アクティブボンネット（歩行者保護システム）が作動しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	<p>いずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すべてのドアを閉じます。
 <p>左リアバックレストロックされています または右リアバックレストロックされていません</p>	<p>左側または右側のリアバックレストがロックされていない。警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ロックされるまで、バックレストを後方に押ししてください。
 <p>左フロントバックレストロックしてください または右フロントバックレストロックしてください</p>	<p>運転席または助手席のバックレストがロック定されていない。警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ロックされるまで、バックレストを後方に押ししてください。



ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 トランクカバーを閉じてください	カブリオレ：ラゲッジカバーが開いている。 ▶ ラゲッジカバーを閉じます。(▷ 109 ページ)
 パワーステアリング故障 取扱説明書を参照	ステアリングのパワーアシストが故障している。 警告音も鳴った。 ⚠ 警告 ステアリング操作に大きな力を使用することが必要になる。 事故の危険性があります。 ▶ 大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができる場合： メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで注意しながら走行してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができない場合： 走行しないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
圏外	車両がネットワークプロバイダーの送受信範囲外にある。 ▶ マルチファンクションディスプレイに携帯電話の作動待機マークが表示されるまで待ってください。
 ルーフ開閉 操作可能速度 40 km/h	40 km/h 以上の速度で走行している場合は、ソフトトップを開く、または閉じることはできません。 ▶ ソフトトップを完全に開くか、閉じてください (▷ 102 ページ)。
 ルーフの開閉が完了していません	ソフトトップが完全に開いていないか、閉じていない。油圧が低下している。 ▶ ソフトトップを完全に開くか、閉じてください (▷ 102 ページ)。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>ルーフが完全に開閉されていません</p>	<p>ソフトトップがロックされていない。 40 km/h 以上の速度で走行している場合は、ソフトトップを開く、または閉じることはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ ソフトトップが完全に開くか閉じるまで、ソフトトップスイッチを押すか、引きます。(▶ 102 ページ)
 <p>エンジン始動 取扱説明書参照</p>	<p>バッテリーの電圧が非常に下がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エンジンを始動してください。 <p>ソフトトップが連続して数回開かれたか、閉じられた。安全上の理由のため、ソフトトップ駆動部が自動的に停止している。</p> <p>約 10 分後に、再度ソフトトップを開閉することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 開閉操作を繰り返してください。(▶ 102 ページ)。
 <p>ウォッシャー液を補充してください</p>	<p>ウォッシャー液リザーブタンクのウォッシャー液レベルが最低レベルまで下がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ウォッシャー液を補充してください。(▶ 335 ページ)

キー

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>キーが違います</p>	<p>エンジンスイッチに別の車両のキーを差し込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 正しいキーを使用してください。
 <p>キーを交換してください</p>	<p>キーを交換する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。


ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>キーの電池を交換してください</p>	<p>キーの電池が消耗している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 電池を交換してください。(▶ 86 ページ)
 <p>キーを認識できません (赤色のメッセージ)</p>	<p>キーが車内にない。 警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ キーを探してください。 <p>電磁波などの影響により、エンジンがかかっているときにシステムがキーを認識できない。 警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行ってください。
 <p>キーを認識できません (白色のメッセージ)</p>	<p>システムがキーを認識できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ キーレスゴースイッチ操作ができる位置にキーを移動してください。 <p>それでもキーがシステムに認識されないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行ってください。
 <p>キーが車内にあります</p>	<p>施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ キーを車から遠ざけてください。


ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>スタートボタンを外しキーを入れてください</p>	<p>キーが常時認識されない。 キーレスゴー機能が一時的に故障しているか異常がある。 警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>ドアを閉めてからロックしてください</p>	<p>いずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行ってください。

メーターパネルの警告および表示灯




安全性

シートベルト


トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。</p>	<p>運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ シートベルトを着用してください。(▶ 48 ページ) 警告灯が消灯します。 <p>助手席シートの上に荷物を置いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。警告灯が消灯します。



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。</p>	<p>運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください。(▶ 48 ページ) 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</p> <p>助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で、約 25 km/h 以上の速度で走行している。または速度が一時的に約 25 km/h を超えた。</p> <p>▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</p>



安全システム



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。</p>	<p> 警告</p> <p>ブレーキシステムが故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。事故の危険性があります。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されているときは、そのメッセージに従ってください。</p> <p>▶ 注意して運転してください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
<p> 走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>パーキングブレーキを解除しないで走行している。</p> <p>▶ パーキングブレーキを解除します。 警告灯は消灯し、警告音も鳴り止みます。</p>



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>①</p> <p>エンジンがかかっているときに赤色のブレーキシステム警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>⚠ 警告</p> <p>ブレーキのブースト機能が故障しているため、ブレーキの作動に影響を与えるおそれがある。 事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 197 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。
<p>①</p> <p>エンジンがかかっているときに赤色のブレーキシステム警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>ブレーキの性能が損なわれるおそれがある。 事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全な場所に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 197 ページ)。 ▶ 絶対にブレーキ液を補給しないでください。補給しても異常は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。




トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> エンジンがかかっているときに黄色のABS 警告灯が点灯する。</p>	<p>故障のため、ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス、コリジョンプリベンションアシスト、ESP[®]（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®]ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども解除されている。</p> <p>アテンションアシストは解除されている。</p> <p>▲ 警告</p> <p>上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。</p> <p>ステアリング操作やブレーキの作動が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。</p> <p>ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。</p> <p>横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 <p>ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションなど、他のシステムも作動しなくなることがある。</p>




トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> エンジンがかかっているときに黄色のABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>故障のため EBD が使用できない。そのため、ABS、BAS、BAS プラス、コリジョンプリベンションアシスト、ESP[®]、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®]ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども使用できない。 アテンションアシストは解除されている。</p> <p> 警告</p> <p>上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがある。 ステアリング操作やブレーキ特性が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。 ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色のESP およびESP[®]解除警告灯、黄色のABS 警告灯が点灯する。</p>	<p>故障のため、ABS および ESP[®]は使用できない。そのため、BAS、BAS プラス、コリジョンプリベンションアシスト、EBD、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®]ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども使用できない。 アテンションアシストは解除されている。</p> <p>▲ 警告</p> <p>上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前輪および後輪がロックするおそれがある。 ステアリング操作やブレーキ特性が大幅に損なわれるおそれがある。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。</p> <p>ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 <p>走行中に黄色のESP[®]警告灯が点滅する。</p>	<p>車が横滑りをするおそれがあるか、少なくとも1つの車輪が空転し始めているため、ESP[®]やトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールやディストロニック・プラスが解除される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP[®]を解除しないでください。 <p>例外については(▶ 73 ページ) をご覧ください。</p>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに黄色のESP[®]解除警告灯が点灯する。</p>	<p>ESP[®]が解除されている。</p> <p> 警告</p> <p>ESP[®]が解除されている場合は、ESP[®]は車両を安定させることはできない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 再度 ESP[®]を設定してください。 例外については(▶ 73 ページ) をご覧ください。▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 <p>ESP[®]が設定できない場合：</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 注意して運転してください。▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で ESP[®]の点検を受けてください。



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに黄色のESP[®]警告灯と黄色のESP[®]解除警告灯が点灯する。</p>	<p>故障のため、ESP[®]、BAS、BAS プラス、コリジョンブリベンションアシスト、PRE-SAFE[®]、PRE-SAFE[®] ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトが使用できない。アテンションアシストは解除されている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>上記に挙げた機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。緊急ブレーキの状況で制動距離が伸びることがある。ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]は車両を安定させることができない。横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 <p>エンジンがかかっているときに赤色のSRS 警告灯が点灯する。</p>	<p>SRS（乗員保護補助装置）に故障がある。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなるおそれがある。けがの危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。 <p>乗員保護補助装置に関するさらなる情報は、(▶ 38 ページ)をご覧ください。</p>

エンジン	
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のシステムが故障している可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • エンジンスイッチシステム • フューエルシステム 排出ガス中の成分が基準値を超えたため、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。
 エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
 エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	冷却水温度計の温度センサーが故障している。冷却水温度を確認することができない。冷却水の温度が高すぎる場合は、エンジンが損傷するおそれがある。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197ページ) ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。</p>	<p>リザーブタンクの冷却水量がかなり不足している。冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障しているおそれがある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ) ▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▶ 333 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水温度が約 120 °C 以下に下がるまではエンジンを再び始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。
 <p>エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>冷却水温度が約 120 °C を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、冷却水量がかなり不足している可能性がある。</p> <p> 警告</p> <p>エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷するおそれがある。</p>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>エンジンが過熱した状態では絶対に走行しないでください。エンジンが過熱した状態で走行すると、エンジンルームに漏れたフルード類に引火するおそれがあります。ボンネットを開いただけで、過熱したエンジンからの蒸気で重度の火傷をするおそれがあります。けがの危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ マルチファンクションディスプレイのメッセージに従ってください。▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに停車し、エンジンを停止してください。▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 197 ページ)▶ 車から降り、エンジンが冷えるまで車から安全な距離を確保してください。▶ 冷却水の点検・補給時の注意事項 (▶ 333 ページ) に従って、冷却水量を点検のうえ冷却水を補給してください。▶ 冷却水の減りかたが著しい場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。▶ 雪やほこりなどにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。▶ 冷却水温度が約 120 °C 以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。▶ 山道の走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返したりしないでください。

走行システム

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。</p>	<p>設定された速度に対し、先行車との車間距離が近すぎる。</p> <p>▶ 車間距離を広げてください。</p>
 <p>走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>進行方向にいる車両または静止している障害物に急速に接近している。</p> <p>▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。</p> <p>▶ 交通状況に注意して運転してください。ブレーキ操作や危険回避操作が必要となることがあります。</p> <p>PRE-SAFE® ブレーキについてのさらなる情報 (▶ 75 ページ)。</p> <p>コリジョンプリベンションアシストの距離警告機能のさらなる情報 (▶ 70 ページ)。</p>

役に立つ情報	314
収納エリア	314
機能	320

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

収納エリア

積載時のガイドライン (クーペ)

⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

燃焼エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジンをかけた状態（特に車両が走行中）でトランクリッドが開いたままになっていると、排気ガスが車内に入る可能性があります。中毒を起こすおそれがあります。

トランクリッドを開く前に、必ずエンジンをオフにしてください。トランクリッドを開いたまま走行しないでください。

荷物の積み方は車両の走行安定性に大きく影響します。荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 荷物を運搬するときは、最大車両総重量および許容軸重（乗員を含む）を超えないようにしてください。
 - 荷物はトランクに入れて運ぶことをお勧めします。
 - 重い物はできるだけ前方、およびトランク内でできるだけ低く配置してください。
 - 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストよりも高く積み上げないでください。
 - トランクに荷物を積むときは、必ずリアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように積んでください。シートバックレストがしっかりと固定されていることを確認してください。
 - なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積み込んでください。
 - 固定用リングおよびラゲッジネットを荷物や積載物を運搬するために使用してください。
 - 荷物の大きさと重さに適した荷物固定用リングおよび固定具のみを使用してください。
 - 強度のある耐摩耗性の荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- i** 荷物固定用のアクセサリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

収納スペース

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はトランクに収納し、固定する

荷物の積み方 (▷ 314 ページ) をお守りください。

グローブボックス



- ▶ **開く**： ハンドル ① を引き、グローブボックスのカバー ② を開きます。
- ▶ **閉じる**： 固定されるまで、グローブボックスのカバー ② を起こします。

i グローブボックス内を換気することができます (▷ 172 ページ)。



エマージェンシーキーでグローブボックスを施錠/解錠できます。

- ▶ **施錠する**： エマージェンシーキーをキーシリンダーに差し込んで、時計回りに 90° まわし、施錠位置 ② にします。
- ▶ **解錠する**： エマージェンシーキーをキーシリンダーに差し込んで、反時計回りに 90° まわし、解錠位置 ① にします。

センターコンソール内の小物入れ



前部の小物入れ

- ▶ **開く**： ロックされるまで、ハンドル①でカバーを矢印の方向にスライドさせます。
- ▶ **閉じる**： ハンドル①を前方に軽く押します。



後部の小物入れ

- ▶ トリム ② を矢印の方向に軽く押しします。カバー ① が上がります。

アームレスト下の小物入れ/携帯電話入れ



- ▶ 開く： 左側のボタン ② または右側のボタン ① を押します。

小物入れが開きます。

❶ クーペ：ソフトトップスイッチのかわりに、追加の小物入れがアームレスト前方にあります。

❶ 車両の装備により、USB ポート、AUX-IN ジャックまたはメディアインターフェースが小物入れに取り付けられています。メディアインターフェースは、iPod®またはMP3 プレーヤーなどの携帯オーディオ機器用の汎用インターフェースです（別冊のCOMAND システム取扱説明書をご覧ください）。

フロントシート下の小物入れ

⚠ 警告

小物入れの最大荷重を超えると、カバーは物を抑制することができない可能性があります。物が小物入れから飛び出し、乗員にぶつかる可能性があります。特に急ブレーキや急な方向転換をすると、けがの恐れがあります。

小物入れの最大許容荷重を決して超えないようにしてください。重い荷物はトランクに固定して収納してください。

小物入れの最大許容荷重は 1.5 kg です。



- ▶ 開く： ハンドル ① を引き上げ、カバー ② を前方に引き出します。

収納ネット

収納ネットは、助手席足元およびトランク左側（クーペ）またはトランク右側（カブリオレ）にあります。

荷物の積み方（▶ 314 ページ）および収納用スペースに関する安全上の注意（▶ 315 ページ）をお守りください。

後席のスルーローディング



- ▶ リアシートのアームレスト ③ を下に倒します。
- ▶ ハンドル ① を引き、カバー ② を下に倒します。

積載のガイドライン(▷ 314 ページ)をお守りください。

リアシートのスルーローディング(クーペ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

リアベンチシート / リアシートとシートバックレストが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート / リアシートまたはシートバックレストによってシートベルトに押さえ込まれます。シートベルトは、十分な保護効果を発揮することができず、さらにけがををするおそれがあります。
- トランクの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがををするおそれが高まります。走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート / リアシートが固定されていることを確認してください。

荷物の積み方 (▷ 314 ページ)をお守りください。

左右リアシートのバックレストを別々に倒して、トランク容量を拡大することができます。

シートのバックレストを前方に倒す



① メモリー機能装備車両：リアシートバックレストの一方または両方を倒すと、接触を防ぐために対応する側のフロントシートが必要に応じて少し前方に移動します。

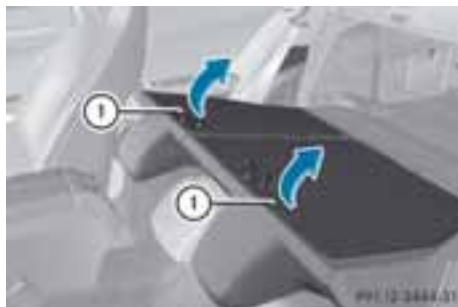
- ▶ メモリー機能非装備車両：必要であれば、運転席または助手席シートを前方に移動してください。
- ▶ トランクを開きます。
- ▶ 左右いずれかのリアシートバックレストのリリースハンドル ①を手前に引きます。対応する側のリアシートバックレストのロックが解除されます。



- ▶ リアシートバックレスト ② を前方に倒します。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席側のシートバックレストを移動します。

シートのバックレストを起こす

! リアシートバックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。損傷するおそれがあります。



- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に移動します。
- ▶ リアシートバックレスト ① を起こしてロックします。
リアシートバックレストがかみあっておらず、確実にロックされていないときは、メーターパネル内のマルチファンクションディスプレイに表示されません。警告音も鳴った。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席側のシートバックレストを移動します。

i 分割可倒式シートを使用しないときは、必ずリアシートバックレストをロックしてください。車内からトランクへの意図しない移動を防止することができます。

荷物の固定

荷物固定用リング

全体的な注意事項

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物の積み方 (▶ 314 ページ) をお守りください。
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

トランク



例：クーペ

クーペのトランクには 4 個の固定用リングが、カブリオレのトランクシルには 2 個の固定用リングがあります。

- ▶ **クーペ**：リアシートバックレスト脇の固定用リング①を引き上げ、カーペットの切り込みに通します。

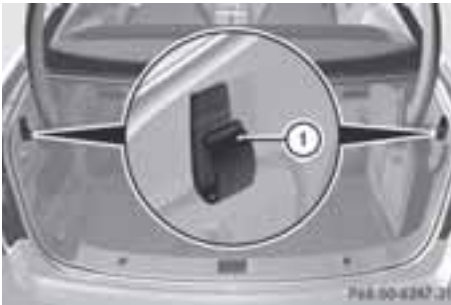
バッグフック

⚠ 警告

バッグフックは重い荷物やラゲッジルームの積載物を固定することはできません。荷物やラゲッジルームの積載物が飛び出す可能性があり、ブレーキ操作や急な進路変更で乗員にぶつかる可能性があります。けがの危険性があります。

バッグフックには軽い荷物のみを掛けてください。バッグフックに固いもの、鋭利なもの、壊れやすい物をかけないでください。

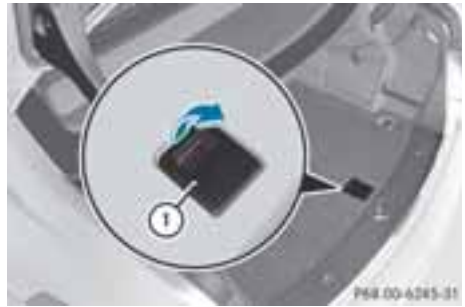
! バッグフックには、約 3 kg 以上の荷物をかけないでください。バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。



① バッグフック

トランクフロア下の収納スペース

! トランクリッドを閉じる前にハンドルを外し、ハンドルがはみ出さないように確実に戻します。ハンドルが損傷するおそれがあります。



トランクフロアボード下の収納スペースには、タイヤフィットキット、車載工具などが収納されています。

▶ **開く**：ハンドル ① を上に引きます。



例：クーペ

▶ **クーペ**：ハンドル ① を雨用の溝 ② にかけます。

▶ **カブリオレ**：トランクフロアボードを手前に少し引き、ハンドル①を雨用の溝②にかけます。

ルーフラック (クーペ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ルーフに荷物を積むと、車両の重心位置が上がり、走行特性が変化します。ルーフの最大積載量を越える場合、走行特性や、ステアリング操作やブレーキ操作が大幅に損なわれるおそれがあります。事故の危険性があります。

運転スタイルを調整し、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

! ルーフラックは、メルセデス・ベンツ車用に認定された推奨品の使用をお勧めします。推奨品以外の製品を取り付けると車両を損傷するおそれがあります。ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両の装備に応じて、ルーフラックを取り付けたときに、以下の操作ができることを確認してください。

- パノラミックスライディングルーフをいっばいに開ける
- トランクリッドをいっばいに開ける

! カバーやルーフの損傷を防ぐため、カバーを開くのに金属製の物やかたい物を使用しないでください。

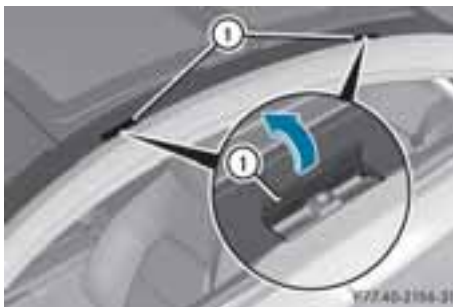
最大許容荷重は 100 kg です。

ルーフラックが正しく固定されていない、またはルーフの積載量が適切でない場合は、車両から脱落する場合があります。必ず、ルーフラックメーカーの装着説明書の指示に従ってください。

ルーフキャリアの取り付け



スチールルーフ装備車両



パノラミックスライディングルーフ装備車両

- ▶ カバー ① を矢印の方向に注意して開きます。
- ▶ カバー ① を引き上げます。
- ▶ ルーフラックはカバー ① の下のマウント部だけに装着してください。
- ▶ 製品の装着指示に従ってください。

機能

カップホルダー

重要な安全上の注意事項

! カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器をお使いください。飲み物がこぼれるおそれがあります。

フロントセンターコンソールのカップホルダー



カップホルダーのラバーマットを取り外して清掃することができます。きれいなぬるま湯でのみ、清掃してください。

- ▶ **開く**：小物入れ (▷ 315 ページ) を開きます。
カップホルダー ② が開きます。
- ▶ **閉じる**：ロックされるまで小物入れのカバー ① を下に押しします。

リア収納ボックスのカップホルダー



クーペ (ダブルカップホルダー、横並び)

- ▶ **開く (クーペ)**：カバー ① を前方にスライドします。



カブリオレ (ダブルカップホルダー、縦並び)

- ▶ **開く (カブリオレ)**：前方のカップホルダーカバー ② と後方のカップホルダーカバー ① を矢印の方向にスライドします。

サンバイザー

概要



例: クーペ

- ① ミラーライト
- ② フック
- ③ クリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ バニティミラーカバー

サンバイザーのバニティミラー

ミラーライト ① は、サンバイザーがフック ② で固定されている状態で、ミラー

カバー ⑤ が開いているときにだけ点灯します。

横方向からの眩しさを防ぐ

- ▶ サンバイザーを下に倒します。
- ▶ サンバイザーを固定部 ② から引きまします。
- ▶ サンバイザーを横にまわします。

電動ブラインド（リアウインドウ） （クーペ）

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電動ブラインドが展開または収納しているときに、身体の一部が電動ブラインドの動いている部分に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

展開または収納動作の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。挟まれた場合は、スイッチを短く押してください。開閉動作が停止します。

❗ 電動ブラインドがスムーズに動くことを確認してください。スムーズに動かない場合は、ブラインドや周辺の物が損傷するおそれがあります。

電動ブラインドの展開/格納



- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします(▷ 177 ページ)。
- ▶ **展開または格納する**：スイッチ ① を軽く押します。
電動ブラインドが自動で展開または格納します。
- ▶ **停止する**：スイッチ ① を再度軽く押します。
電動ブラインドが少し停止し、使用外の位置に格納します。

灰皿

前席の灰皿

❗ 灰皿の下の小物入れは耐熱性ではありません。火のついたタバコを灰皿に置くときは、灰皿が確実に固定されていることを確認してください。小物入れが損傷するおそれがあります。



- ▶ **開く**：固定されるまでカバー ① を前方にスライドします。
- ▶ **灰皿を取り外す**：灰皿 ③ 両脇の凹凸部をつまみ、矢印の方向 ② に引き上げます。
- ▶ **インサートを取り付ける**：固定されるまでインサート ③ をホルダーに押し込みます。
- ▶ **閉じる**：カバー ① を前方に軽く押し込みます。
カバーが閉じます。

i 灰皿を取り外して、そのスペースを小物入れとして使用できます。

後席灰皿



- ▶ **開く**：カバー ② の上端を引き出します。
- ▶ **インサートを取り外す**：解除ボタン③ を押し、インサートを持ち上げ外します。
- ▶ **インサートを取り付ける**：上方からインサート ① をホルダーに取り付け、固定されるまでホルダーに押し下げます。

ライター

⚠ 警告

ライターのヒーター部や熱くなっているホルダー部を触ると、火傷をするおそれがあります。

以下のとき、可燃性の素材が燃える可能性があります：

- 熱くなっているライターを落としたとき
- 子供などが熱くなっているライターを荷物の上に置いたとき

火災およびけがの危険性があります。

ライターは必ずノブの部分を持ってください。子供がライターを触らないように常に気をつけてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。



常に交通状況に注意してください。道路および交通状況が許されているときのみ、ライターを使用してください。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。(▷ 177 ページ)
- ▶ **開く**：固定されるまでカバー ① を前方にスライドします。
- ▶ ライター ② を押し込みます。
ヒーター部が熱せられると、ライター ② は自動的に元の位置に戻ります。
- ▶ **閉じる**：カバー ① を前方に軽く押しします。
カバーが閉じます。

12 V 電源ソケット

全体的な注意事項

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします (▷ 177 ページ)。

ソケットは最大電力 180 W (15 A) のアクセサリに使用できます。アクセサリには、照明または携帯電話用充電器のようなアイテムが含まれます。

エンジンが停止しているときにソケットを長時間使用した場合は、バッテリーが放電することがあります。

i 緊急カットオフにより、バッテリーの電圧が過度に降下しないようにします。バッテリーの電圧が過度に低い場合

は、ソケットの電源が自動的に停止します。これにより、エンジンを始動するために十分な電力が確保されます。

フロントセンターコンソール内の電源ソケット



- ▶ **開く：** 固定されるまでカバー ① を前方にスライドします。
- ▶ 12 V 電源ソケットのカバー ② を開きます。
- ▶ **閉じる：** カバー ① を前方に軽く押します。カバーが閉じます。

後席センターコンソール内の電源ソケット



- ▶ カバー ② の上端を引き出します。
- ▶ ソケット ① のカバーを上げます。

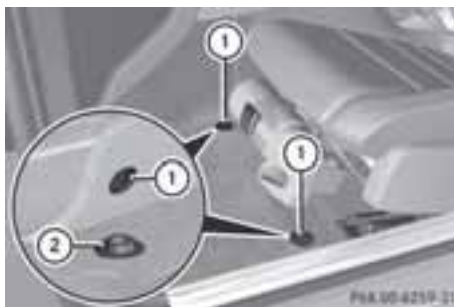
ソケットは、灰皿およびライターと一緒に車内後席のセンターコンソールに装着されています。

フロアマット

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルをロックすることがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。ペダルに常に十分な空間があることを確認するために、フロアマットは操作の妨げにならないように、ペダルから所定の余裕をとってしっかりと装着してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。



- ▶ シートを後方に動かします。
- ▶ **取り付ける：** フロアマットを足元に敷きます。
- ▶ 凹部 ① を凸部 ② に押し込みます。
- ▶ **取り外す：** 凸部 ② からフロアマットを引いて外します。
- ▶ フロアマットを取り外します。

後付けした防眩フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されま

す。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報	328
エンジンルーム	328
サービス	336
手入れ	337

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

⚠ 警告

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボ

ンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンルームには作動する構成部品があります。ラジエーターファンなどの特定の構成部品は、エンジンスイッチをオフにしても、動きつづけるか、自動的に作動を開始します。けがの危険性があります。

エンジンルームで作業を行わなければならない場合：

- エンジンスイッチをオフにします。
- ファンの回転範囲などの動いている部分は危険なので決して近づかないでください。
- 動いている部品に衣類が触れないようにしてください。

⚠ 警告

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

アクティブボンネット（歩行者保護）

作動原理

! 一度作動したアクティブボンネットは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での修理してください。アクティブボンネット機能は再度作動可能になります。アクティブボンネットによる歩行者の付加保護は元に戻ります。

! 持ち上がったボンネット後部を手で押し下げないでください。ボンネットが損傷するおそれがあります。

i アクティブボンネットは特定の国でのみ作動します。

アクティブボンネットは、特定の状況下で歩行者のけがの危険性を軽減するシステムです。アクティブボンネットが上がることにより、エンジンなどの固い構成部品との間隔が広がります。



アクティブボンネット ① が作動した場合は、後部が約 50 mm 上がります。そしてカバー ② は収納部 ③ にかぶさなくなります。アクティブボンネットは火薬によって作動します。

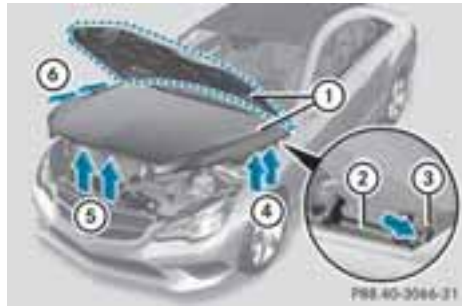
作動したアクティブボンネットはお客様自身でリセットすることができます。アクティブボンネットが作動した後も走行を続けることができますが、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのリセット作業を行なってください。ボンネットロック解除レバーを引いた場合は、走行前にボンネットのリセット作業を行わなければなりません。

リセット


⚠ 警告


エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



- ▶ ボンネットを開きます (▶ 330 ページ)。
 - ▶ 両手でボンネットの中央 ⑤ を持ち上げます。ボンネットリフター ② の両方のカバーが動かなくなったときに、ボンネットは十分広く開きます。カバーを押し戻した場合に、手応えを感じます。
 - ▶ ボンネット ① から手を放します。
 - ▶ ボンネットリフターのカバー ② が収納部 ③ (矢印部) にかぶさっていることを確認します。
 - ▶ **カバー ② が収納部にかぶさっている :** ボンネット ① (▶ 330 ページ) を閉じます。
- または
- ▶ **ボンネットリフターのカバーが ② が収納部にかぶさっていない :** 最初に左側 ④ の、そして右側 ⑥ のボンネット ① を持ち上げます。対応するボンネットリフターのカバー ② が動かなくなるまで、ボンネット ① を持ち上げます。ボンネットリフターのカバー ② が収納部 ③ (矢印部) にかぶさります。
 - ▶ ボンネット ① を閉じます。(▶ 330 ページ)

ボンネット ① を閉じることができない場合、またはマルチファンクションディスプレイにマーク  が表示される場合は、手順を繰り返します。

ボンネットが確実に閉じないときや、マルチファンクションディスプレイに  が表示されているときは、走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

アクティブボンネット ① が作動した場合は、後部が約 50 mm 上がります。そしてカバー ② は収納部③ にかぶさなくなります。アクティブボンネットは火薬によって作動します。

ボンネットを開く

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

❗ ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。



- ▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットの解除レバー ① を引きまします。
ボンネットのロックが解除されます。



- ▶ 隙間に手を入れ、ボンネット固定ハンドル ② を引き上げながらボンネットを持ち上げます。
ボンネットを約 40 cm 持ち上げた場合は、ガス封入式の支柱によりボンネットは自動的に開き、開いたまま保持されます。

ボンネットを閉じる

- ▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。
- ▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに持ち上がる場合は、確実に固定されていません。再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

全体的な注意事項

❗ エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

❗ エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車両は1,000 km 毎に 0.8 L のオイルを消費します。新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによって、エンジンオイルレベルゲージの取り付け位置が異なる場合があります。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

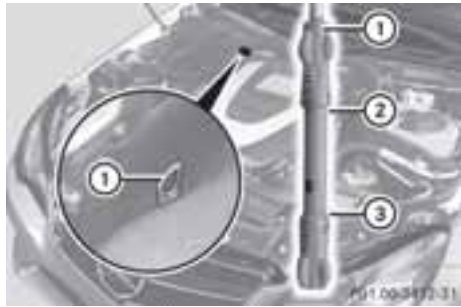
- 車を水平な場所に停車している。
- エンジンが温まっている場合は、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度でない場合は、計測を実行する前に約 30 分待ちます。

オイルレベルゲージを使用してオイルレベルを点検する

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



- ▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。
- ▶ オイルレベルゲージ ① を拭きます。
- ▶ オイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再び引き抜きます。レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にある場合は、オイルレベルは適正です。
- ▶ オイルレベルが MIN マーク ③、またはそれ以下まで下がっている場合は、エンジンオイルを 1.0 l 補充してください。

エンジンオイルの追加

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジ

ンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

🌀 環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

❗ サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で購入できます。

エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

❗ オイルを過剰に補給しないでください。エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります。余分なエンジンオイルを抜き取ってください。



例：エンジンオイルフィルターキャップ

- ▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルを補給します。オイルレベルがオイルゲージの MIN マーク、またはそれ以下の場合は、エンジンオイルを 1.0 l 補充してください。
- ▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわして取り付けます。キャップが元の場所に固定されていることを確認します。
- ▶ オイルレベルゲージを使用してオイルレベルを再度点検します (▶ 331 ページ)。

エンジンオイルについての詳しい情報は、(▶ 396 ページ) をご覧ください。

定期的なオイルの交換

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。アシストプラスのメンテナンスインジケータ表示により、標準的な交換時期が定められています。ただし、交換時期は使用状況に左右されません。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

冷却水

冷却水レベルの点検

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。



- ▶ 車両を水平な場所に停めます。
車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えているときにのみ冷却水レベルを点検してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。(▷ 177 ページ)
キーレスゴー装備車両では、キーレスゴースイッチを 2 度押します (▷ 177 ページ)。

- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。
冷却水温度は 70 °C 以下でなければなりません。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします(▷ 177 ページ)。
- ▶ キャップ **①** を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ **①** をさらに反時計回りにまわして取り外します。
水温が低いときに冷却水が補給口のマーカバー **③** の高さであれば、リザーブタンク **②** 内に十分な冷却水があります。
- ▶ 温かいときに、冷却水レベルが補給口のマーカバー**③** から約 1.5 cm 以上にある場合は、リザーブタンク **②** 内に十分な冷却水があります。
- ▶ キャップ **①** を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▷ 397 ページ)をご覧ください。

冷却水の補給

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

❗ 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。



例

冷却水リザーブタンク ② 内のレベルが低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 冷却水をマーカーバー ③ まで補給してください。
使用状況 (p. 397 ページ) に合わせた水道水と不凍液/腐食防止剤の濃度で使用します。
- ▶ キャップ ① を合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。
- ▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷まします。
- ▶ 冷却水レベル (p. 333 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

定期的な冷却水の交換

冷却水の品質は時間とともに劣化します。整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

エンジンのオーバーヒート

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。


ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに 120 °C 以上の冷却水温度が表示されます。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水が減少 停車して エンジンを停止 というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の  冷却水警告灯が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

他のサービスプロダクト

ウインドウウォッシャーシステムの補給

警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

警告

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。



- ▶ **開く：** タブを持ってキャップ ① を引き上げます。
- ▶ **混合しておいたウォッシャー液を補給します。**
- ▶ **閉じる：** キャップ ① を補給口に押し付けて、固定します。

ウォッシャー液レベルが推奨される最小の 1 L 以下に下がった場合は、ウォッシャー液を補充するように促すメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます (▷ 299 ページ)。

ウインドウウォッシャー液/凍結防止液について、詳しくは (▷ 397 ページ) をご覧ください。

ブレーキ液レベル

警告

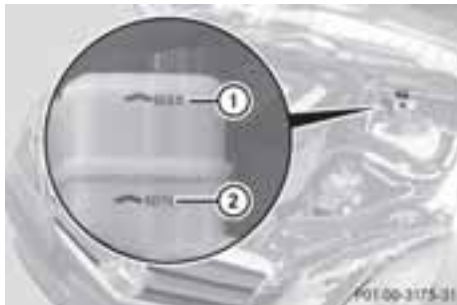
エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

- ❗ **ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルが MIN マークまたはそれ以下まで低下しているときは、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。ブレーキパッド / ライニングの厚みも点検してください。ただちにメルセ**

デス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

絶対にブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。



例

ブレーキ液レベルの点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行なってください。レベルがブレーキ液リザーブタンクのMIN マーク ② と MAX マーク ① の間にあれば、ブレーキ液レベルは適正です。

サービス

メンテナンスインジケーター

メンテナンスメッセージ

定期点検には以下のものがあります。

- 日常点検 - 点検時に異常を発見した場合は、できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。日常点検に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）。
- 1年ごとの法定点検
- 2年ごとの法定点検

法定点検の次回期日を記したステッカーは、フロントウィンドウに貼付してあります。

① メンテナンスインジケーターには、法定点検の期日は考慮されません。

メンテナンスインジケーターは、次回の点検期日をお知らせします。

点検の種類と点検時期に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手できます。

① メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量に関するいかなる情報も表示しません。エンジンオイル量(▶ 331 ページ)に関する注意事項を遵守してください。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメンテナンスメッセージが数秒間表示されます。

- **メンテナンス A 7999 20**
- **メンテナンス A 期限が切れます**
- **メンテナンス A ...日 超過しました**

車両の使用条件により、点検整備時期より以前に残りの時間や距離が表示されません。

数字、または他の文字を伴うことがある文字 **A** または **B** は、メンテナンスの種類を表しています。**A** は小規模なメンテナンス、**B** は大規模なメンテナンスを示しています。

詳細な情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーターは、バッテリーの接続を外している間の期日を考慮していません。

時期に左右されるメンテナンススケジュールは、以下のように管理してください。

- ▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示さ

れるメンテナンス予定期日をメモしてください。

または

- ▶ バッテリーを再度接続した後に、ディスプレイに表示されているメンテナンス予定期日からバッテリーの接続を外していた期間を引いてください。

メンテナンスメッセージを表示しない

- ▶ ステアリングの **OK** または **↩** スイッチを押します。

メンテナンスメッセージを表示する

- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**メンテナンス** メニューを選択します。
- ▶ **▲** または **▼** スイッチを押して、サブメニューの **メンテナンス** を選択し、**OK** スイッチを押して確定します。マルチファンクションディスプレイにメンテナンス予定期日が表示されます。

メンテナンスに関する情報

メンテナンスインジケータのリセット

! 不注意でメンテナンスインジケータをリセットしたときでも、この設定はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修整することができます。

整備手帳に記載されているように点検作業を実施してください。さもなければ、主要部品や車両の摩耗が進んだり、損傷するおそれがあります。

点検作業の実施後、メルセデス・ベンツ指定サービス工場はメンテナンスインジケータのリセットを行いません。メンテナンス作業などに関する詳細もメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

特別な点検が必要なとき

所定のメンテナンス間隔は、車両の通常の条件を元にしてしています。車両が過酷な使用条件や、車両に負荷のかかる以下のような状態で操作されるときは、より頻繁にメンテナンス作業を行う必要があります。

- 通常の市街地走行であっても頻繁に停止を繰り返すとき
- 主に短い距離を走行するとき
- たびたび山間地や路面の悪いところを走行するとき
- エンジンを長い時間アイドリングさせることが多いとき

上記または同様の作動条件では、エアフィルター、エンジンオイルおよびオイルフィルターなどを短い周期で交換してください。車両に高い負荷がかかるときには、タイヤはより短い周期で交換する必要があります。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

手入れ

全体的な注意事項

Ⓢ 環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにし

てください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

❗ 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

洗車と塗装面の清掃

自動洗車機

⚠ 警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

❗ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引される時
- 洗車時

❗ なるべく事前洗車用に調整可能な高圧式スプレーガンを備えた洗車機を使用してください。これはカブリオレプログ

ラムの仕様に適合します。高水圧を使用した洗車機では、少量の水が車内に漏れるおそれがあります。

❗ カブリオレ： 車両のホットワックス仕上げは絶対に行なわないでください。

❗ カブリオレ： 洗車するときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。これによりフロントウインドウのウインドディフレクターが収納されます。さもないと、ウインドディフレクターが損傷するおそれがあります。

❗ 注意：

- サイドウインドウとスライディングルーフまたはソフトトップが完全に閉じていることを確認してください。
- ベンチレーション/ヒーターの送風が停止していること (OFF スイッチが押されていること)
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

❗ けん引装置付きの洗車機では、オートマチック車の場合シフトポジションを **N** にしてください。車両が損傷するおそれがあります。

• キーレスゴー非装備車：

エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトされ、ホイールがロックします。オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にすることにより、ホイールのロックを防ぐことができます。

• キーレスゴー装備車：

エンジンを停止しているときは、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。オートマチックトランス

ミッションが自動的に **P** にシフトされ、ホイールがロックします。

オートマチックトランスミッションをポジション **N** にしたままにするためには、以下に従ってください。

- ▶ 車両が停止していて、イグニッションがオフになっていることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** (▶ 177 ページ) の位置にまわします。キーレスゴー装備車両では、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジションを **N** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

手洗い

国によっては、洗車は専用の洗車場でのみ許可されている場合があります。各国で定められている法規を遵守してください。

- ▶ 熱いお湯は使用せず、直射日光の下で洗車しないでください。
- ▶ 柔らかいスポンジを使用して清掃してください。
- ▶ メルセデス・ベンツにより承認されたカーシャンプーなどの中性洗剤を使用してください。
- ▶ 低圧の水流で車両全体に水をかけてください。
- ▶ 外気取り入れ口には直接水をかけないでください。
- ▶ スポンジをこまめにすすぎながら、十分な量の水を使用します。
- ▶ 車両をきれいな水で洗い流した後、セーム皮で全体を拭きます。
- ▶ 塗装面で洗淨液を乾燥させないでください。

冬に車両を使用したときは、注意しながら道路の塩分堆積物のすべての跡をできるだけ早く除去してください。

高圧洗淨機器

⚠ 警告

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズルの間には、常に最低でも約 30 cm 以上の距離を空けてください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

車両を清掃するときは、高圧式スプレーガンのノズルを円を描くように動かしてください。

以下のものには直接向けないでください。

- ・タイヤ
- ・ドアの溝、接合部など
- ・ソフトトップ（カブリオレ）
- ・ウインドディフレクターネット（カブリオレ）
- ・電気装備
- ・バッテリー
- ・コネクター
- ・ライト
- ・シール
- ・トリム部品
- ・換気用の隙間

シールや電気装備が損傷して、水漏れや故障につながります。

塗装面の清掃

❗ ボディの表面には、次のものを貼り付けしないでください。

- ・ステッカー
- ・フィルム
- ・マグネット

塗装面が損傷するおそれがあります。

誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、補修が困難になる場合もあります。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

- ▶ 可能であれば、不純物は強くこすらないようにしてただちに取り除いてください。
- ▶ 虫の死がいは、インセクトリムーバーをしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 鳥のふんは、水をしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 冷却水、ブレーキ液、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、エーテルやライターオイルを染み込ませた布で軽く拭いて、取り除いてください。

▶ タールの汚れは、タール除去剤を使用して取り除いてください。

▶ ワックスは、シリコン除去剤を使用して取り除いてください。

マットペイントの手入れと取り扱い

❗ 車両や軽合金ホイールを磨かないでください。磨くと光沢がある仕上がりの原因になります。

❗ 以下により塗装に艶が出て、マット効果が減少することがあります。

- ・不適切な素材での力強い研磨
- ・洗車機の頻繁な使用
- ・直射日光の下での洗車

❗ 塗装クリーナーや研磨・艶出し用品、ワックスのような光沢復活剤を使用しないでください。これらの製品は、高い艶がある表面のみに適したものです。これらの製品をマット仕上げ車両に使用すると、表面の著しい損傷（光沢のあるシミア部分）につながります。

塗装面の補修は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

❗ ホットワックス仕上げによる洗車サービスは絶対に利用しないでください。

車両がクリアマット仕上げの場合はこれらの注意に従ってください。適切でない取り扱いにより塗装に損傷を与えるのを防ぐのに役立ちます。

これらの注意はクリアマット仕上げの軽合金ホイールにも当てはまります。

❶ 車両は、柔らかいスポンジやカーシャンプー、たくさんの水を使用して手で洗うようにしてください。

❷ インセクトリムーバーおよびカーシャンプーは、メルセデス・ベンツが推奨し、承認した中からのみお選びください。

車両部品の清掃

カブリオレのソフトトップの清掃

❶ 以下のいずれかを使用してソフトトップを清掃しないでください。

- ガソリン
- シンナー
- タールまたはシミ抜き
- 他の有機溶剤

❷ 腐食し、その結果ソフトトップの素材の水漏れの原因となるので、鳥の糞はすぐに取り除いてください。高圧清掃用具を使用して車両を清掃しないでください。鋭く尖った用具を使用して氷および雪を取り除かないでください。

▶ **軽い汚れ**：乾いている間はソフトトップを清掃、または清潔な水で洗い流すことができます。

▶ **普通～ひどい汚れ**：ブラシおよび清潔な水でルーフを清掃します。シミや他の汚れをブラシおよびメルセデス・ベンツにより推奨および承認された清掃剤で清掃します。素材の方向に前から後に常にブラッシングしてください。

頻繁に清掃するとソフトトップの汚れに対する抵抗力が減少します。

汚れに対するこの抵抗力を復元するために、メルセデス・ベンツにより推奨および承認されたソフトトップの清掃剤を使用してソフトトップを清掃してください。

不適切な清掃、手入れ、および老朽化により、ソフトトップの縫い目から水漏れすることがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でソフトトップの縫い目を防水してください。

❶ 長期間野外に車両を置いておく予定があるときは、適切にソフトトップにカバーをしてください。

エアキャップの清掃

ウインドデフレクターの清掃

❶ 高圧清掃用具を使用してネットを清掃しないでください。

ソフトトップを閉じてフロントウインドウのウインドデフレクターを清掃します。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせてください。

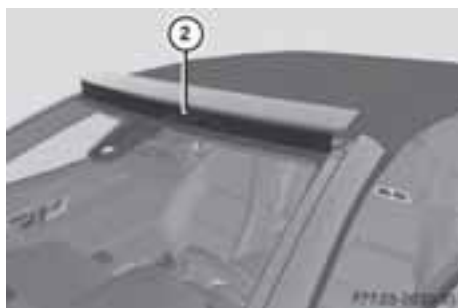
▶ **キー装備車両**： エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 177 ページ)。

▶ **キーレスゴー装備車両**： キーレスゴースイッチを **2** 度押します (▶ 177 ページ)。

▶ センターコンソールのカバーを開きます。エアキャップスイッチはカバーの下にあります。



- ▶ エアキャップスイッチ ① を押します。フロントウインドウとソフトトップの間にあるウインドデフレクターが展開します。

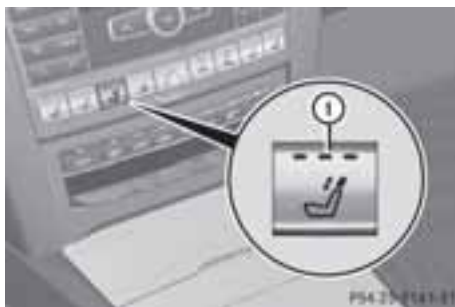


- ▶ ウインドデフレクターのネット ② を柔らかいブラシ、または湿った布で清掃します。ひどい汚れには、メルセデス・ベンツにより推奨され、承認された手入れおよび清掃剤で清掃し、清潔な水で洗い流してください。

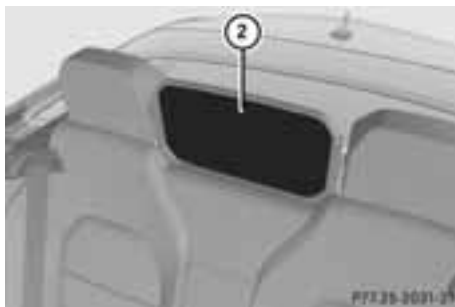
エアキャップドラフトストップの清掃

ソフトトップを開いて、エアキャップドラフトストップを清掃します。

- ▶ **キー装備車両：** エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします (▶ 177 ページ)。
- ▶ **キーレスゴー装備車両：** キーレスゴースイッチを 2 度押します (▶ 177 ページ)。
- ▶ ソフトトップ (▶ 102 ページ) を開きます。



- ▶ リアシートヘッドレストスイッチ ① を押します。リアシートヘッドレストおよびエアキャップドラフトストップが上方に上がります。



- ▶ メルセデス・ベンツにより推奨され、承認された手入れおよび清掃剤とともに、湿らせた布でエアキャップドラフトストップのネット ② を清掃します。

車輪の清掃

❗ ホイールには酸性ホイールクリーナーを絶対に使用しないでください。ホイールボルトやブレーキ部品が損傷するおそれがあります。

❗ 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。

さい。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

ウインドウの清掃

⚠ 警告

ワイパーを作動の位置のままにしていると、フロントウインドウまたはワイパーブレードの清掃中に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

フロントウインドウまたはワイパーブレードを清掃する前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

❗ ウインドウの内側を清掃する場合は、乾いた布や、研磨剤、有機溶剤や有機溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などの硬質のものがウインドウの内側に触れないようにしてください。ウインドウを損傷する危険性があります。

❗ フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況では、葉、花びら、花粉などの堆積物により排水されなくなり、腐食による損傷や電子部品の損傷につながるおそれがあります。

▶ 湿らせた布とメルセデス・ベンツが推奨し、承認したクリーナーでウインドウの内側と外側を清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警告

ワイパーを作動の位置のままにしていると、フロントウインドウまたはワイパーブレードの清掃中に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

フロントウインドウまたはワイパーブレードを清掃する前に、必ずワイパーお

よびエンジンスイッチをオフにしてください。

❗ ワイパーブレードを持って引っ張らないでください。ワイパーブレードが損傷するおそれがあります。

❗ ワイパーブレードを頻繁に清掃したり、強く擦ったりしないでください。グラフィイトコーティングが損傷するおそれがあります。ワイパーからノイズが発生する原因になります。

❗ ワイパーアームを元の位置に確実に固定します。ワイパーアームが不意に当たると、フロントウインドウに傷が付くおそれがあります。

▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

▶ 湿らせた布を使用して、注意してワイパーブレードを清掃します。

▶ イグニッションをオンにする前に、ワイパーを再度元に戻します。

車外ライトの清掃

❗ 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。適切でない洗剤やクリーニングクロスは、車外ライトのプラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロスなど、湿らせたスポンジと中性洗剤を使用して車外ライトのプラスチック製レンズを清掃してください。

ドアミラー方向指示灯

❗ 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。適切でない洗剤やクリーニングクロスは、ドアミラー方向指示灯の

プラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

- ▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロスなど、湿らせたスポンジと中性洗剤を使用してドアミラーユニットにあるドアミラー方向指示灯のプラスチック製レンズを清掃してください。

センサーの清掃

❗ 高圧式スプレーガンを使用してセンサーを清掃するときは、スプレーガンのノズルと車体の距離を約 30 cm 以上離してください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。



- ▶ 走行装備のセンサー ① は、カーシャンプーを混ぜた水で汚れを落とし、柔らかい布で拭き取ってください。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

❗ 高圧式スプレーガンを使用する場合は、カメラのレンズやパーキングアシストリアビューカメラの周囲を避けてください。



- ▶ 停車していること、およびエンジンスイッチのキーが 2 の位置にあることを確認します。
- ▶ **パーキングアシストリアビューカメラのカバーを開く**：COMAND システムを起動させて、**[sys]** スイッチを押します。
- ▶ COMAND コントローラーをまわして **【◎】**、**システム** を選択し、押して **☑** 確定します。
- ▶ **リアビューカメラ** を選択し、押して **☑** 確定します。
- ▶ "**カメラのカバーを開けてください**" を選択し、押して **☑**、確定します。
360° カメラのカバーが開きます。
- ▶ **パーキングアシストリアビューカメラを清掃する**：カメラレンズ ① はきれいな水に浸した柔らかい布で汚れを拭き取ってください。

360° カメラの清掃

❗ 高圧クリーナーを使用してカメラのレンズや 360° カメラの周囲を清掃しないでください。



- ▶ 車両が停止していること、およびエンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。
- ▶ **360° カメラのカバーを開く**：COMAND システムを起動して、**[SYS]** スイッチを押します。
- ▶ COMAND コントローラーをまわして **[360]**、**システム** を選択し、押しして **[OK]** で確定します。
- ▶ **360° カメラ** を選択し、**[OK]** を押しして確定します。
- ▶ **カメラのカバーを開けてください** を選択し、**[OK]** で確定します。
360° カメラのカバーが開きます。
- ▶ **360° カメラを清掃する**：清潔な水および柔らかい布でカメラレンズ **①** を清掃します。

i 30 km/h 以上の速度で走行している場合、またはエンジンスイッチのキーが **0** または **1** の位置のとき、360° カメラのカバーは自動的に閉じます。

マフラーの清掃

! ホイールクリーナーなど、酸性のクリーナーでマフラーを清掃しないでください。

路面の小石や腐食性の環境物質などが混ざった不純物が、マフラーの表面に発生する錆の原因になることがあります。特に、冬の間や洗車後など、定期的に清掃

することにより、マフラーの元来の輝きを取り戻すことができます。

- ▶ メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたケア製品でマフラーを清掃してください。

車内の手入れ

ディスプレイの清掃

! ディスプレイの手入れには、以下のものは絶対に使用しないでください。

- アルコールやシンナー、ガソリン
- 研磨剤を含む洗剤
- 市販の家庭用洗剤

これらを使用すると、ディスプレイ表面のコーティングを傷付けるおそれがあります。ディスプレイ表面を強くこすらないでください。ディスプレイが損傷して修理できなくなるおそれがあります。

- ▶ ディスプレイを清掃する前に、オフになっていて、冷めていることを確認します。
- ▶ 市販のマイクロファイバークロスと TFT 液晶ディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイ表面を清掃します。
- ▶ 乾いたマイクロファイバークロスを使用してディスプレイ表面を拭きます。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警告

手入れおよび清掃で、溶剤を含む洗剤を使用すると、ダッシュボードの表面がもろくなります。エアバッグが展開するときに、プラスチック部品が破損するおそれがあります。けがの危険性があります。

ダッシュボードの手入れおよび清掃で、溶剤を含む洗剤を使用しないでください。

❗ プラスチックの表面には、以下のものを貼り付けないでください。

- ステッカー
- フィルム
- 芳香ボトルや類似のもの

プラスチックを損傷するおそれがあります。

❗ 化粧品、殺虫剤、日焼け止めなどが樹脂製トリムに付着しないようにしてください。表面の光沢や質感が損なわれるおそれがあります。

▶ 湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布で樹脂製トリムを拭きます。

▶ **汚れがひどいとき**：メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケア用品および清掃用品を使用してください。

表面が一時的に変色することがあります。表面が再度乾くまでお待ちください。

ステアリングおよびギアまたはセレクターレバーの清掃

▶ 湿らせた布、またはメルセデスベンツによって推奨され承認された手入れ用品を使用して全体を拭いてください。

ウッドトリムおよびトリムエレメントの清掃

❗ タール除去剤、ホイールクリーナー、光沢剤、ワックスなどの有機溶剤を絶対に使用しないでください。トリム表面を傷つけるおそれがあります。

▶ ウッドトリムやトリム部品は、湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布で拭いてください。

▶ **汚れがひどいとき**：メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケ

ア用品および清掃用品を使用してください。

シート表皮の清掃

全体的な注意事項

❗ 純正本皮、人工皮革またはアルカンタラ® の表皮の清掃には、マイクロファイバークロスを使用しないでください。頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

① シートの外観と快適性をいつまでも保つには、定期的な手入れが大切です。

本皮シートカバー

革は自然の素材です。

以下のような自然の表面特長を持っています。

- 組織の凹凸
- 成長痕および傷跡
- 微妙な色の違い

皮革の特長であり、製品の欠陥ではありません。

❗ 革本来の特性を保つには、以下の日常の手入れを遵守してください。

- 純正本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭きます。
- 革が濡れないように注意してください。硬化やひび割れにつながります。
- メルセデス・ベンツがテストし、承認したレザーケア用品のみを使用してください。詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

その他の素材のシートカバー

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 人工皮革のカバーは、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせたマイクロファイバークロスで清掃します。注意深く汚れを落とし、シート全体をまんべんなく拭き取り、拭き跡が残らないようにします。その後、シートを乾燥させます。清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- アルカンタラ®の表皮は、湿らせた布で清掃します。目に見える線が残らないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

シートベルトの清掃

警告

シートベルトは漂白や染色によって劣化する可能性があります。その結果、シートベルトが事故のときにちぎれたり、機能しなくなる可能性があります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルトを漂白したり、染色させたり決してしないでください。

! シートベルトの手入れには、ケミカル洗剤を使用しないでください。約80℃以上の温度や直射日光に当てて乾燥させないでください。

- ▶ ぬるま湯と中性洗剤を使用します。

ルーファイニングとカーペットの清掃

- ▶ **ルーファイニング**：非常に汚れている場合は、柔らかいブラシ、またはドライシャンプーを使用します。
- ▶ **カーペット**：メルセデス・ベンツによって推奨および承認されてるカーペットや布用のクリーナーを使用します。

役に立つ情報	350
車載品の収納場所	350
パンク	352
バッテリー（車両）	356
ジャンプスタート	361
けん引およびけん引始動	364
ヒューズ	367

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▶ 23 ページ)

車載品の収納場所

非常信号用具

車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

i 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

i 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。電池が切れたら交換してください。

停止表示板

停止表示板の取り外し



停止表示板ホルダー (例：クーペ)

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ 停止表示板ホルダー ① を矢印の方向に上に押し、開いて停止表示板を取り外します。

停止表示板の組み立て



- ① フック
 - ② 反射板
 - ③ スタンド
- ▶ 脚 ③ を下および、側方外側に出します。
 - ▶ 側方の反射板 ② を引き上げて三角形を作り、上部のフック ① で固定します。

救急セット



救急セット (例：クーペ)

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ 固定ストラップ ① を取り外します。
- ▶ 救急セット ② を取り出します。

i 最低1年に1度、救急セットの使用期限を確認してください。なくなった物を補充し、必要であれば内容物を交換してください。

車載工具キット

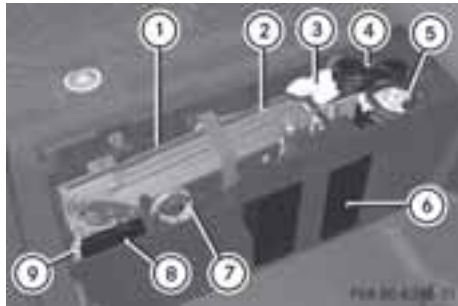
全体的な注意事項

車載工具はトランクフロアボード下の収納スペースにあります。

i 国による仕様により、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。車輪交換用ツールの中にはその車両専用のものも含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。必要なタイヤ交換工具としては、以下のものなどが含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

タイヤフィット装備車両



例：車載工具

- ① ガイドボルト
- ② ジャッキ
- ③ 手袋
- ④ **カブリオレ**：ソフトトップ緊急解除用のストラップ
- ⑤ タイヤシール剤のボトル
- ⑥ 電動エアポンプ
- ⑦ けん引フック
- ⑧ 折りたたみ式輪止め
- ⑨ ホイールレンチ

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ トランクフロアを上げます (▶ 319 ページ)。

応急用ミニスペアタイヤ装備車両



例：応急用ミニスペアタイヤ

- ① 応急用ミニスペアタイヤ
- ② 車載工具トレイ
- ③ 収納トレイ

- ▶ トランクリッドを開きます。
- ▶ トランクフロアを上げます (▷ 319 ページ)。

車載工具には以下のものが収納されています。

- ・カブリオレ：ソフトトップ緊急解除用のストラップ
- ・折りたたみ式輪止め
- ・ヒューズ配置表
- ・ジャッキ
- ・ガイドボルト
- ・一組の手袋
- ・ホイールレンチ
- ・けん引フック

パンク

車両の準備

車両によって、以下の装備があります。

- ・MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) (▷ 353 ページ)

MOExtended タイヤ装備車の場合、車両の準備作業は必要ありません。

- ・タイヤフィット (▷ 351 ページ)
- ・応急用スペアタイヤ (一部の国のみ) (▷ 388 ページ)

ホイールの交換 / 装着に関する情報 (▷ 379 ページ)

- ▶ 走行中にタイヤがパンクしたときは、交通の妨げにならず、地面が固く滑らない水平な場所に停車します。
- ▶ 非常点滅灯を点滅させます。
- ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▷ 197 ページ)
- ▶ なるべく前輪を直進位置にしてください。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ **キーレスゴー非装備車**： エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴー装備車**： 運転席ドアを開きます。
マルチファンクションディスプレイには、**O**が表示されます。キーを抜いたときと同様です。
- ▶ **キーレスゴー装備車**： エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します (▷ 177 ページ)。
- ▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのとき、彼らが危険にさらされないことを確認してください。
- ▶ タイヤ交換をするときは、危険な範囲の近くに誰もいないことを確認してください。作業員以外は、フェンスなどで区切られた安全な場所に避難してください。
- ▶ 運転者も車から降ります。降車時は周囲の交通状況に注意してください。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ 適切に離れた距離に停止表示板を置きます (▷ 350 ページ)。法規を遵守してください。

i 高速道路や自動車専用道路で駐停車する場合は、周囲に注意を促すため、停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)

全体的な注意事項

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。影響を受けたタイヤには明らかに目に見える損傷があるとは限りません。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示、耐荷重性能、スピードインデックスの横に表示されています。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムとの組み合わせでのみ使用することができます。

マルチファンクションディスプレイに空気圧警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください。(▶ 295 ページ)
- タイヤに損傷があるかを確認してください。
- 運転する場合は、以下の注意事項を遵守してください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80 km、車両にいっぱいまで積載をしているときは約 30 km です。

車両の荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況/操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されたときが起点になります。

最高速度が約 80 km/h を超えないようにしてください。

i 1 本または 4 本全てのタイヤを交換するときは、必ず以下のみを使用してください。

- 車両に指定されたタイヤサイズ
 - "MOExtended" マーク付きタイヤ
- タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。必ず適正なサイズと適正な種類 (サマータイヤまたはウィンタータイヤ) を使用してください。

重要な安全上の注意事項

警告

エマージェンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時などに走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合、エマージェンシーモードでの運転は中止してください。

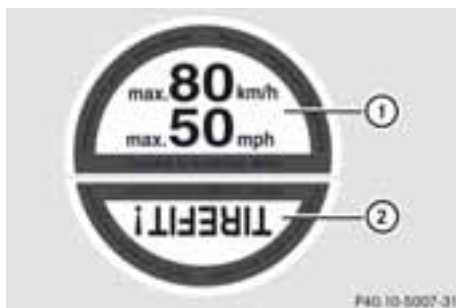
- 大きい異音聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき

- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマージェンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

タイヤフィット

タイヤフィットの使用

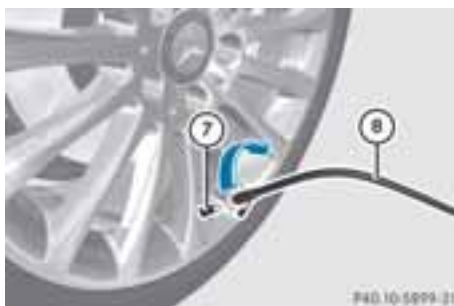


2つの部分に分けられたタイヤフィットステッカー

- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ トランクフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します (▶ 351 ページ)。
- ▶ タイヤフィットステッカーの ① 部分を運転者の視界内に貼ります。
- ▶ タイヤフィットステッカーの ② 部分を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。



- ▶ ケーブル付き電源プラグ ④ とホース ⑤ をハウジングから取り出します。
- ▶ ホース ⑤ をタイヤフィットのボトル ① のフランジ ⑥ にしっかり取り付けます。
- ▶ 頭を下にして、タイヤフィットのボトル ① を電動エアポンプの凹部 ② にはめます。



- ▶ パンクしたタイヤのバルブ ⑦ からキャップを取り外します。
- ▶ タイヤフィットのホース ⑧ をパンクしたタイヤのバルブ ⑦ にねじ込みます。
- ▶ プラグ ④ を車両の 12 V ソケットに差し込みます。
ソケットの注意事項を遵守してください (▶ 323 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 1 の位置にまわします (▶ 177 ページ)。

- ▶ 電動エアポンプの電源スイッチ ③ を I の位置にします。

電動エアポンプが作動し始めます。応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

- ① 最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。空気圧が一時的に約 500 kPa (5 bar/73 psi) まで上がることがあります。

この間は、タイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを約 5 分間作動させます。その後にはタイヤは約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上の圧力になっていなければなりません。

5 分後に、空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達した場合は、"十分なタイヤ空気圧" (▷ 355 ページ) をご覧ください。

5 分後に、空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達しなかった場合は、"不十分なタイヤ空気圧" (▷ 355 ページ) をご覧ください。

- ① タイヤフィットが漏れ出した場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、剥がすことができます。

衣類にタイヤフィットが付着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

不十分なタイヤ空気圧

5 分後に空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi) に達しない場合。

- ▶ 電動エアポンプを停止します。
- ▶ パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ ごく低速で約 10 m 前進または後退します。
- ▶ 再度、タイヤに空気を注入します。

最大 5 分後にタイヤ空気圧が 180 kPa (1.8 bar/26 psi) 以上でなければなりません。

⚠ 警告

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、タイヤフィットによるタイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けしないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

十分なタイヤ空気圧

⚠ 警告

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、指定された最高速度を超過しないでください。

❗ 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れ出ることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた専用袋に収納してください。

🌀 環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

約 5 分後、タイヤ空気圧が約 180 kPa (1.8 bar/26 psi)に達している場合：

- ▶ 電動エアポンプを停止します。
- ▶パンクしたタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
- ▶ **ただちに発進します。**

タイヤフィットで修理されたタイヤの最高速度は約 80 km/h です。タイヤフィットステッカーの上部は必ず運転者が簡単に認識できるメーターパネル上に貼り付けてください。

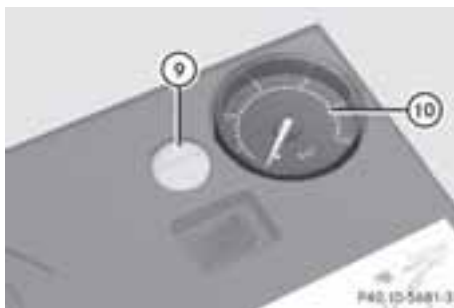
- ▶ 約 10 分間走行した後で車を止め、電動エアポンプを取り付けてタイヤ空気圧を点検してください。

この時、タイヤ空気圧は 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上でなければなりません。

⚠ 警告

短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎることにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- ▶ タイヤ空気圧がまだ 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上の場合は修正します（値は燃料給油フラップをご覧ください）。
- ▶ **タイヤ空気圧を上げる：** 電動エアポンプのスイッチを入れます。



- ▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 空気圧ゲージ ⑩ の横にある空気圧調整スイッチ ⑨ を押します。
- ▶ タイヤ空気圧が正しいときは、充填したタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ バルブキャップを充填したタイヤのバルブに締めます。
- ▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。充填ホースはタイヤフィットのボトルにとどまります。
- ▶ タイヤフィットのボトル、電動エアポンプおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。
- ▶ できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場にてタイヤフィットのボトルを交換してください。
- ▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意事項

取り外し、または取り付けなどのバッテリーの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。そのため、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデ

ス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。これにより、ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキングシステム）またはESP[®]（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような安全に関連したシステムに機能の制限を与えることにつながるおそれがあります。車両の操作安全性が制限されるおそれがあります。例えば、以下のときに車両のコントロールを失うおそれがあります。

- ブレーキ時
- 急なステアリング操作時、および/または車両速度が道路の状態に合っていないとき

事故の危険性があります。

ショート、または似たような出来事のあるときは、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ABS および ESP[®]に関するさらなる情報は、(▷ 67 ページ) および (▷ 72 ページ) をご覧ください。

⚠ 警告

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリーを充電している間、およびジャンプスタートを行なっているときは、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気の帯電は以下のときなどに発生します。

- 合成繊維製の衣服を着用することにより
- 衣服とシートの間の摩擦により
- カーペットまたは他の合成物質の上でバッテリーを押す、または引いたとき
- バッテリーを布で拭いたとき

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがをします。おそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着した

ときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

🔊 環境保護に関する注意



電池には環境汚染物質が含まれています。電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

❗ メルセデス・ベンツ指定サービス工場
でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

❗ バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。万が一、例外的な状況では、必ずご自身でバッテリーの接続を外す必要があり、以下のことを遵守してください。

- エンジンを切って、キーを外します。キーレスゴー装備車の場合は、必ずイグニッションがオフになっていることを確認します。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。たとえば、オルタネーターのような電子部品を損傷するおそれがあります。
- まずマイナス端子をはずして、次にプラス端子をはずします。端子を入れ替

えないでください。車両の電子部品を損傷するおそれがあります。

- バッテリーの接続を切った後、トランスミッションは **P** の位置でロックされます。車両は走り出さないように固定されます。車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーをしっかりと取り付けてください。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。



警告



バッテリーを取り扱うときは、火気や裸火、タバコは禁止です。火花の発生は避けてください。



バッテリー液は腐食性があります。皮膚、眼または衣服への付着を防いでください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

清潔な水で、ただちに飛散した酸を洗い流してください。必要であれば、医師の診察を受けてください。



保護眼鏡を着用してください。



子供を近付けないでください。



取扱説明書の指示に従ってください。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツは、お客様のメルセデス・ベンツ車のためにテストされ、承認されたバッテ

リーのみを使用することを推奨します。これらのバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員が酸で火傷をする危険性を低減します。

バッテリーの性能を長期的にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと徐々に放電する可能性があります。そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。メルセデス・ベンツにより推奨されたバッテリー充電器でバッテリーを充電することもできます。詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

主に車両を短距離の走行で使用している場合や、車両を長期間使用しない場合は、より頻繁にバッテリーの充電状態を点検してください。車両を長期間駐車したままにする場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 駐車するとき、電気装備を必要としない場合は、キーを抜いてください。このときは車両はわずかな電力を消費しているため、これによりバッテリー電力を保護します。

i バッテリーが放電した場合など、電力供給が中断した場合は、以下のことを行なってください。

- 時計の設定時計の設定に関する情報は、別冊の取扱説明書にあります。

COMAND システムおよびナビゲーションシステム装備車両では、時計は自動的に設定されます。

- ミラーを一度展開することによる、ドアミラーの自動展開/格納機能のリセット (▷ 134 ページ)。

バッテリーの充電

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確認してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッテリー充電器を使用してください。

! バッテリーを充電する場合は、必ずジャンプスタートターミナルを使用してください。

ジャンプスタート端子は、エンジンルーム（▷ 361 ページ）内にあります。

- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ジャンプスタートの手順で救援用バッテリーに接続するときと同じ順序で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続してください。（▷ 361 ページ）

低温時に、表示灯/警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることがあります。このような場合は、バッテリーを充電することも車両をジャンプスタートすることもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなることがあります。特に低温時の始動性能が損なわれることがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では解凍したバッテリーの点検を受けてください。

メルセデス・ベンツにより承認されたバッテリー充電器を使用することなく、車両に装着したバッテリーを充電しないでください。メルセデス・ベンツ車両用に特別に適合され、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されたバッテリー充電器ユニットはアクセサリとして入手できます。車両に装着されたバッテリーの充電が許可されています。情報および入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の取扱説明書をお読みください。

ジャンプスタート

ジャンプスタートには、エンジンルーム内のプラス端子とアース端子で構成されているジャンプスタート用端子のみを使用してください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けしないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

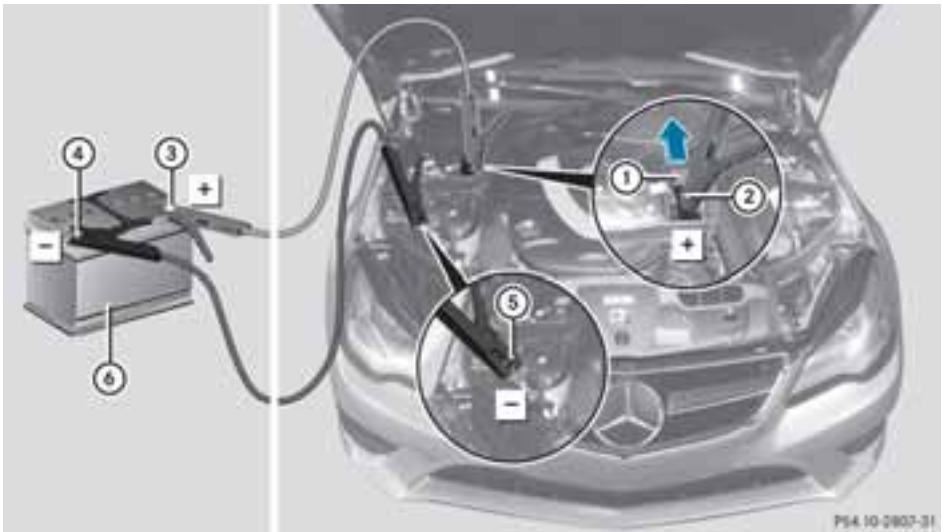
車両の始動のために急速充電機器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電したときは、ブースターケーブルを使用して他車や他のバッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください。

- バッテリーが手の届きにくい位置に設置されている車両もあります。他車のバッテリーに手が届かないときは、他のバッテリーまたはジャンプスタート機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび排気システムが冷えているときのみ、ジャンプスタートを行なってください。
- バッテリー液が凍結している場合は、ジャンプスタートはできません。まずバッテリー液を解凍してください。
- ジャンプスタートは、公称電圧 12 V のバッテリーで行なってください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、ケーブルの接続を完了してすぐにエンジン始動を試みるのではなく、数分置いてから始動操作を行なってください。これにより、放電したバッテリーが若干充電されます。
- 自車と救援車が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

- ブースターケーブルが損傷していない。
- ブースターケーブルをバッテリーに接続している間に、ターミナルクランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触しない。
- エンジンがかかっているときに、ブースターケーブルが V ベルトプーリーやファンなどの部品に接触しない。
- ▶ パーキングブレーキをしっかりと踏みます。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ リアデフォグラー、ライトなどすべての電気装備を停止します。
- ▶ ボンネットを開きます。

位置番号 ⑥ は、他の車両のバッテリー、または同様のジャンプスタート用機器を示しています。



- ▶ プラス端子 ② のカバー ① を矢印の方向に動かして開きます。
 - ▶ ブースターケーブルを使用して、車両のプラス端子 ② を救援用バッテリー ⑥ のプラス端子 ③ に接続します。常にまず自車のプラス端子 ② から始めます。
 - ▶ 救援車両のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
 - ▶ 救援用バッテリー ⑥ に最初にブースターケーブルを接続するようにして、ブースターケーブルを使用して救援用バッテリー ⑥ のマイナス端子 ④ を自車のアース端子 ⑤ に接続します。
 - ▶ エンジンを始動してください。
 - ▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
 - ▶ 最初にブースターケーブルをアース端子 ⑤ とマイナス端子 ④ から、次にプラス端子 ② とプラス端子 ③ から取り外します。その際は、いずれも自車の端子から開始してください。
 - ▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ② のカバー ① を閉じます。
 - ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの点検を受けてください。
- i** ジャンプスタートは、正常な操作状態とはみなされていません。
- i** ブースターケーブルおよびジャンプスタートに関するさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

けん引およびけん引始動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

⚠ 警告

自車の許容総重量より重い車をけん引またはけん引始動しようとする、以下の状態が発生するおそれがあります。

- けん引フックが外れる。
 - トレーラーを連結した車両が横転する。
- 事故が起こるおそれがあります。

他車をけん引またはけん引始動するときは、自車の許容総重量より軽い車でなければなりません。

❗ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

❗ けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。車体が損傷するおそれがあります。

❗ けん引ロープを使用してけん引を行なう場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは5m以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

❗ 車体の損傷を防ぐために、車両を運搬する際は、けん引フックを使用しないでください。可能であれば、クレーンを使用して、車両を回収してください。

❗ けん引やけん引始動を行なうときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車が損傷するおそれがあります。

❗ キーレスゴー装備車の場合は、エンジンスイッチではなくキーを操作します。イグニッション位置を2にし、オートマチックトランスミッションのシフトをNにします。その後、キーをポジション0に戻して、エンジンスイッチに残したままにします。

❗ 車両は最長で約50kmまでけん引できます。けん引する際の速度は、約30km/hを超えないようにしてください。

距離が約50kmを超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

けん引やけん引始動を行なうときは、各国の法規を遵守してください。

けん引はできるだけ避け、車両を搬送してください。

車両がトランスミッションに損傷を受けた場合は、運搬車両またはトレーラーで運搬してください。

車両をけん引するときは、オートマチックトランスミッションはポジション **N** になければなりません。

バッテリーが接続されていて、十分に充電されていることを確認してください。さもないと、以下のようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができない
- オートマチックトランスミッション装備車両では、トランスミッションをポジション **N** にシフトできない

① 車両をけん引してもらう前に、車速感応ドアロックを解除してください (▷ 91 ページ)。さもないと、車両を押したり、またはけん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能を解除してください (▷ 78 ページ)。

けん引フックの取り付け/取り外し

けん引フックの取り付け

⚠ 警告

マフラーが非常に熱くなることがあります。リアカバーを取り外すときにやけどの危険性があります。

マフラーには触らないでください。リアカバーを取り外すときは特に注意してください。



けん引フックカバー (例：クーペ)

脱着式けん引フックの取り付け部はバンパーにあります。フロントおよびリアのカバー内部にあります。

- ▶ 車載工具キット (▷ 351 ページ) からけん引フックを取り出します。
- ▶ カバー **①** のマークを矢印の方向に内側に押しします。
- ▶ カバー **①** を開口部から取り外します。
- ▶ 内部のネジ穴にけん引フックをねじ込み、時計回りに止まるまで締め込みます。

けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて取り外します。
- ▶ カバー **①** をバンパーに取り付け、固定するまで押しします。
- ▶ けん引フックを車載工具キットに収納します。

リアアクスルを上げて車両をけん引する

! リアをつり上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。ESP®の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

- ▶ 非常点滅灯スイッチを押します。(▶ 144 ページ)
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 車両から離れるときは、キーを閉じ込めないよう注意してください。

リアアクスルを上げて車両をけん引するときは、安全指示を遵守することが重要です(▶ 364 ページ)。

両アクスルを接地させて車両をけん引する

車両をけん引するときは、安全に関する指示に従うことが重要です。(▶ 364 ページ)

- ▶ 非常点滅灯スイッチを押します。(▶ 144 ページ)
- i** 非常点滅灯を作動させてけん引しているときに、進行方向変更の合図を行なうときは通常通りにコンビネーションスイッチを使用してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、非常点滅灯が再度点滅し始めます。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にします。
- ▶ 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、踏んだまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ パーキングブレーキを解除します。

車両を運搬する

! 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかげずに、ホイールにのみかけてください。車体を損傷するおそれがあります。

けん引フックは、車両を運搬する目的でトレーラーや車両運搬車に車両を引き上げるときにも使用できます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジションを **N** にシフトします。

車両を積載したら、以下を行なってください。

- ▶ 車両が動き出すのを防止するため、パーキングブレーキを効かせてください。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジションを **P** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 車両を固定します。

けん引始動 (エンジン緊急始動)

! オートマチック車はけん引始動しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

"ジャンプスタート"に関する情報は(▶ 361 ページ)にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

! ヒューズは必ずメルセデス・ベンツ車両に適合し、該当する電気装備と同じ規定容量を満たすものを使用してください。適切でないヒューズを使用すると、構成部品や電気装備を損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは、異常のある回路への接続を遮断する働きをします。ヒューズが切れると、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

切れたヒューズを交換するときは、ヒューズの色と数字で確認し、必ず同じ定格のヒューズと交換してください。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

新しいヒューズに交換してもすぐに切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因究明および修理を行ってください。

ヒューズを交換する前に

重要な安全上の注意を遵守してください (▶ 367 ページ)

- ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 (▶ 197 ページ)
- ▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、取り外します (▶ 177 ページ)。

または

▶ キーレスゴー装備車両では、イグニッションがオフであることを確認します (▶ 177 ページ)。

メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- ダッシュボード運転席側のヒューズボックス
- 進行方向に見たときの車両のエンジンルーム内左側のヒューズボックス
- 進行方向に見たときの車両のトランク内右側のヒューズボックス

ヒューズ配置表は、トランクフロア下にある小物入れ内の車載工具にあります。 (▶ 351 ページ)

ダッシュボードのヒューズボックス

重要な安全上の注意を遵守してください (▶ 367 ページ)

! ドライバーなどの鋭利な物を使用して、ダッシュボードのカバーを開かないでください。ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ▶ **開く**：カバー ① の底部を矢印 ③ の方向に少し引き出します。
- ▶ カバー ① を矢印 ② の方向に外側に引き、取り外します。
- ▶ **閉じる**：カバー ① をダッシュボードの前面に差し込みます。
- ▶ 固定されるまでカバー ① を内側に閉じます。

エンジンルーム内のヒューズボックス

重要な安全上の注意を遵守してください
(▶ 367 ページ)

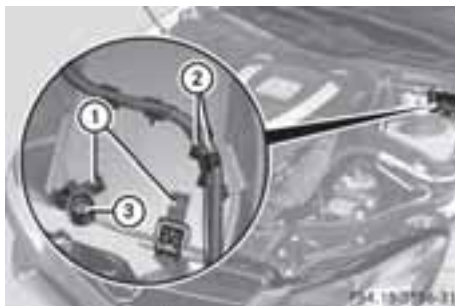
⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクageでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。
ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

❗ カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

❗ カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

- ▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットを開きます。



- ▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を拭き取ります。
- ▶ **開く**：ホース ② をガイドから取り出します。
- ▶ ホース ② を片側に動かします。そのためには、接続部分 ③ の後方にホースを通します。
- ▶ 固定クランプ ① を開きます。
- ▶ ヒューズボックスのカバーを前方に取り外します。
- ▶ **閉じる**：ラバーシールがカバーの正しい位置にあるかどうかを確認してください。
- ▶ カバーを、ヒューズボックス後部の挿入部に差し込みます。
- ▶ カバーを下方に下ろし、クランプ①を閉じます。
- ▶ ホース ② をクリップに取り付けます。
- ▶ ボンネットを閉じます。

トランク内のヒューズボックス

重要な安全上の注意を遵守してください
(▶ 367 ページ)

❗ カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

❗ カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。

▶ トランクリッドを開きます。



クーペ

▶ **開く**：カバー②のロータリーキャッチ①を時計回りにまわします。

▶ カバー②を下方に開きます。



カブリオレ

▶ **開く**：トランクフロア①(▶ 319 ページ)を上げます。

▶ タブ③を使用して、切り込み②でフロアカバーを押し戻し、持ち上げます。

役に立つ情報	372
重要な安全上の注意事項	372
使用	373
冬季の使用	374
タイヤ空気圧	376
車輪の交換	379
ホイールとタイヤの組み合わせ ..	384
応急用スペアタイヤ	388

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▷ 23 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

⚠ 警告

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラットタイヤ：

- MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツにより車両への使用が承認されていないアクセサリを装着したり、アクセサリが正しく使用されていないと、操作安全性を損なうおそれがあります。

承認されていないアクセサリを購入し、ご使用になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて以下をご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

車両のホイールとタイヤのサイズおよび種類に関する情報は"ホイール/タイヤの組み合わせ"(▷ 384 ページ)に記載されています。

車両のタイヤ空気圧に関する情報は、以下にあります。

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル (▷ 195 ページ)
- "タイヤ空気圧" に(▷ 376 ページ)

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサブラケットまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。このような改造を行なった場合は、不具合が生じても保証の適用外になります。

i ホイールおよびタイヤについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

使用

走行に関する情報

車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

走行中は、振動、騒音、および片側に寄るなどの、通常ではないハンドリング特性に注意してください。このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。タイヤに異常を感じたら、速度を落として慎重に運転してください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないか点検してください。タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐタイヤおよびホイールの点検を受けてください。

車両を駐車するときは、タイヤが縁石または他の障害物によって変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

ホイールとタイヤの定期点検

警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールとタイヤの定期点検は、少なくとも月に1度、またオフロードや不整路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤのトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▶ 374 ページ)。必要であれば、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をいっぱいまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください(▶ 376 ページ)。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください。(▶ 388 ページ)

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- 走行距離

タイヤトレッドに関する重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。このようなタイヤは水を排出することができなくなり、濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

- タイヤとホイールは、4輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。

例外：パンクした場合は、違う種類、違う銘柄の使用が認められています。"MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)" (p. 353 ページ) の項目に注意してください。

- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新しいタイヤでは最初の約 100 km は控えめな速度で走行してください。この距離を走行後にのみ、最高の性能に達します。
- タイヤトレッド部の残り溝が不足したタイヤで走行しないでください。濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく

低下します (ハイドロプレーニング現象)。

- 摩耗の程度に関わらず、6年以上経過したタイヤは新品と交換してください。応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (p. 388 ページ)。

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) で、1本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。

ランフラットタイヤは、作動しているタイヤ空気圧減少警告システムまたはタイヤ空気圧モニタリングシステムと必ず組み合わせ、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で専用の点検を受けたタイヤのみを使用してください。

パンクしたランフラットタイヤで走行するときの注意事項 (p. 353 ページ)。

i MOExtended タイヤ装備車両は、タイヤフィットを標準装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

冬季の使用

全体的な注意事項

冬になる前にメルセデス・ベンツ指定サービス工場での車両の寒冷時対応を実施してください。

"タイヤ交換" (p. 379 ページ) に記載されている注意事項を守ってください。

サマータイヤでの走行

約 7℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、接地性と制動力が低下します。車両のタイヤをウィンタータイヤと交換します。寒冷時にサマータイヤを装着したまま走行すると、タイヤ側面に亀裂が生じ、破損する原因になります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

M+S タイヤ

⚠ 警告

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。事故につながるおそれがあります。

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

温度が約 7℃以下の場合、ウィンタータイヤまたはオールシーズンタイヤを使用してください。どちらの種類のタイヤにも M+S マークが付いています。

ABS および ESP® などの走行安全装備が冬季に適切に機能できるようにするのは、これらのタイヤだけです。これらのタイヤは、特に雪道走行用に開発されました。

走行安全性を確保するため、ウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものを装着してください。

装着された ウィンタータイヤ の指定された許容最高速度を常に守って走行してください。

ウィンタータイヤの装着時は、以下の手順に従ってください。

- ▶ タイヤ空気圧を点検します。(▷ 376 ページ)
- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。(▷ 378 ページ)

応急用スペアタイヤでの走行についての詳しい情報は、(▷ 388 ページ)をご覧ください。

スノーチェーン

⚠ 警告

スノーチェーンが前輪に装着されている場合は、車体またはシャーシの部品に引き込まれることがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- スノーチェーンを前輪に装着しないでください
- スノーチェーンは必ずペアで後輪に装着してください。

❗ スチールホイール装備車: スチールホイールにスノーチェーンを装着する場合は、まず各車輪のホイールキャップを確実に取り外してください。ホイールキャップが損傷する原因になります。

安全な走行のため、スノーチェーンはメルセデス・ベンツ指定品、または同等の品質基準を満たしたものを使用してください。

スノーチェーンを装着するときは、以下のポイントに注意してください。

- スノーチェーンはすべてのホイールとタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。許容されるホイール

とタイヤの組み合わせ(▶ 384 ページ)。

- 路面が完全に冠雪しているときは、必ずスノーチェーンを使用してください。冠雪していない路面を走行しようとするときは、できるだけ早くスノーチェーンを取り外してください。
- 法令でスノーチェーンの使用が制限されている地域があります。スノーチェーンを取り付けようとする場合は、法令を遵守してください。
- 最大許容速度の約 50 km/h を超えないようにしてください。

i スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。(▶ 74 ページ) 車輪の空転を制御し、駆動力を向上させることができます。

応急用スペアタイヤでの走行についての詳しい情報は、(▶ 388 ページ)をご覧ください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ 警告

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故の危険性があります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 走行を開始する前の毎日
- 荷重が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行のように使用状況が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 警告

適切でないアクセサリをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

🌀 環境保護に関する注意

少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

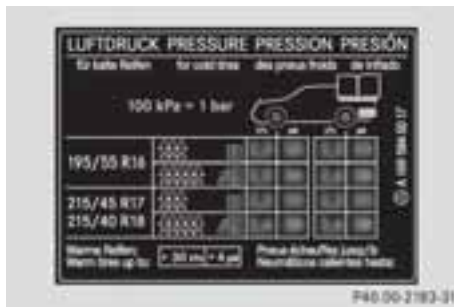
燃料給油フラップ裏側には、走行状況に応じた空気圧が記載されたタイヤ空気圧ラベルが貼られています。

応急用スペアタイヤでの操作(▷ 388ページ)

トレーラーでの操作：リアタイヤの適切な値は、燃料給油フラップの内側の表に記載されている最大タイヤ空気圧の値です。

燃料給油フラップの裏側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。これらは、さまざまな乗員数および積載量として表に定義されています。実際の座席数は異なる場合があります。詳しくは、車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は車両に承認されているすべてのタイヤに適用されます。



タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみ有効となります。

タイヤ空気圧を点検するには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観を点検しても空気圧を正しく判断することはできません。

タイヤ空気圧の調整は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。

以下のときは、タイヤの温度が低い状態です。

- 車両に直射日光が当たらない状態で最低約 3 時間駐車した場合、および
- 車両が約 1.6 km 以上走行しなかったとき

外気温、走行速度およびタイヤの荷重によって、タイヤの温度およびタイヤ空気圧は 10 °C ごとに約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) ずつ変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に対して非常に低いときのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

空気圧が適正でないタイヤで走行すると、以下のような状態になります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤが損傷を受けやすくなります。
- 車両操縦性や走行安全に悪影響を与えます (例：ハイドロプレーニング現象)

i 低負荷時の空気圧は、快適な乗り心地を得るために必要な空気圧の下限値を示しています。

ただし、高負荷時の空気圧に調整することもできます。これらは空気圧許容値であり、車両の走行安全性に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

全体的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、走行中に 4 輪すべてのホイール回転速度を検知することによりタイヤ空気圧をモニターします。システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を検知することができます。タイヤ空気圧の低下にともないホイールの回転速度が変化すると、マルチファンクシオンディスプレイに警告メッセージを表示します。

マルチファンクションディスプレイの**メナス**メニューに表示されるメッセージ**タイヤ空気圧 警告システム OKボタンで再始動**によってタイヤ空気圧警告を認識することができます。メッセージ表示に関する情報は、"タイヤ空気圧警告システムの再起動"の項目にあります (▶ 378 ページ)。

重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行いません。推奨タイヤ空気圧に関する注意を遵守してください (▶ 376 ページ)。

タイヤ空気圧警告は、タイヤ空気圧点検を定期的に行うものではありません。タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。





タイヤ空気圧警告システムは、タイヤに異物が刺さった場合など急激に空気圧が低下した場合は、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合、ブレーキを慎重に効かせて車両を停止します。急激なステアリング操作をしないようにしてください。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況では正常に作動しなくなったり、反応が遅れることがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 積雪路や凍結路を走行しているとき
- 砂地や砂利道を走行しているとき
- スポーティ走行時 (高速コーナリング、急加速など)
- 大型または超重量級のトレーラーをけん引しているとき
- 重い荷物を車内やルーフに積載しているとき

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のような作業を行ったときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
 - タイヤやホイールを交換したとき
 - 新しいタイヤやホイールを装着したとき
- ▶ 再起動する前に、タイヤ空気圧が作動状況に対応して、4本のタイヤすべてで適正に設定されていることを確認してください。推奨タイヤ空気圧は燃料給油フラップのタイヤ空気圧表にあります。
- タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定したときのみ信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に設定されている場合は、これらの適切でない値がモニターされます。
- ▶ タイヤ空気圧に記載されている注意事項を守ってください (▶ 376 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチの位置を **2** にします (▶ 177 ページ)。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス** メニューを選択する。
- ▶ ステアリングの  または  を押して、**タイヤ空気圧** メニューを選択します。
- ▶ **[OK]** スイッチを押します。
- マルチファンクションディスプレイに**ランフラットインジケーター作動 OKで再始動**というメッセージが表示されます。

再起動を確定するには、以下の操作を行なってください。

- ▶ **OK** スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧は正常ですか?** というメッセージが表示されます。
- ▶ **▲** または **▼** スイッチを押して、**はい**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **ランフラットインジケーター再始動** というメッセージが表示されます。
測定プロセスが終了すると、タイヤ空気圧警告システムが4輪すべてのタイヤ空気圧のモニターします。

再起動をキャンセルするには、以下の操作を行なってください。

- ▶ **☞** スイッチを押します。
または
- ▶ **タイヤ空気圧は正常ですか?** というメッセージが表示されたときは、**▲** または **▼** スイッチを押して、**キャンセル**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧の値が引き続きモニターされます。

車輪の交換

パンク

タイヤがパンクしたときの対処方法に関する情報は、「万一のとき」(▷ 352 ページ)に記載されています。タイヤがパンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、「万一のとき」のセクションをご覧ください (▷ 353 ページ)。

応急用スペアタイヤ装備車両: タイヤがパンクした場合は、「タイヤの取り付け」(▷ 380 ページ)の記載にしたがって

応急用スペアタイヤを装着してください。

車輪のローテーション

警告

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。事故の危険性があります。ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアのホイールを入れ替えると、一般使用許可が無効になることがあります。

"タイヤの取り付け"(▷ 380 ページ)の説明および安全上の注意を遵守してください。

タイヤは、走行状況によって前輪と後輪で摩耗具合に差が生じ、偏摩耗を起こします。これを防止するため、タイヤが摩耗し始めたら早めにタイヤローテーションをしてください。一般的に、前輪はショルダー部の摩耗が起りやすく、後輪ではセンター部の摩耗が起りやすい傾向があります。

前後同じサイズの車輪を持つ車両は、タイヤの摩耗具合に応じて約 5,000 ~ 10,000 km ごとに車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認します。

タイヤを入れ替えるときは、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃してください。空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧警告システムを再起動します。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

車輪の保管

タイヤは、乾燥した冷暗所に保管してください。また、タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

車輪の清掃

⚠ 警告

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

車輪の取り付け

車両の準備

- ▶ 固く、滑らない水平な地面に車両を停車します。
- ▶ パーキングブレーキを効かせます。
- ▶ 前輪を直進位置にします。
- ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ **キーレスゴー非装備車両**： エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ **キーレスゴー装備車**： 運転席ドアを開きます。
マルチファンクションディスプレイには、**O** が表示されます。キーを抜いたときと同様です。
- ▶ **キーレスゴー装備車**： エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します（▶ 177 ページ）。
- ▶ 車両装備に含まれている場合は、タイヤ交換工具キットを車両から取り出します（▶ 351 ページ）。
- ▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

i 国による仕様の違いとは別に、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。タイヤ交換用ツールの中にはその車両専用のもも含まれています。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換ツールには例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

車両が動き出さないように固定する



車両に輪止めが装備されている場合は、タイヤ交換工具キットの中にあります。
(▶ 351 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ 両側のプレートを上方に起こします ①。
- ▶ 下側のプレートを引き出します ②。
- ▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます ③。



水平な地面で車両に輪止めをする（例：クーペ）

- ▶ **水平な場所**： 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、輪止めまたは適切な物を挟みます。



緩い下り坂勾配で車両に輪止めをする（例：クーペ）

- ▶ **緩い下り坂**： 前輪と後輪の前方に輪止めまたは適切な物を挟みます。

車両を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

車両を上げるときは以下を遵守してください。

- 車両をジャッキアップするときは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された車両専用ジャッキのみを使用してください。ジャッキを正しく使用しないと、車両をジャッキアップしている間に倒れることがあります。
- ジャッキは、この車両のタイヤ交換で一時的に車両をジャッキアップするためだけに設計されています。車両の下回りのメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は行わないでください。
- 車両をジャッキアップする前にパーキングブレーキを効かせて輪止めをし、車両が動き出さないように固定してください。車両をジャッキアップしている間は絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、固く平らで滑らない地面の上に設置してください。柔らかい地面の上では、大型の耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下に木片などを置いてジャッキアップしないでください。さもないと、高さ制限により本来の耐荷重性能を得られない可能性があります。

- タイヤ下面と地面との間の距離が 3 cm を超えていないことを確認してください。
- ジャッキアップした車両の下には、絶対に手または足を入れないでください。
- ジャッキアップした車両の下には、絶対に身体を入れないでください。
- 車両をジャッキアップしているときは、絶対にエンジンを始動しないでください。
- 車両をジャッキアップしているときは、絶対にドアやトランクリッドを開閉しないでください。
- 車両をジャッキアップしているときは、車両に人が乗っていないことを確認してください。

ジャッキポイントは、前輪のすぐ後ろと、後輪のすぐ前にあります (矢印)。

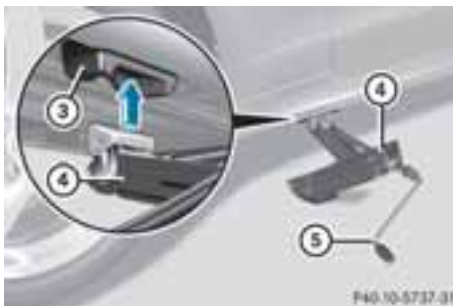
AMG 仕様装備車両： 車両には、サイドスカートジャッキポイント横に車体を保護するためのカバーが装着されています。



- ▶ **AMG 装備車両：** カバー ② を上方に引き上げます。



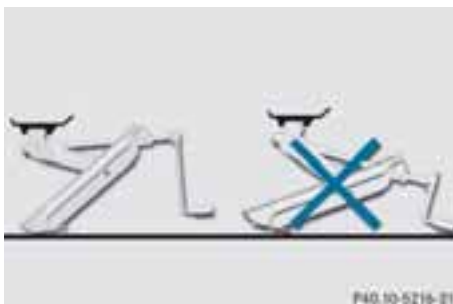
- ▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約 1 回転緩めます。この時点では、ホイールボルトを完全に緩めません。



- ▶ ジャッキ ④ をジャッキポイント ③ の位置に合わせます。



ジャッキポイント (例：クーペ)

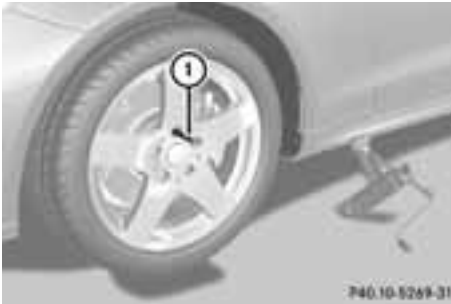


例

- ▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下にくるように設置してください。
- ▶ クランク ⑤ を時計回りにまわして、ジャッキ ④ がジャッキポイント ③ に確実にハマり、ジャッキの底面が地面に水平に接地していることを確認します。
- ▶ タイヤが地面から最大 3cm 上がるまで、クランク ⑤ をまわします。

車輪の取り外し

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。



- ▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。
- ▶ ホイールボルトのかわりにネジ山にガイドボルト ① をねじ込みます。
- ▶ 残りのホイールボルトを完全に外します。
- ▶ タイヤを取り外します。

新しい車輪の取り付け

⚠ 警告

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中に

ホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。それ以上は走行を続けしないでください。

⚠ 警告

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"車輪交換" (▷ 379 ページ) にある指示や安全上の注意に常に注意を払ってください。

ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。安全のため、ホイールボルトは純正品または承認されている製品を使用することをお勧めします。



車輪の取り付け (例: 応急用スペアタイヤ装着車両)

- ▶ ホイールおよびハブの接合面の汚れを拭き取ります。
- ▶ 装着するホイールをガイドボルトにスライドさせて押し込みます。

- ▶ ホイールボルトを取り付けて、指の力で締めます。
- ▶ ガイドボルトを取り外します。
- ▶ 最後のホイールボルトを取り付けて、指の力で締めます。

車両を下げる

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場、締め付けトルクの点検を受けてください。



ホイールボルトの締め付け（例：応急用スペアタイヤ装備車両）

- ▶ 車両が再度接地するまで、ジャッキハンドルを反時計回りにまわします。
- ▶ ジャッキを横に置きます。
- ▶ 示されている対角パターンの順番（①～⑤）で、ホイールボルトを均一に締めます。規定の締め付けトルクは **130 Nm** です。
- ▶ ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ▶ ジャッキや他の車載工具をトランクに再度収納します。

- ▶ **AMG 車両**： サイドスカートにカバーを差し込みます。
- ▶ 新しく取り付けしたタイヤの空気圧を点検し、それに応じて調整します。
推奨タイヤ空気圧を遵守してください（▶ 376 ページ）。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

■ 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適應しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended(ランフラットタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original(特定の AMG タイヤ)

ランフラットタイヤ(MOE Extended)は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

下記のタイヤ一覧表にある略号

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口の内側にあります。タイヤ空気圧に関してのさらなる情報は（▶ 376 ページ）をご覧ください。定期的に、かつタイヤが冷えているときのみタイヤ空気圧を点検してください。

タイヤおよびホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、ランフラットタイヤ（MOExtended）など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

MOExtended タイヤ装備車両には、出荷時はタイヤフィットキットは装備されていません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

i すべてのホイール/タイヤの組み合わせが、すべての国の工場では装着できるわけではありません。

タイヤ

E 250

サマータイヤ

R 17

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 235/45 R17 94 W ^{1, 2}	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 45
FA : 235/45 R17 94 W ¹	FA : 7.5 J x 17 H2 ET 45
RA : 255/40 R17 94 W ^{1, 3}	RA : 8.5 J x 17 H2 ET 49

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 235/40 R18 91 Y ⁴	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 45
RA : 255/35 R18 94 Y XL ^{3, 4}	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 49

ウィンタータイヤ

R 17

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 235/45 R17 94 H M+S  ¹	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 45

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 235/40 R18 95 H X M+S 	BA : 8.0 J x 18 H2 ET 45

¹ MOExtended タイヤも使用可能。

² カブリオレ：スポーツパッケージ コード 950/952、スポーツサスペンション コード 486、またはダイナミックハンドリングパッケージ コード 483 との組み合わせを除く。

³ スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。

⁴ スポーツパッケージ コード 950/952、スポーツサスペンション コード 486 またはダイナミックハンドリングパッケージ コード 483 との組み合わせでのみ。

E 350

サマータイヤ

R 17



タイヤ	軽合金ホイール
BA : 235/45 R17 94 W ^{1,2}	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 45
FA : 235/45 R17 94 W ¹	FA : 7.5 J x 17 H2 ET 45
RA : 255/40 R17 94 W ^{1,3}	RA : 8.5 J x 17 H2 ET 49

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 235/40 R18 91 Y ⁴	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 45
RA : 255/35 R18 94 Y XL ^{3,4}	RA : 8.5 J x 18 H2 ET 49

ウィンタータイヤ

R 17

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 235/45 R17 94 H M+S 	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 45
BA : 235/45 R17 94 H M+S  MOExtended ¹	BA : 7.5 J x 17 H2 ET 45

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 235/40 R18 95 H X M+S 	BA : 8.0 J x 18 H2 ET 45

¹ MOExtended タイヤも使用可能。

² カブリオレ : スポーツパッケージ コード 950/952、スポーツサスペンション コード 486、またはダイナミックハンドリングパッケージ コード 483 との組み合わせを除く。

³ スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。

⁴ スポーツパッケージ コード 950/952、スポーツサスペンション コード 486 またはダイナミックハンドリングパッケージ コード 483 との組み合わせでのみ。

E 550

サマータイヤ

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
FA : 235/40 R18 91 Y RA : 255/35 R18 94 Y XL ³	FA : 8.0 J x 18 H2 ET 45 RA : 8.5 J x 18 H2 ET 49

ウィンタータイヤ

R 18

タイヤ	軽合金ホイール
BA : 235/40 R18 95 H X M+S 	BA : 8.0 J x 18 H2 ET 45

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意事項

 警告

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを1つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP[®] をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。ホイールとタイヤのサイ

ズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを使用するときは、最高速度 80 km/h を超えないようにしてください。

スノーチェーンは応急用スペアタイヤには装着しないでください。

全体的な注意事項

特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要であれば空気圧を調整してください(▷ 376 ページ)。適切な値は車輪または "サービスデータ" (▷ 390 ページ) にあります。

ただし、応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間と制限速度を守って正しく使用してください。

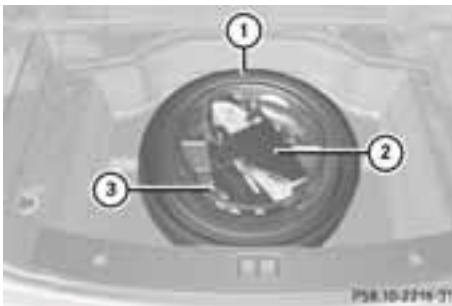
摩耗の程度に関わらず、6年以上経過したタイヤは新品と交換してください。こ

3 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の注意事項を遵守してください。

れは応急用スペアタイヤにも該当しません。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行するときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。パンクしたタイヤを新品と交換してから、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

応急用ミニスペアタイヤ



- ① 応急用ミニスペアタイヤ
- ② 車載工具トレイ
- ③ 収納トレイ

応急用ミニスペアタイヤはトランクフロア下の収納スペースにあります。

- ▶ トランクフロアを持ち上げます(▶ 319 ページ)。
- ▶ 車載工具トレイ ② を取り外します。
- ▶ 収納トレイ ③ を反時計回りにまわし、取り外します。
- ▶ 応急用ミニスペアタイヤ ① を取り外します。

"車輪の取り付け" (▶ 380 ページ) の説明および安全上の注意を遵守してください。

サービスデータ

E 250

応急用ミニスペアタイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
T 135/90 R16 102 M タイヤ空気圧：420 kPa (4.2 bar/61 psi)	3.5 B x 16 H2 ET 20
T 135/80 R17 103 M タイヤ空気圧：420 kPa (4.2 bar/61 psi)	3.5 B x 17 H2 ET 19.5

E 350

応急用ミニスペアタイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
T 135/80 R17 103 M タイヤ空気圧：420 kPa (4.2 bar/61 psi)	3.5 B x 17 H2 ET 19.5

E 550

応急用ミニスペアタイヤ

タイヤ	軽合金ホイール
T 125/70 R18 99 M タイヤ空気圧：420 kPa (4.2 bar/61 psi)	3.5 B x 18 H2 ET 20

役に立つ情報	392
サービスデータに関する情報	392
車両の電子制御部品	392
ビークルプレート	392
サービスプロダクトと容量	393
車両データ	398

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 23 ページ)

サービスデータに関する情報

印刷版取扱説明書に関する情報

以下に関する情報は、印刷版取扱説明書に記載されています。

- 車両データ
- トランクリッドを開いたときの寸法
- タンク容量
- エンジンオイルの容量
- バッテリーの電圧/容量
- トレーラーのけん引

車両の電子制御部品

エンジン電子制御部品の改造

! コントロールユニット、センサー、コネクターケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、車両の使用許可が無効になることがあります。

無線機の装着 (RF 送信機)

RF 送信機の装着については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ビークルプレート

車台番号 (VIN) のあるビークルプレート



例：ビークルプレート (右ハンドル車)

- ▶ 右側のドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。
- ▶ 運転席ドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。



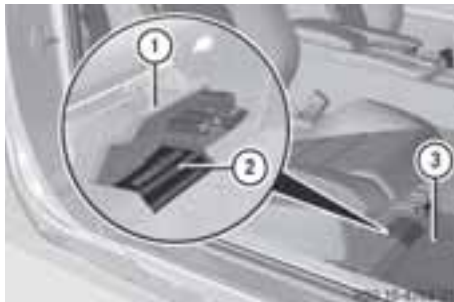
例：ビークルプレート

② 車台番号

i 車両のビークルプレートに記されたデータは一例です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示すデータとは異なることがあります。お客様の車

両に該当するデータは、車両のビークルプレートで確認できます。

車台番号



- ▶ 右側前席をいっぱいまで後方に動かします。
- ▶ フロントフロアカバー③を少し上げ、フロアカバーのフラップ①を上方に折ります。
車台番号が確認できます②。

車台番号はビークルプレートでも確認できます (▶ 392 ページ)。

エンジン番号

エンジン番号は、エンジンブロックに打刻されています。詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して

保管してください。サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

♻ 環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤 (エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

サービスプロダクトの取り扱い、保管および廃棄については、法令を遵守して取り扱ってください。

メルセデス・ベンツが承認するサービスプロダクトは、容器に以下のようなマークが付いています。

- MB-Freigabe (MB-Freigabe 229.51 など)
- MB Approval (MB Approval 229.51 など)

これ以外のマークや記載は、MB シート番号 (MB 229.5 など) に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらは、メルセデス・ベンツによる承認は必要としません。

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹼および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

タンク容量

モデル	全容量
全車種	66.0 l

モデル	予備燃料量
全車種	約 8.0 L

ガソリン

燃料のグレード

❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入っておそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

❗ 最低 95 RON の無鉛ガソリンのみを使用して給油してください。

そうしないと、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷する原因になります。

❗ 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を操作すると、エンジンの不具合の原因になります。

❗ 以下のような燃料を使用しないでください。

- E85 (エタノール配合率 85 % のガソリン)
- E100 (エタノール 100 %)
- M15 (メタノール配合率 15 % のガソリン)
- M30 (メタノール配合率 30 % のガソリン)
- M85 (メタノール配合率 85 % のガソリン)
- M100 (メタノール 100 %)
- ガソリンと金属を含有する添加物
- ディーゼル

このような燃料を車両に推奨されている燃料とは決して混合しないでください。添加剤を使用しないでください。エンジンの損傷につながるおそれがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除

去する効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツで推奨された添加剤のみを混合してください。"添加剤"をご覧ください。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

通常、燃料のグレードは給油ポンプに記載されています。給油ポンプにラベルが見当たらないときは、ガソリンスタンドのスタッフにおたずねください。

i E10 には最大 10 %のバイオエタノールが含まれています。お客様の車両は E10 燃料の使用に適しています。E10 燃料を使用してお客様の車両に給油することができます。

i 推奨燃料が使用できない場合は、一時的な手段としてオクタン価が 91 RON の無鉛ガソリンを使用することもできます。これにより、エンジン性能が低下したり、燃料消費が増加することがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。91 RON 以下の燃料を決して給油しないでください。

給油に関する情報は (▷ 195 ページ) をご覧ください。

E 250 および E 350

! 触媒コンバーターの損傷を防ぐために、必ず無鉛プレミアムガソリンを給油してください。

エンジンの作動に問題がある場合は、直ちに点検および修理を受けてください。余分な未燃焼燃料が触媒コンバーターに流入すると、触媒コンバーターが過熱し火災の原因になります。

i 特定の国では入手できる燃料が十分に低い硫黄でないことがあります。短い走行では特に、燃料が一時的に不快な臭いを発することがあります。給油の際に硫黄のない燃料（硫黄含有量約<10 ppm）を使用すると、臭いが減少します。

添加剤

! 燃料添加剤を後で加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加物のみを混合してください。製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

メルセデス・ベンツは、添加剤が含まれている燃料ブランドの使用を推奨しません。

一部の国で市販されている燃料の中には、品質の劣るものがあります。このような燃料を使用すると、エンジン内部にスラッジが形成されるおそれがあります。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談のうえ、純正の洗浄添加剤をガソリンに注入してください（部品番号 A000989254512）。容器に記載された注意事項および配合率を常に遵守してください。

燃料消費に関する情報

⊕ 環境に関する注意

CO₂（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO₂ 排出量は、燃料消費と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
- 走行スタイル
- 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO₂ 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- ・外気温が非常に低いとき
- ・市街地を走行するとき
- ・短距離を走行するとき
- ・山道や坂道を走行しているとき

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイル (▷ 393 ページ) を取り扱うときは、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項を遵守してください。

エンジンオイルの性質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲に渡る試験の末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツ車のエンジンには必ず承認されたエンジンオイルを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。エンジンオイルの交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツはお勧めします。

容量

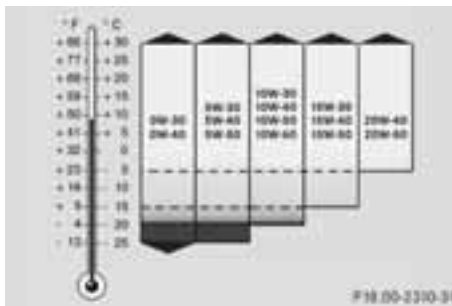
以下の数値は、オイルフィルター分を含むオイル交換のものです。

モデル	交換容量
E 250	5.9 l
E 350	6.5 l
E 550	8.0 l

添加剤

❗ エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は、液体の流動性を示します。エンジンオイルの粘度が高い場合はゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。エンジンオイルの選択は、外気温温度および SAE グレード (粘度) に応じたものに基づいてください。表は、使用するべき SAE グレードを示しています。低温の環境では、使用に伴う劣化や煤、添加剤などによりエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードで承認されたエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なってください。

ブレーキ液

⚠ 警告

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起これると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。

ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

ブレーキ液 (▷ 393 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、整備手帳をご確認ください。

冷却水

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ熱帯地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

i 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に交換し、点検内容を整備手帳でご確認ください。

冷却水 (▷ 393 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意を遵守してください。

冷却水は水と不凍液/防錆剤の混合液です。以下の役割があります。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

不凍液/防錆剤が適切な濃度の場合、作動中の冷却水の沸点は約 130 °C になります。

エンジン冷却システム内の不凍液/防錆剤の濃度は、

- 50 % 以上にしてください。これにより、約 -37 °C までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55 % (-45 °C までの凍結防止保護) を超えないようにしてください。さもないと、熱が効果的に発散しません。

冷却水が不足している場合は、同量の水道水と不凍液/防錆剤を補充してください。

i 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

i 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備時に点検が行なわれます。

フロントウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。熱いエンジン部品または

排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

! 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

! 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

ウォッシャー液 (▷ 393 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意に従ってください。

気温が氷点下より高いとき

▶ 夏用のウォッシャー液と水を混ぜて、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

夏用のウォッシャー液と水を 1 : 100 の混合比に混ぜます。

気温が氷点下のとき

▶ 冬用のウォッシャー液と水を混ぜて、ウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

外気温度に応じて混合比を調整してください。

- -10 °C まで：水の量 2 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- -20 °C まで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- -29 °C まで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 2 を混合します。

i 1 年を通して、夏用と冬用のウォッシャー濃縮液を水で薄めたウォッシャー液を使用してください。

車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点にご注意ください。

- 記載の全高は、以下の条件に応じて異なります。
 - タイヤ
 - 積載状況
 - サスペンションの状態
 - オプション装備
- オプション装備は最大積載量を減少させます。

寸法および重量



モデル	① 開いたときの高さ
E 250、クーペ	1682 mm
E 350、クーペ	1680 mm
E 550、クーペ	1680 mm
全車種、カブリオレ	1541 mm

ルーフとトランクの最大荷重

未記載の数値は出版時に確認できなかったものです。

全車種	
ルーフの最大荷重、 クーペのみ	100 kg
トランクの最大荷 重	100 kg

バッテリー

全車種	
バッテリー電圧	12 V
バッテリー容量	80 Ah

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

<http://www.mercedes-benz.co.jp>

編集オフィス

©Daimler AG: Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複製、翻訳または複製することはできません。



2075846381

Order no. 6515 3766 20 Part no. 207 584 63 81 Edition ÄJ 2013-Ma